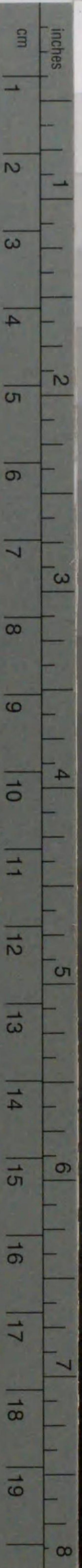


# Kodak Gray Scale



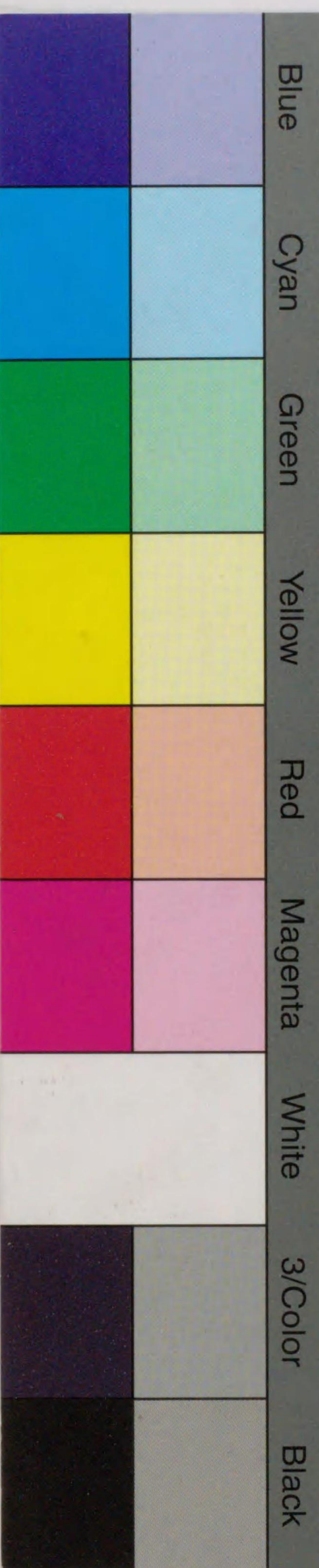
© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



# Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak



187  
485

圍其峇奇策妙手 関源吉



吳清源



7-3222



敵愾

聲院



敵愾聲院



松布

六志  
執力

誠堂  
韶書





凡例

一 黒先又は白先とは黒の先着又は白の先着といふ意味なり。

一 讀者をして成るべく自己の考案推敲に據りて解説せしめんが爲め本書は特に問題と解説とを分離せり。

一 問題の部中第何着の手妙なりとか又は手筋なりとか豫め要所を注意したるは讀者の考量に資せんが爲なり。

但し極めて簡單なるものには之を省けり。

一 書中載する所多くは實戦に現れたるもの、然らざるも碁の形を力めて自然ならしめんが爲に譜中往詰碁に關係なき布石あることあり。

一 拮屈齧牙にして不自然なるものは之を避け成るべく實戦上に現はるゝものを彙集せり。

一 初學者の爲め間々極めて簡單なるものを挿入せり。

一 單に「勝」とあるは對手が強ひて無理を遂げんとする場合例せば取り得べからざる石を取りに来る様の時に反對に敵を屠りて勝つといふ意味なり。



一 詰碁の或歸着點に達するまでには双方の打方に種々の手段あること即ち變化あることは恰も目的地に達するに幾種の道筋あるが如し斯る場合にも成るべく其捷徑を選べり。

但し毫も變化なく限定的のものもあり。

一 解には結果を現すため故らに極端なる悪しき手まで示せしものあり。

一 劫は詰碁の中最も趣味多きものなり書中劫活とあるは其碁勢に於て劫を立つる場所なき時に稱することなり。

一 死活に於て或一部分の石を捨つるも大部分活きなるときは之を活の部に置けるは勿論なり。

一 侵分は圍碁の收束にして其忽にすべからざるは勿論中には随分考慮を要するものあり故に本書其緊要なるもの數種を例説して參考に資す。

一 參考の爲め圖解説明の前に圍碁に用ふる術語を表示せり。

一 詰碁を研究するに際しては先づ問題を案して沈思黙考豫め手段を胸中に畫きてさて石を下すべし

斯くて滞りなく解説し得たらんには其快味云ふべからざるものあらん、若し途中其不可なるを發見

したるときは更に最初に歸りて考量すべし胸中何等の成竹なく漫然石を下し僥倖解を求むるが如き

は實力を養成する所以の途にあらず。

一 詰碁は概ね最初に良手あるものなれば先づ第一着手を發見せんことを心掛くべし以下手に従つて解するを得ん。

一 詰碁を解するには多く手筋に適ひたる着手を要すれども稀にはダメに類する如き思ひもよらぬ手が

良好なることあり。

大正五年五月

圍碁雜誌社に於て

著者識

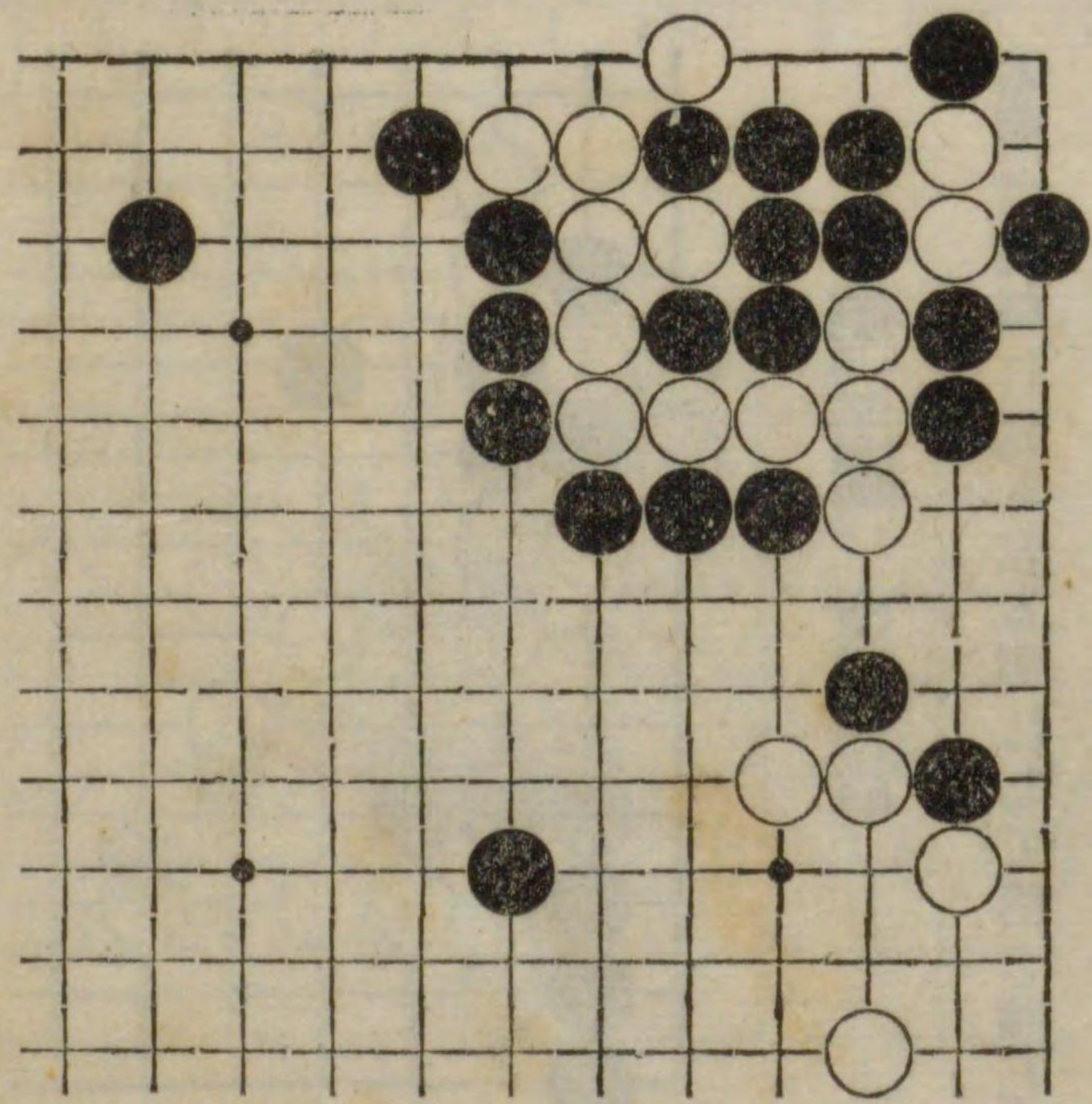


碁圍 奇策妙手 全

問題 生之部

第一圖 白先にて活

ここに白の活といふは黒の圍中にある十二子の白を指すなり。白の第五着は常用の手筋とす。

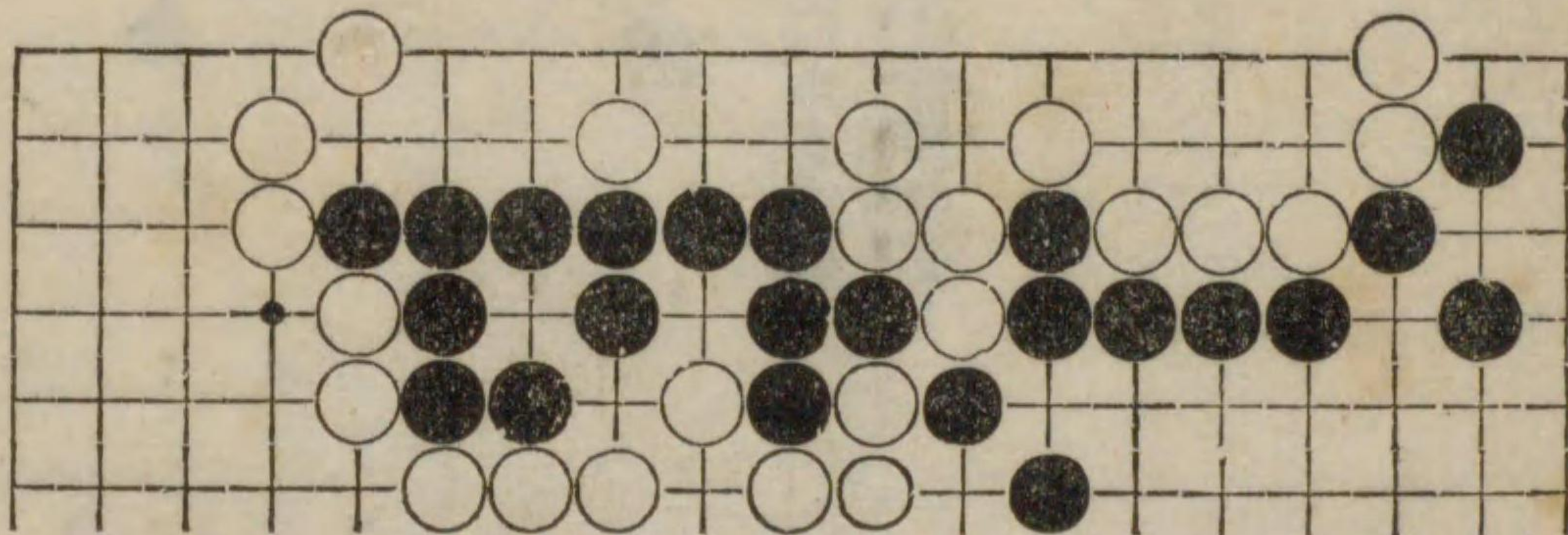


六段 雁金準一 校閱  
五段 關源吉  
三段 小林鍵太郎 共著



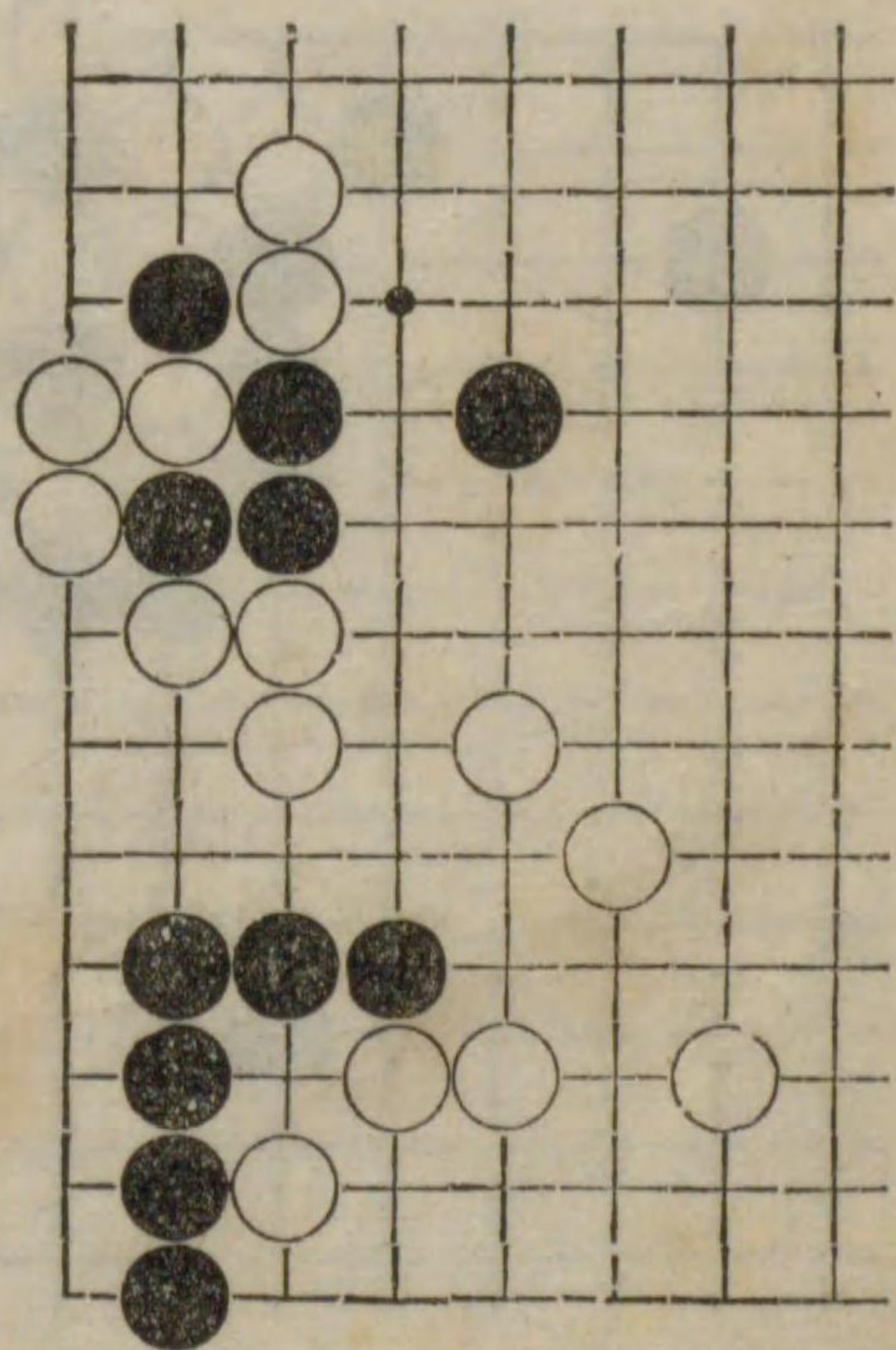
第二圖 黒先活

圍中の黒は最初手筋に適ひたる打方によりて活くるにて玩味すべきものあり。



第三圖 黒先活

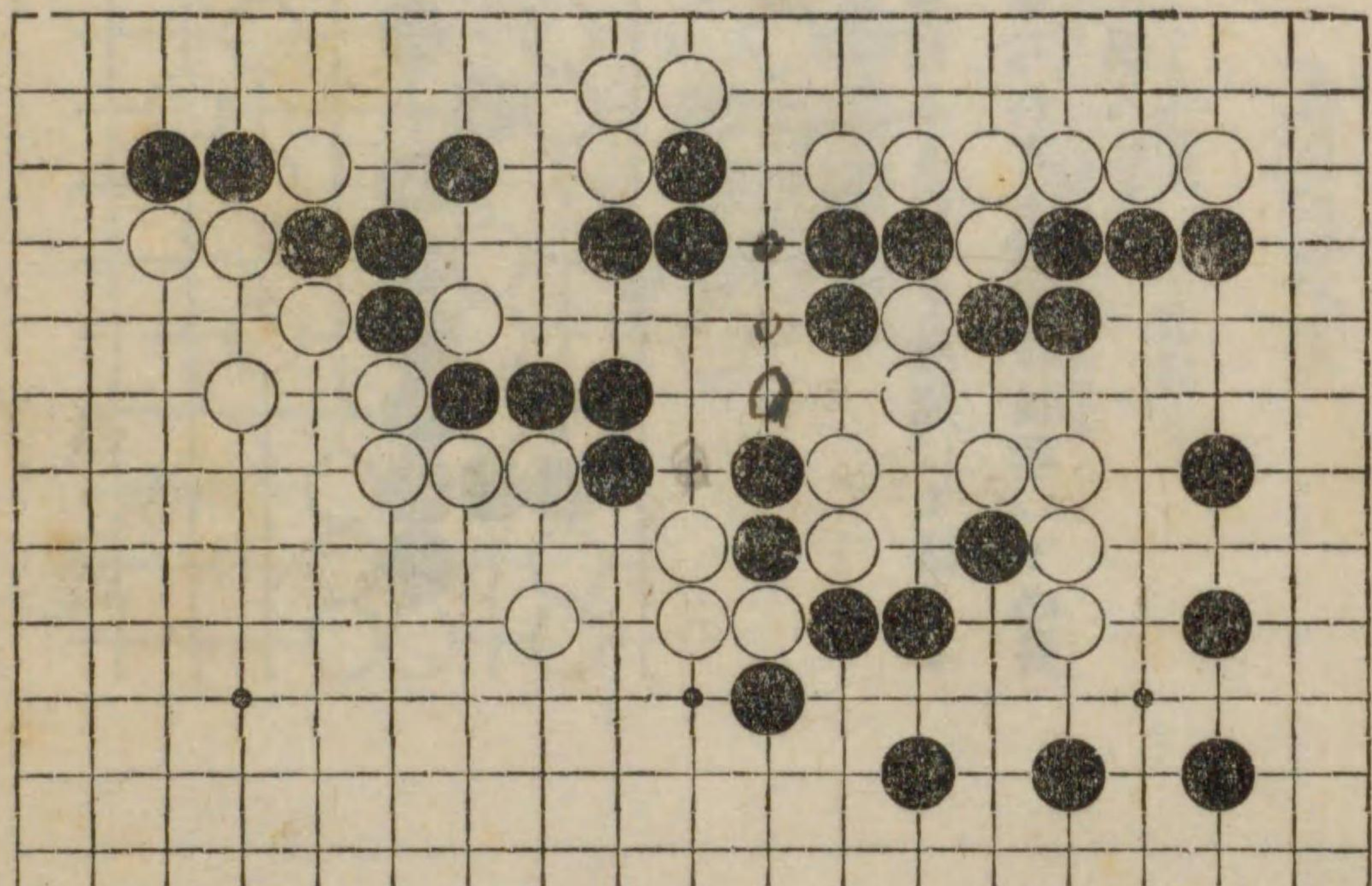
本問は實戦に起りたる形にして活と題したれど實は隅の黒六子は眼形全からずして活を得る能はざるなり、大なる得をなす打方の手筋あるなり。



第四圖

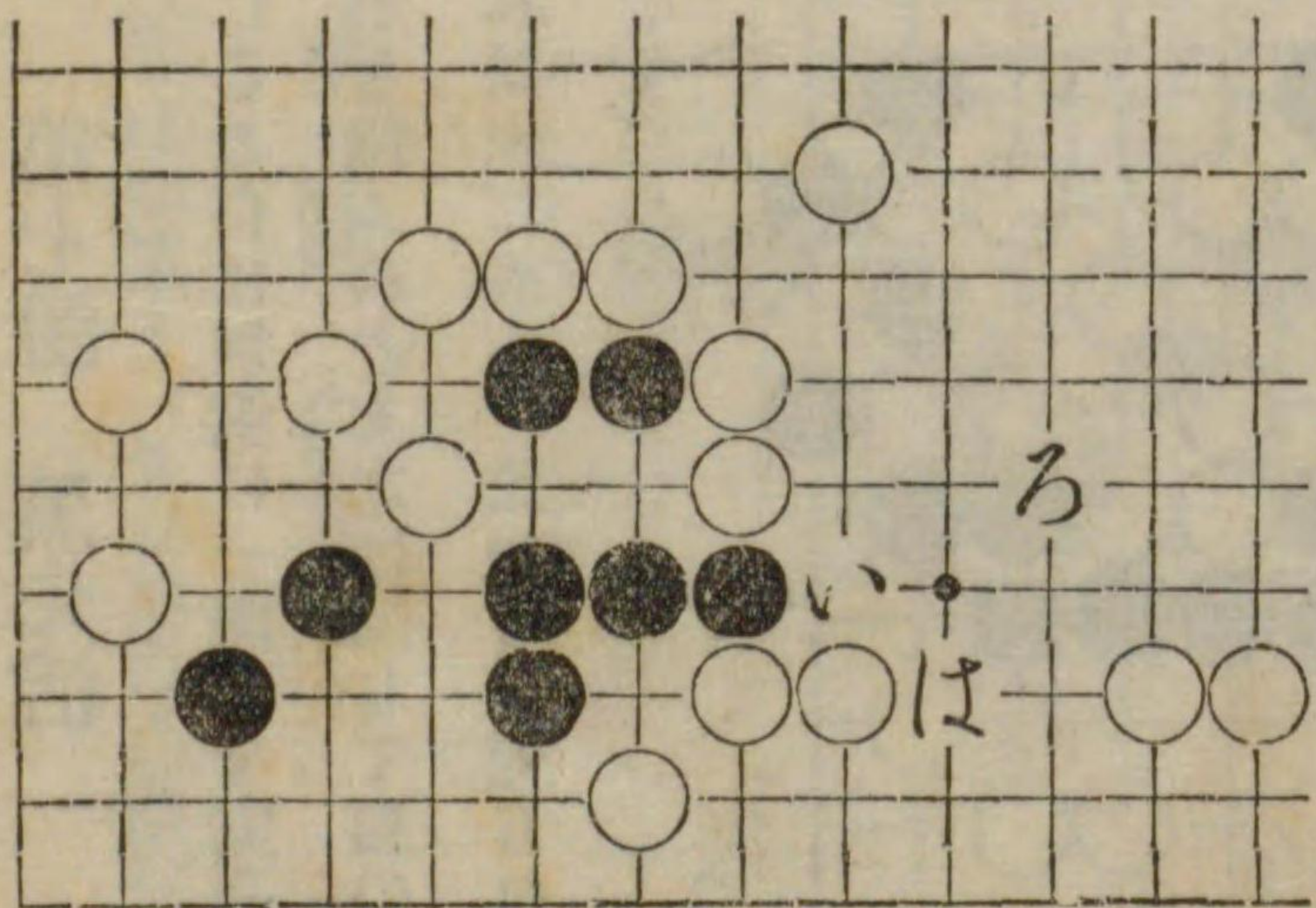
白先活

本圖は實戦に生じたる形勢なり圍中の白に手を生じて活路あるなり。  
白第一着第三着は手筋なり。

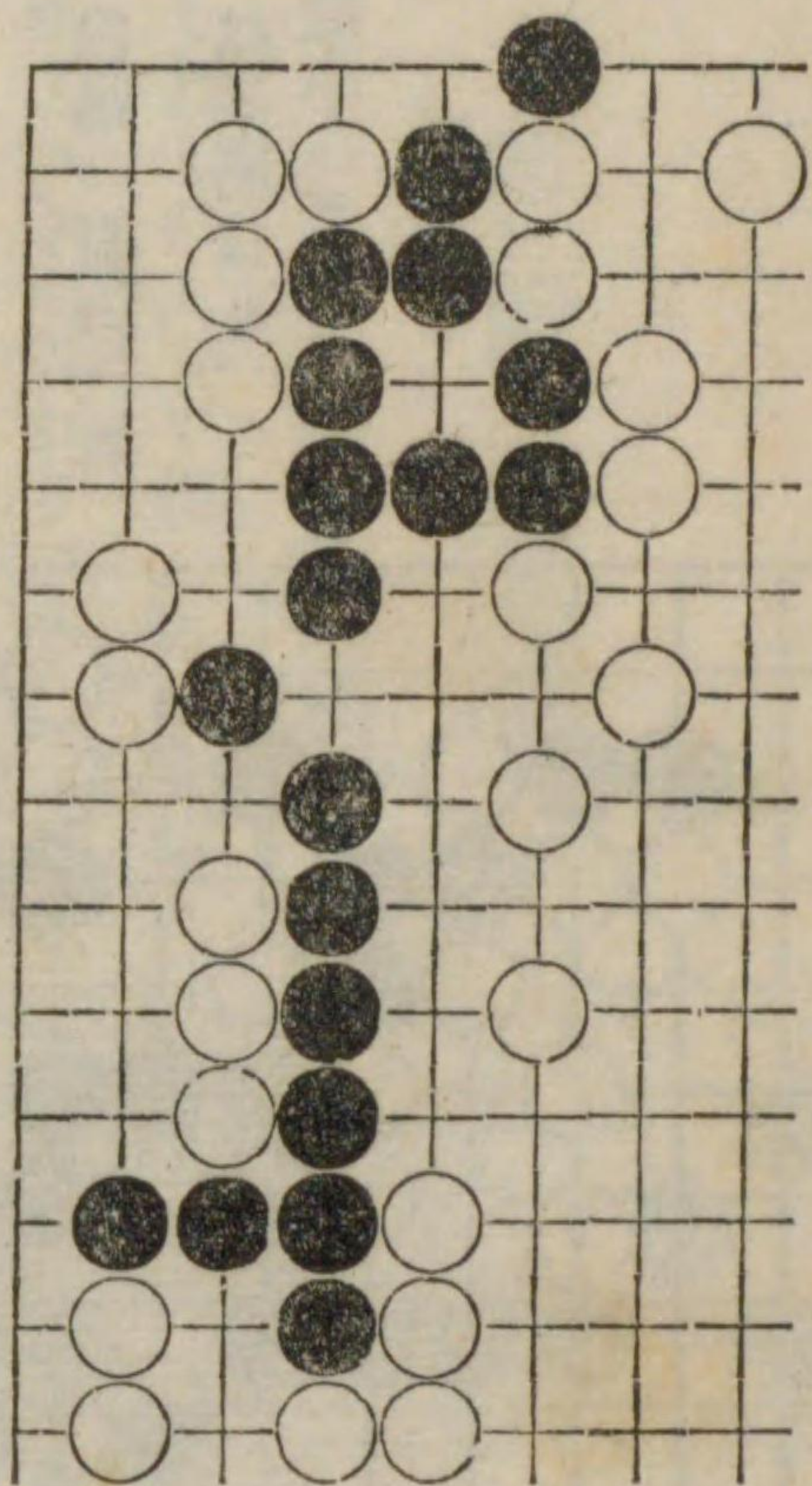


第五圖 黒先活

本形に於て黒は「い」と外部に突出し白之を「ろ」の邊に包圍せば「は」に綽ね活を生ずるなり。

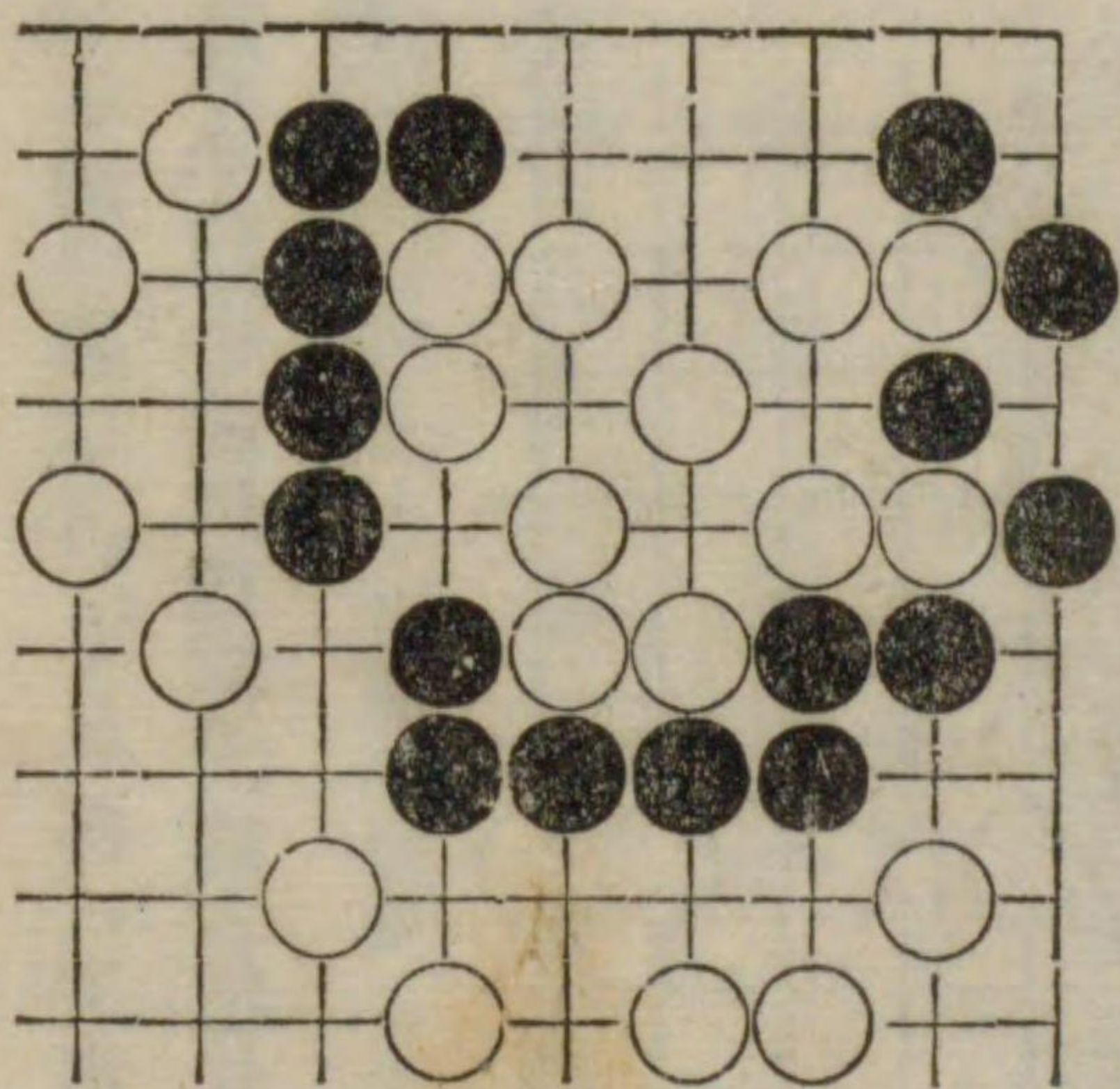






第六圖 黒先活

本形も打碁に出来たるものにて黒先にて活くなり、手段甚簡單なれども實際には却つて必要と認めれば特に編入せり。

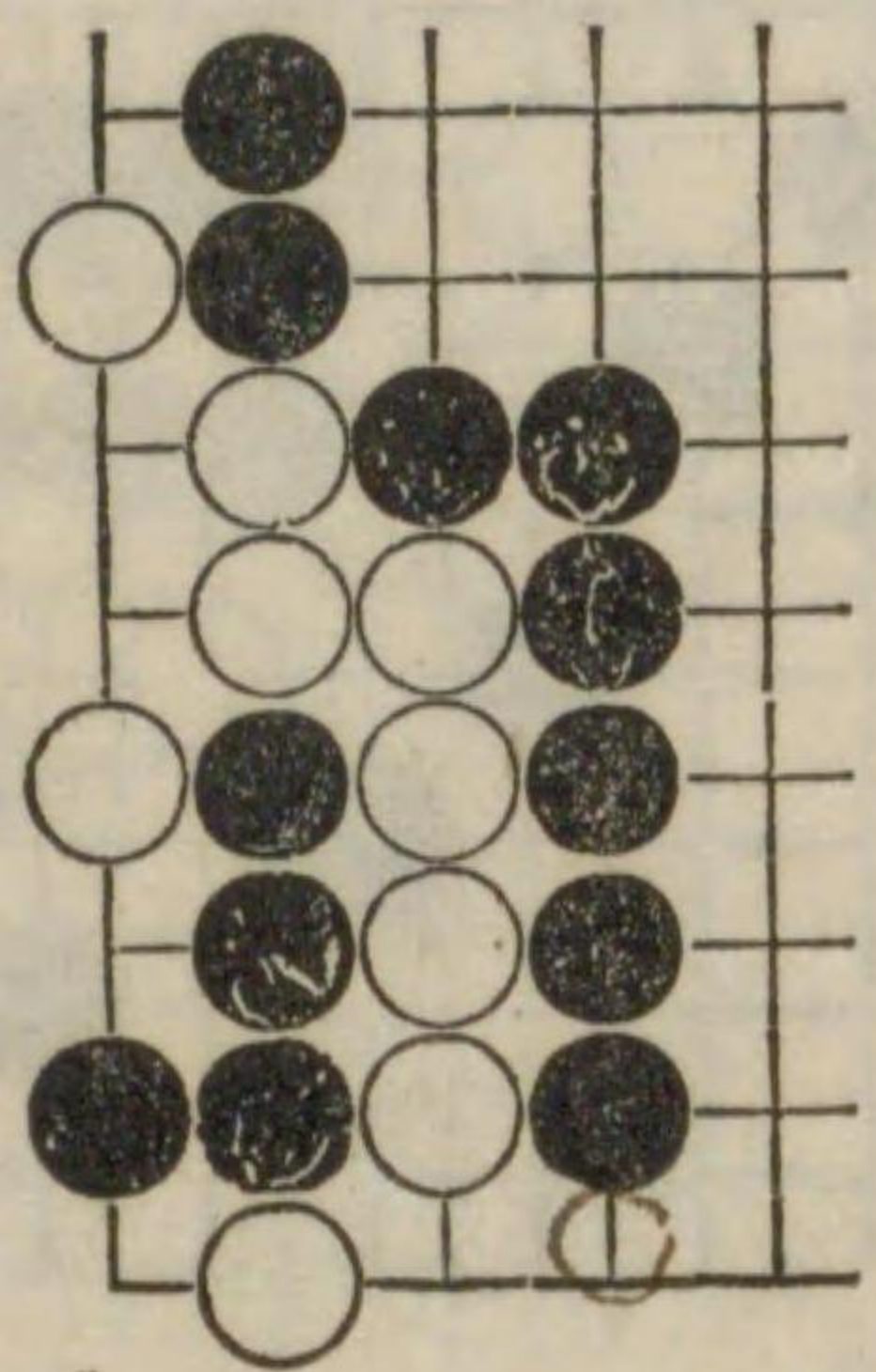


第七圖 黒先活

中間にある白は別箇に一眼づゝ完全なる眼形を備ふれども之に反して黒の全體は本眼未だ成らず然かも黒先なれば活るなり。

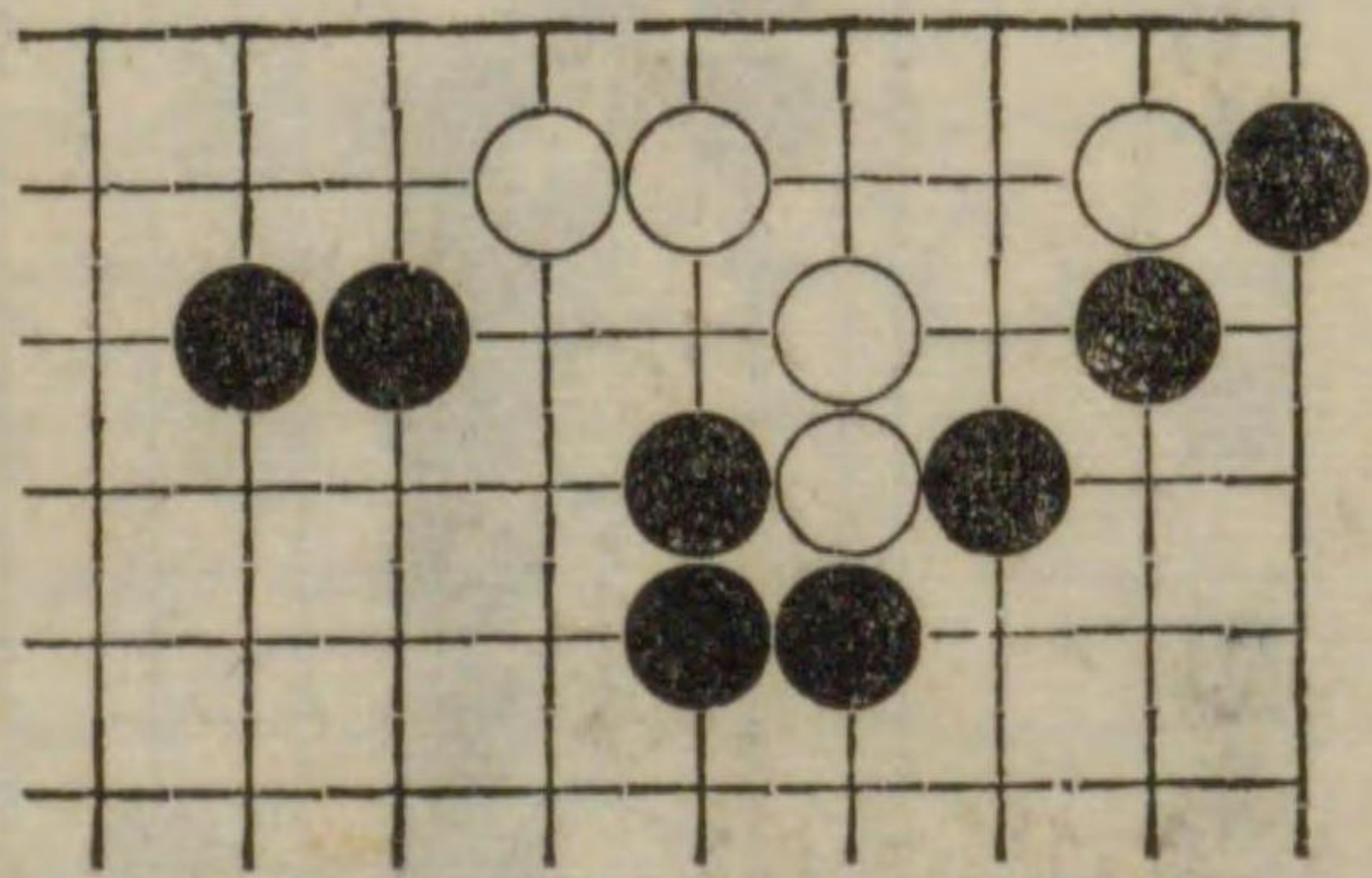
第八圖 黒先白長生

此形は長生といふなり黒先にて此白を取らんとするも取ること能はざるなり



第九圖 白先活

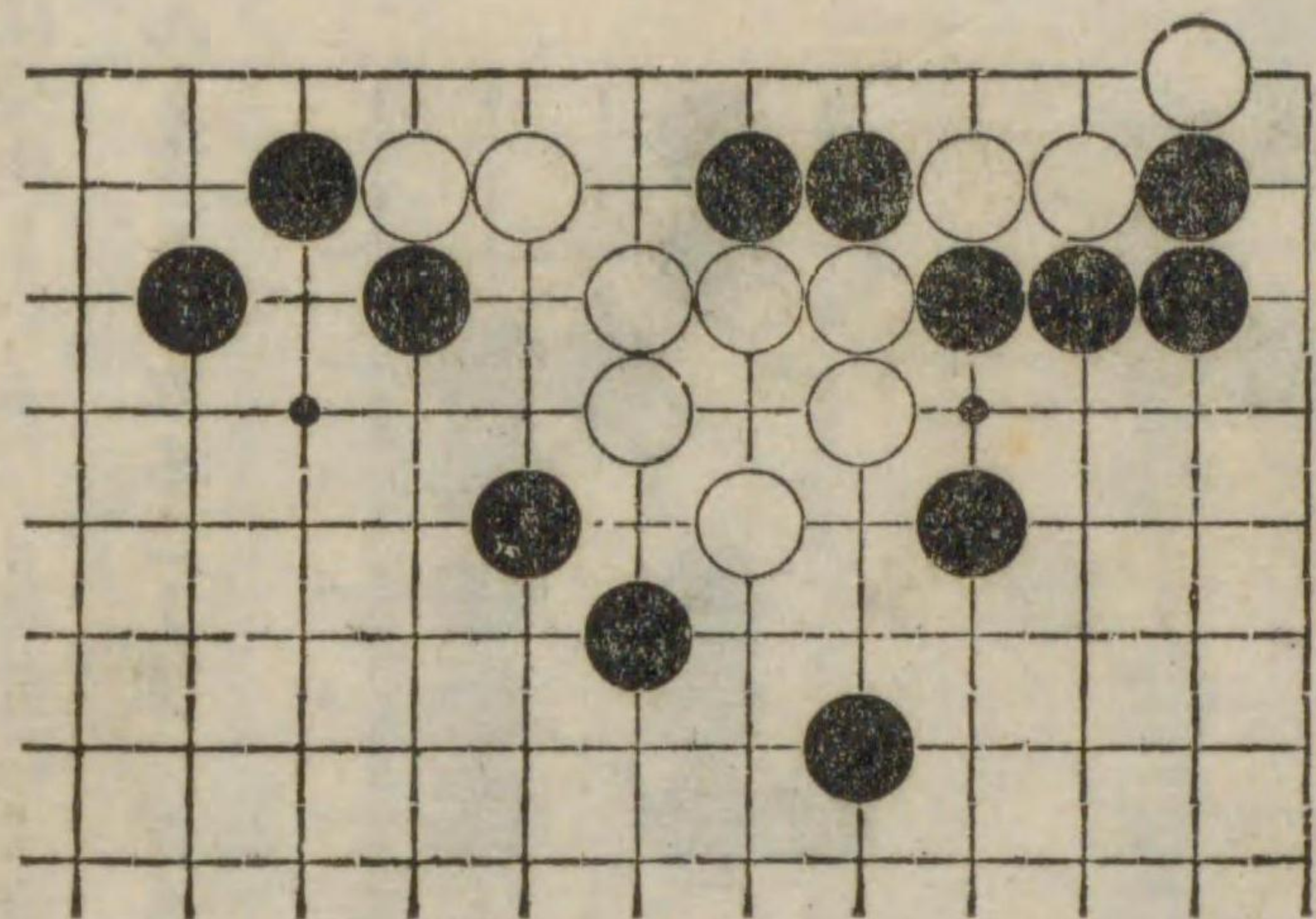
白の第三着は記憶すべき常用の手筋なり





第十圖 白先活

初發白の第一着が常用の手筋なり

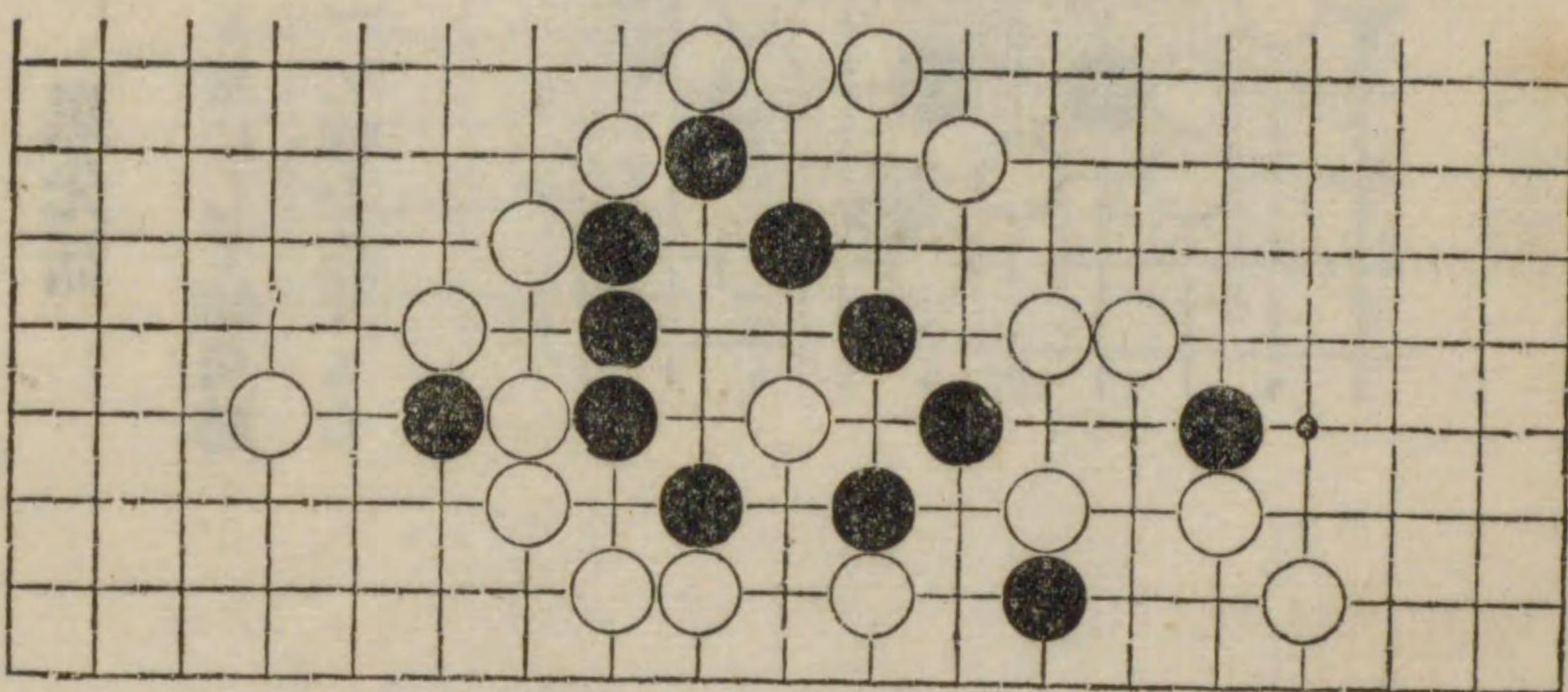




第十四圖

黒先活(持)

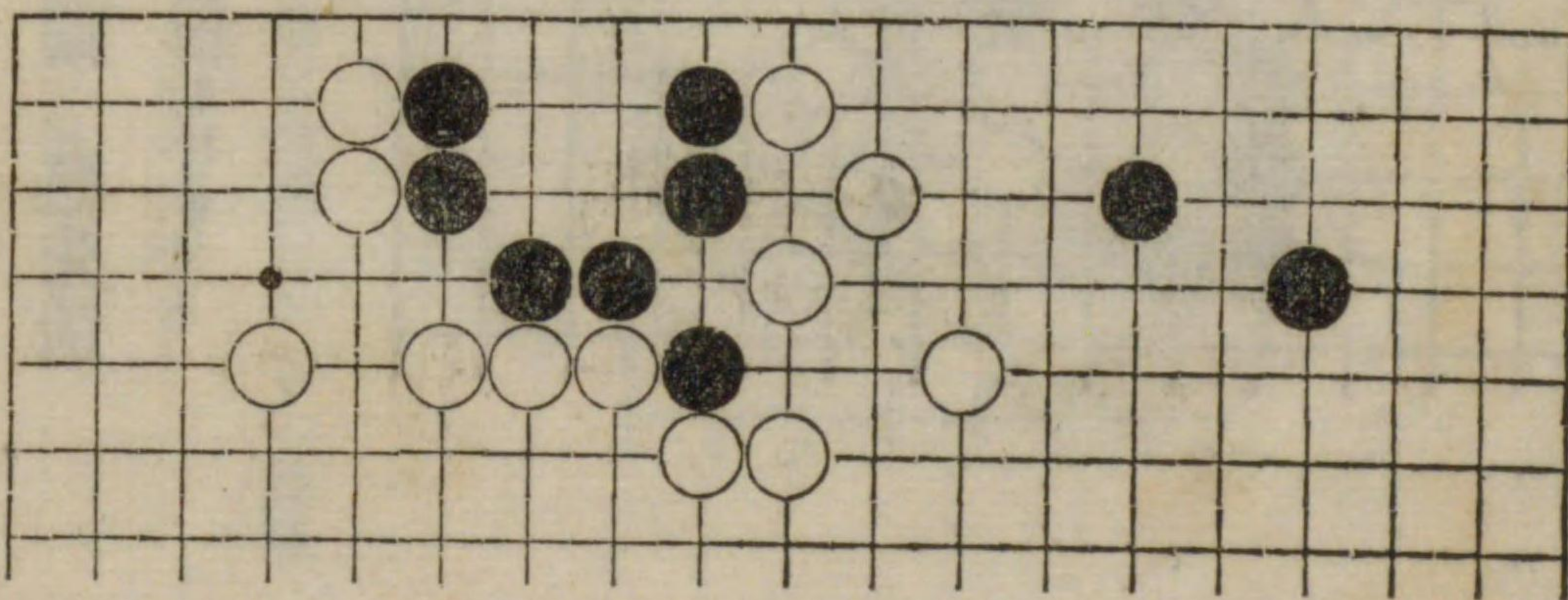
白強ひて此黒を取らんとすれば戦闘上隅にまで擴がり然かも却つて己れが敗に了る事となるなり故に黒先手なれば持として活かす外なし。



第十五圖

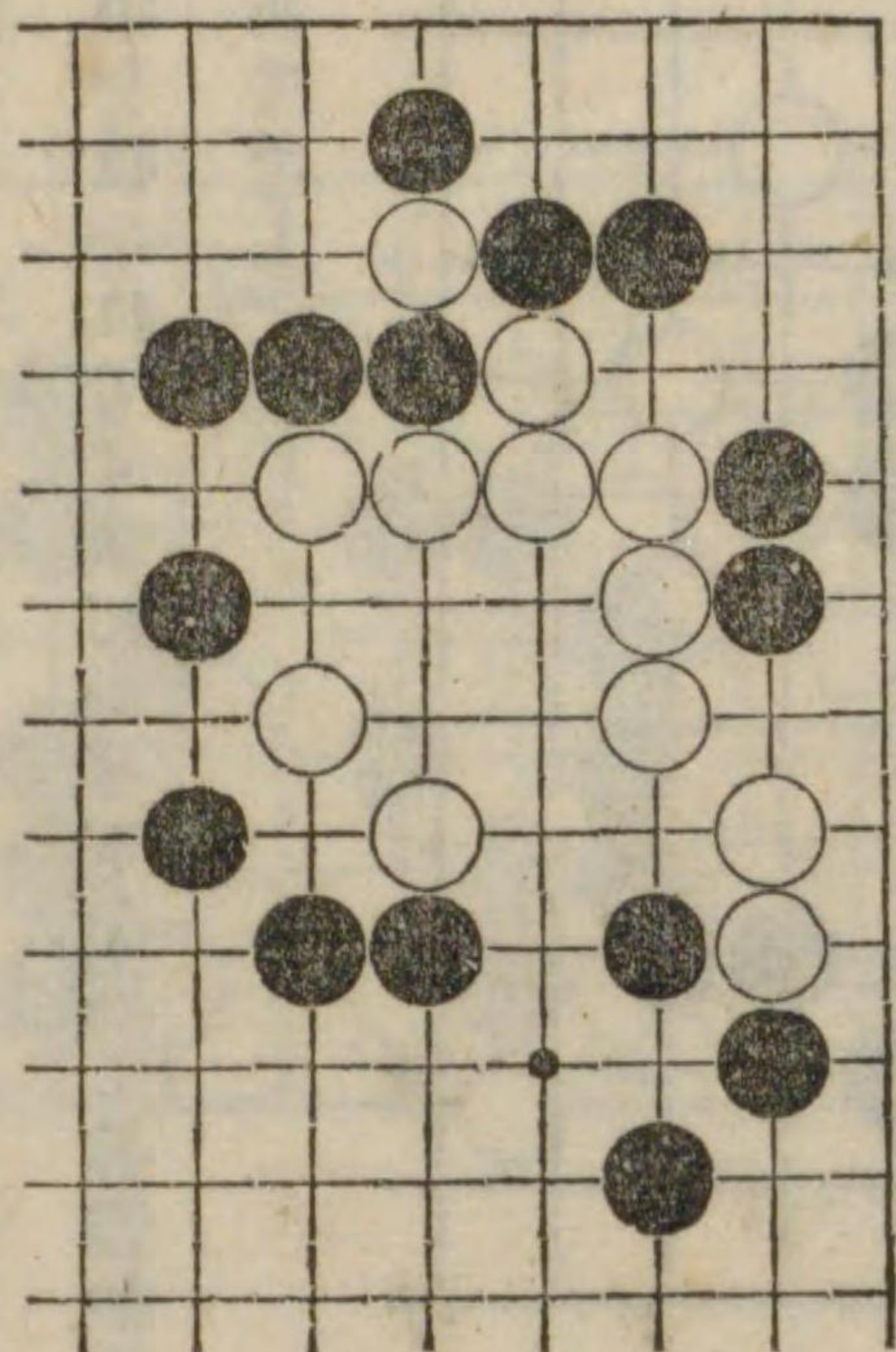
黒先活(持)

圍中の黒を活るに際し下方の黒の二子は遙に聲援をなすなり。



第十六圖 白先劫活

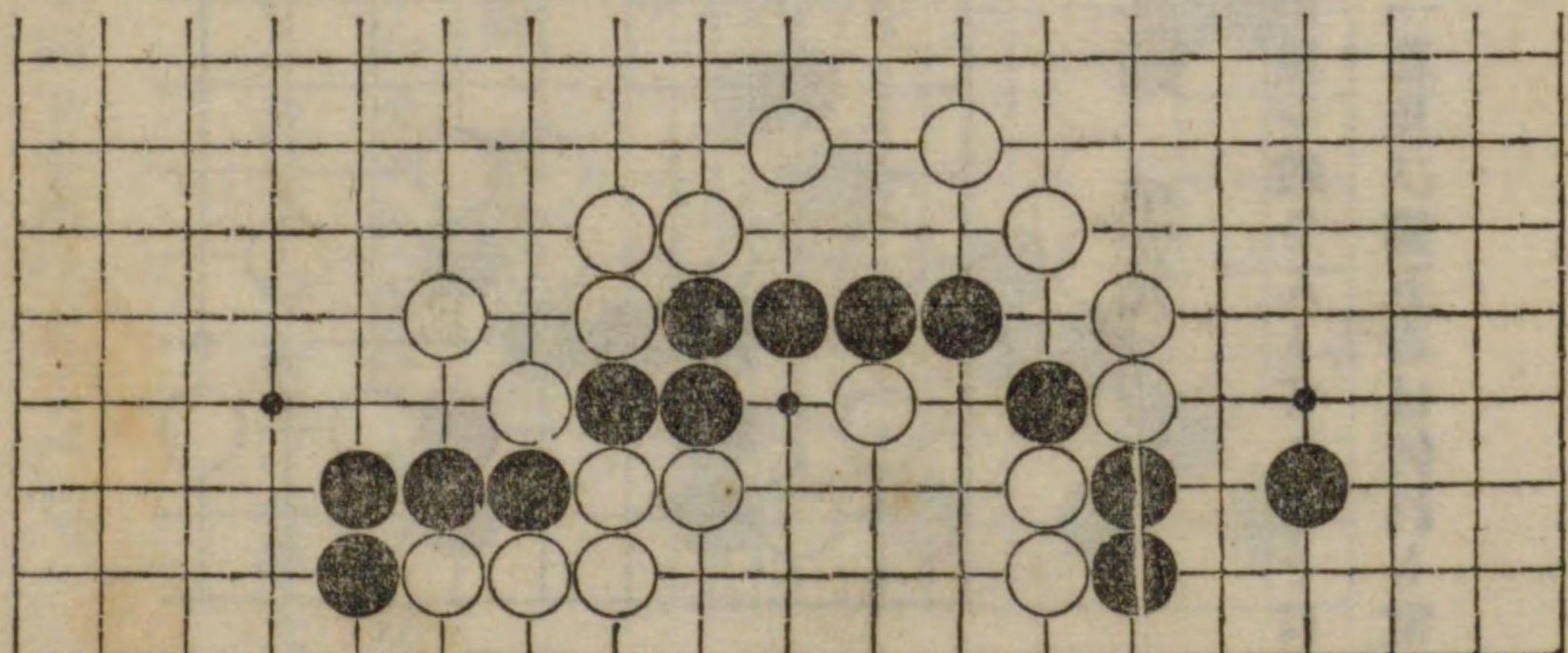
本型は白が前の(第十圖)と同じ筆法の手筋にて活形を得るなり。



第十七圖

黒先活

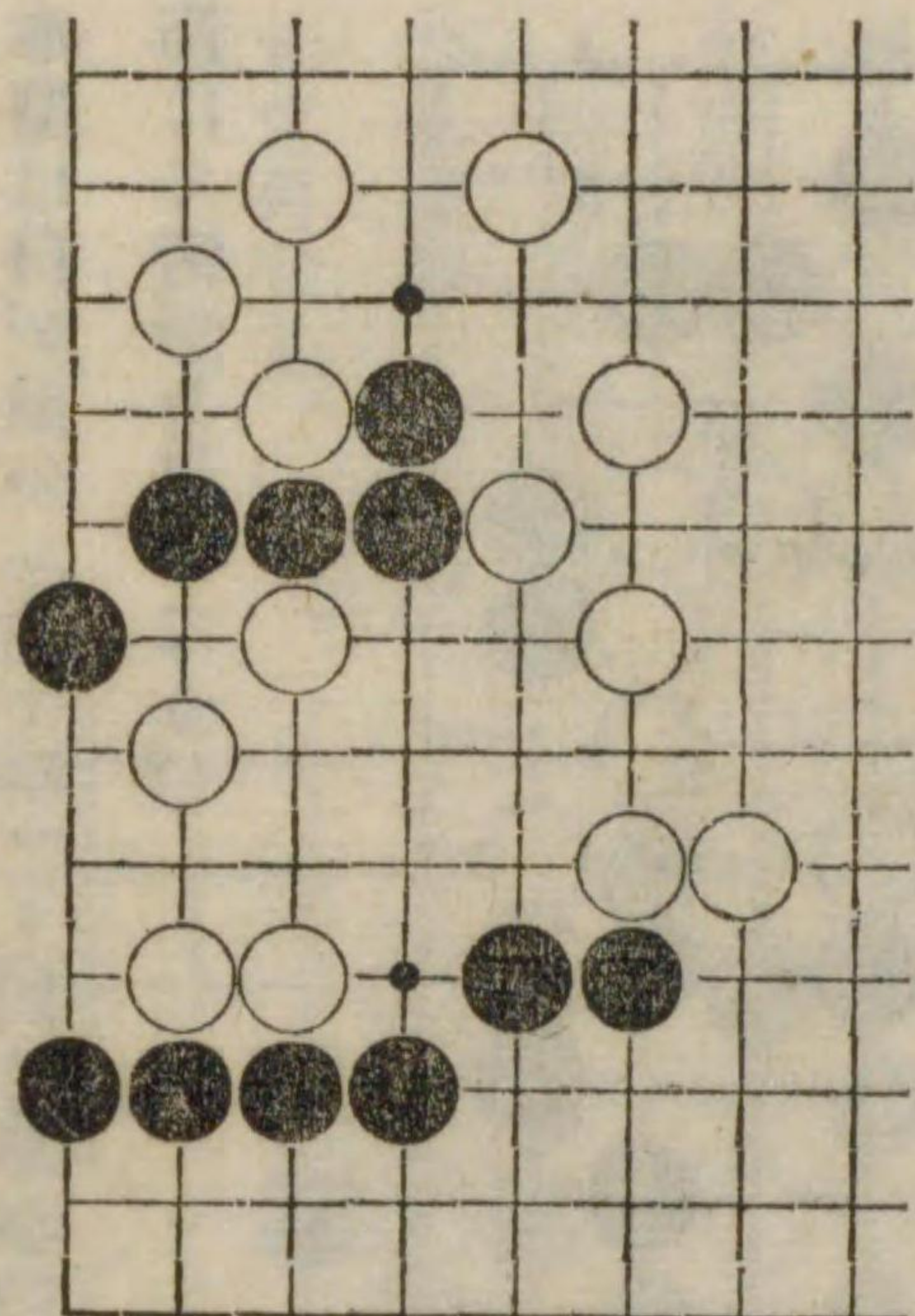
本形は圍中の黒六子が活る問題にて黒の第一着は手筋なり。





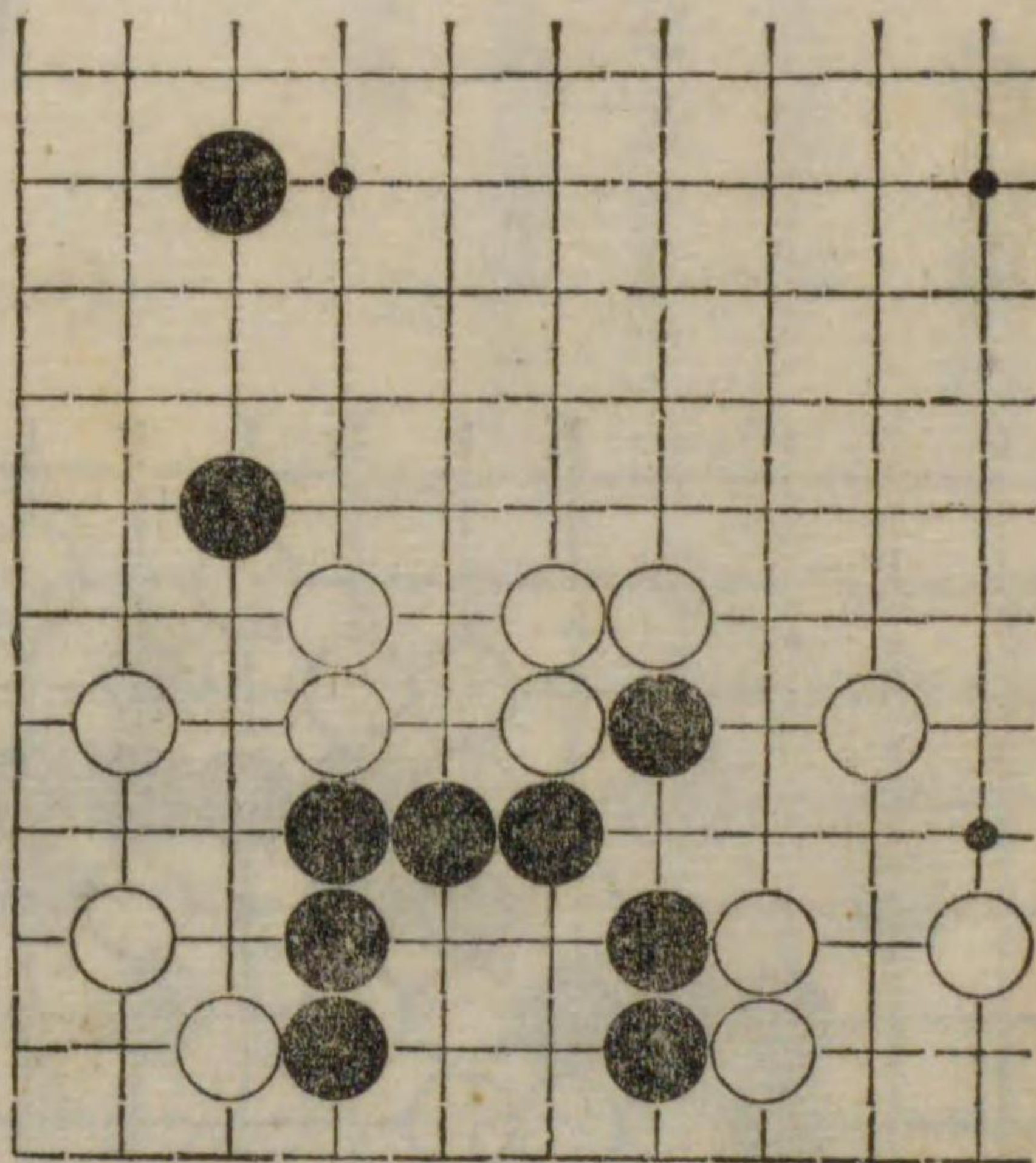
第十八圖 黒先活

黒の第三着は手筋なり。  
白に劫となす手段なきにあらねどそは黒に  
手を抜かれても未だ劫なるを以て其價值極  
めて乏し。



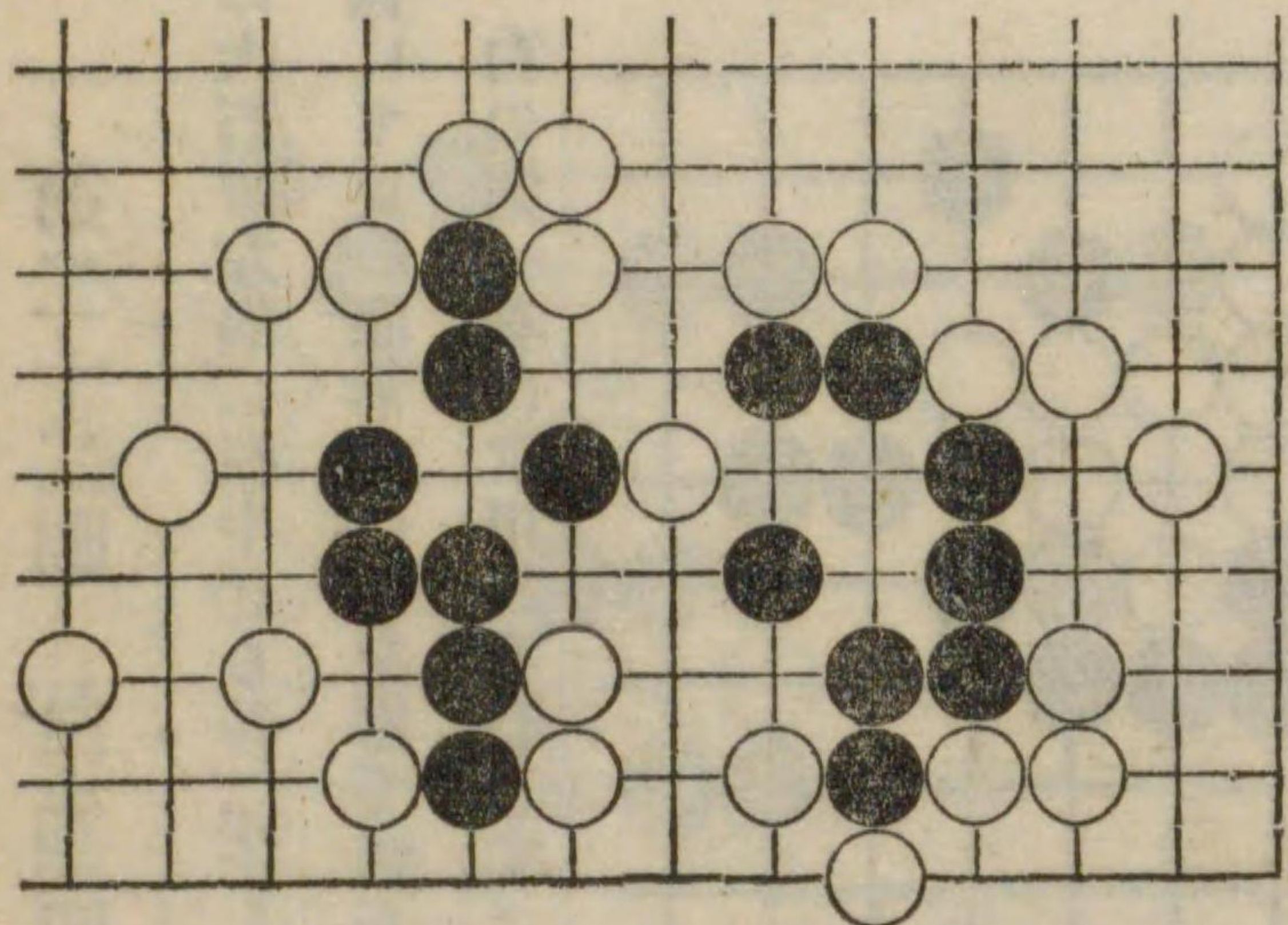
第十九圖 黒先(持)

黒先手なれば白が黒を殺さんとするもそは  
無理なり黒の第一着及び第五着は何れも常  
用の手筋なり。



第二十圖 黒先活

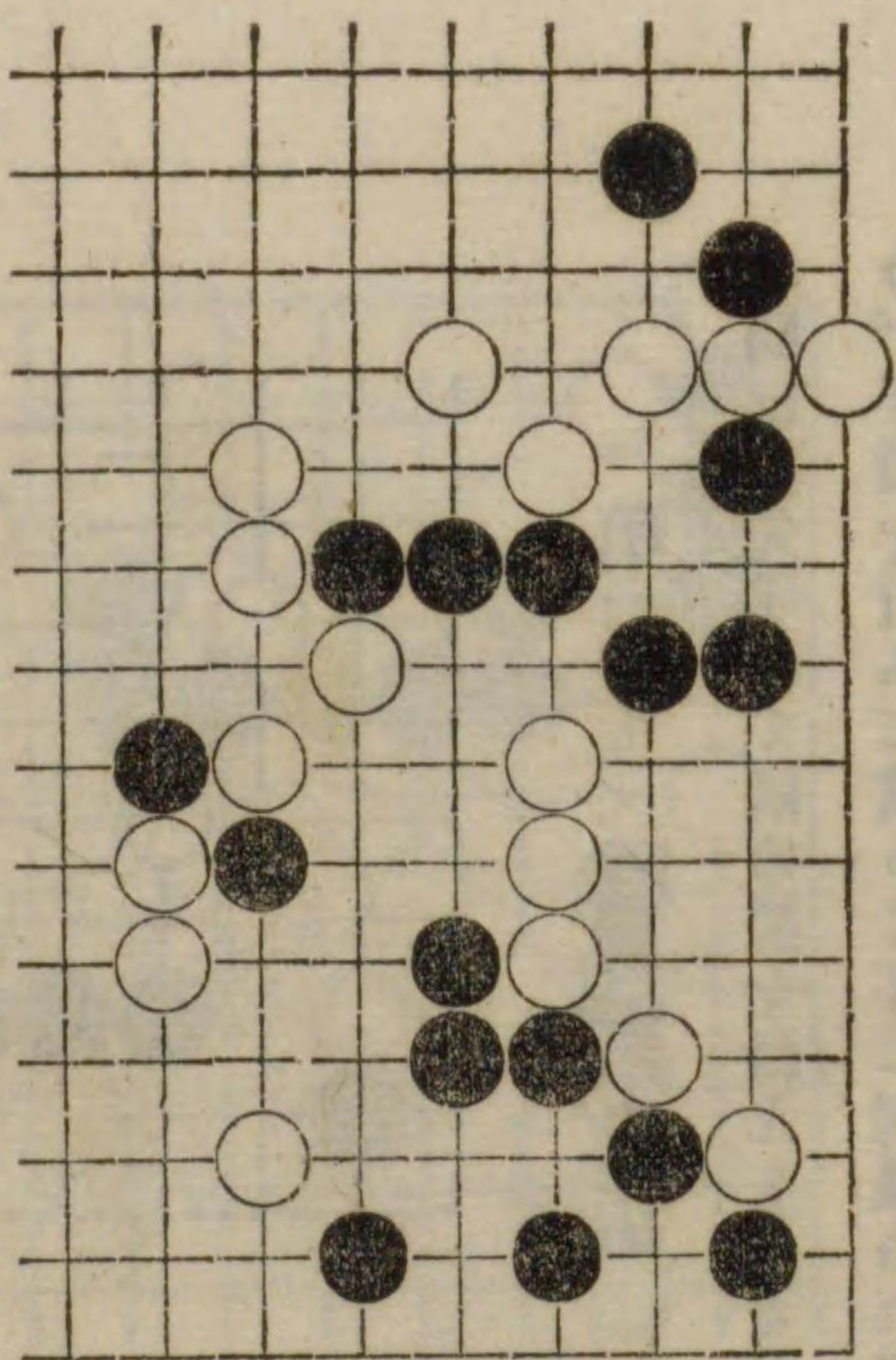
小林三段が七子の置碁と對局して出來たる  
形なれば簡單なれども揭示するものなり。



第二十一圖 黒先劫活

本問は圍中にある黒の六子が手を生ずるなり左  
方の外部に尖みになれる黒二子の如きは姿勢上  
示しおくに過ぎず。

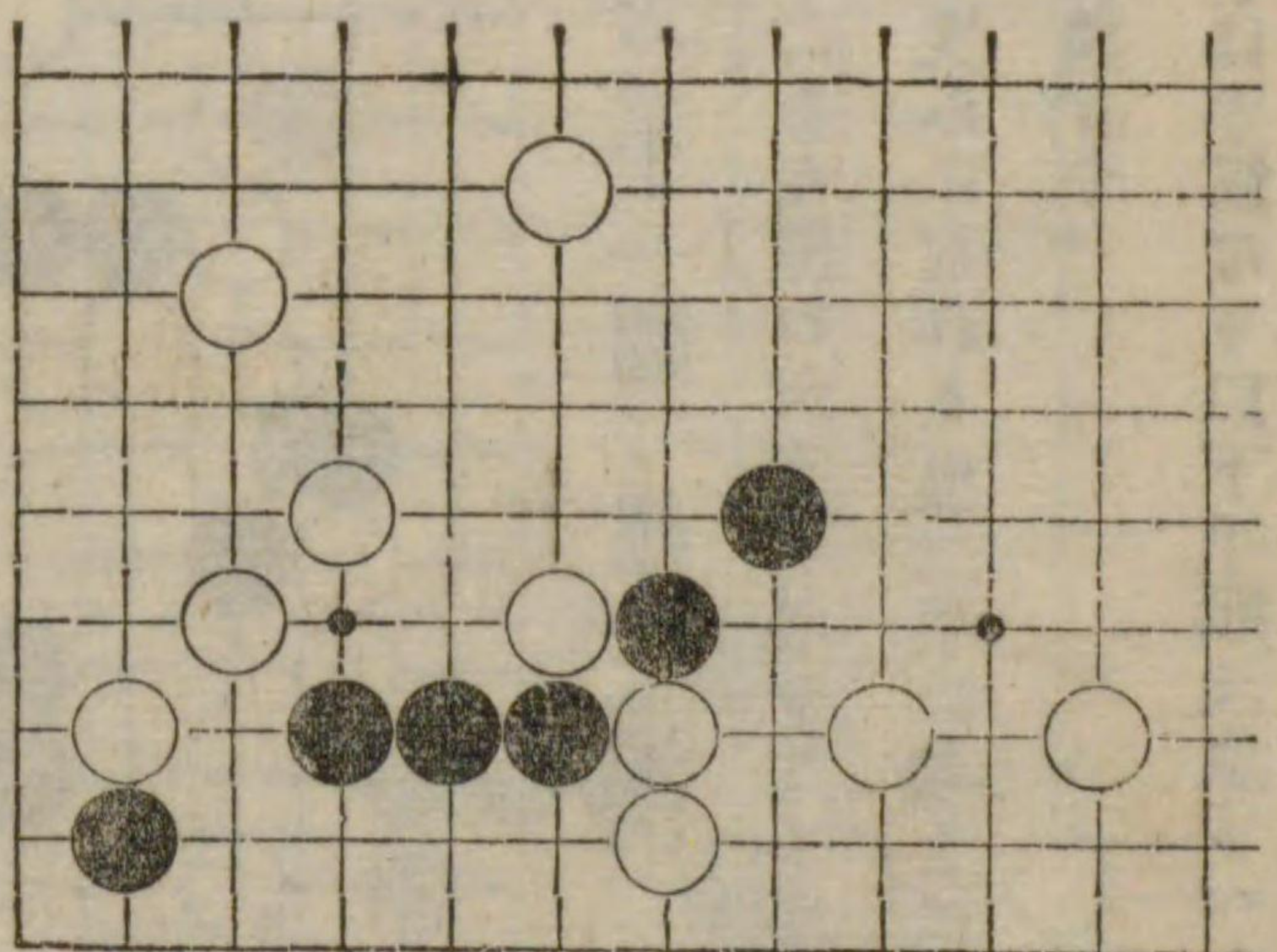
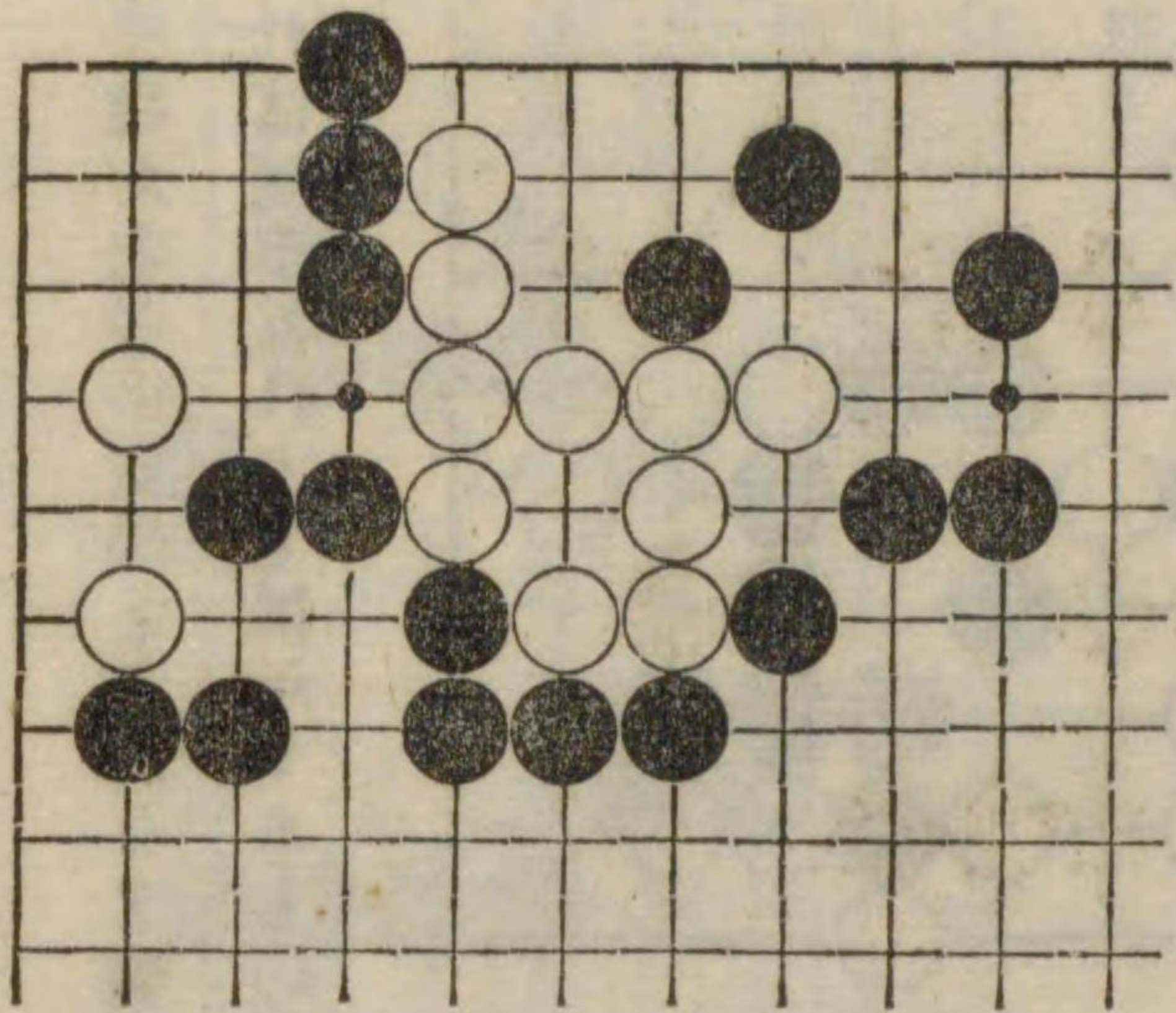
黒の第三着は手筋なり以下手順注意すべし。





第二十二圖 白先活

白の大石が左隅に在中せる吾二子との関係にて更に眼形を作るを得て活るなり。白の第一着は常用の手筋とす。

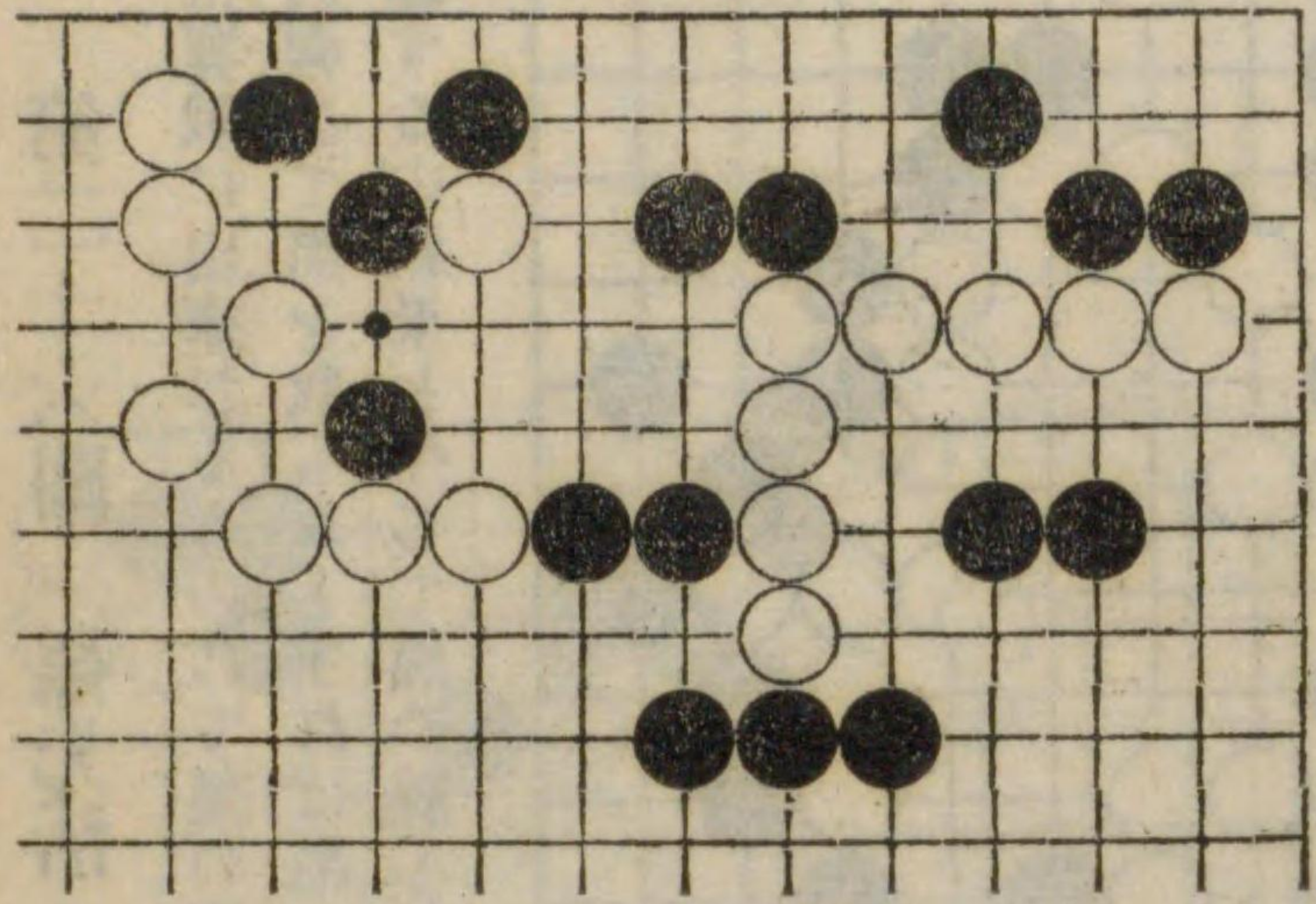


第二十三圖 黒先活

本問は黒先手にて隅の黒を活んとするなり。手段を行ふに當りて征に關係あれば其心するを要す。

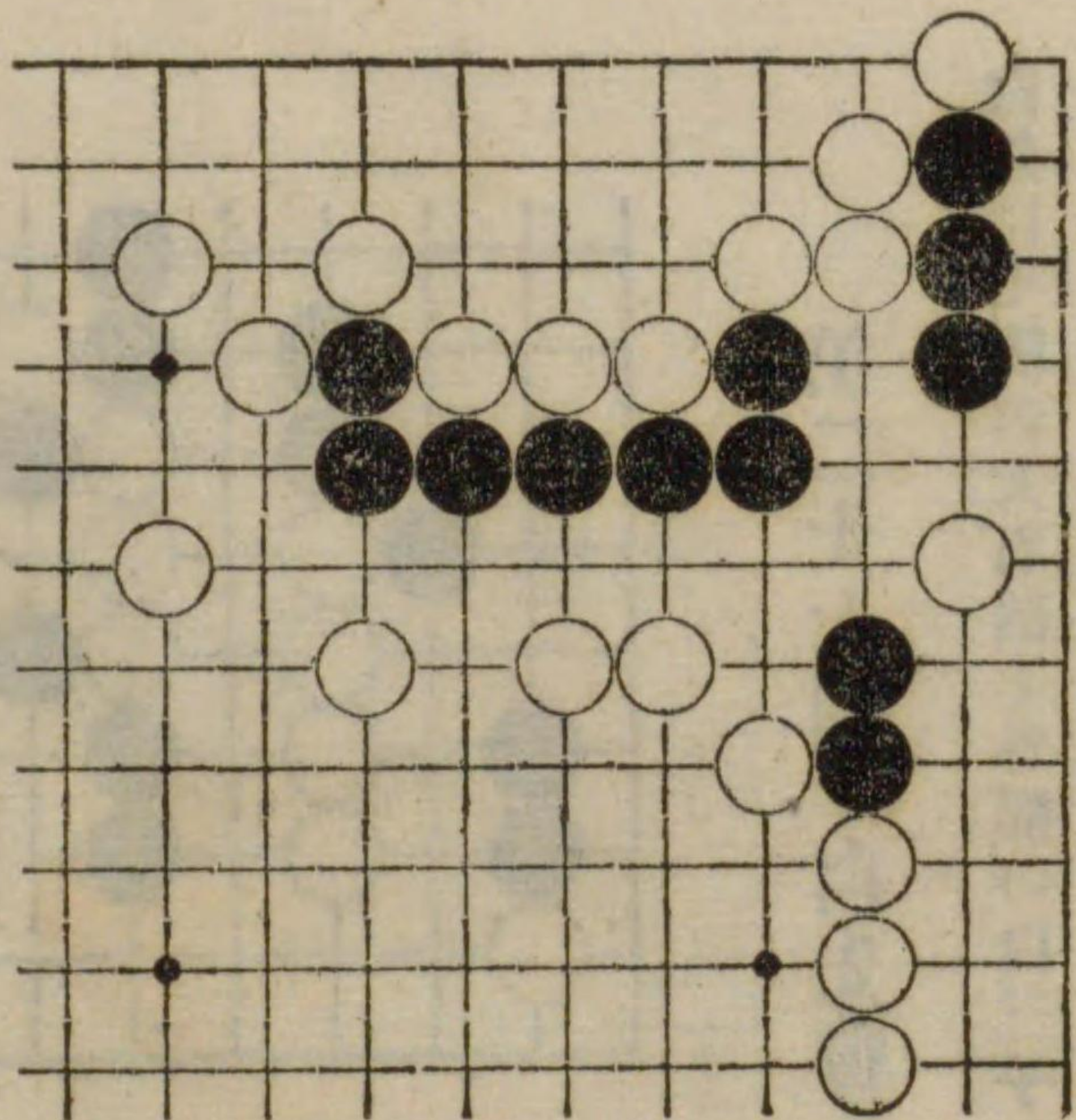
第二十四圖 白先活

本問は右方の八子を活るなり白の第一、第三、第五の各着は手筋なり。



第二十五圖 黒先劫活

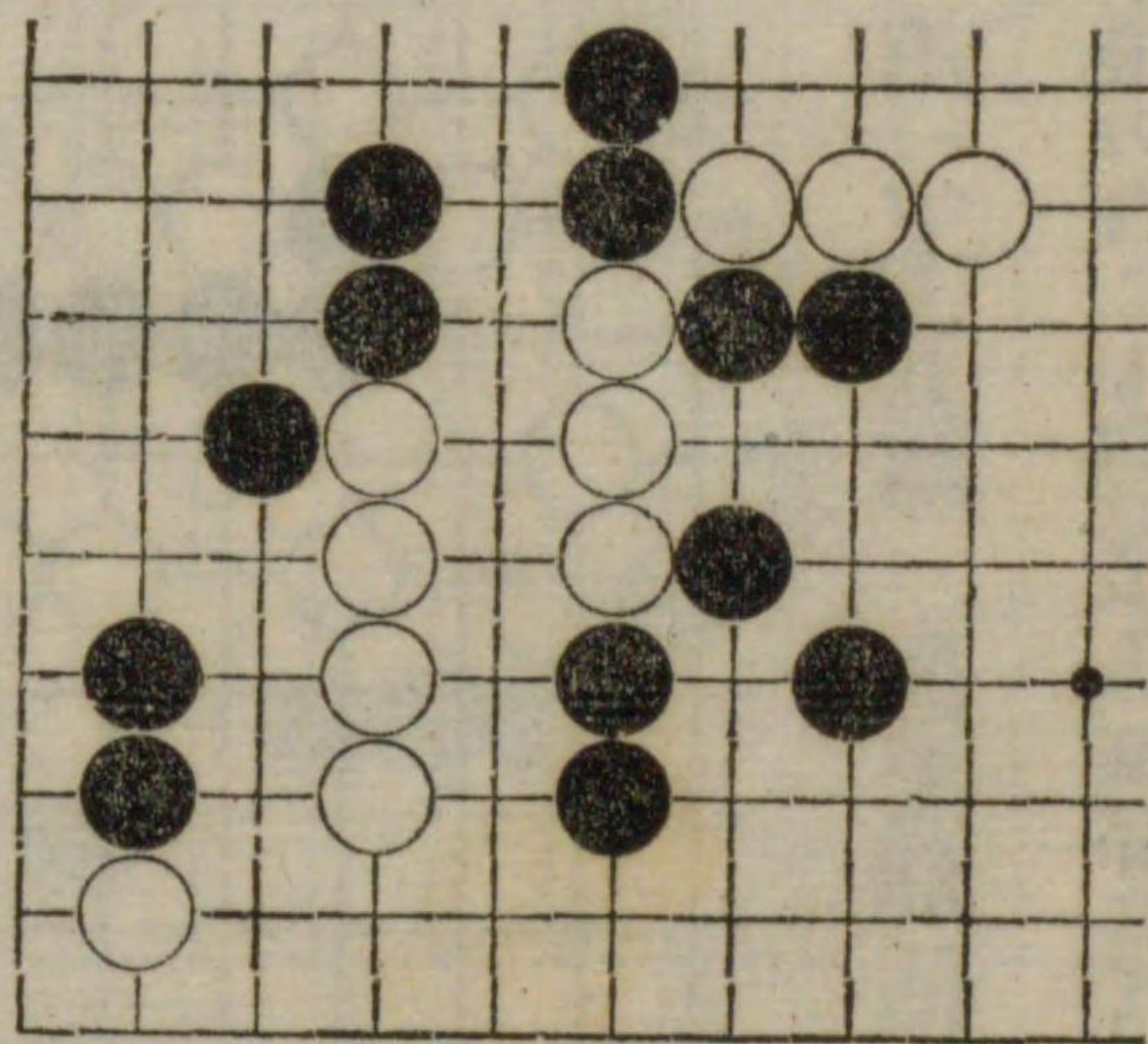
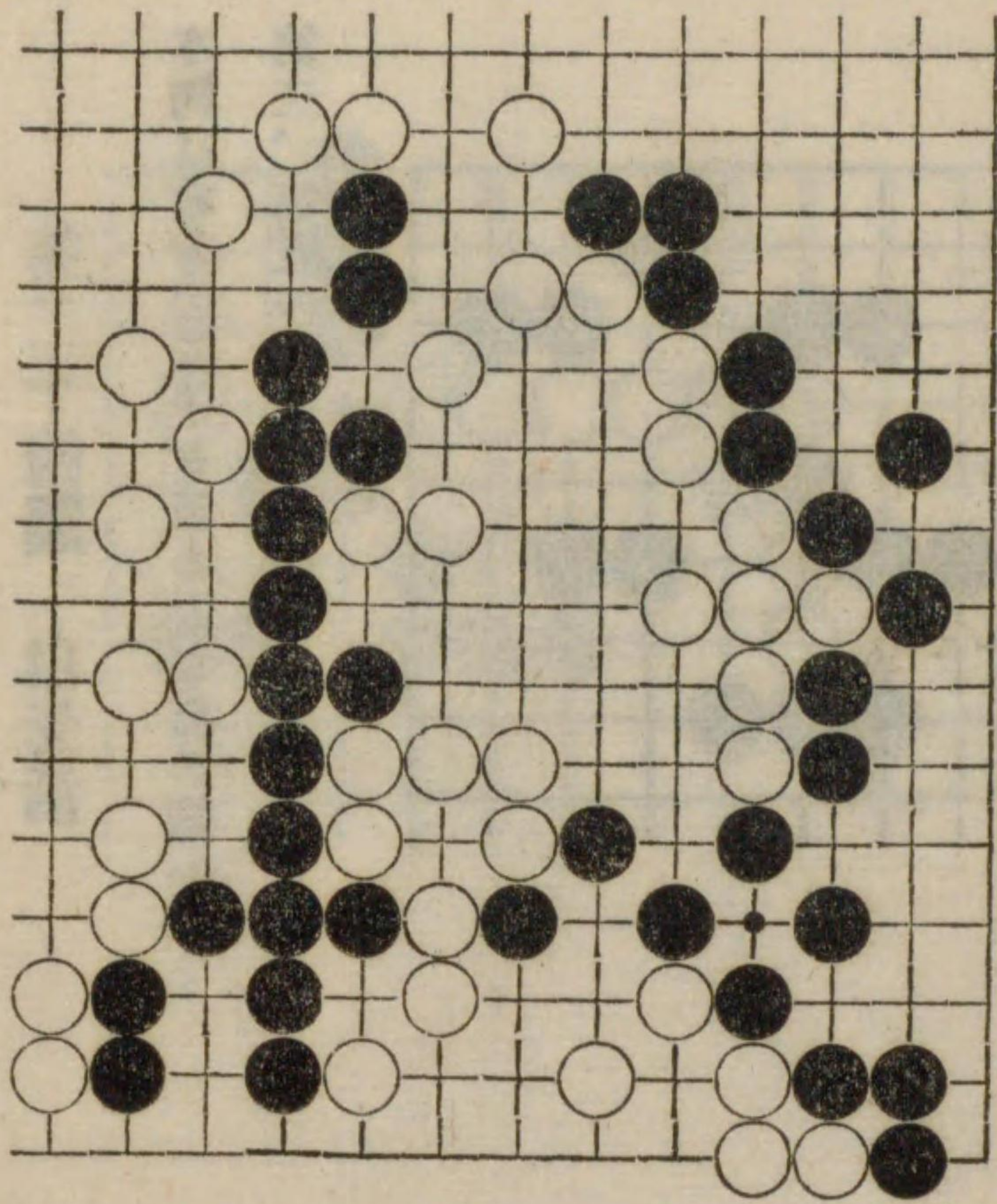
本型は上邊の白にも切などの關係にて手段を生ずるなり。





第二十六圖 黒先活

本型は實戦に出來たるものにて黒の第五着は妙手なり、白強ひて黒を取らんとすれば黒は中腹に於て白を兩斷するの結果を生じて黒の勝となるなり。

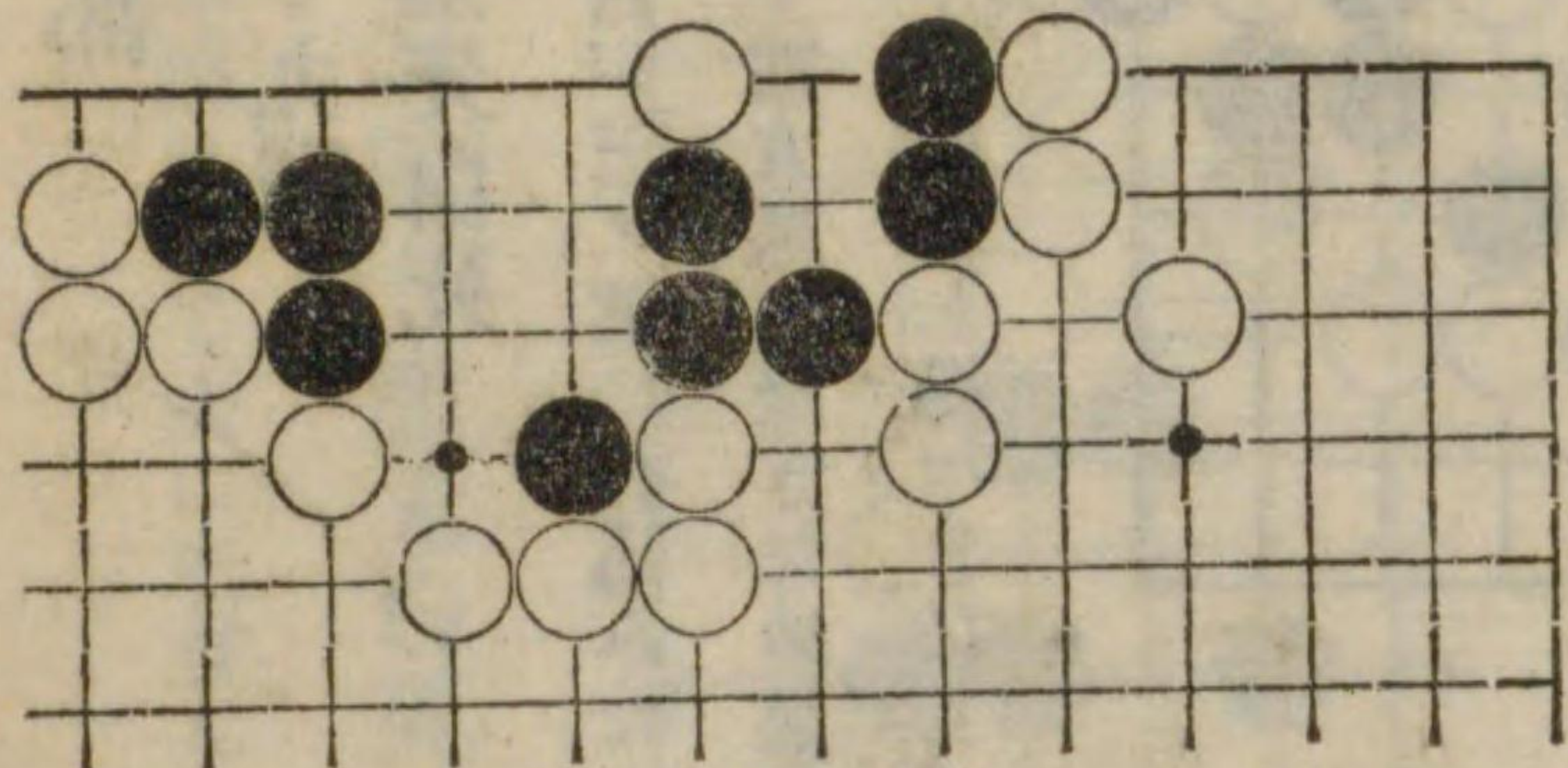


第二十七圖 白先勝

白先にて隅の大石活く外部の白三子も關係あるなり黒強ひて白を取らんとせば失敗して己れ却つて白に獲らる。

第二十八圖 黒先活

尤右方の黒二子は白に與ふるも宜しと知るべし。



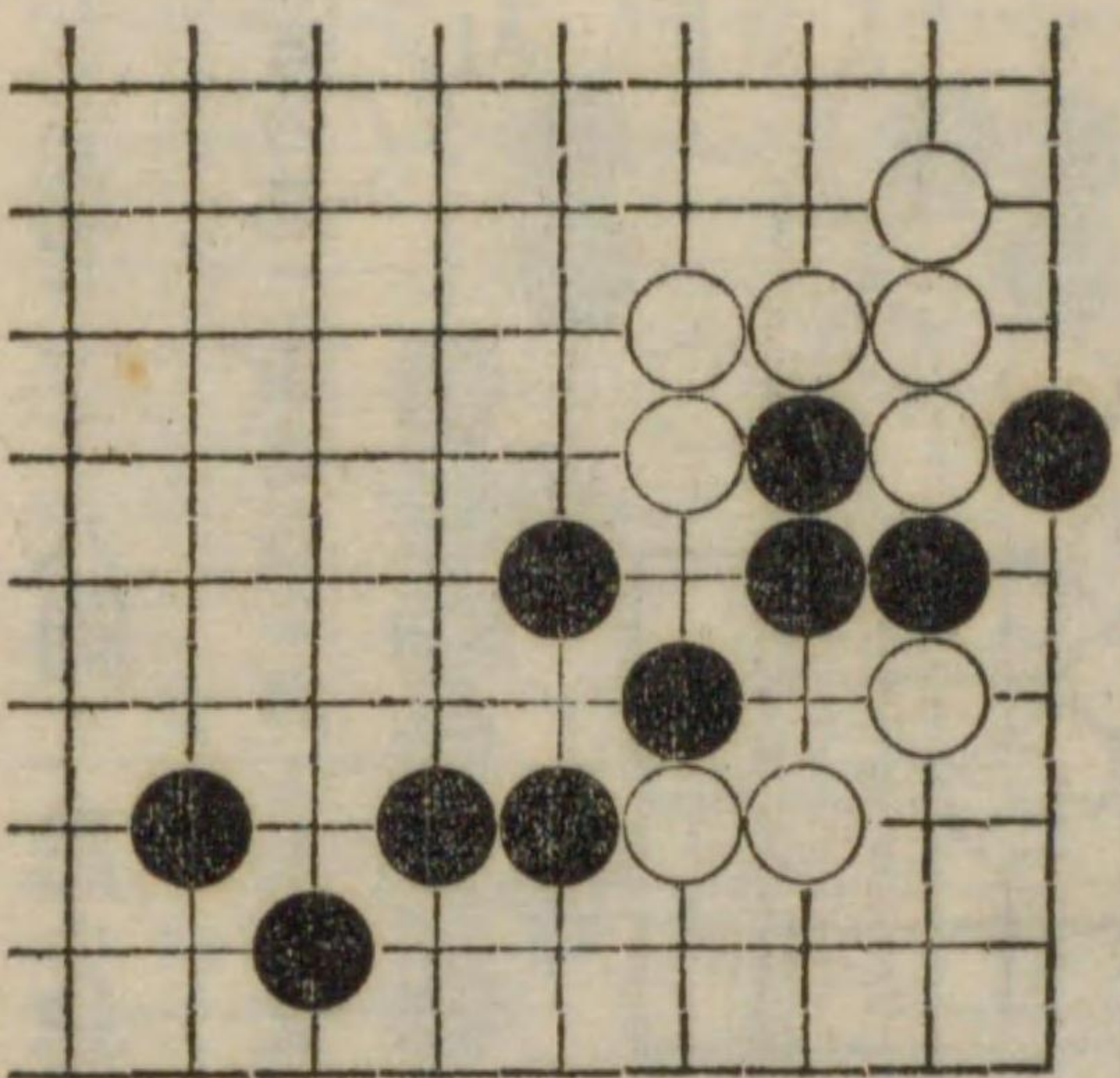


### 死之部

#### 第二十九圖

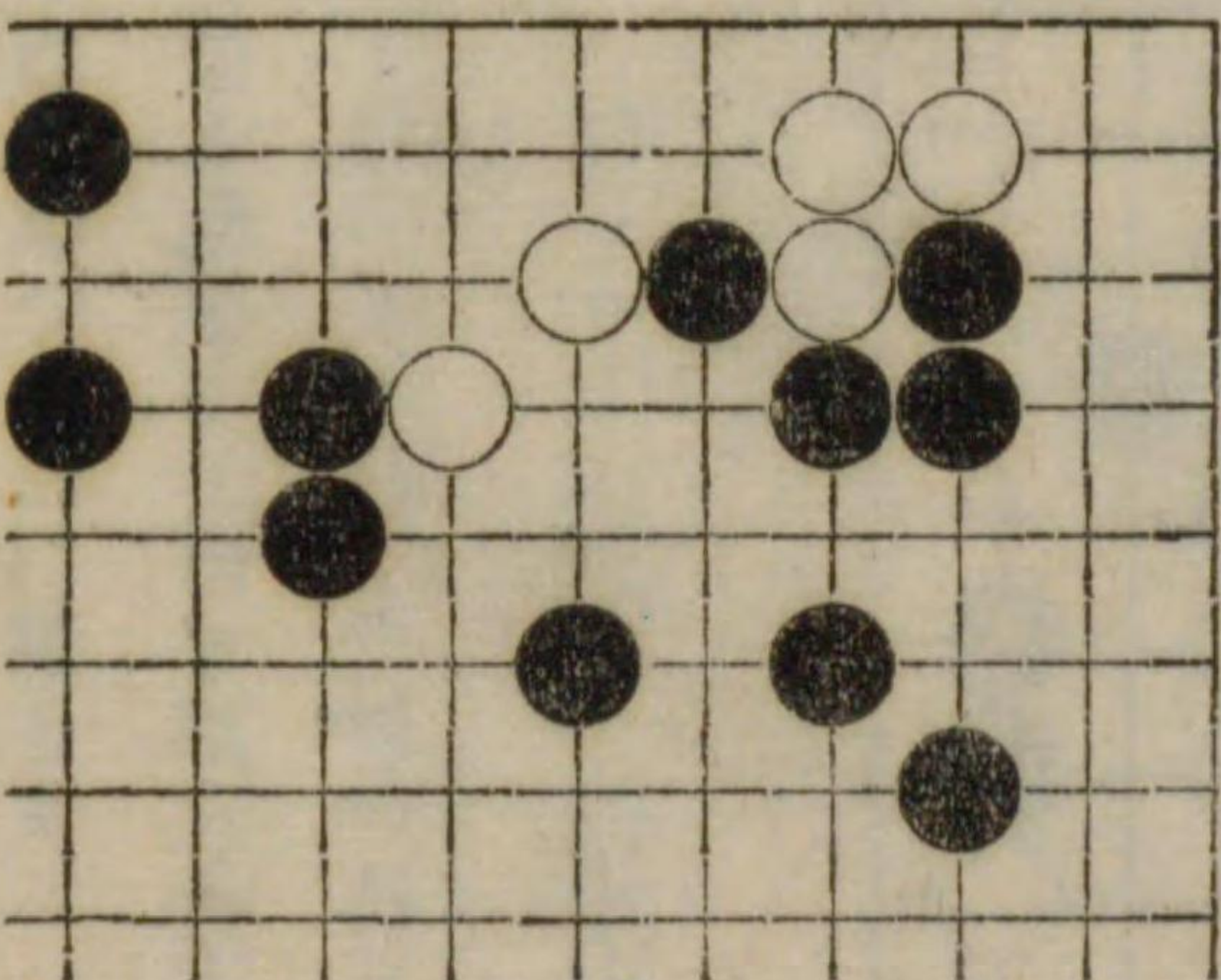
#### 黑先白死

此隅は置碁にて白が三ノ三に打込みたるより出来たる形勢にて左方黒が堅きため黒先手なれば此隅の白三子を擒殺し得べきなり。



#### 第三十圖 黑先白死

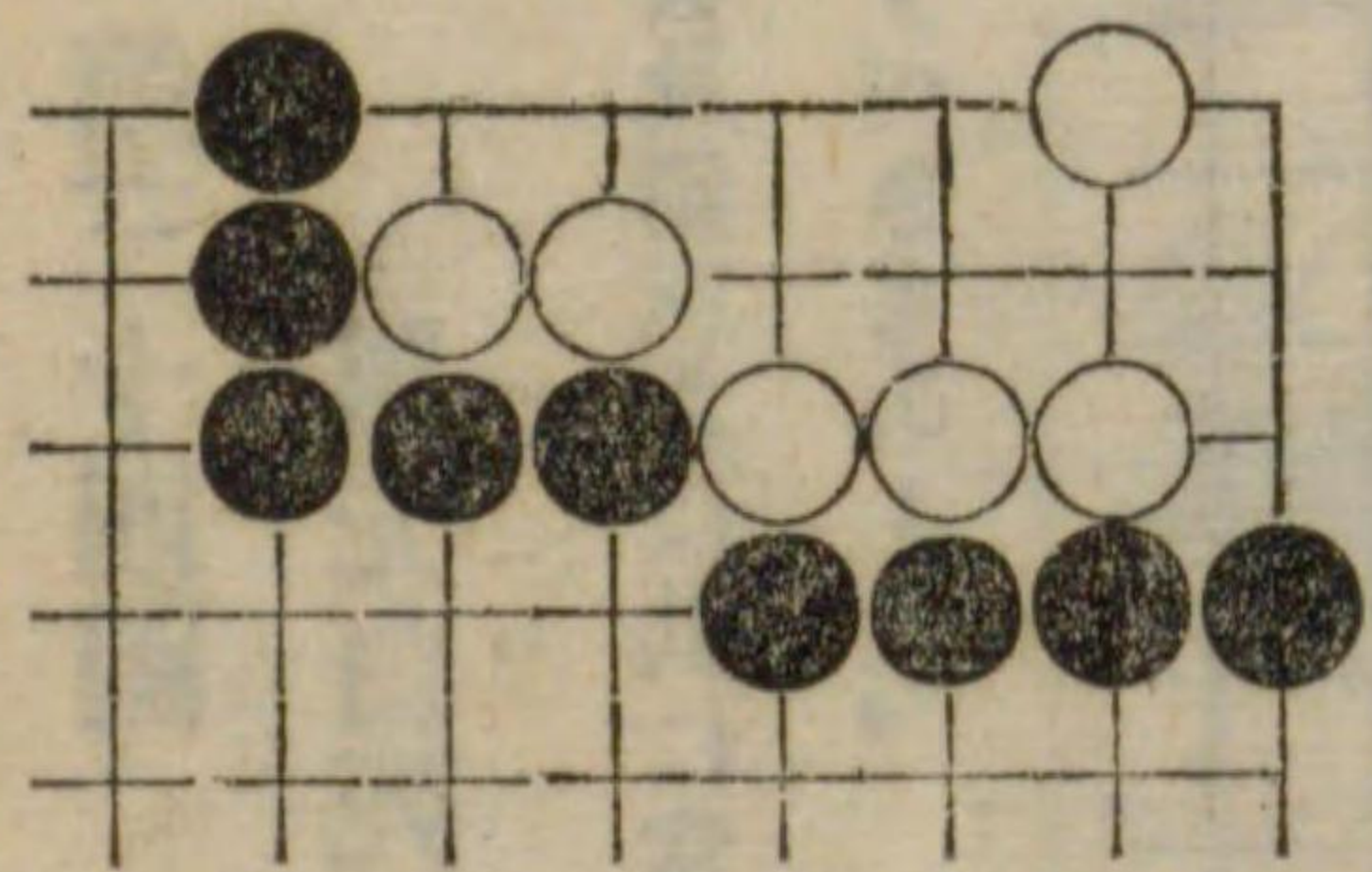
此隅は六目以上の多数なる置碁に於て白か隅の置石に二間高懸をなし黒が一間に受け後に白が置石に頂け黒が三ノ三に縛ね白が二段縛をなして出来たる常用の姿なりこれも黒先手なれば悉く白を死に致すを得べきなり。



#### 第三十二圖

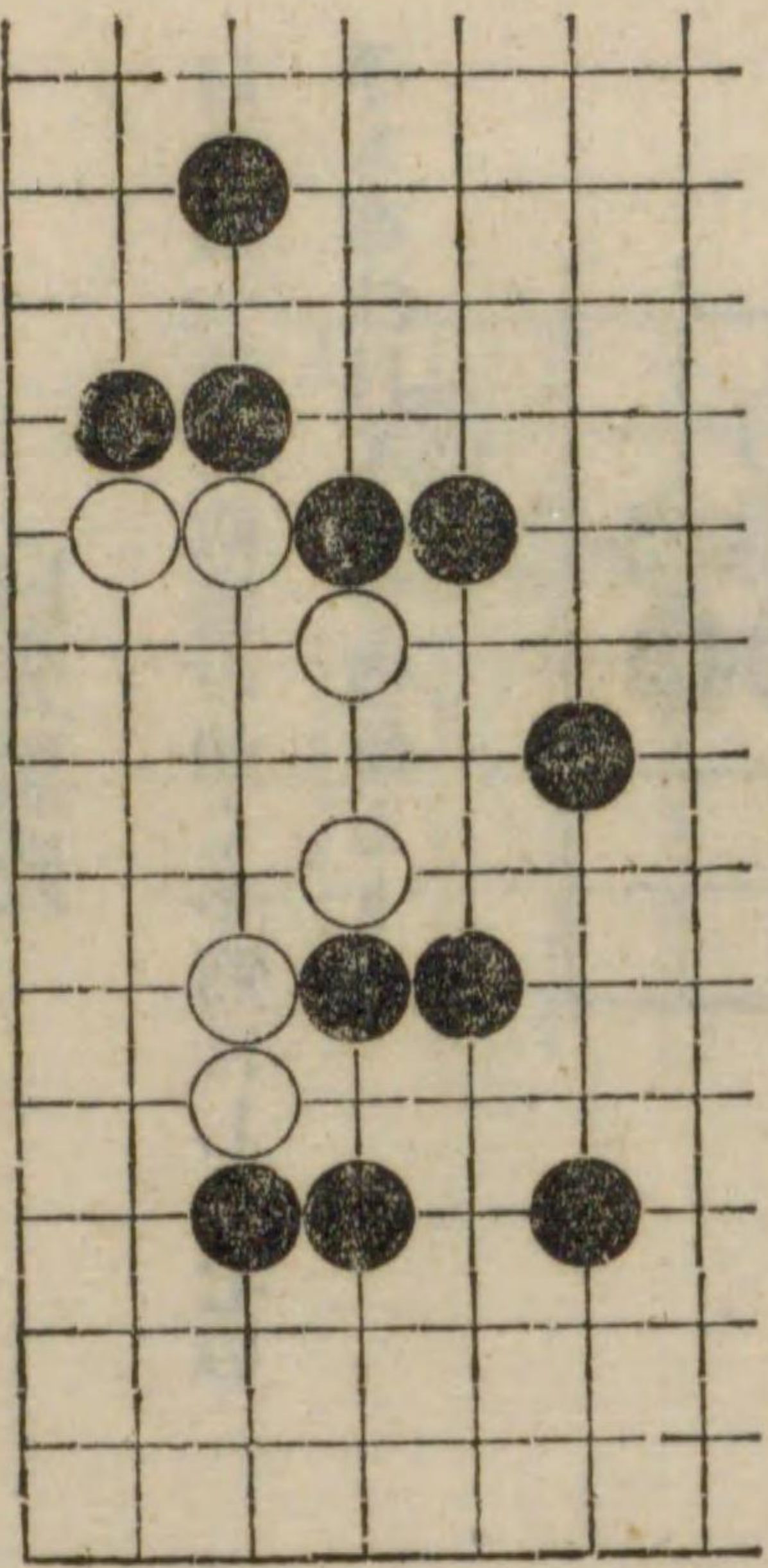
#### 黑先白死

本圖以下の三間は何れも初發の妙手同一の位置に存在せるを以て茲に一括して連載せしなり「いノ四」と「とノ一」に下りある黒石を利用して考察するにあり黒第一着より七の手まで皆面白し。



#### 第三十一圖 黑先白死

黒初發第一着は手筋にして次に五着も亦面白き常用の手なり。

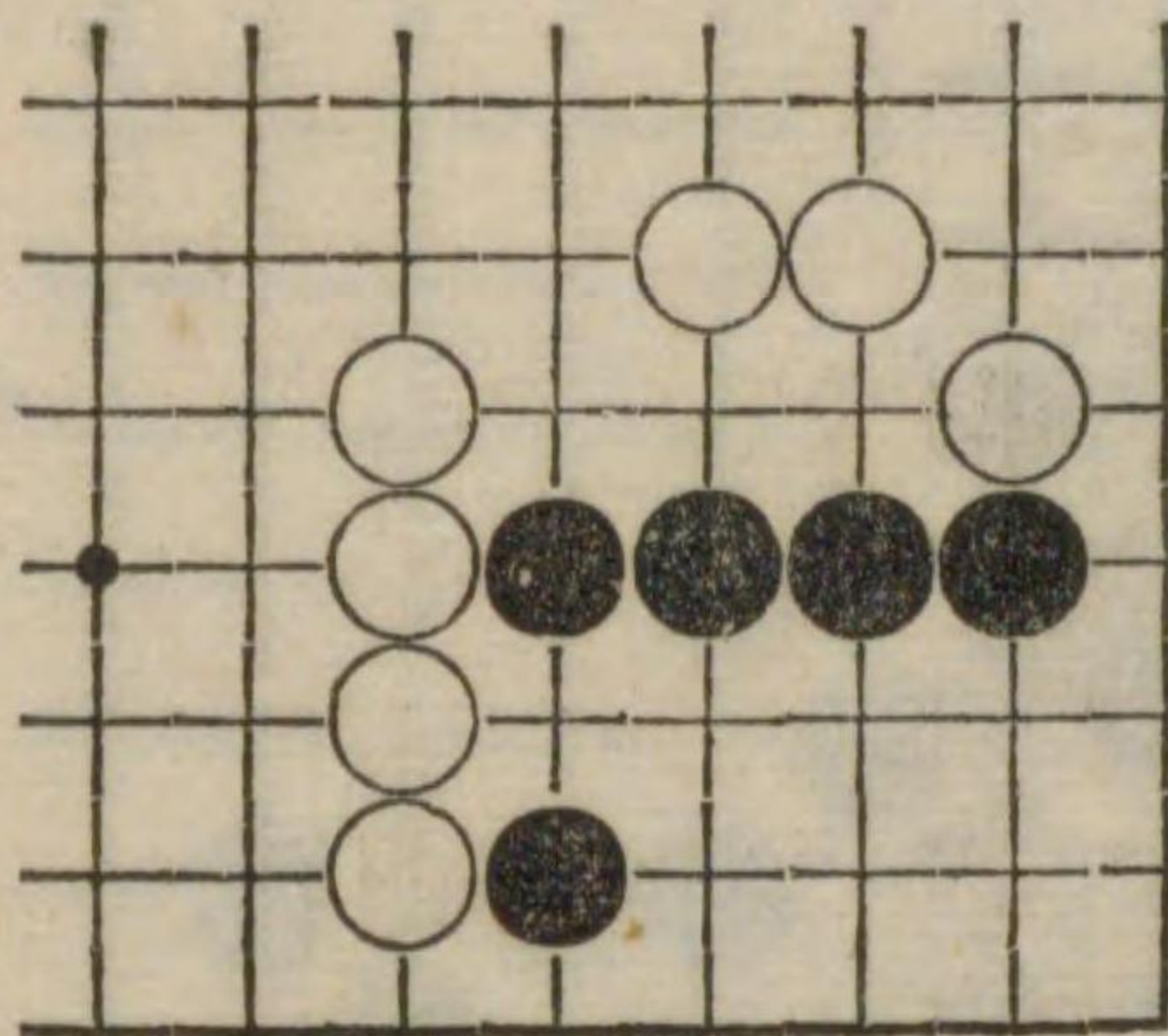




第三十三圖

白先黒死

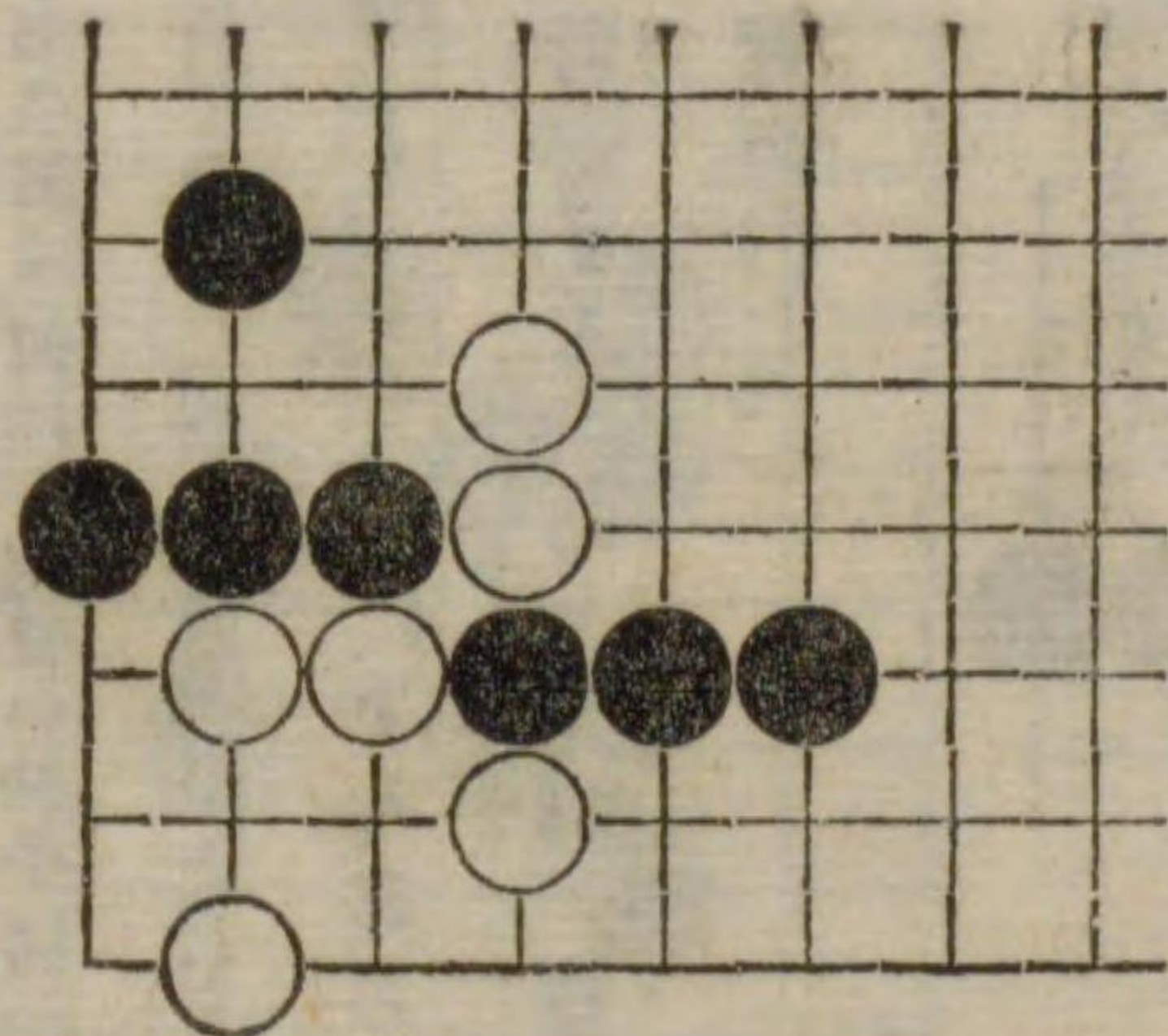
白の第一着は前述の如く手筋にして七の手も亦注目すべき價值あり。



第三十四圖

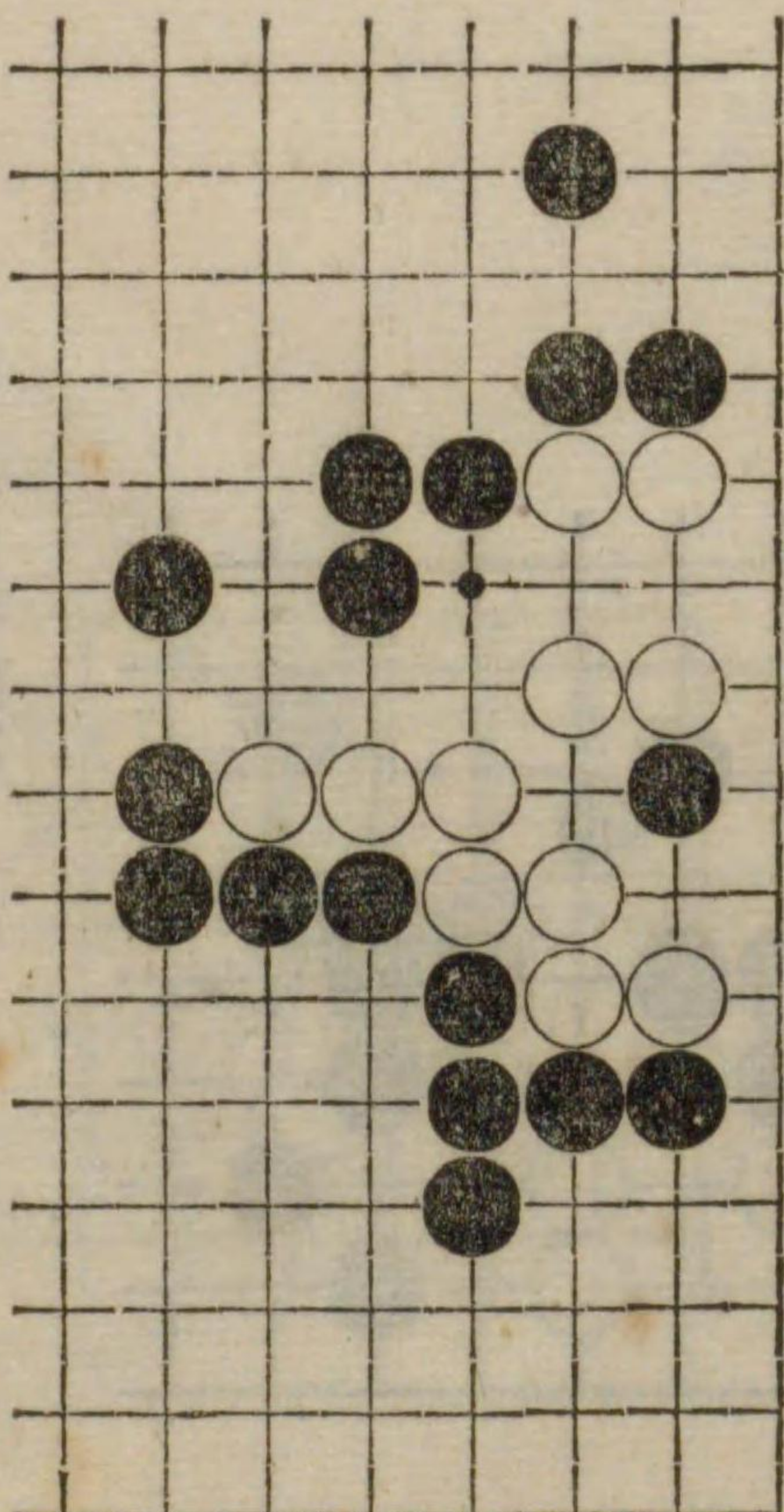
黒先白死

黒の初發及第三着は共に常用の手筋にして記憶すべきものとす。



第三十六圖 黒先白死

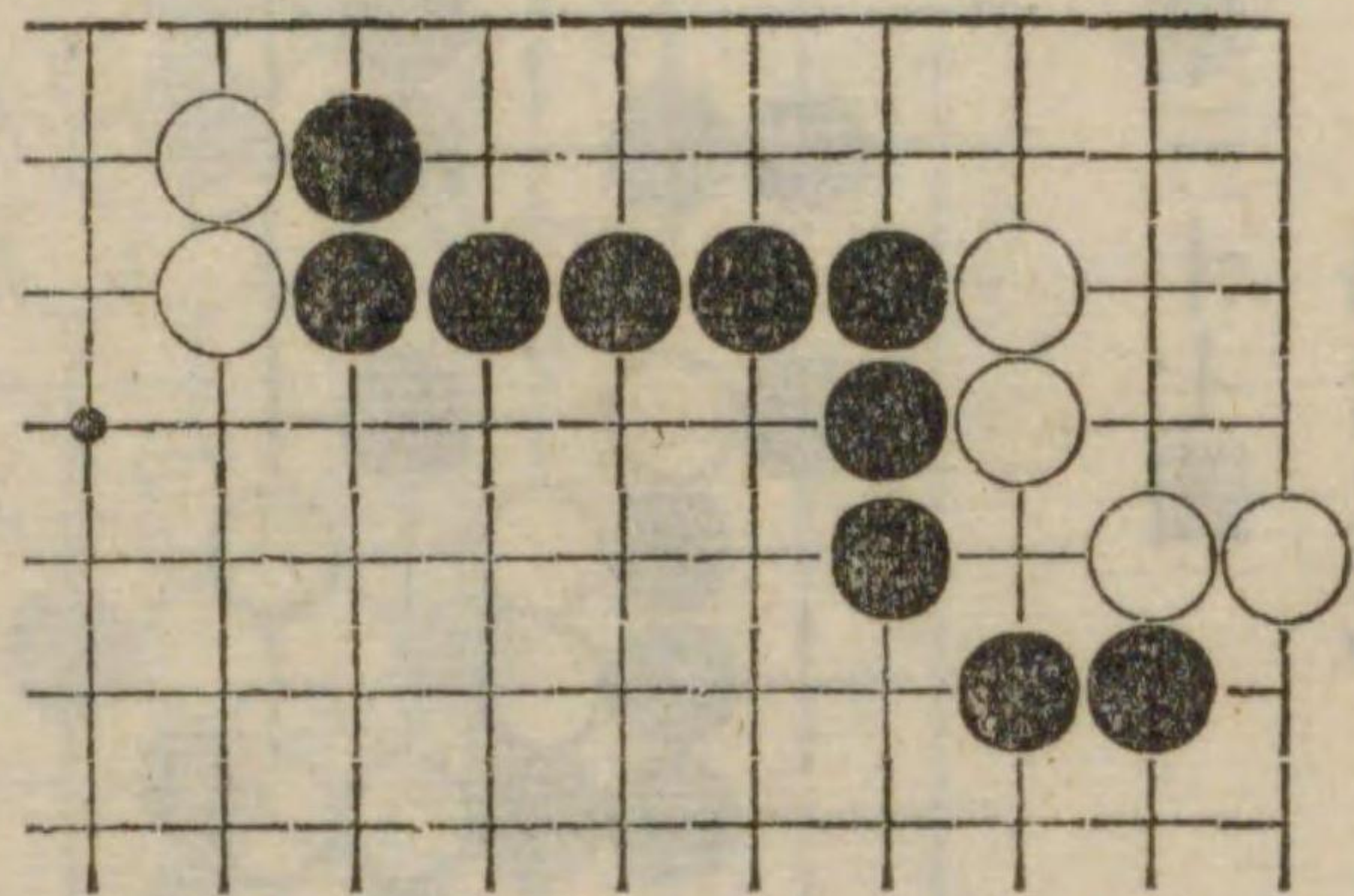
黒の手順の如何に依りて成否の分かるゝ型なり。



第三十五圖

黒先白死

黒の第一着は矢張面白き手にて此手を發見すれば他は従つて解けん。

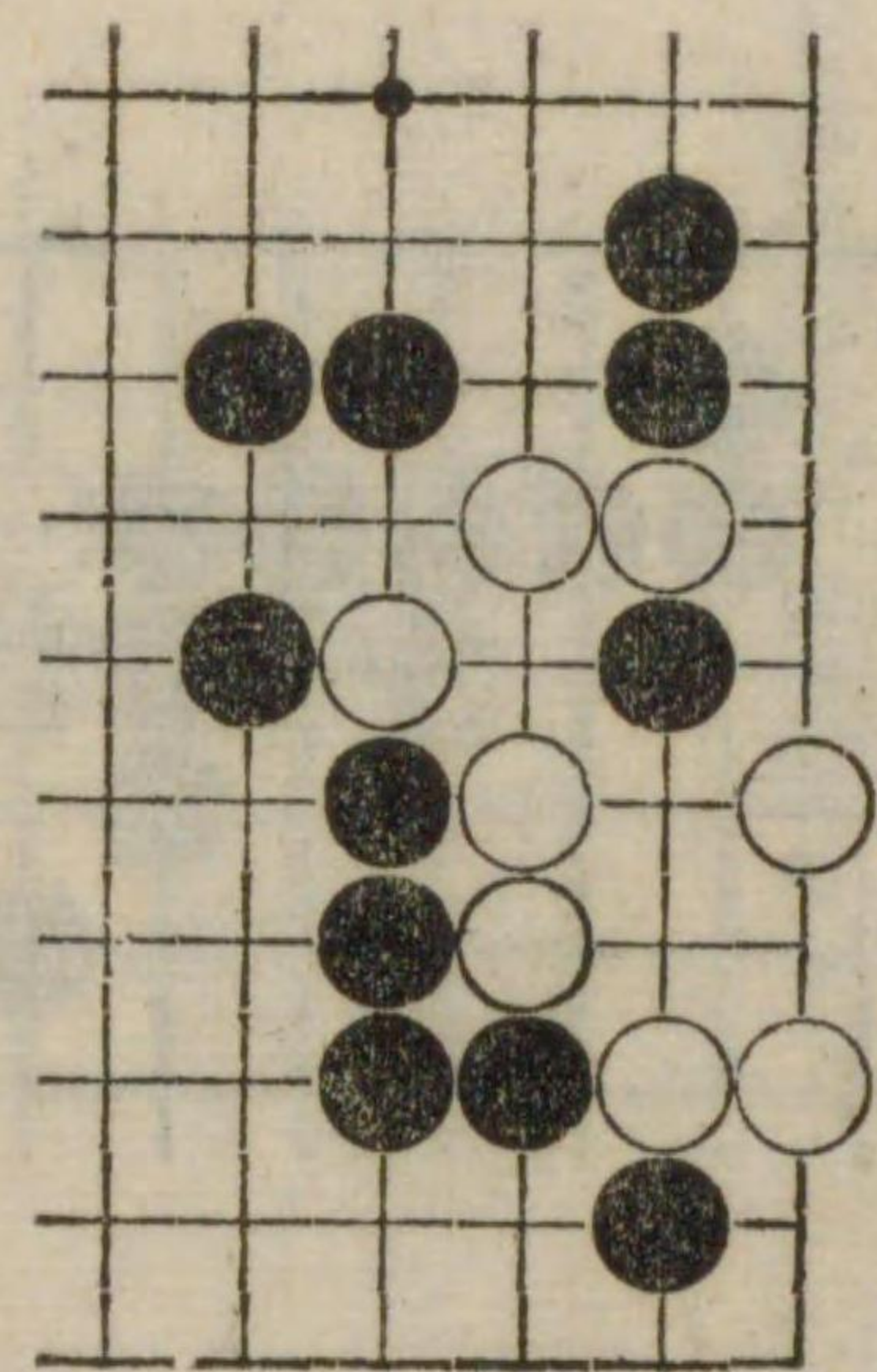




第三十八圖

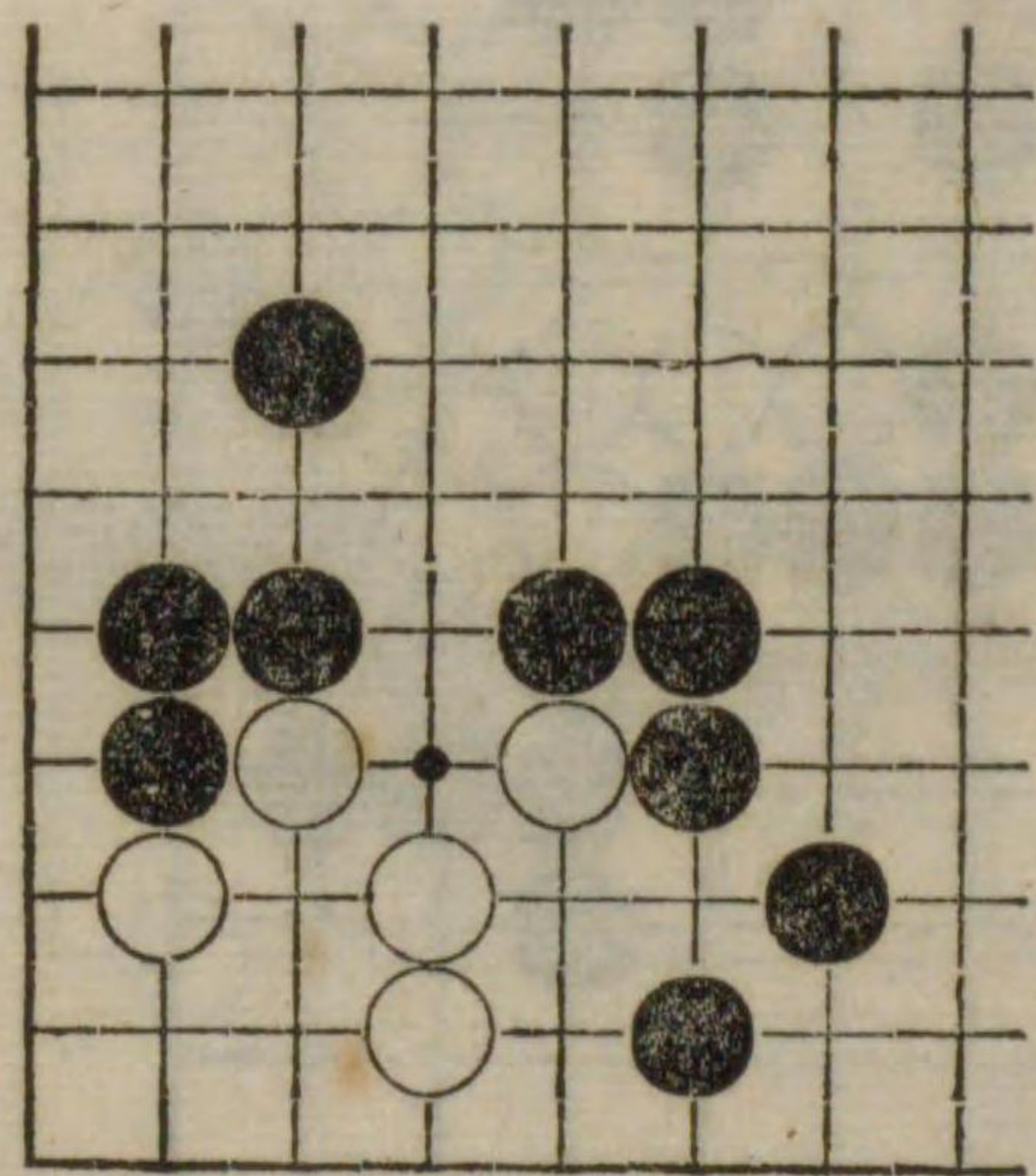
黒先白死

黒一の手は手筋にしてこれは往々出来ることある手筋なり。



第三十七圖

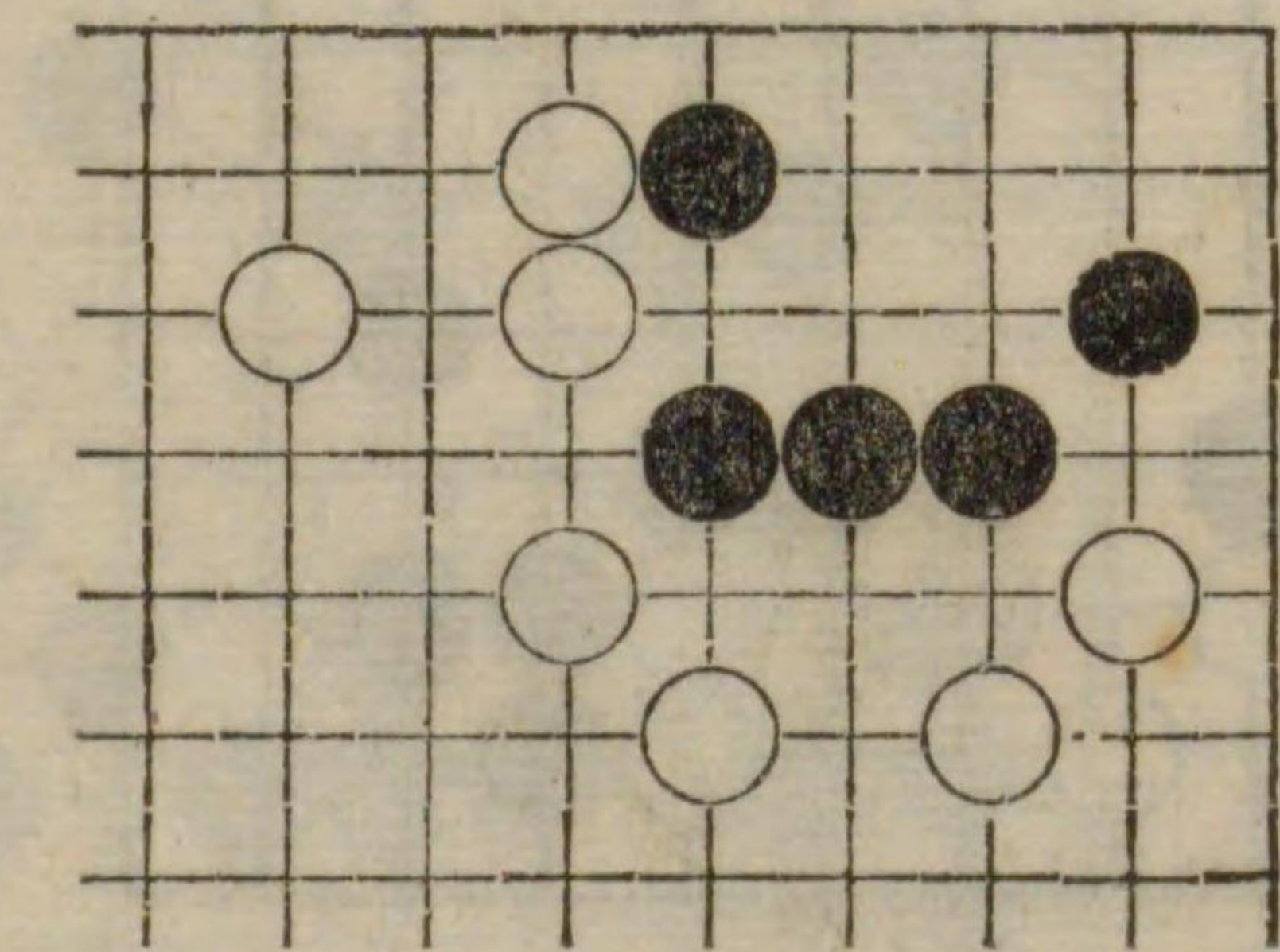
黒先白死



第四十圖

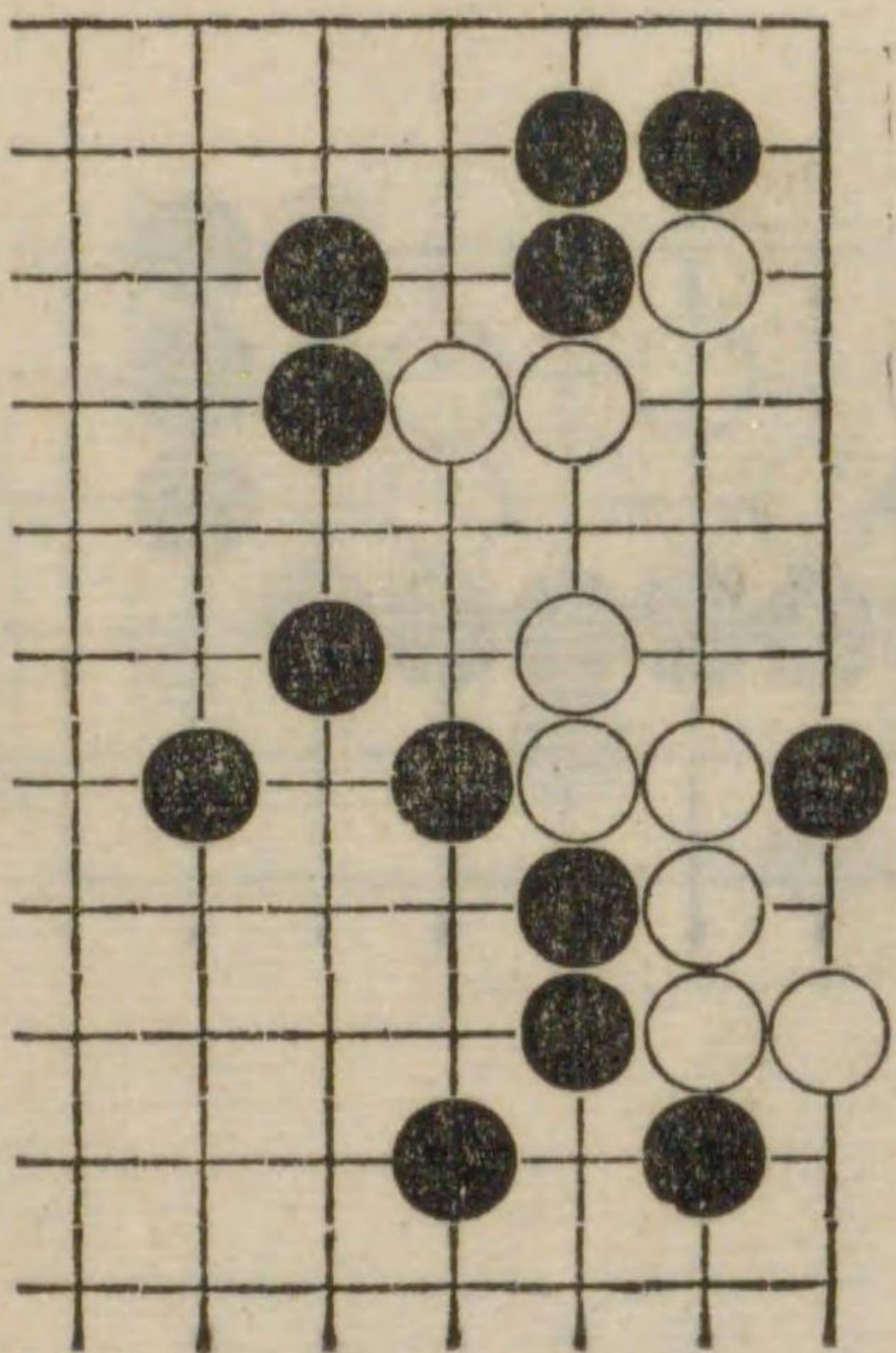
白先黒死

黒碁に出来たる形にて白一は手筋なり。

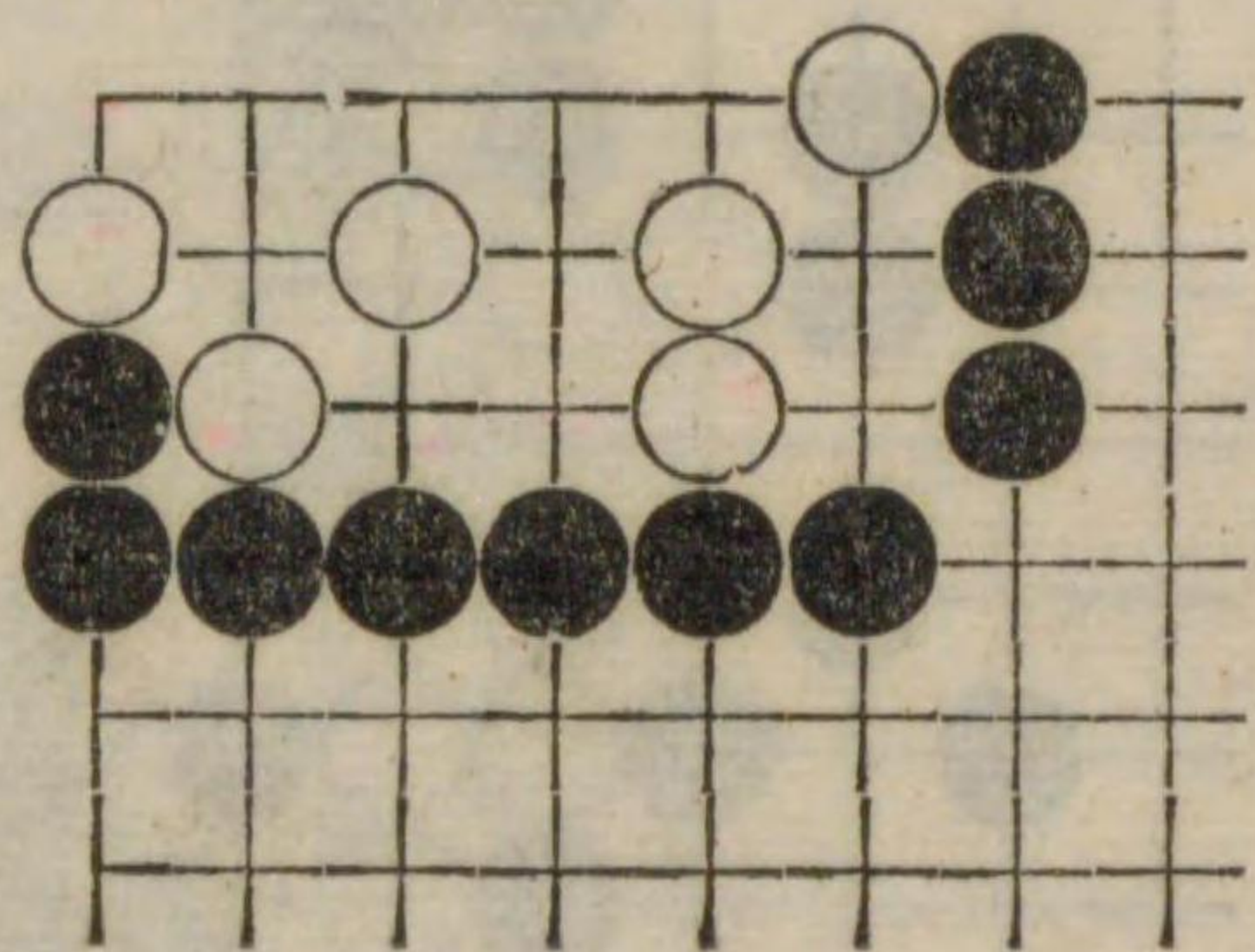


第三十九圖

黒先白死







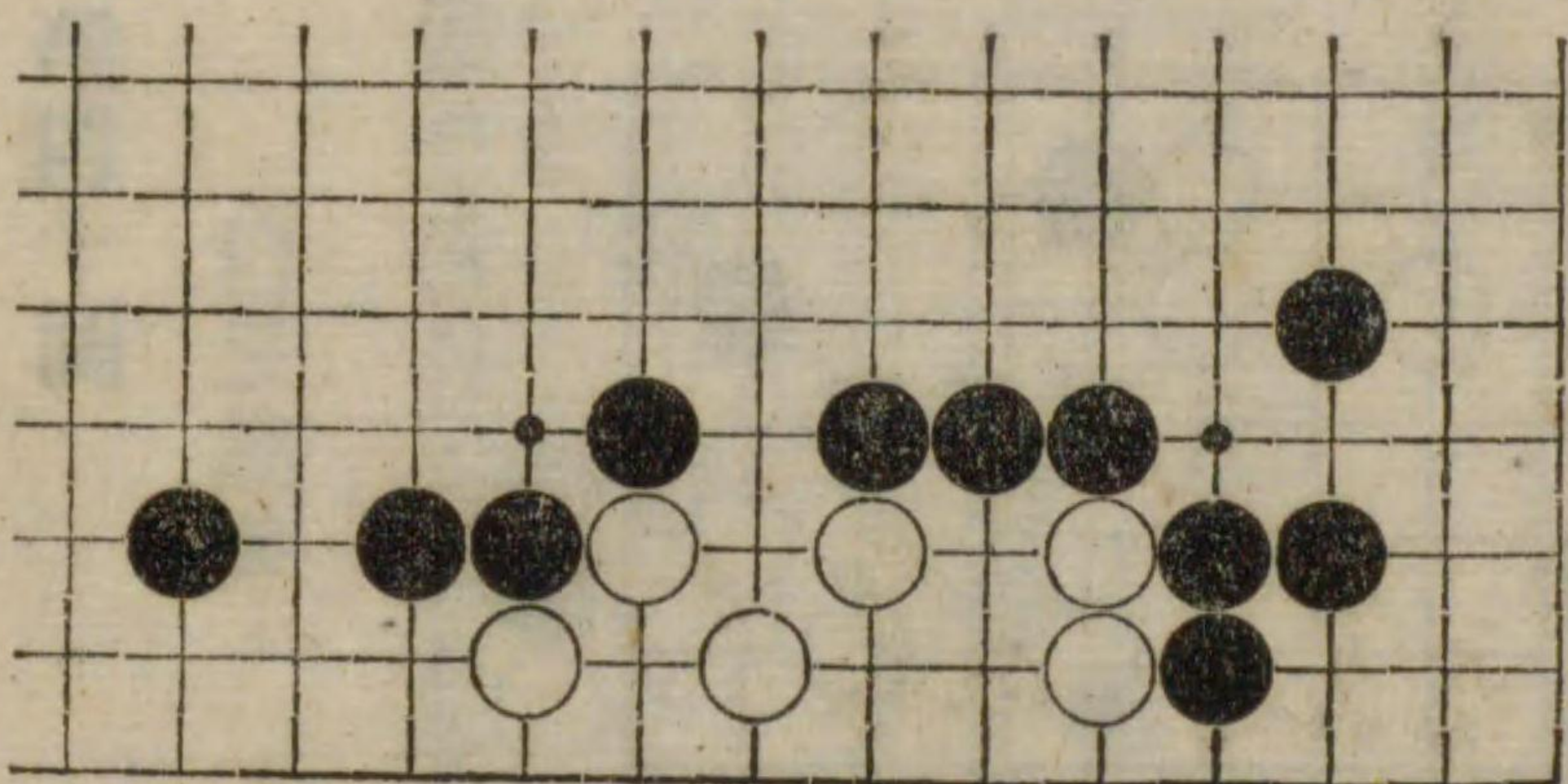
第四十一圖

黑先白死

矢張置碁に出来たる形にて黒五の手面白し。

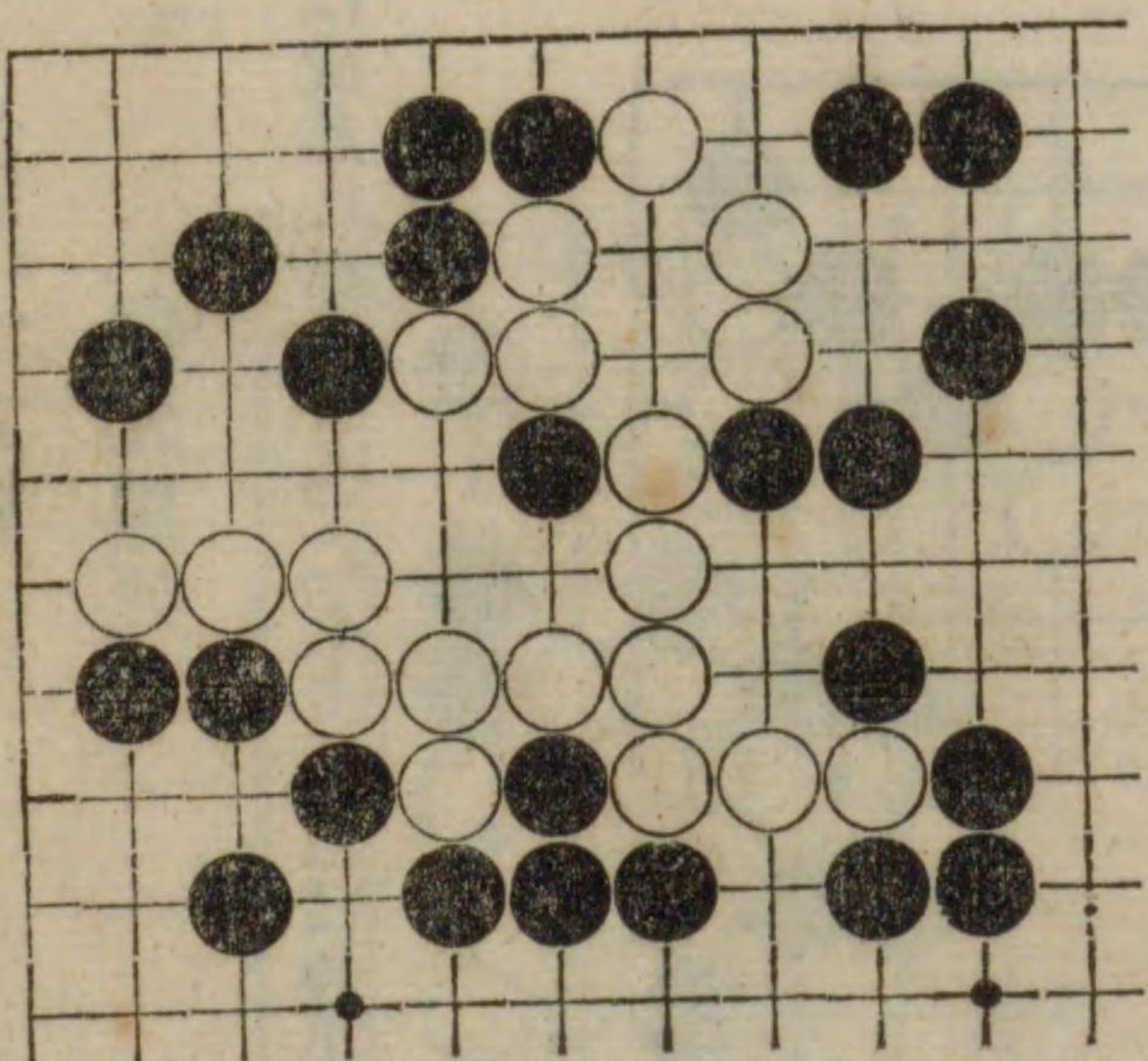
第四十二圖 黒先白死

黒一妙手なり。



第四十四圖 黒先白死

黒白の石数は多くして形勢は擴大しおるも極めて卑近に過ぎて問題とはならざれども初學の輩輕卒に看過するをうれひ揭示す。

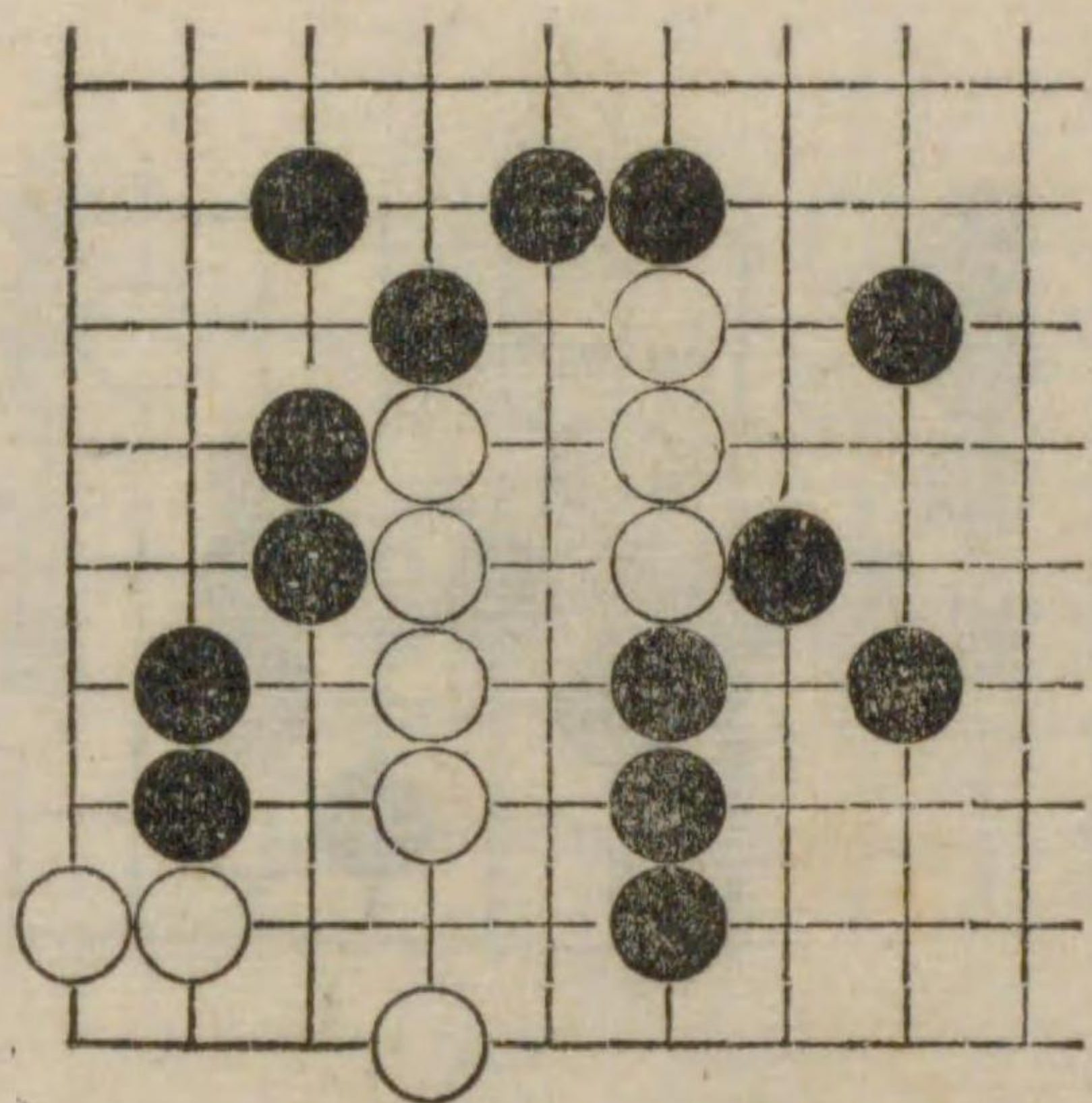


第四十三圖

白先黒死

下邊にある一子を白捨つる考にて思索するを要す。





第四十五圖

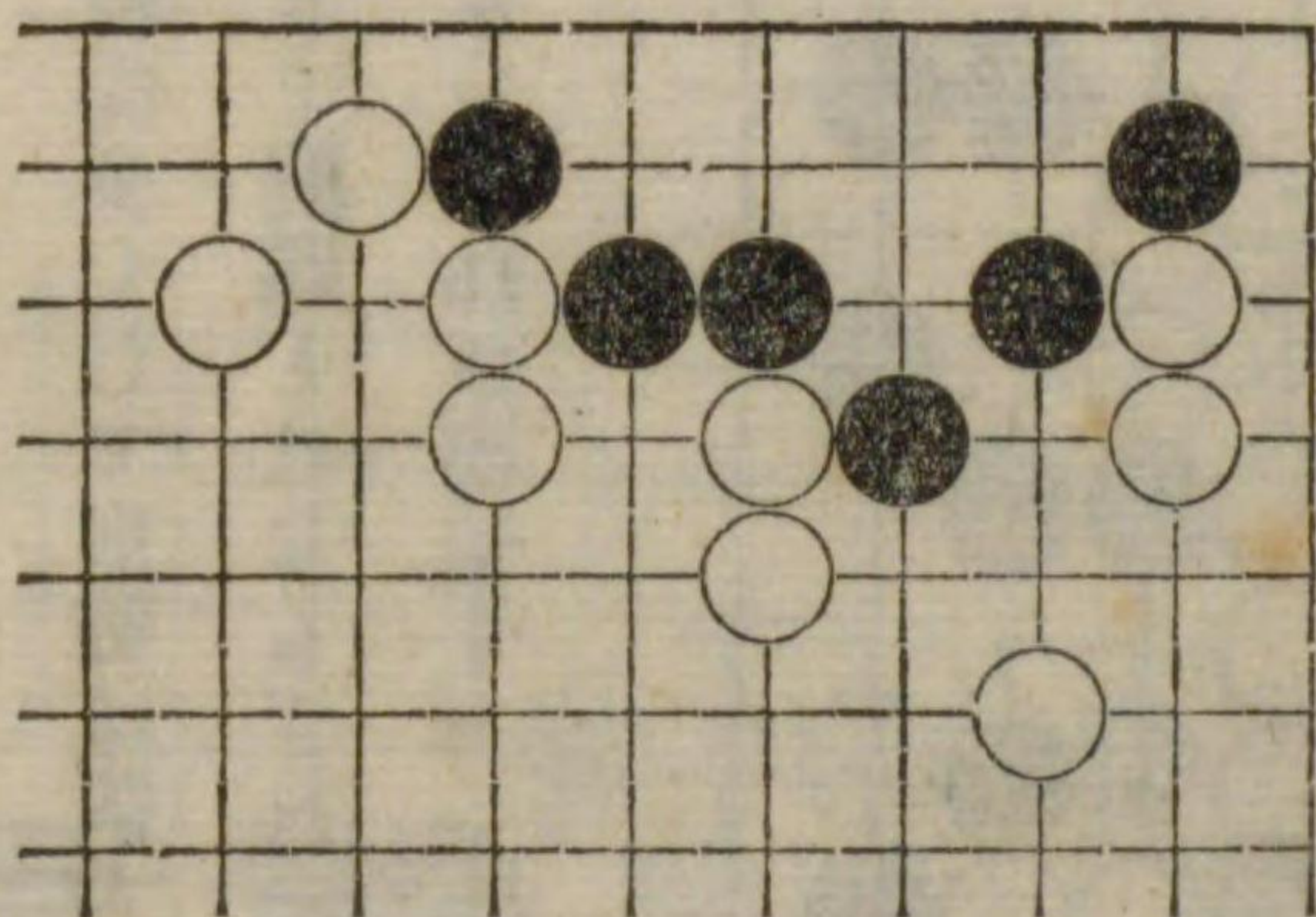
黑先白死

黒一は妙手なり。

第四十六圖

白先黒死

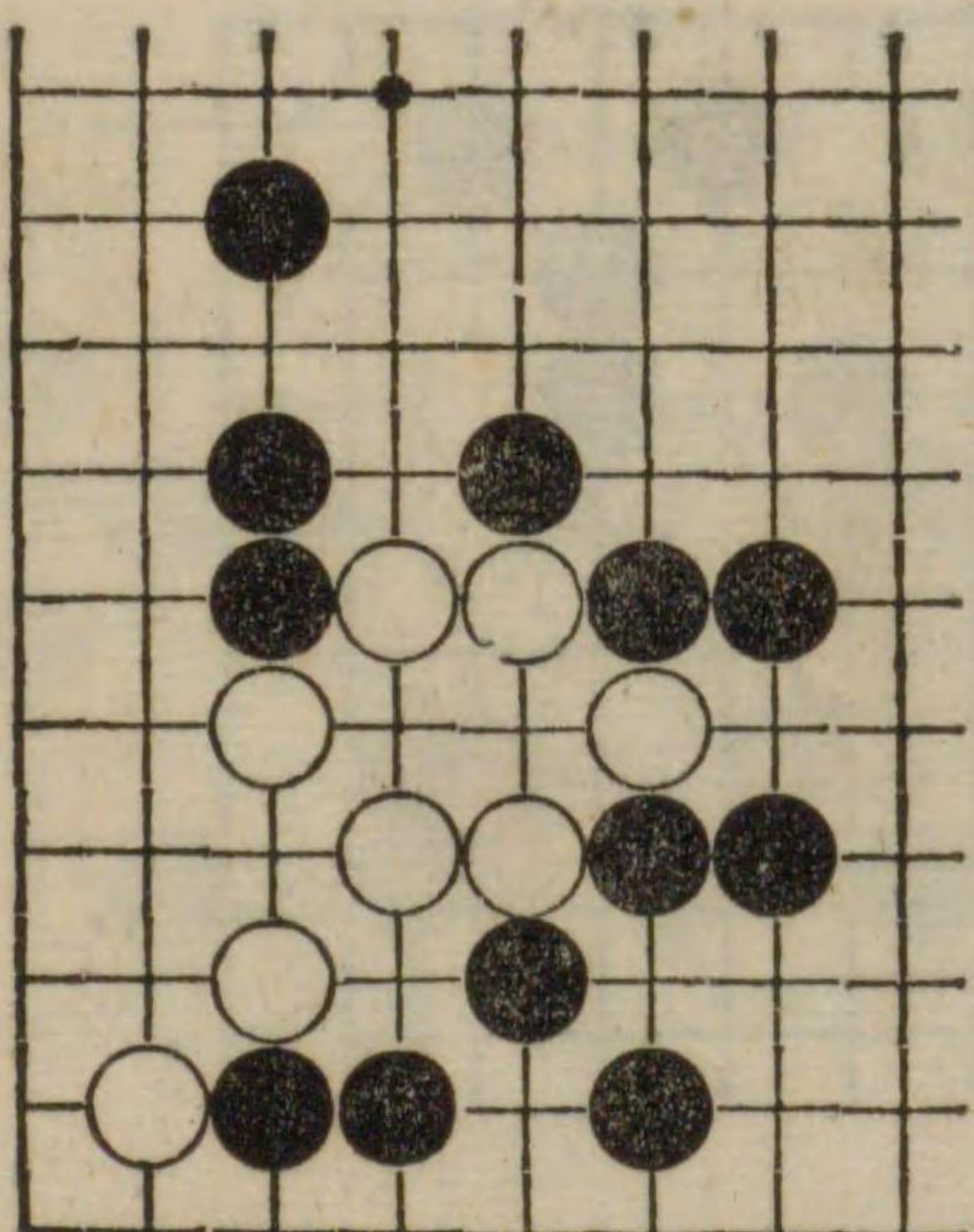
本形は置碁に出来る勢にして白三は妙手なり。



第四十八圖

黒先白死

此問題は點ナカテとは異なれども捨石に打ちて遂に白を死に致すなり。



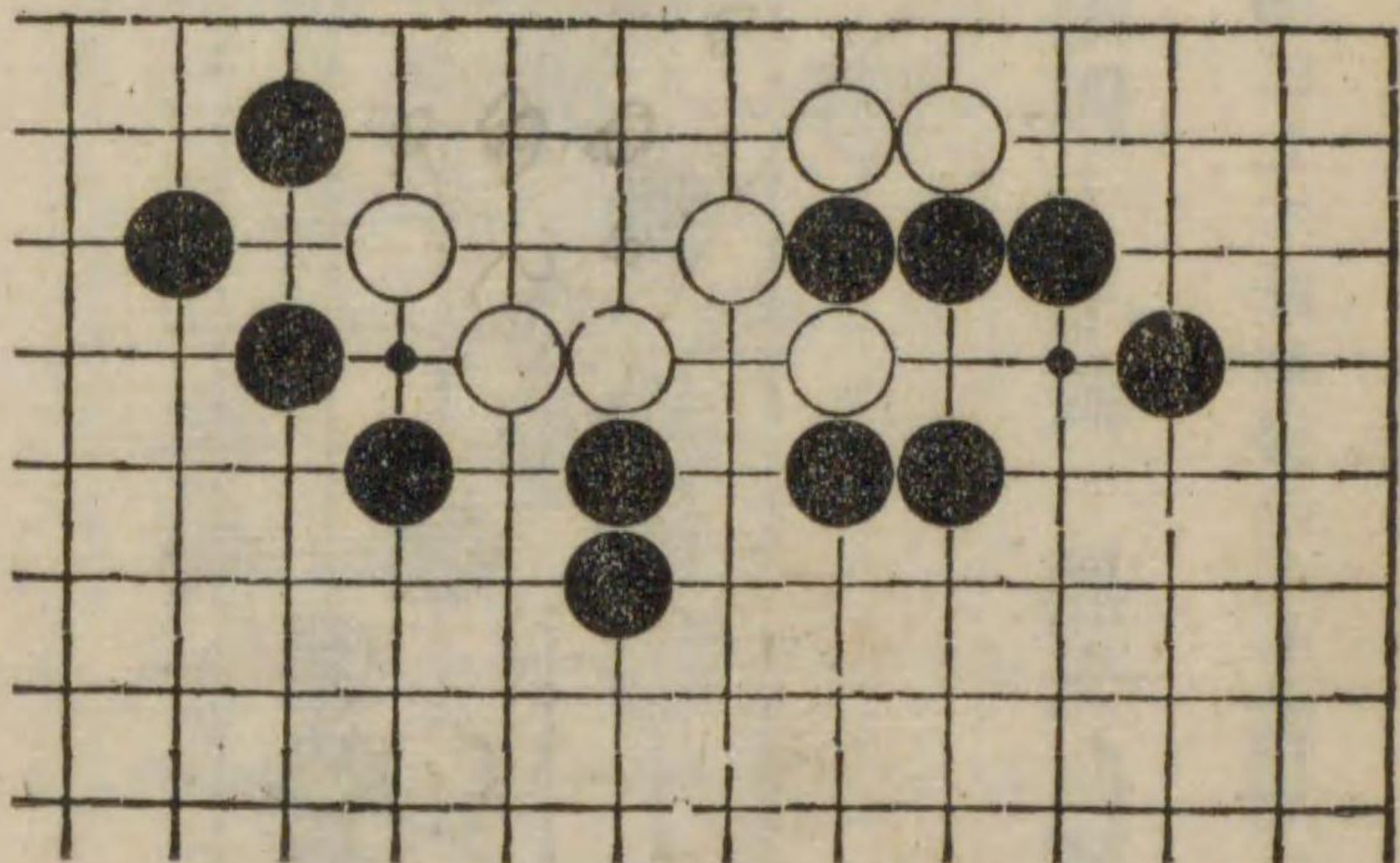
第四十七圖 黒先白死

黒一は手筋にして此初發の手を輕卒に下せば劫となるなり黒五の手も亦面白し。



第五十圖 白先黒死

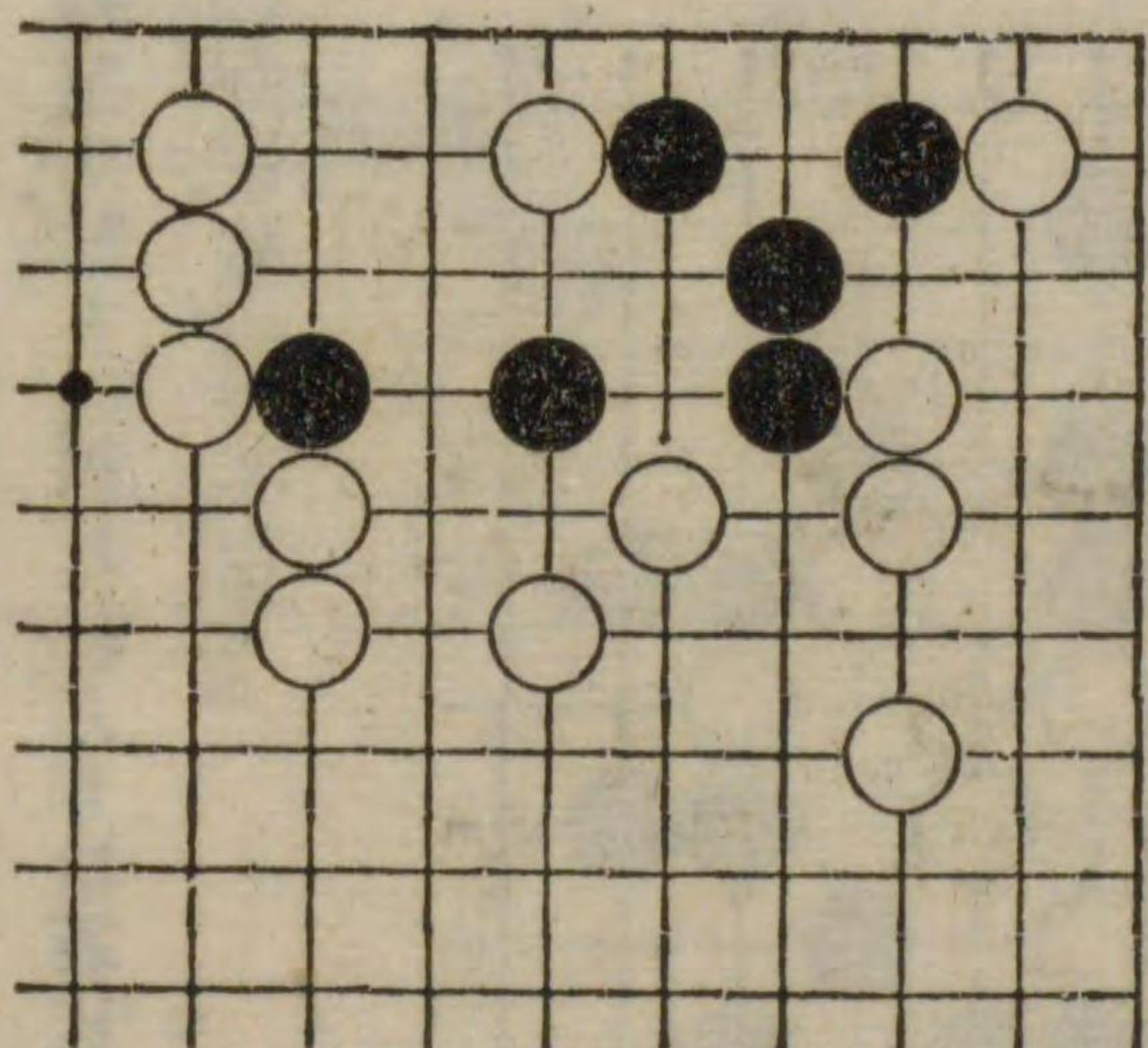
白初發の第一着良手なり。



第四十九圖

黒先白死

跡切りとなる結果にて白を殺す手なり。

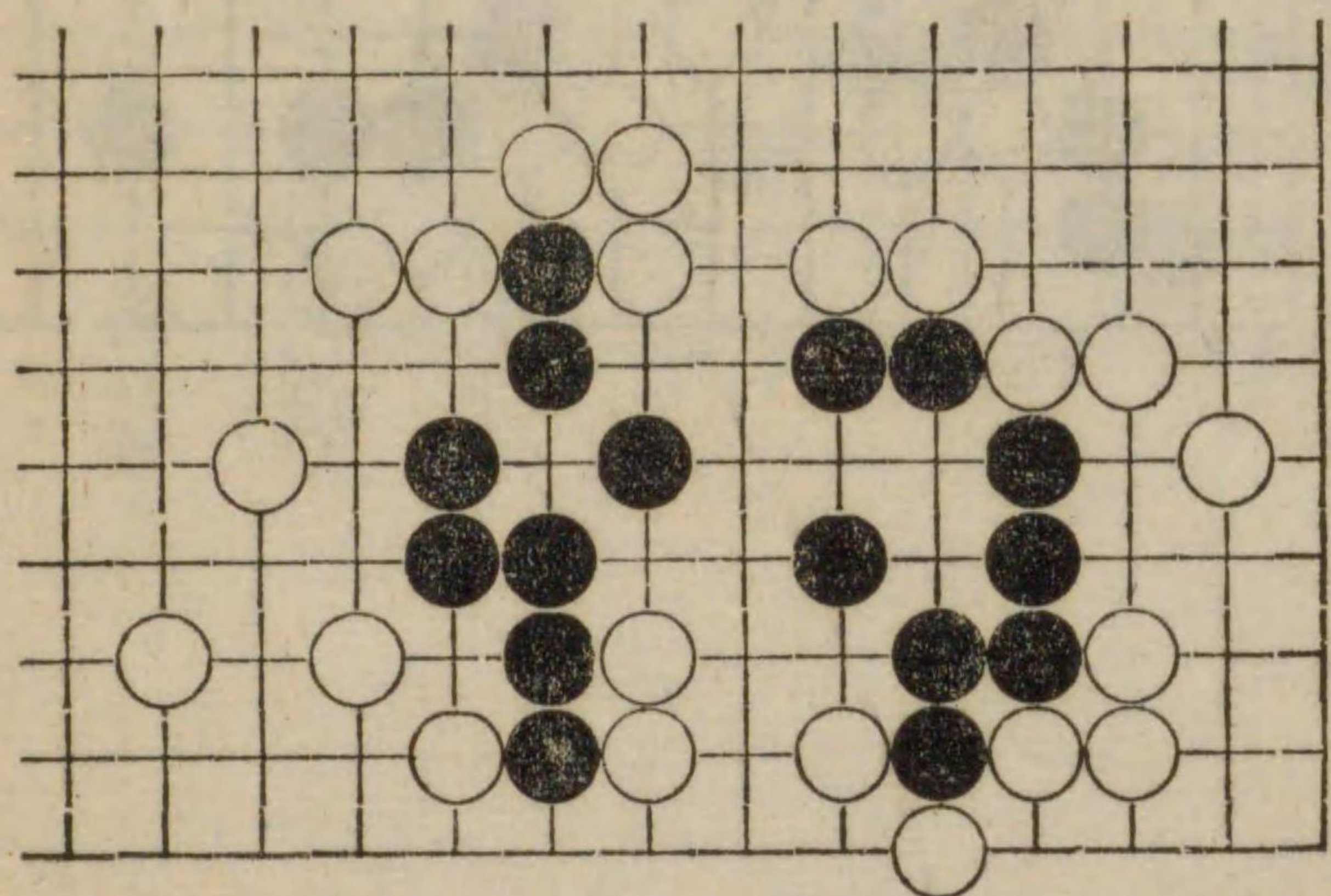


第五十一圖

白先

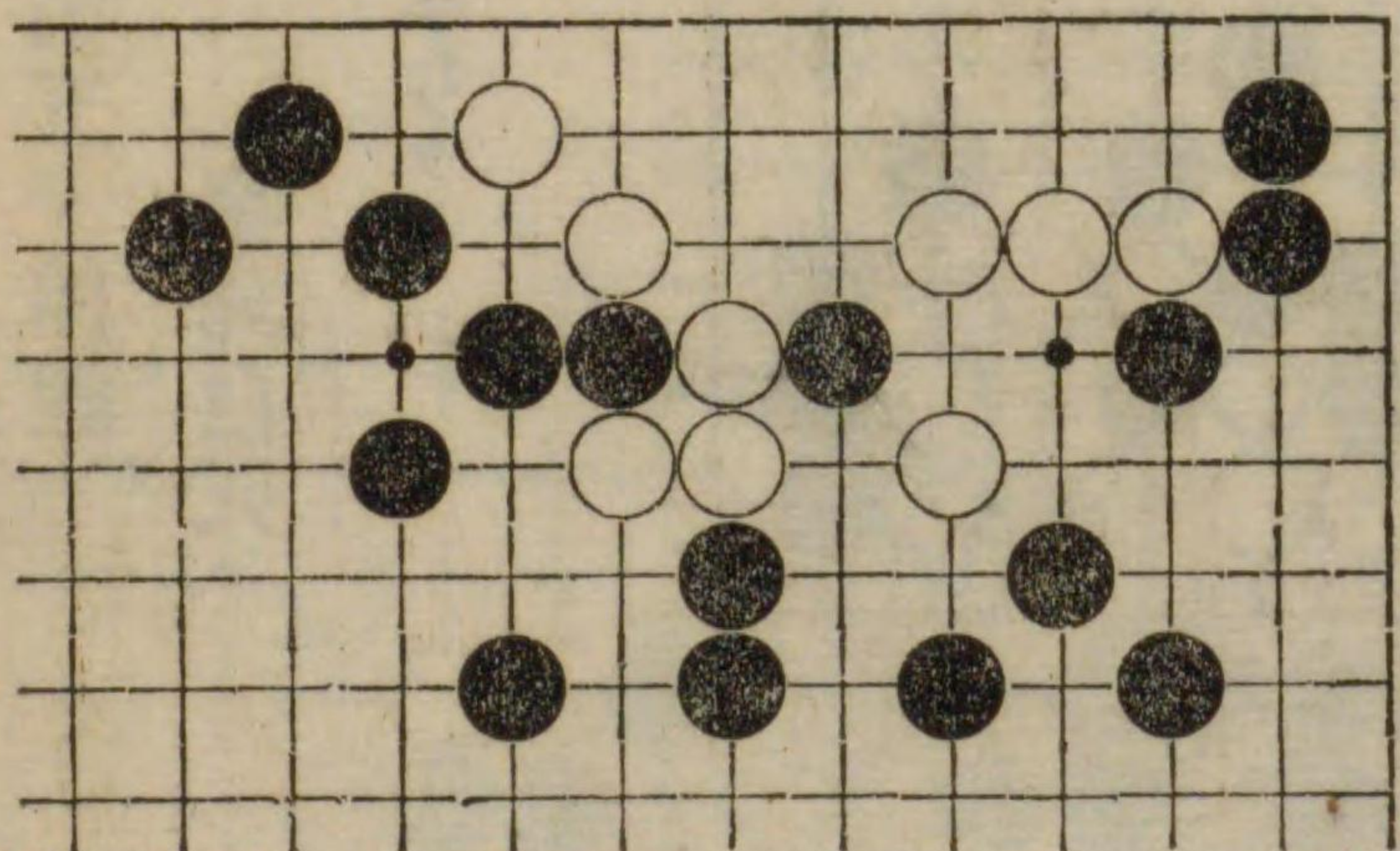
黒死

生之部の第二十圖と同様の型にして逆に問題とせしまでにて極めて簡單なり。

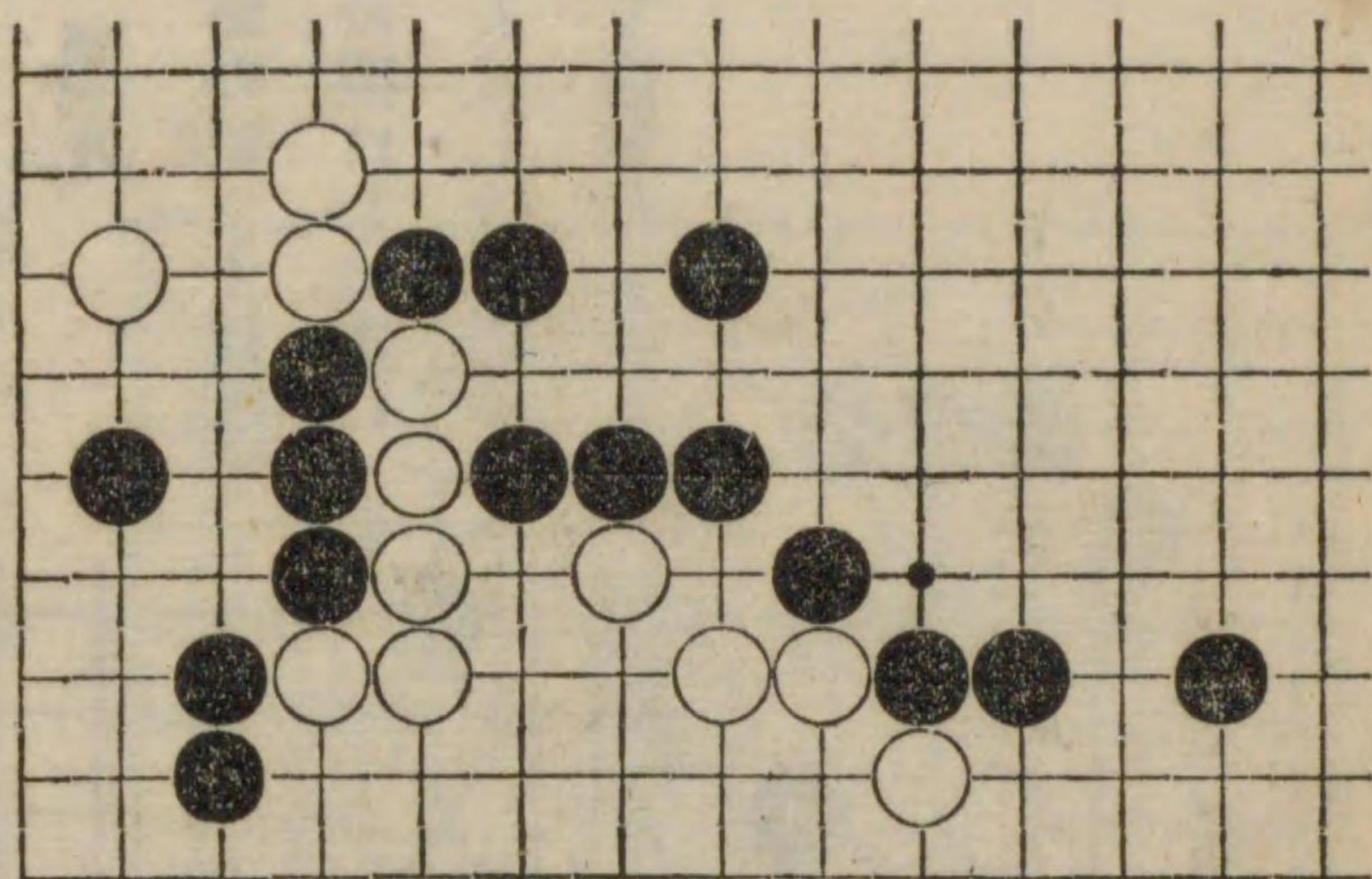


第五十二圖 黒先白死

黒一は好手筋にして以下手順を誤らざれば目的を達するを得べし。







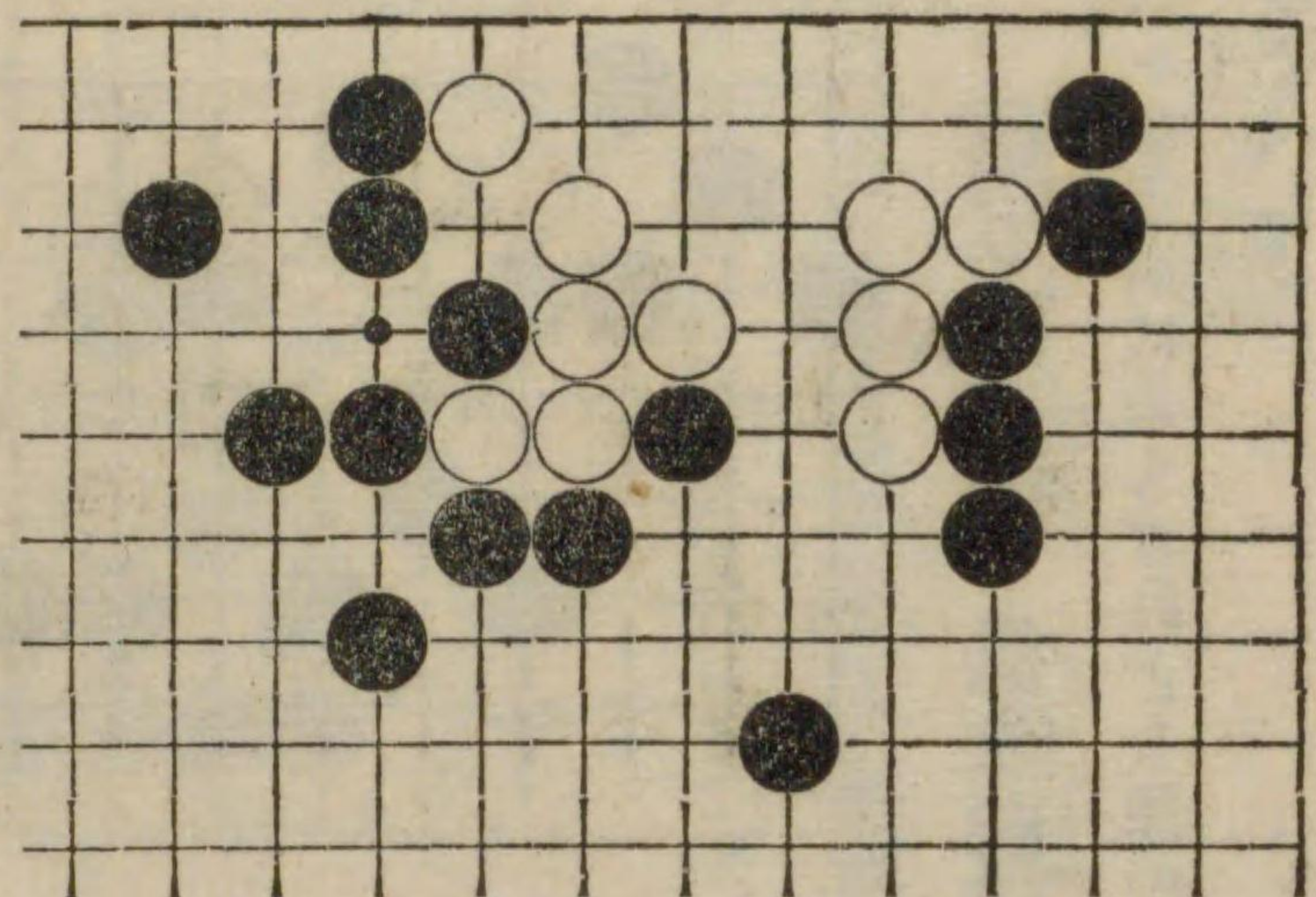
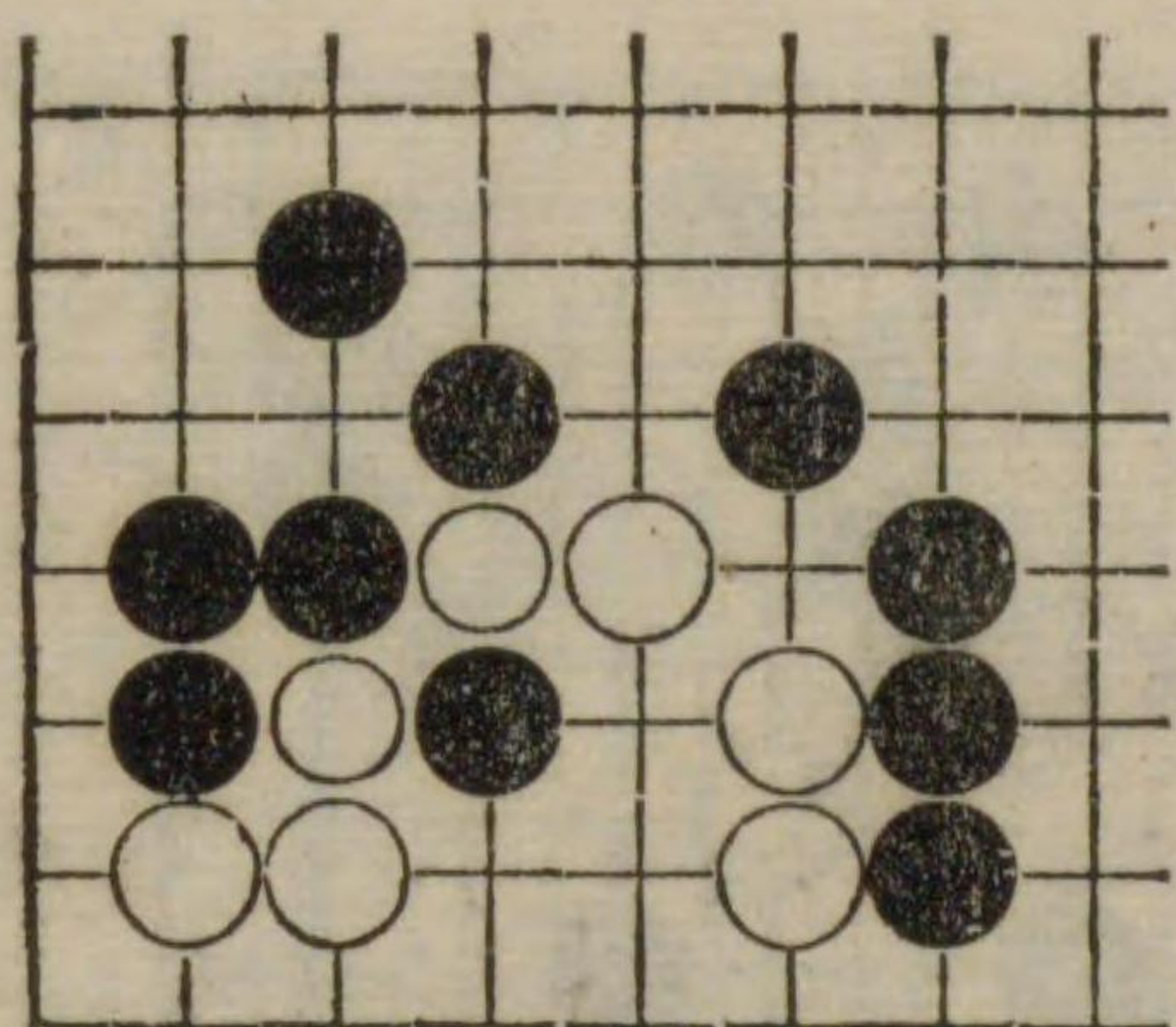
第五十三圖 黑先白死

黒一の手筋なるは言ふまでもなくして第五着は殊に良し。

第五十四圖

黒先白死

黒三は妙手なり。



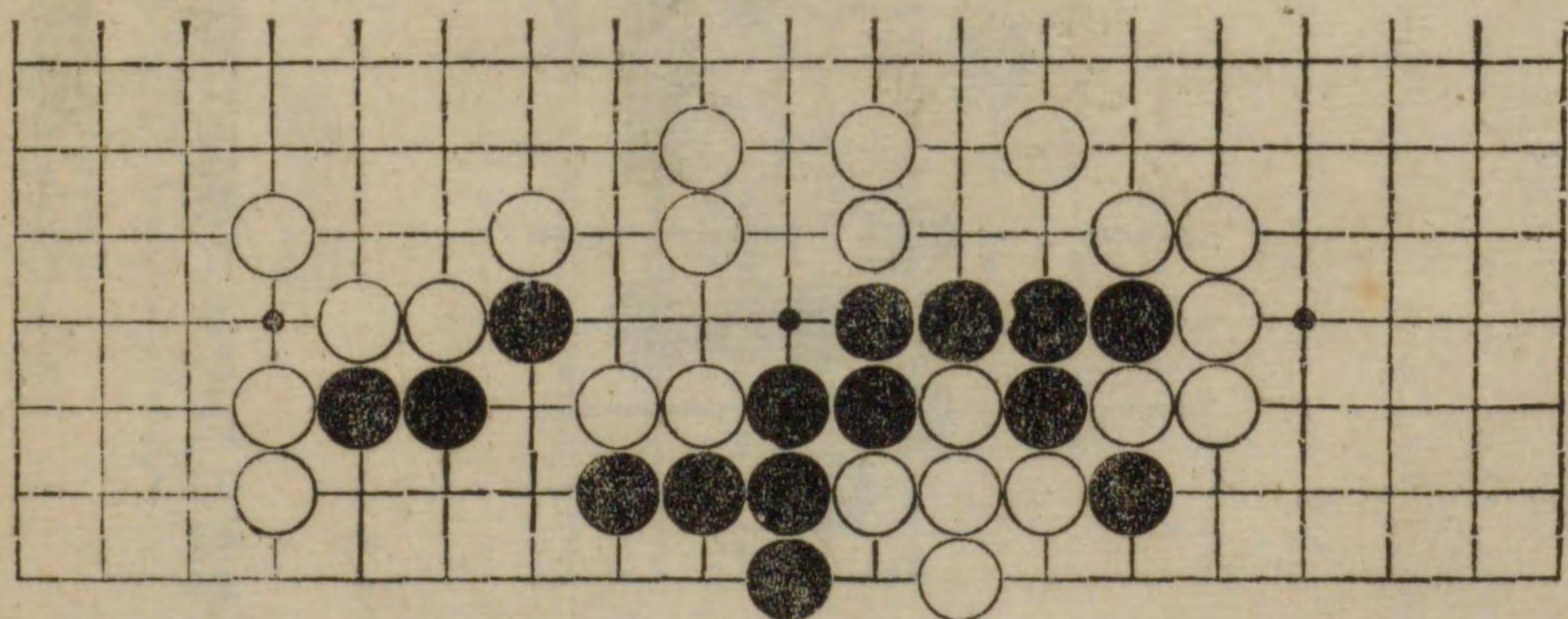
第五十五圖 黒先白死

黒一は例の手筋にして以下手を運び第十一着良手なり。

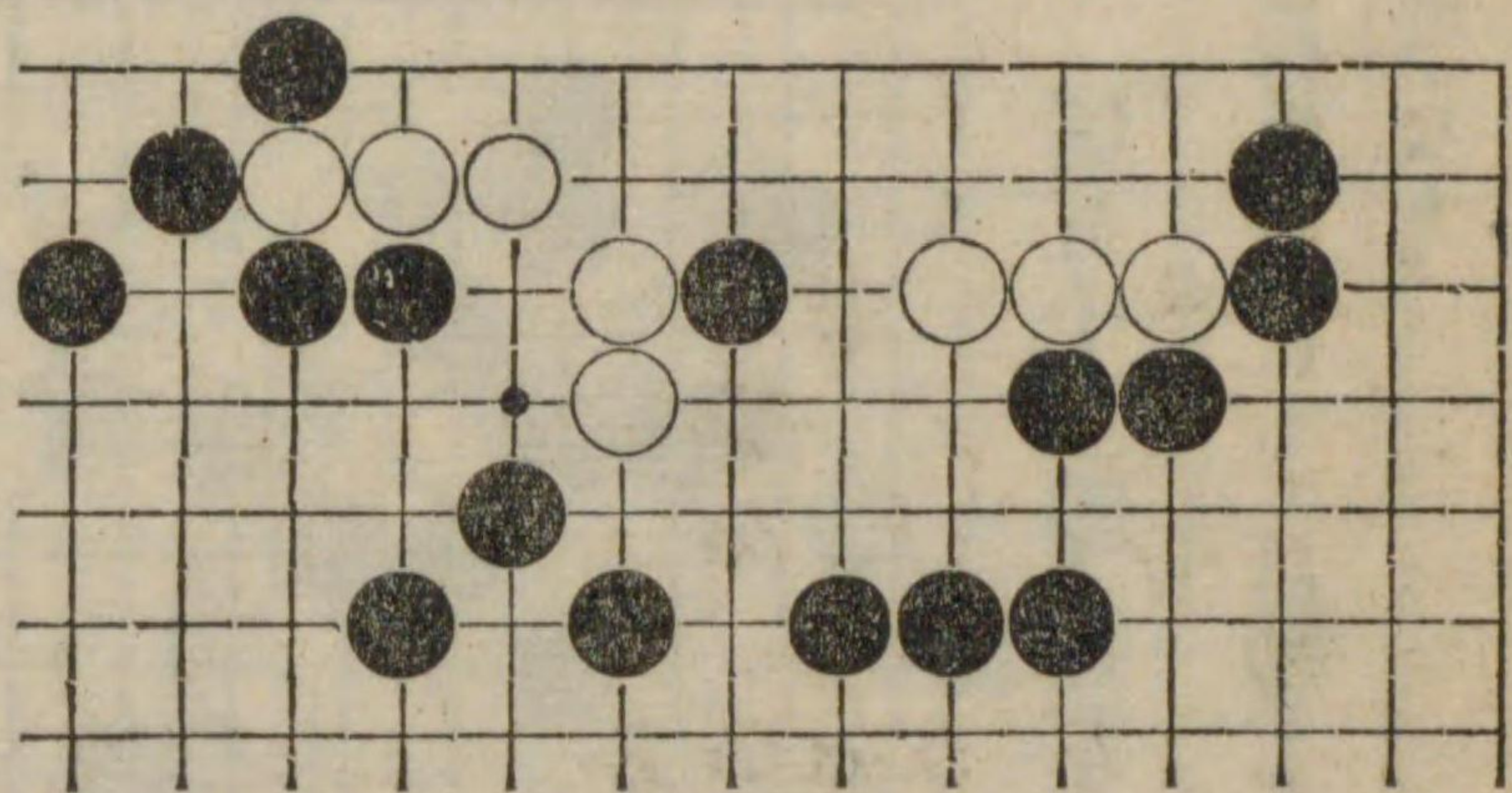
第五十六圖

白先黒死

黒初發の第一着妙手以下黒如何に手段するも活路なし





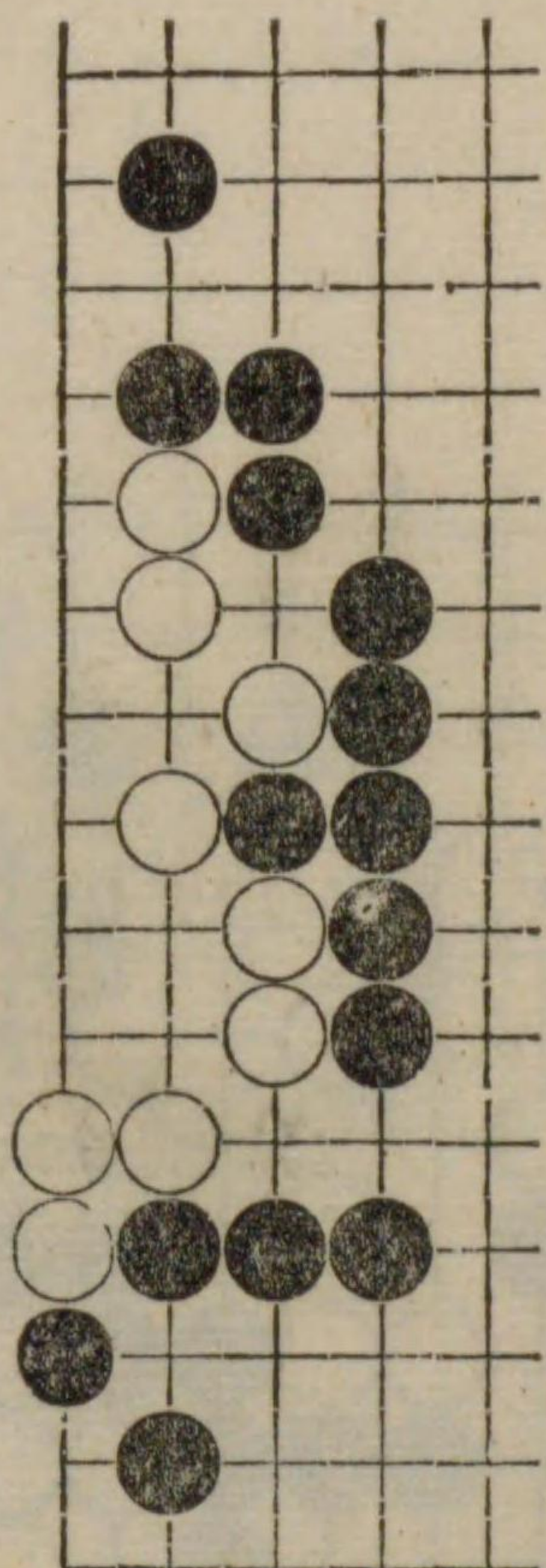


第五十七圖 黑先白死

格別六ヶ敷手筋にあらざれども黒の第三着注意すべし。

第五十八圖 黒先白死

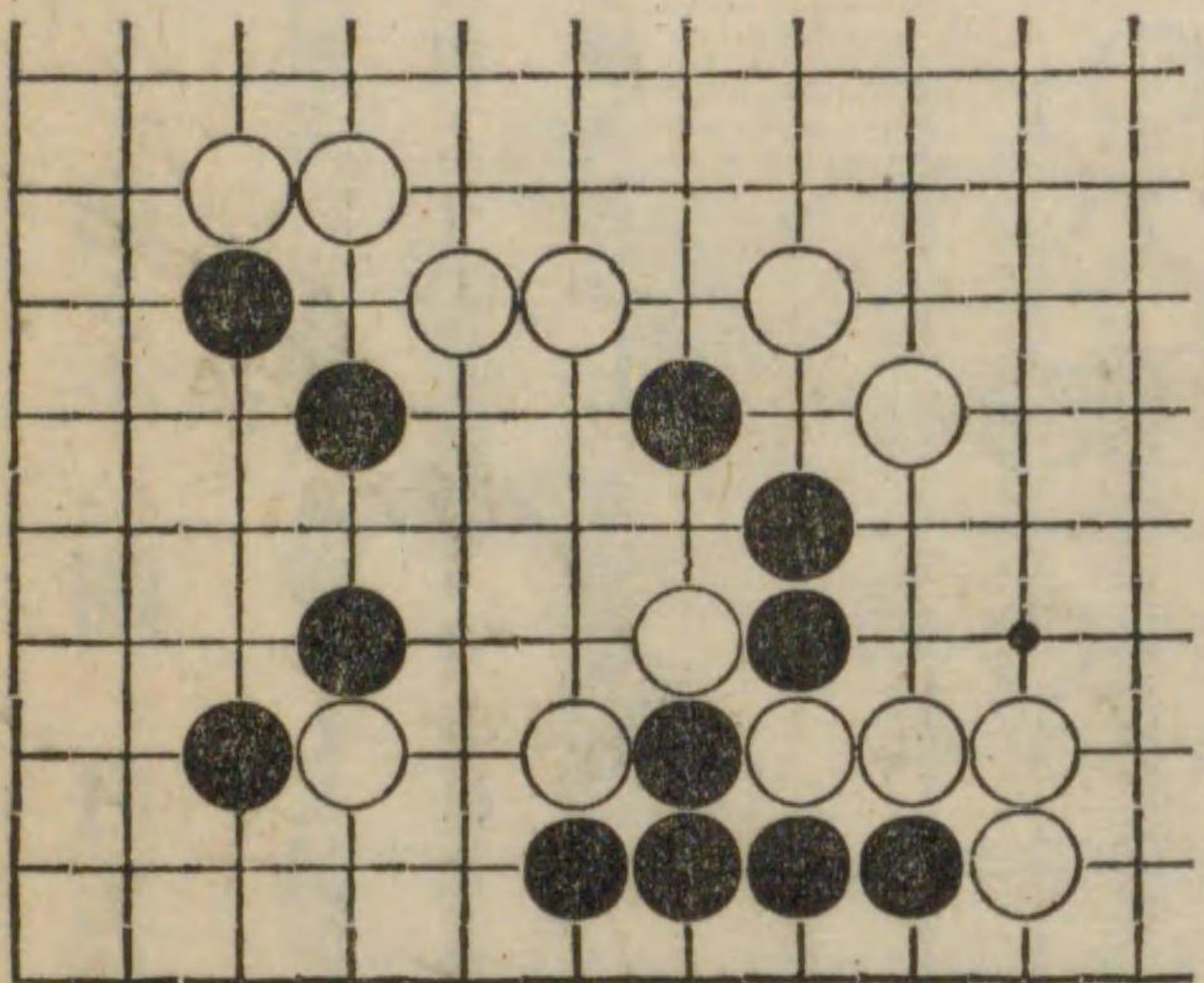
観易き型なれども置碁の實戦に出來たるを以て初學のために掲出す。



劫之部

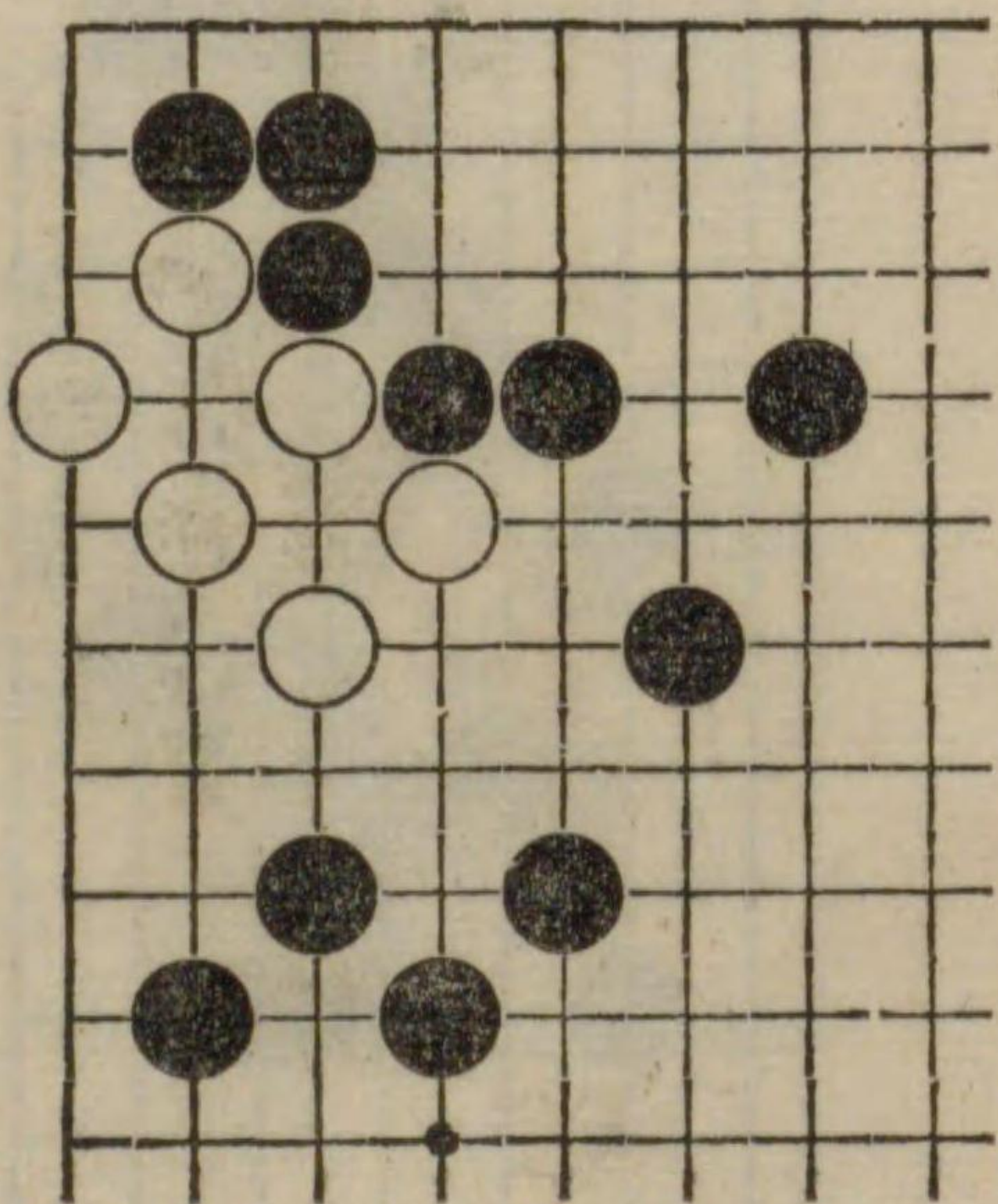
第五十九圖 白先劫

白一及三は手筋なり劫となすに兩様の手段あれども有利に就くを宜しとす。



第六十圖 黒先劫

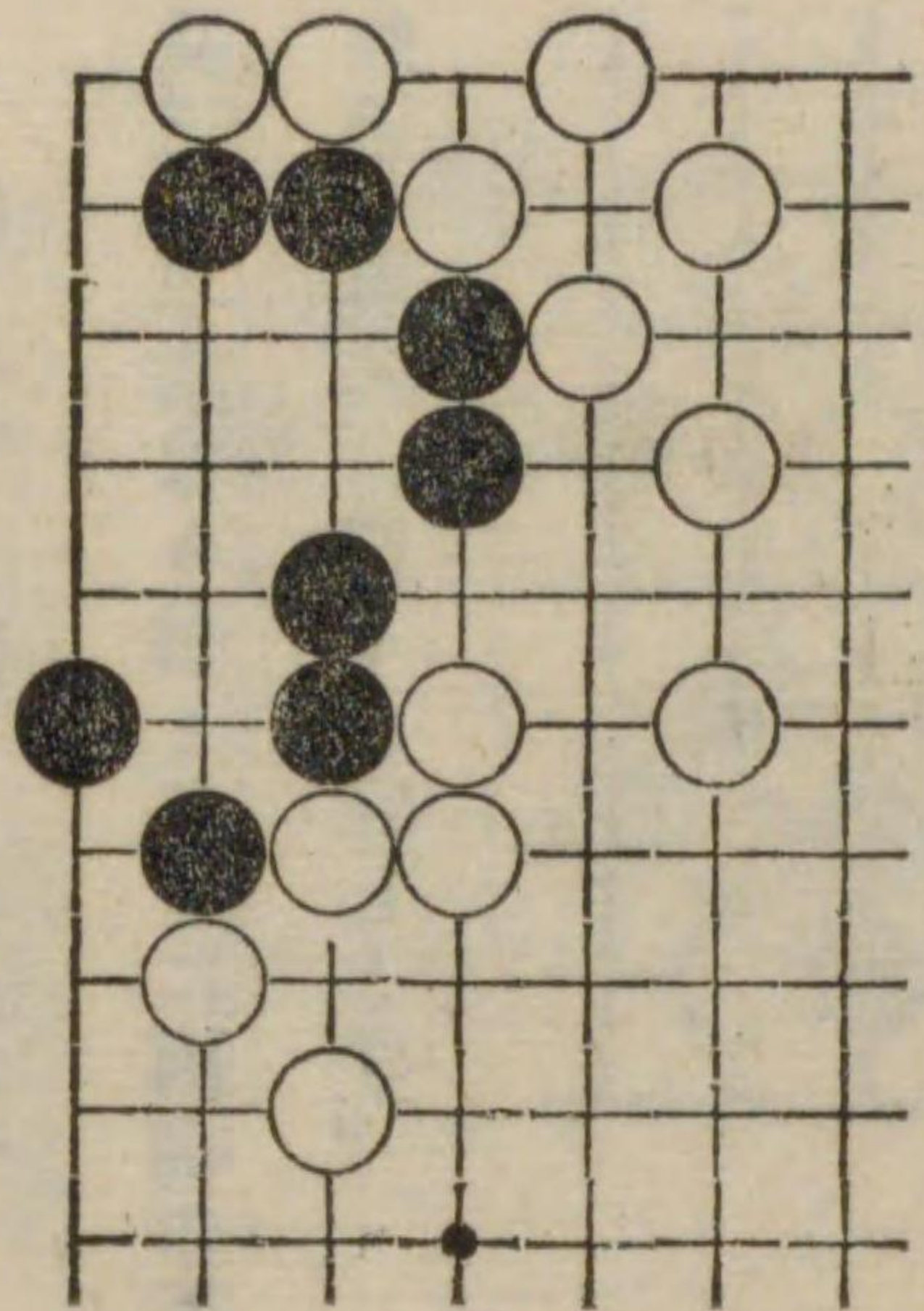
此の形勢にて黒先にて此白を取らんとすれば劫となる黒初發の着を手筋とす。





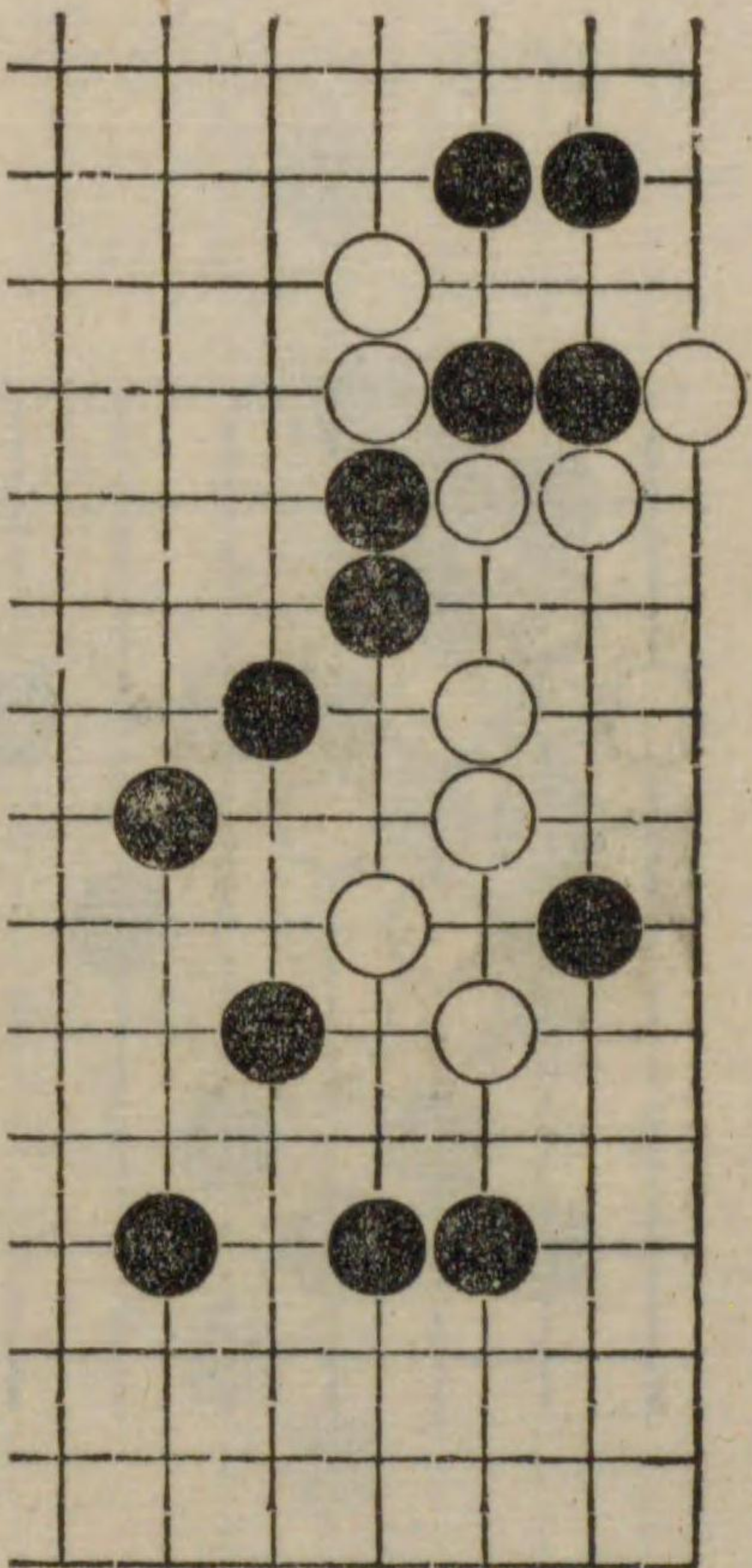
第六十一圖 白先劫

實際置碁に出来たる勢にして黒が隅の置石に白より一間高懸りせられたるに數着の手抜きをなしたる型なり。



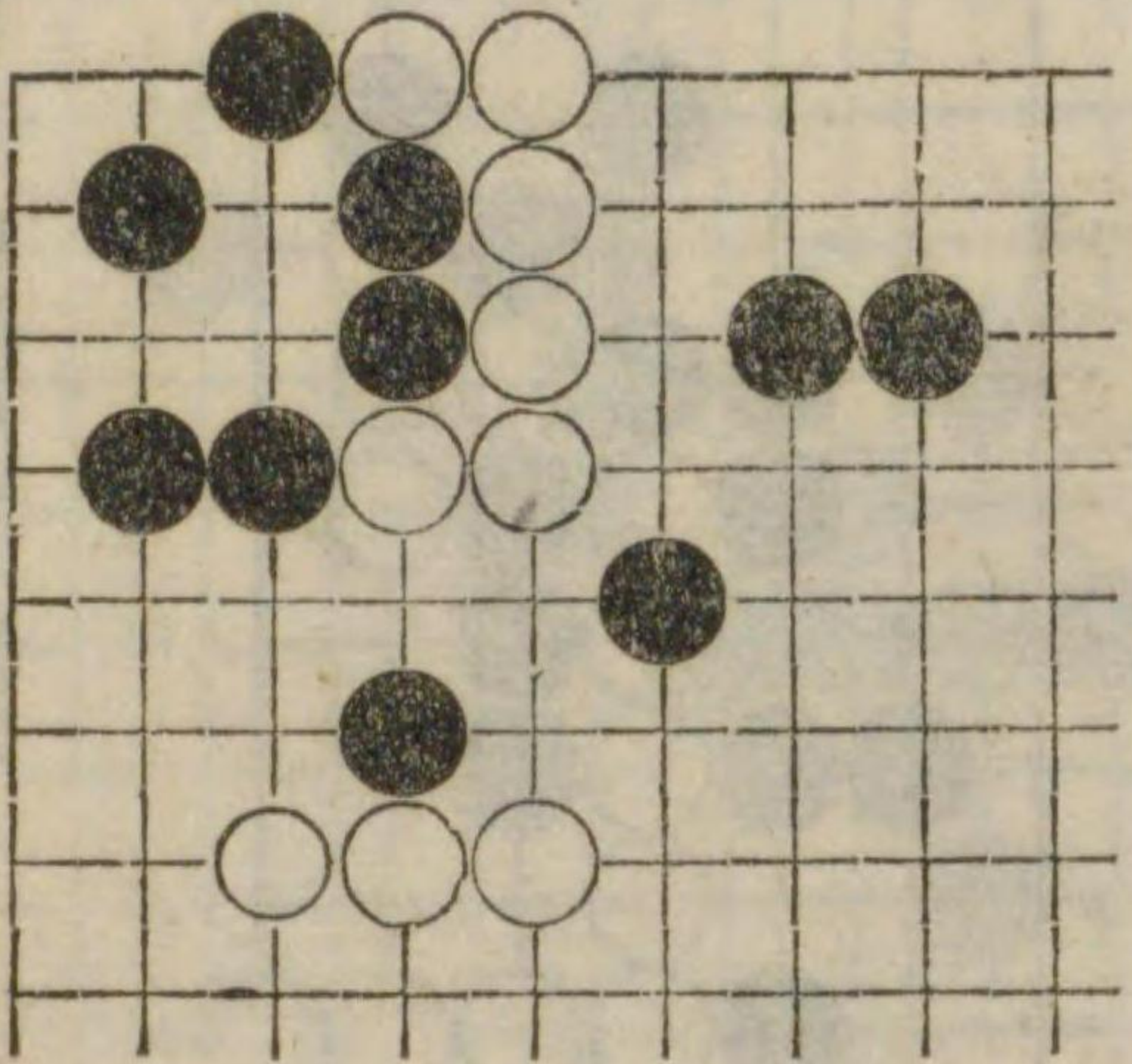
第六十二圖 白先劫活

白右邊の一隊を活んとして劫となるなり九の手注目値す、外部の二白子は生死に關係なし。



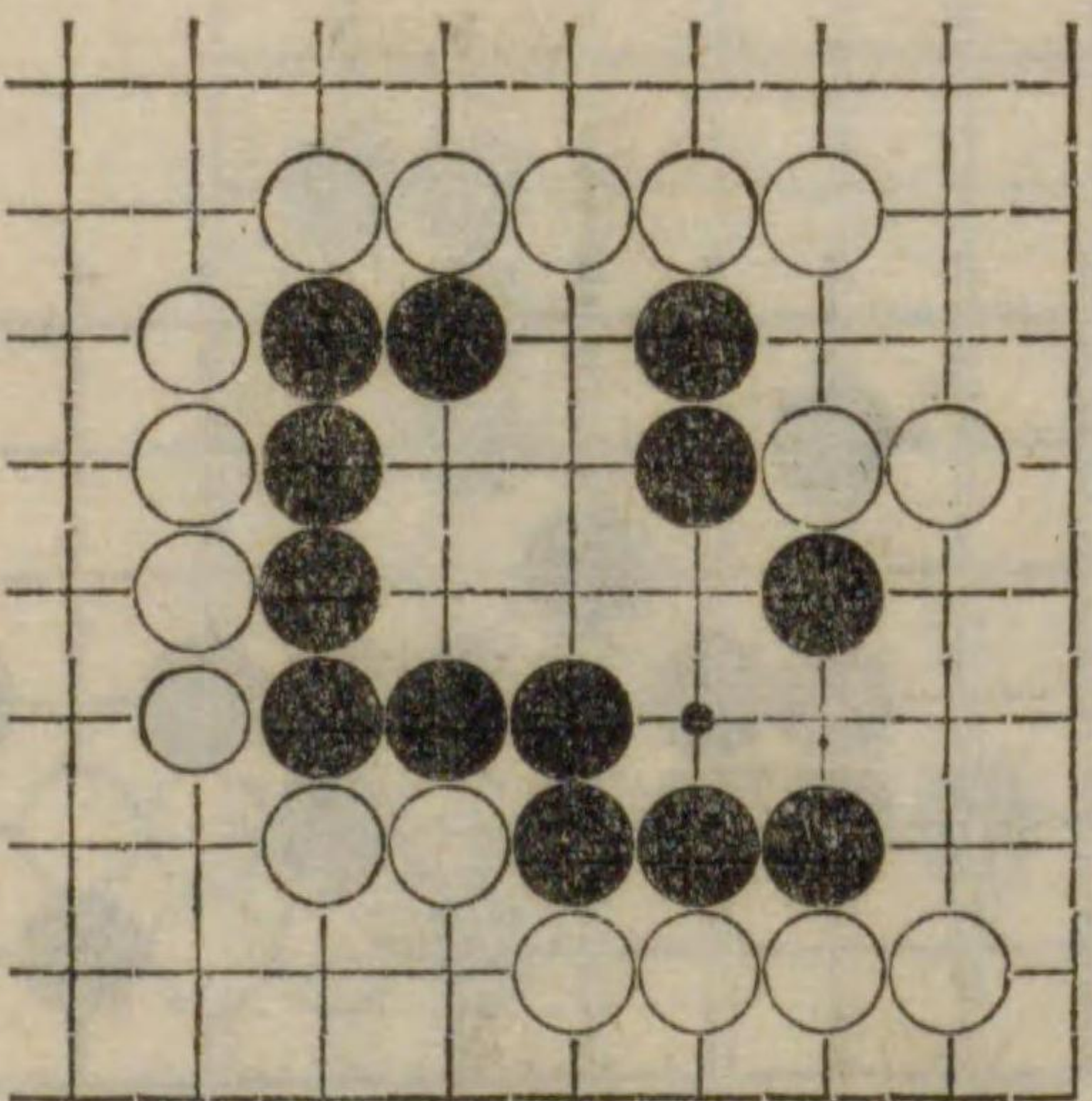
第六十三圖 白劫活

白は圍中の數子を逃出せんとし黒之を追ふて止まざれば第九着白の妙手にて劫となり結局以上の數子は獲ること能はず。



第六十四圖 白先劫

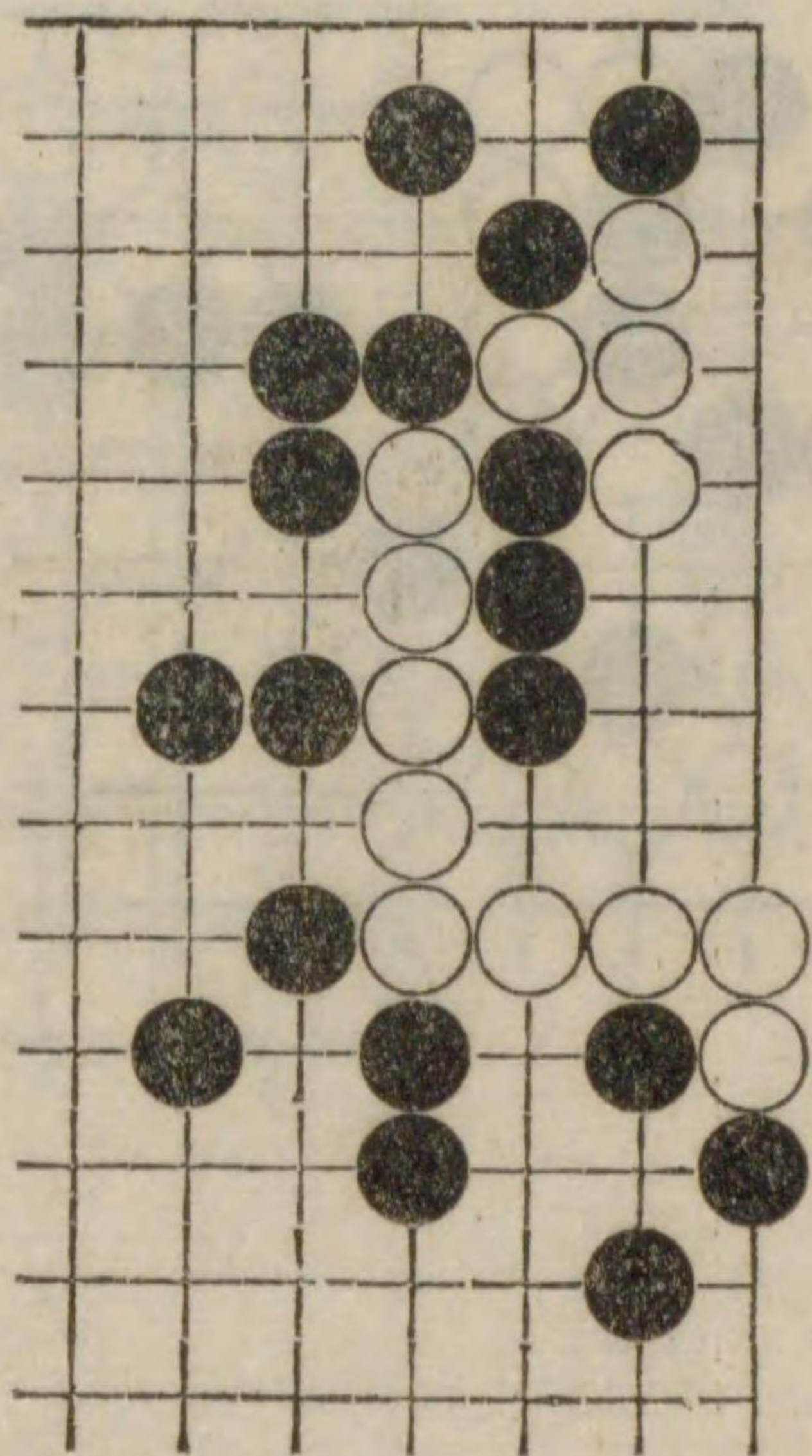
白一及五妙手なり。





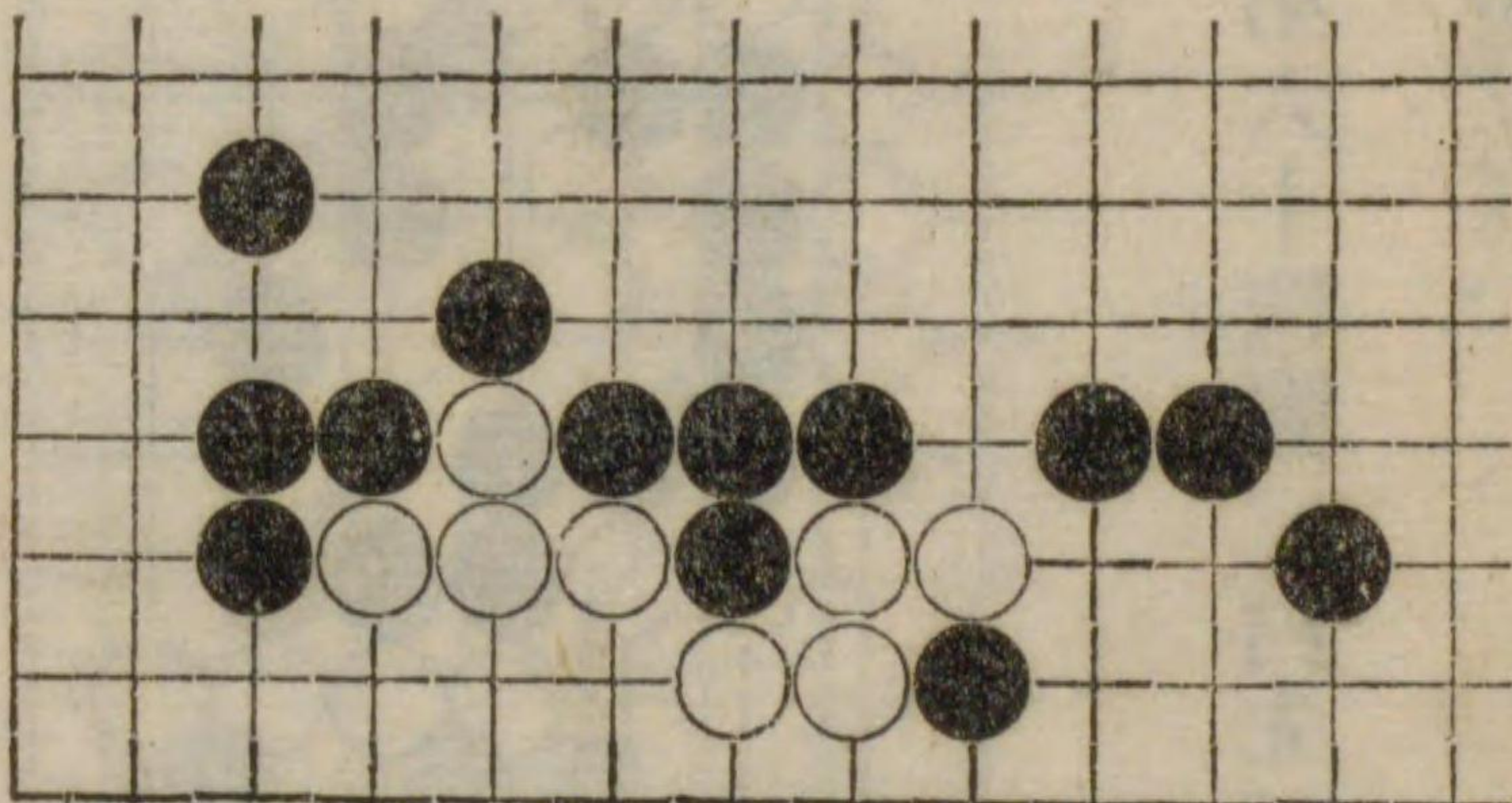
第六十五圖 黒先劫

黒の第三着は常用の手筋なり。



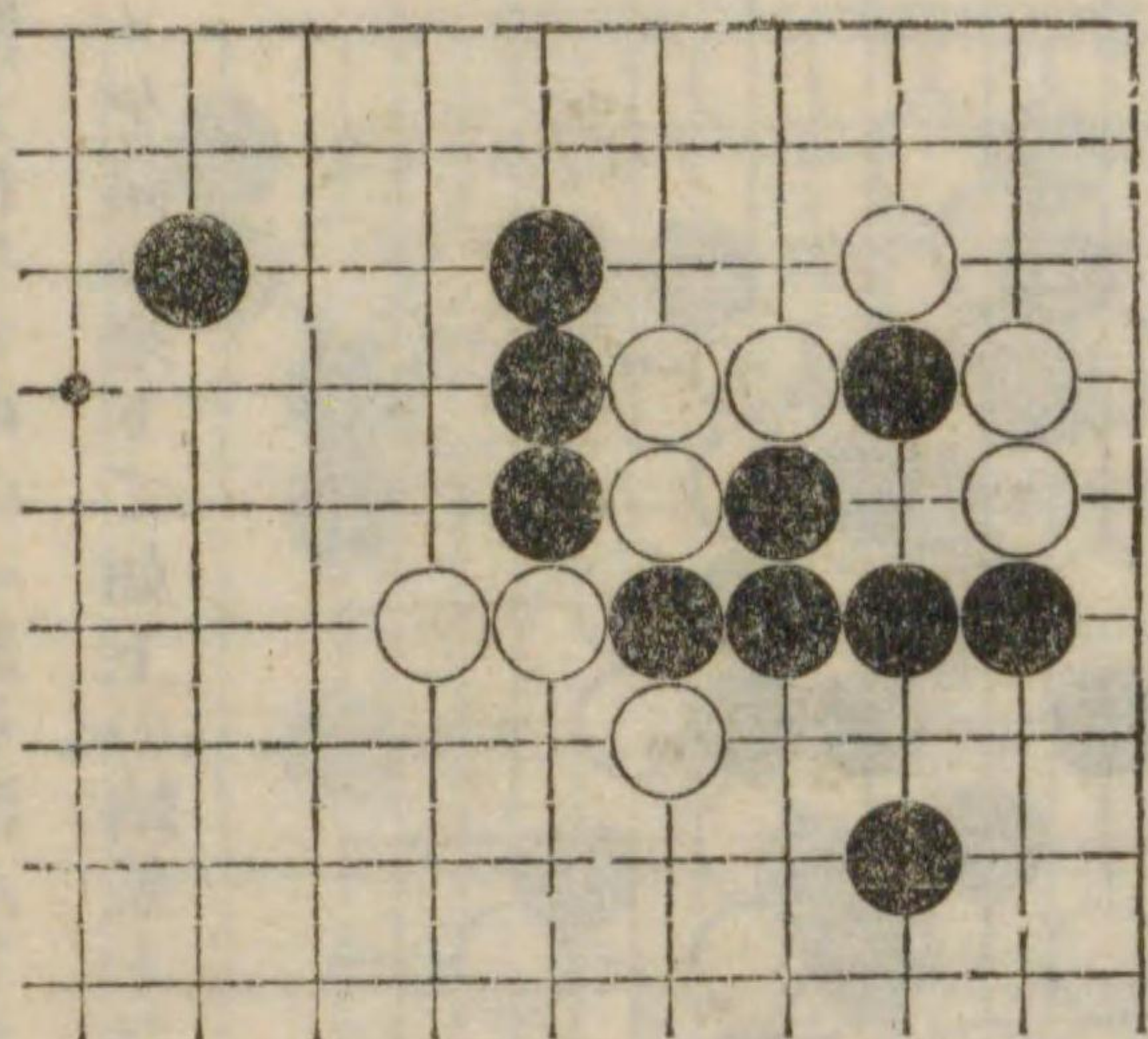
第六十六圖 黒先劫

六目の置碁に出来たる實例にして平凡なれども心得置くべき型なり。



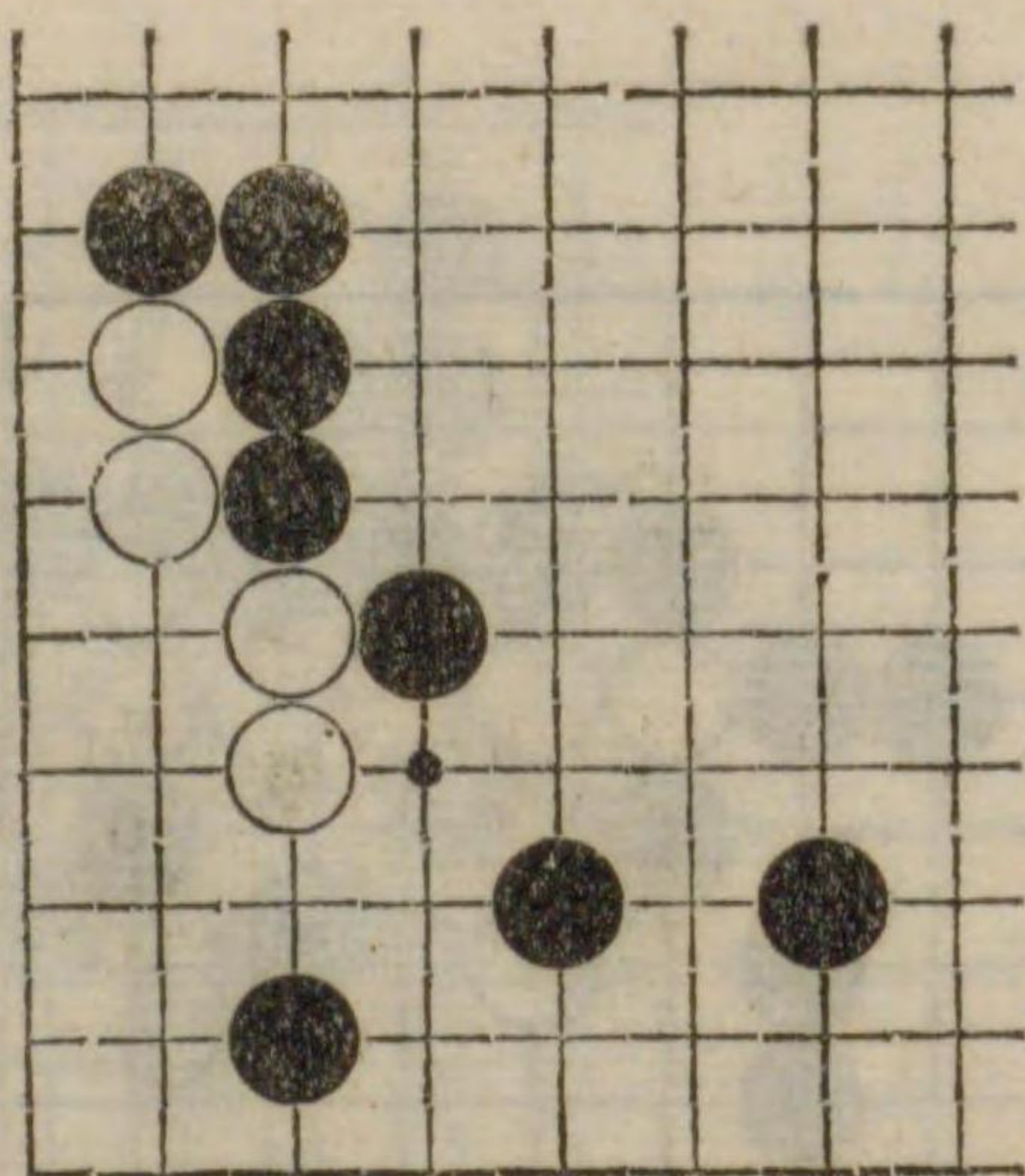
第六十七圖 黒先劫

外部の白三子は關係なし黒が隅の白を取らんとすれば劫となる初發黒の着手妙。



第六十八圖 白先劫

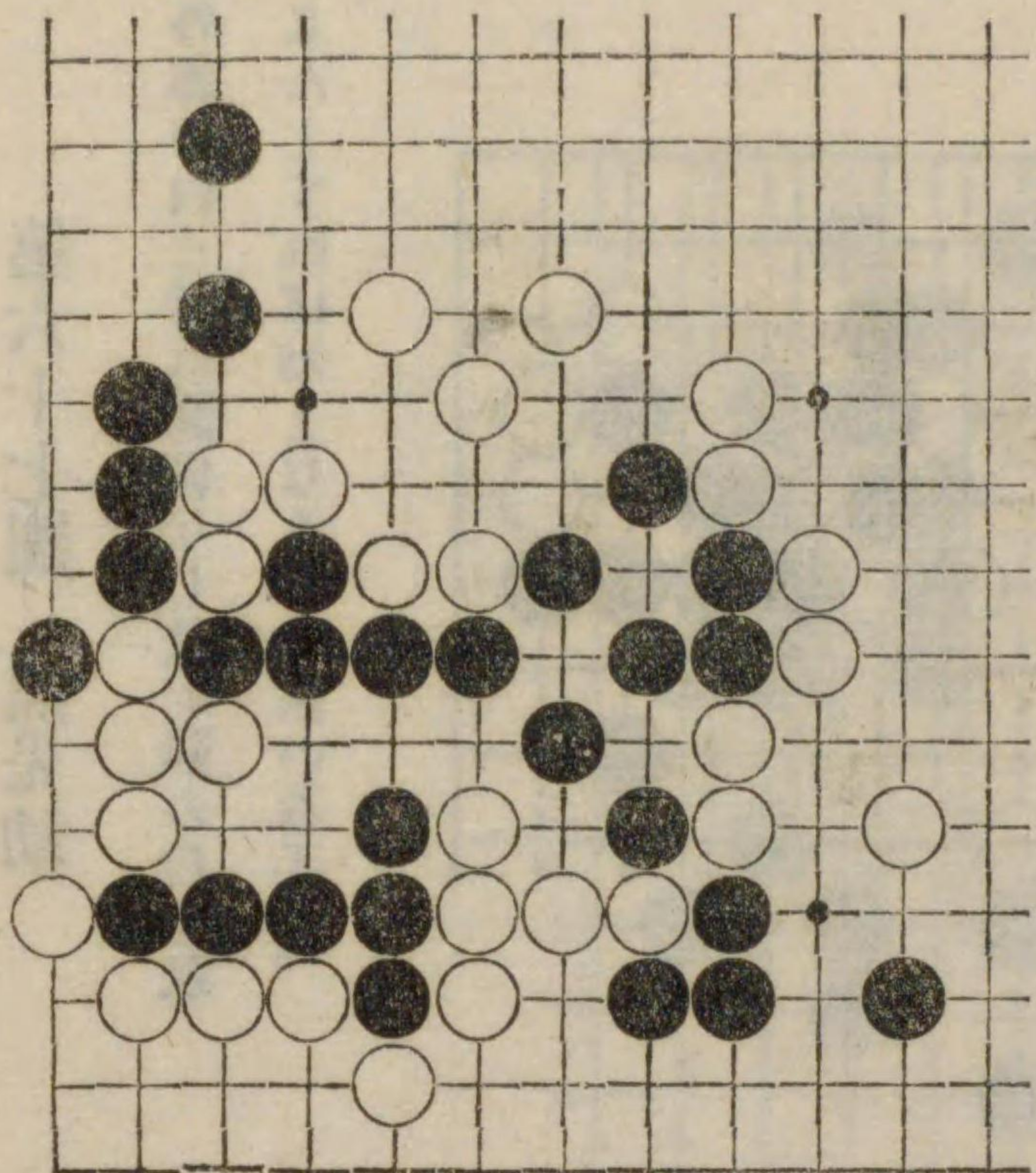
本形は互先碁に往々出来る型なれば注意すべし。





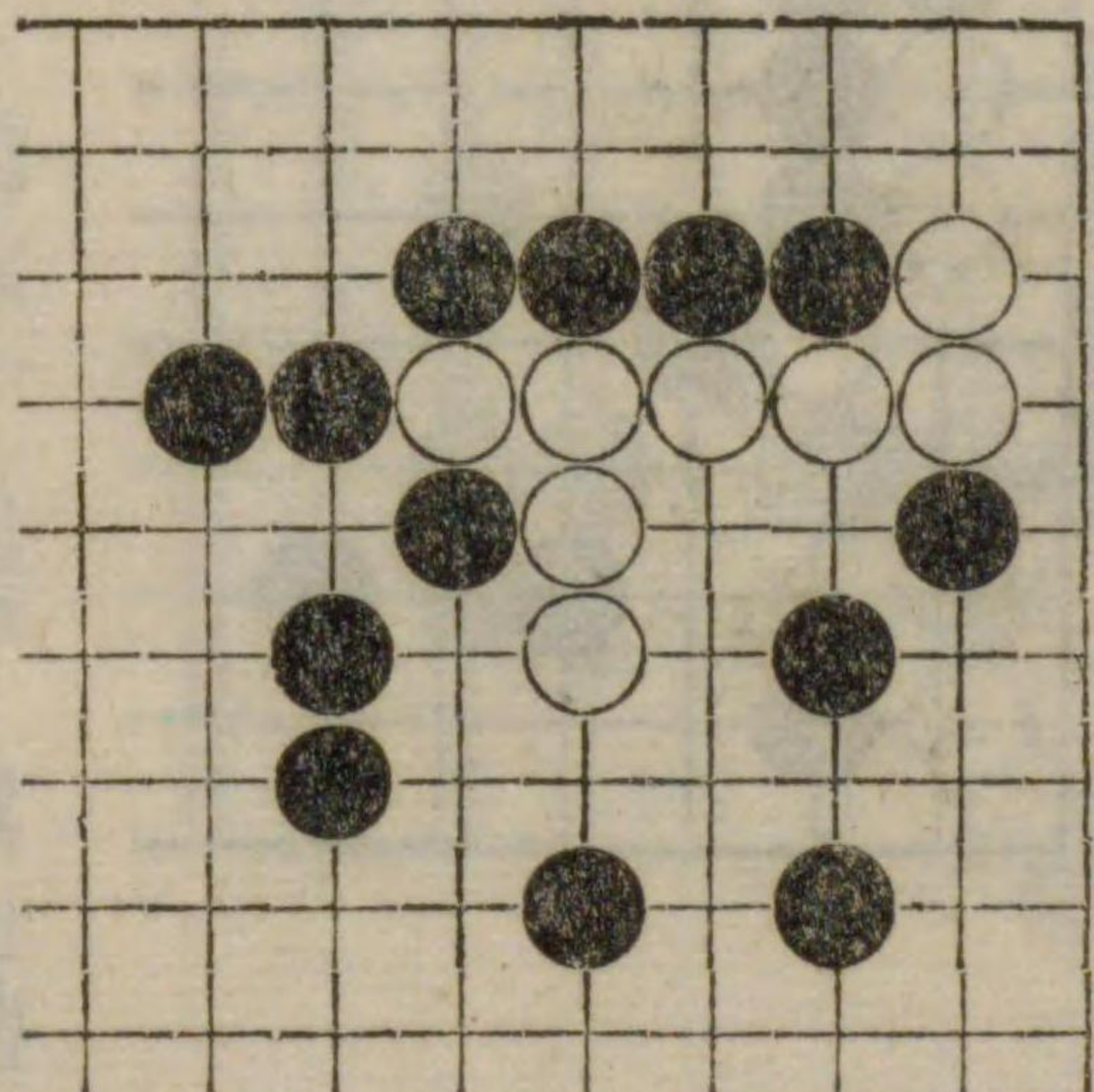
第六十九圖 黒先劫

黒は圍まれたる中の一群を活んとし白之を取らんとダメを詰め來りて如上の結果となる。



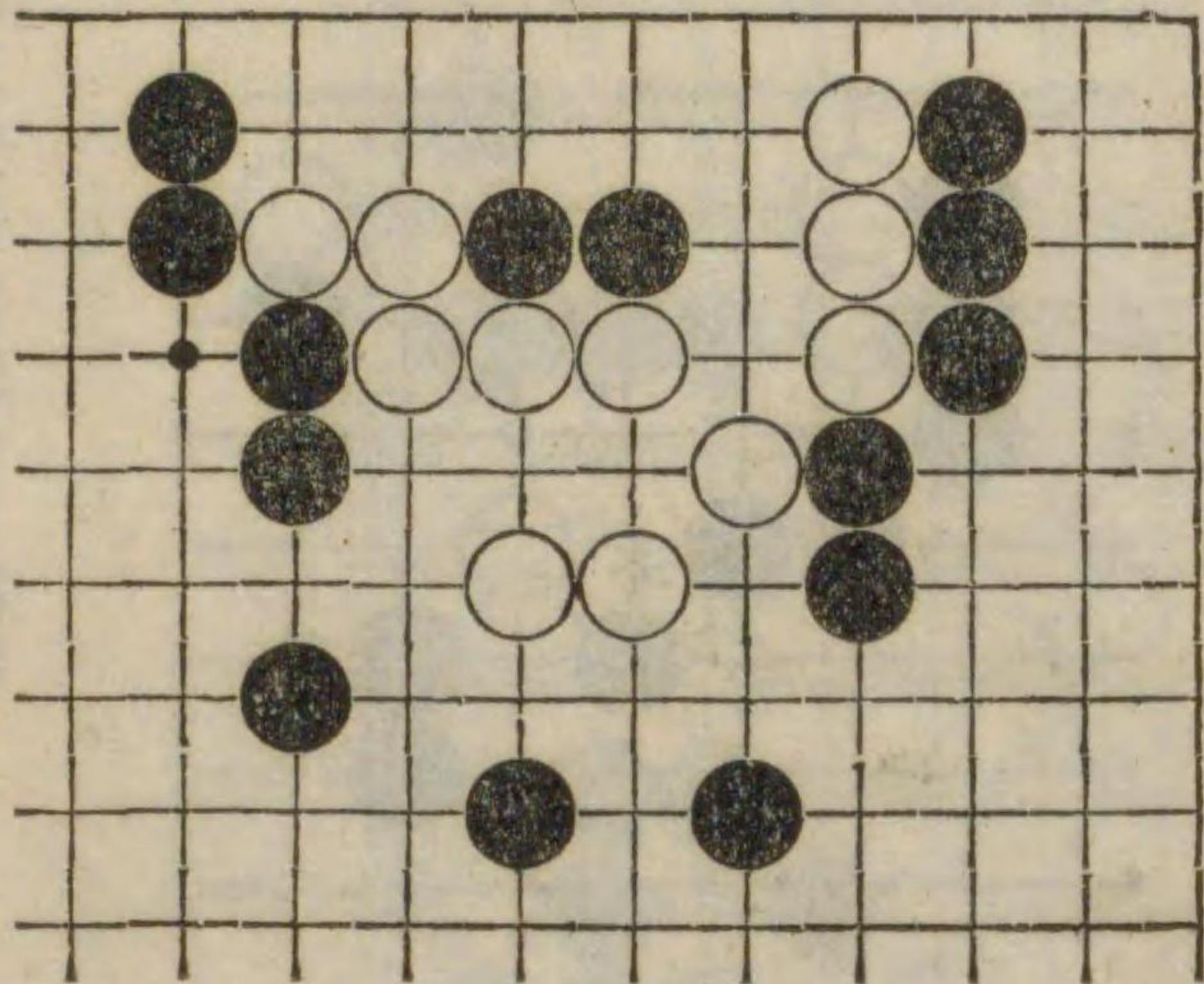
第七十圖 白先劫

白一、三は常用の手筋なり。



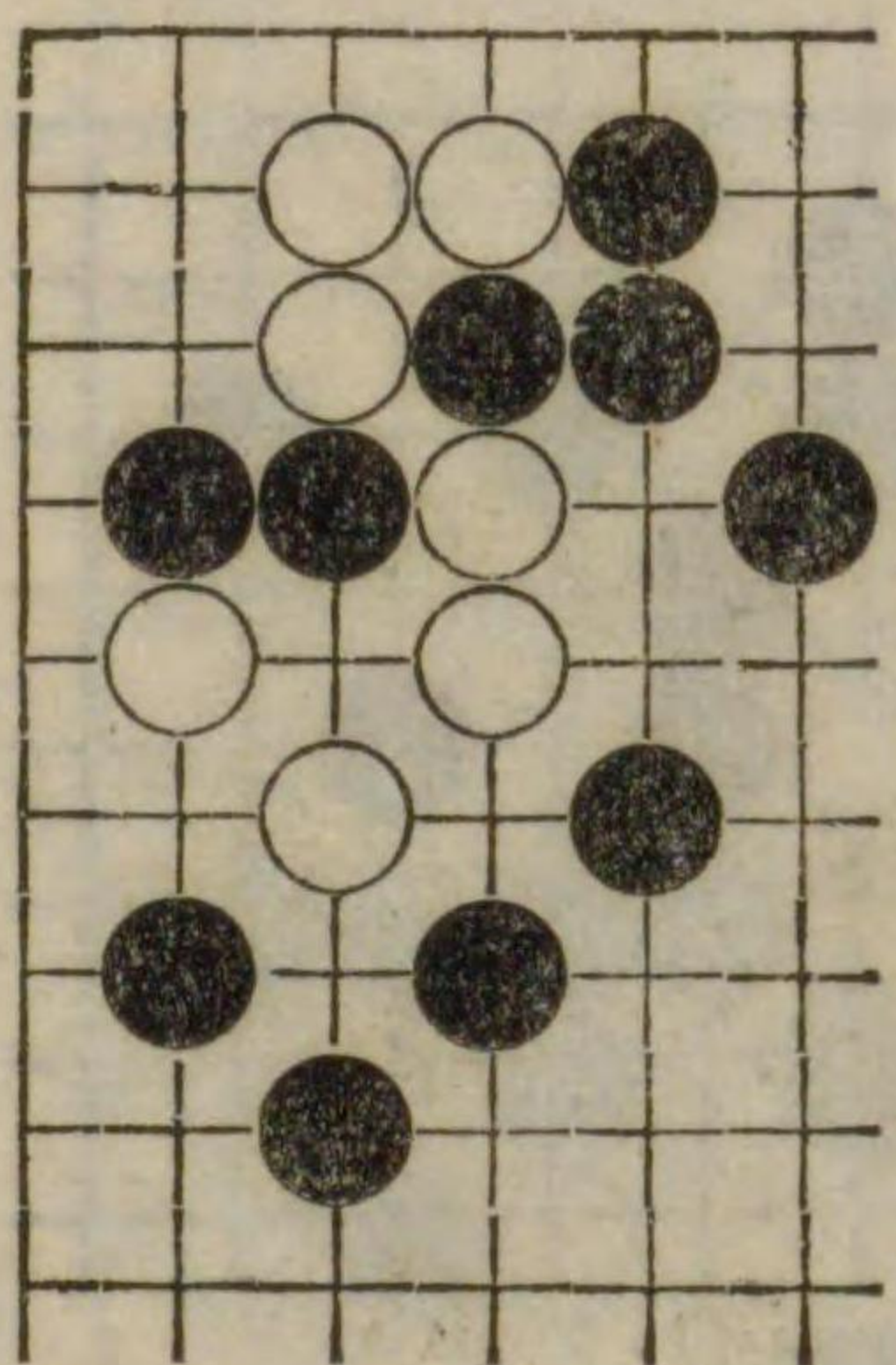
第七十一圖 黒先劫

黒の一妙手なり。



第七十二圖 黒先劫

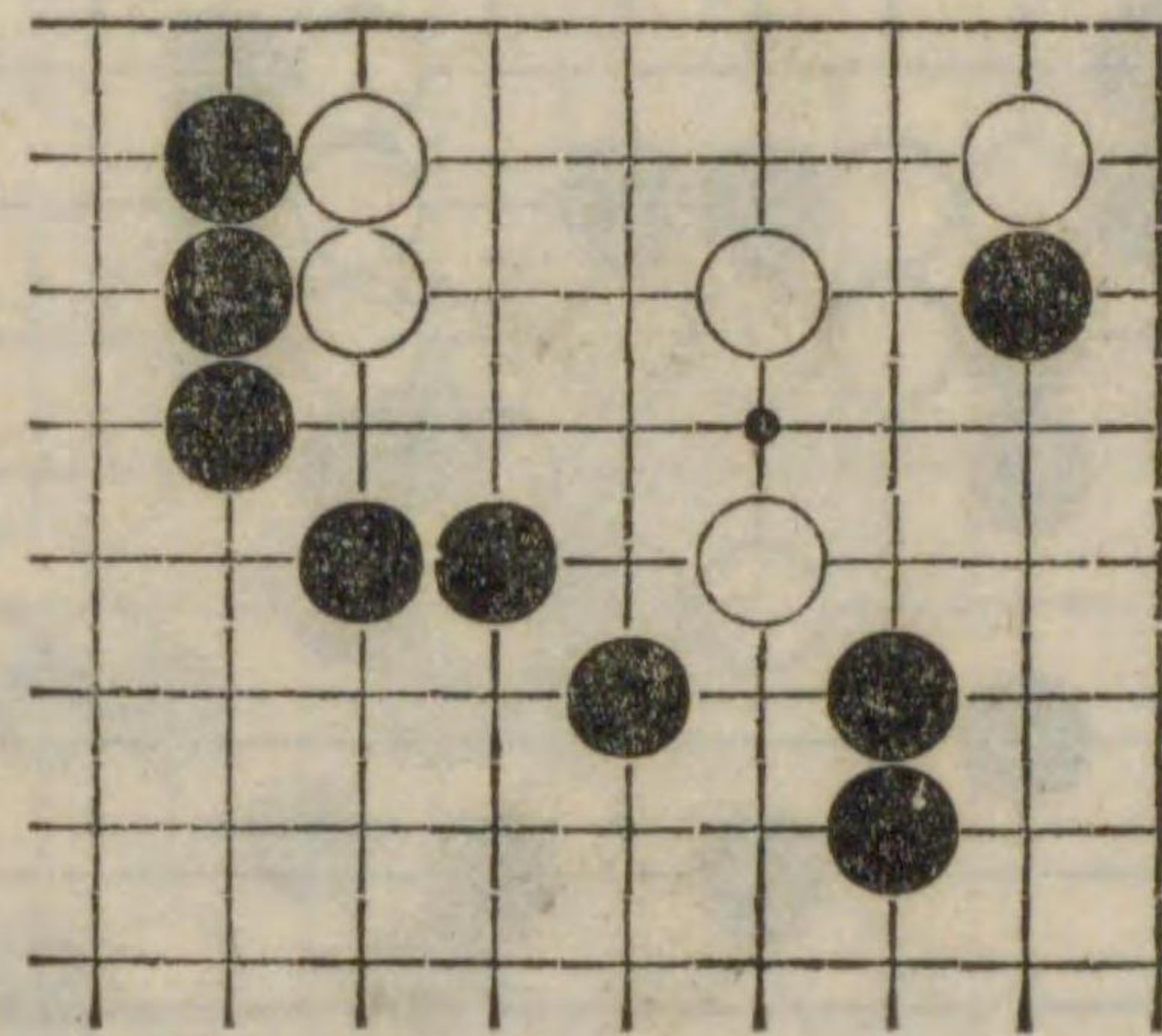
黒の第一着は常用の妙手なり。





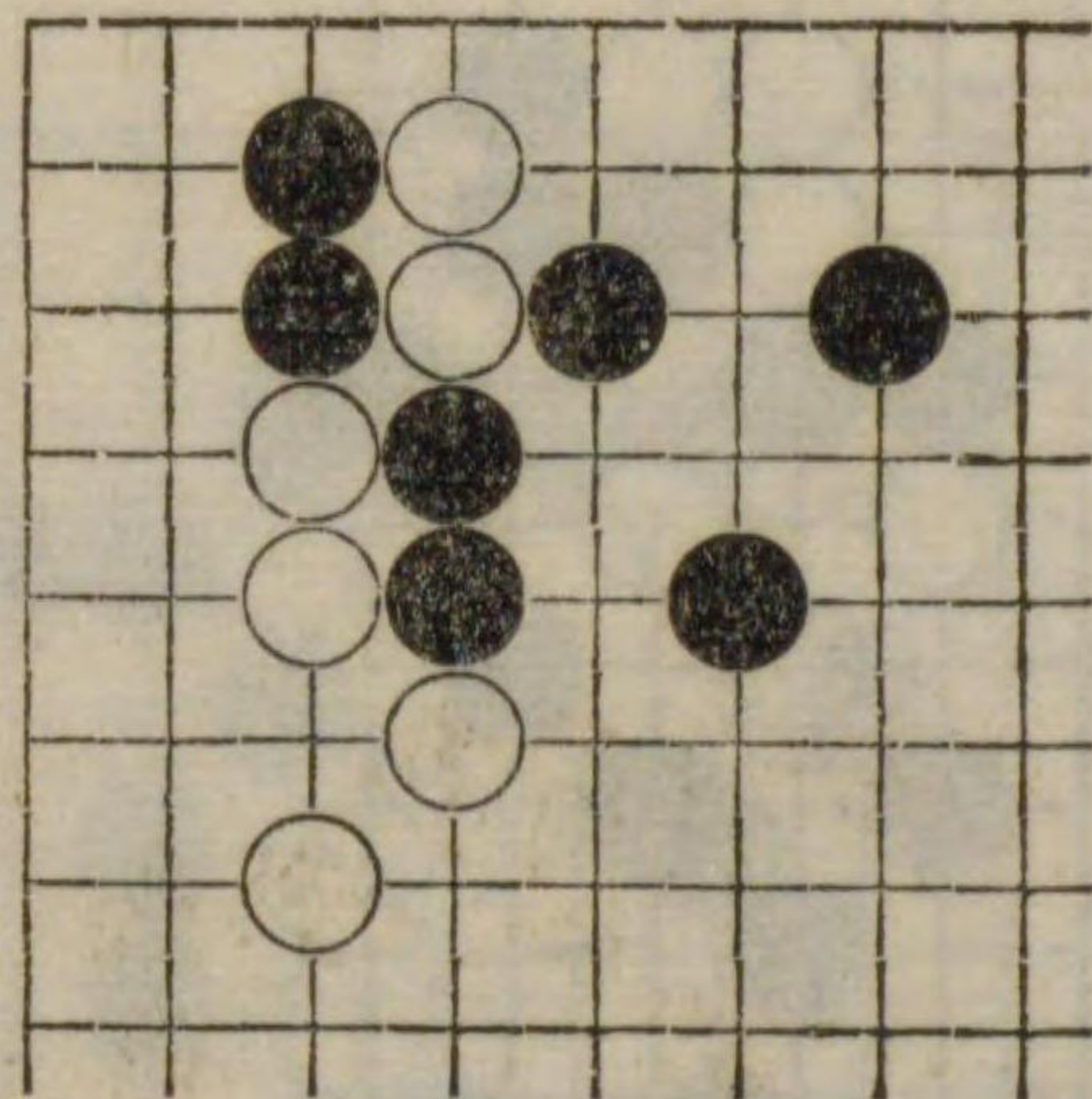
第七十三圖 黒先劫

此圖は互先碁に生せし型なり。



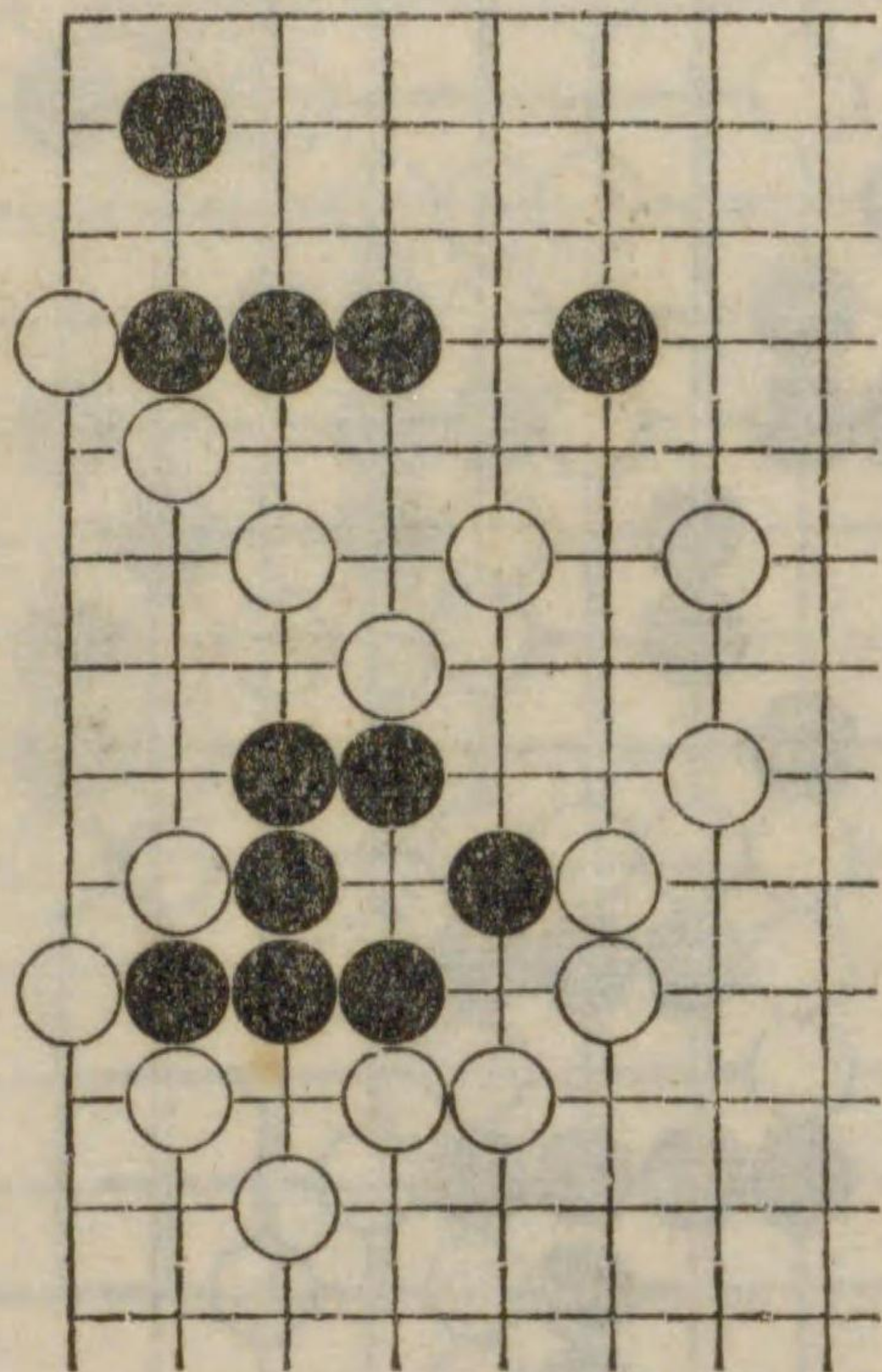
第七十四圖 白先劫

此形は置碁に出来易く黒六白九何れも善き手筋なり。



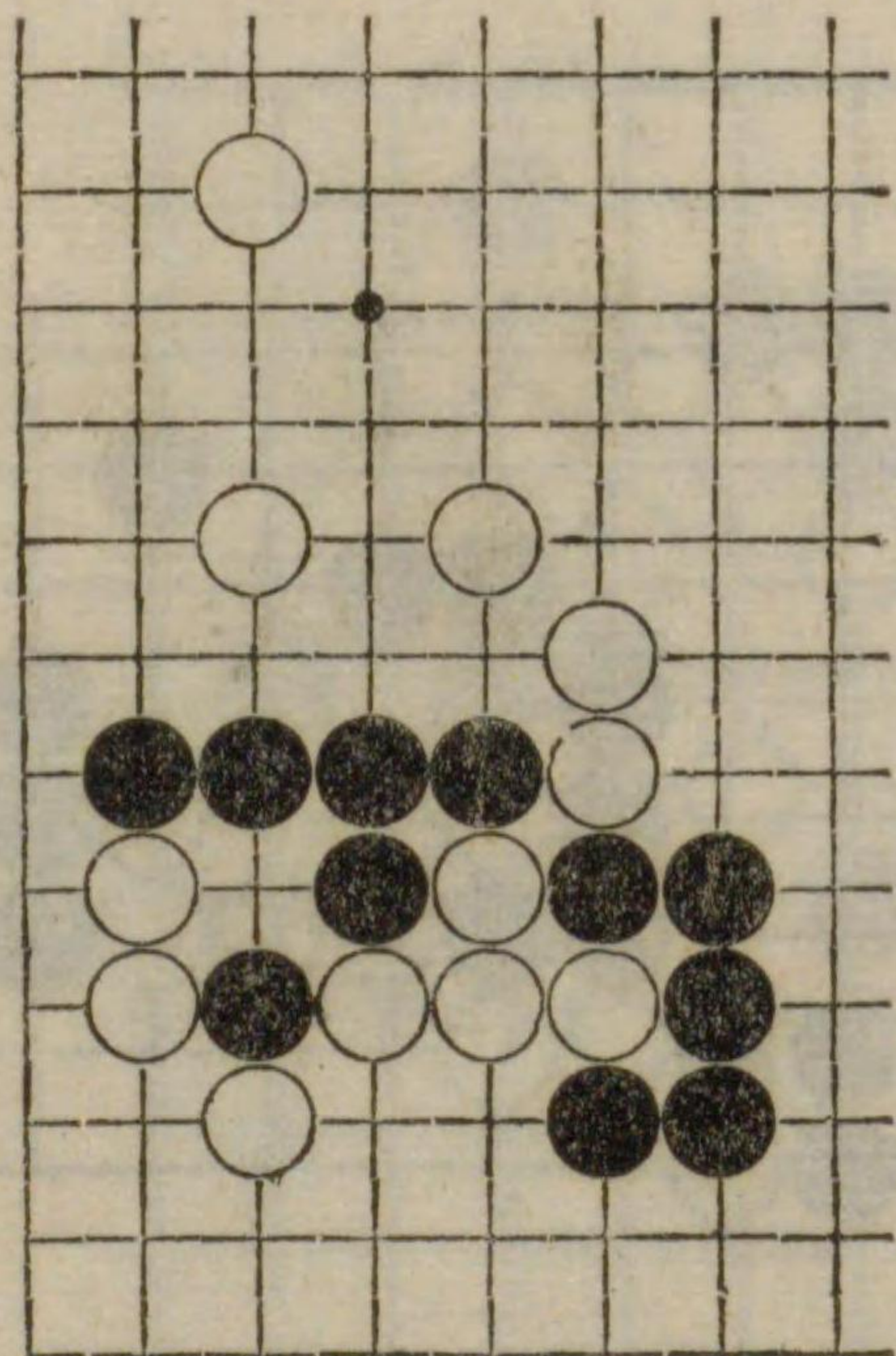
第七十五圖 黒先劫

圍中の黒に手を生ずるなり。



第七十六圖 黒先劫

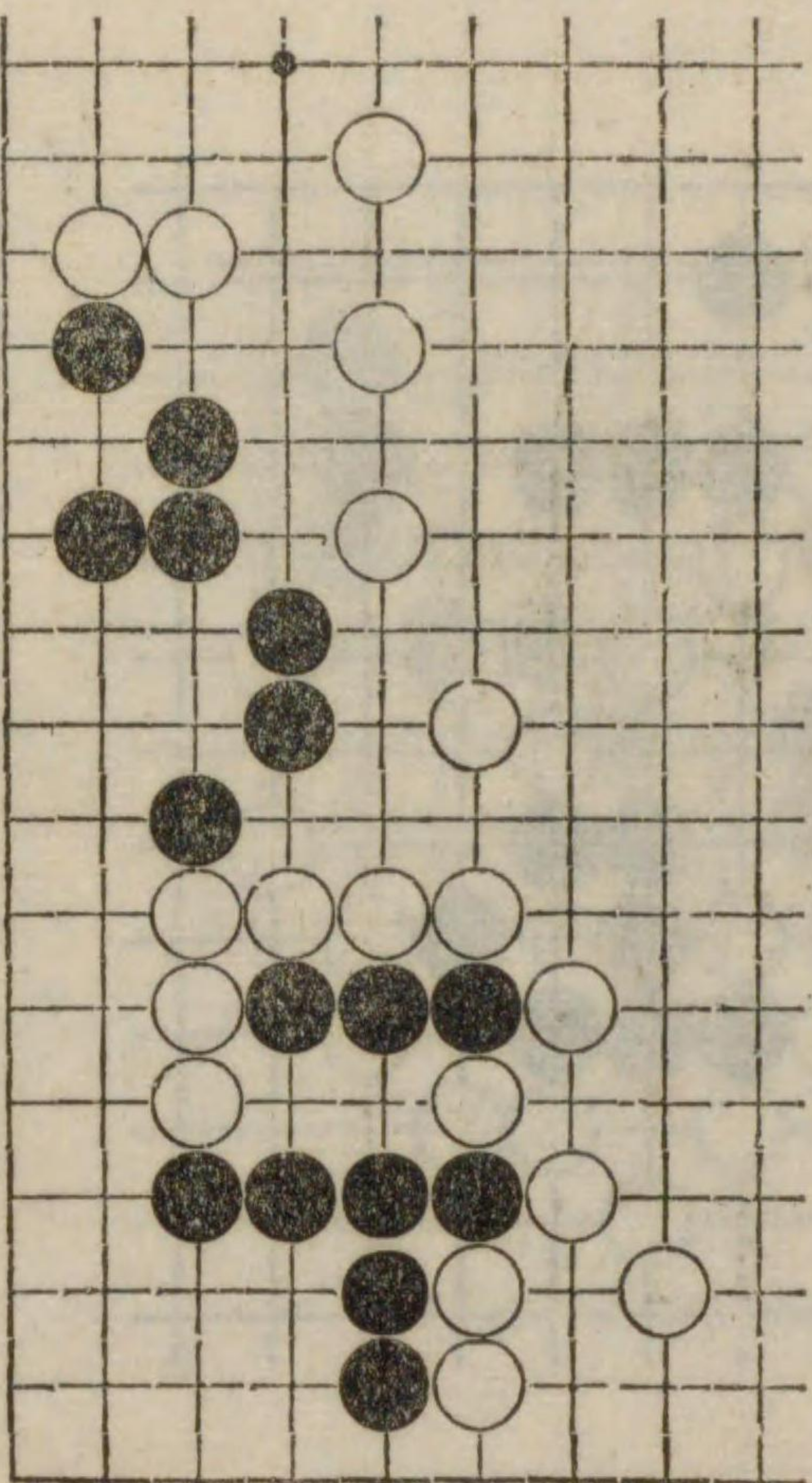
圍中の黒六子と角隅の白との間の折衝にして黒の第一着は良手なり。





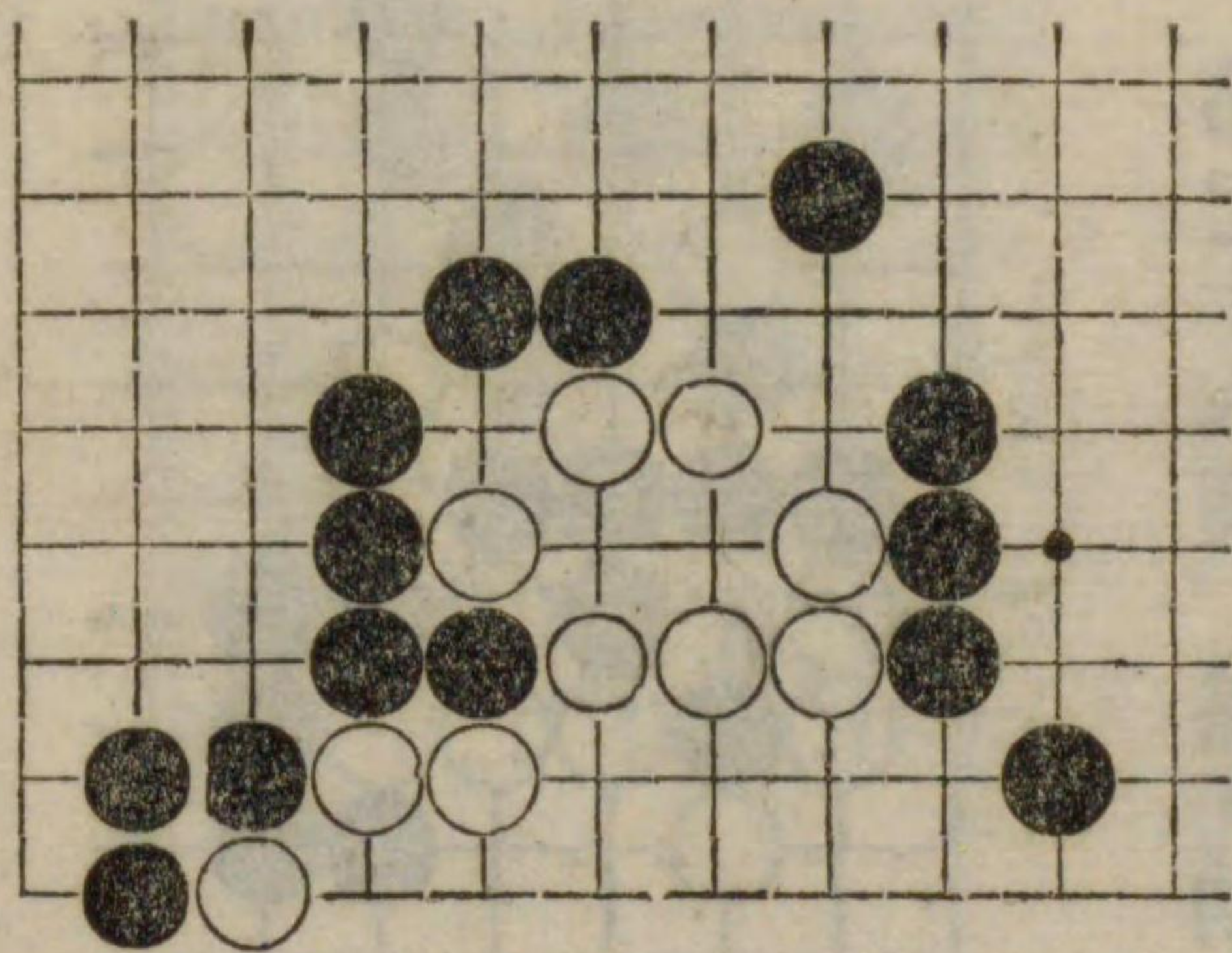
第七十七圖 白先劫

角隅と邊側との兩傍にある黒へ關係を生せしめて劫となす白の一着三着、黒の二着、四着何れも注意すべき面白き手なり。



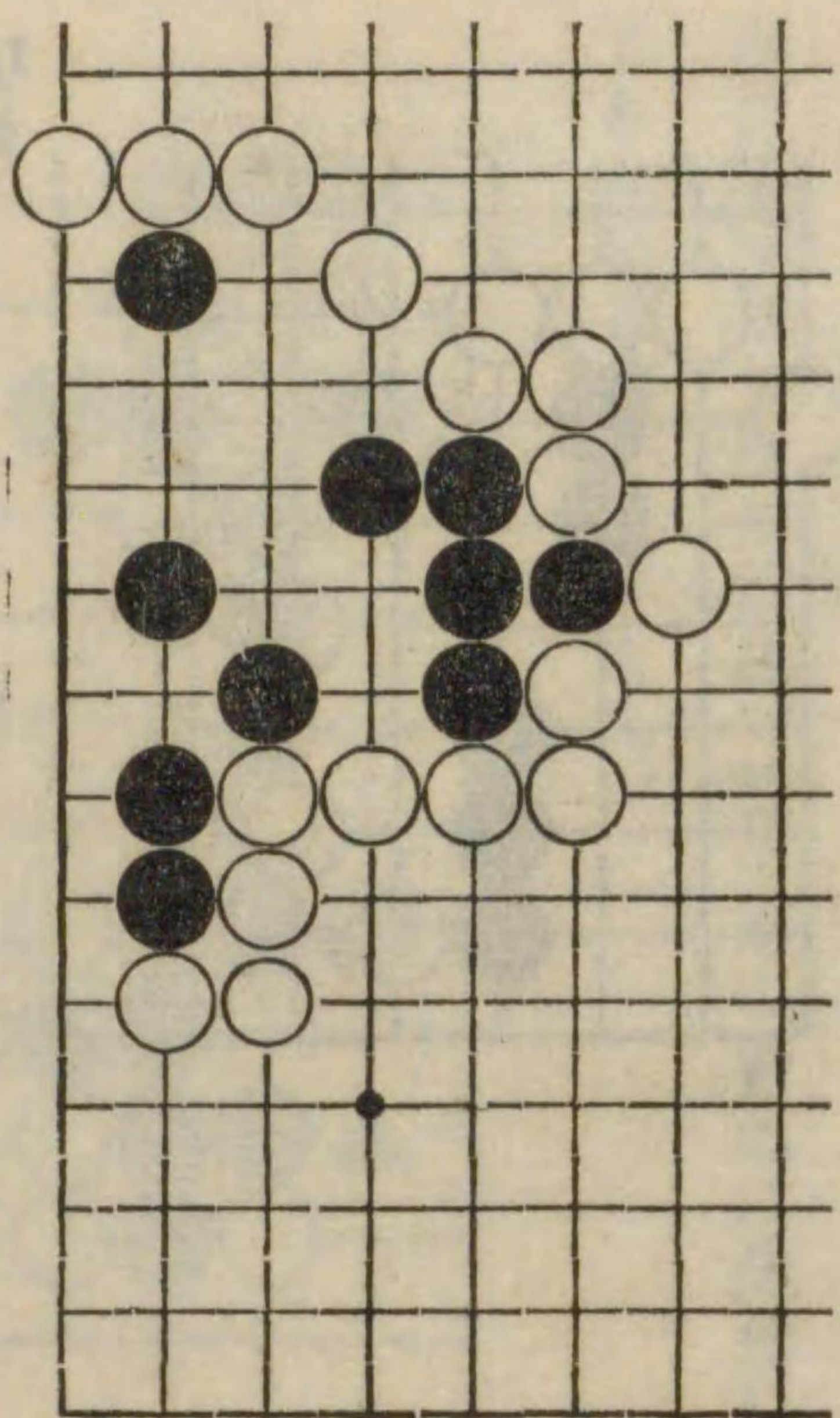
第七十八圖 黒先劫

黒の第一着手筋なり。



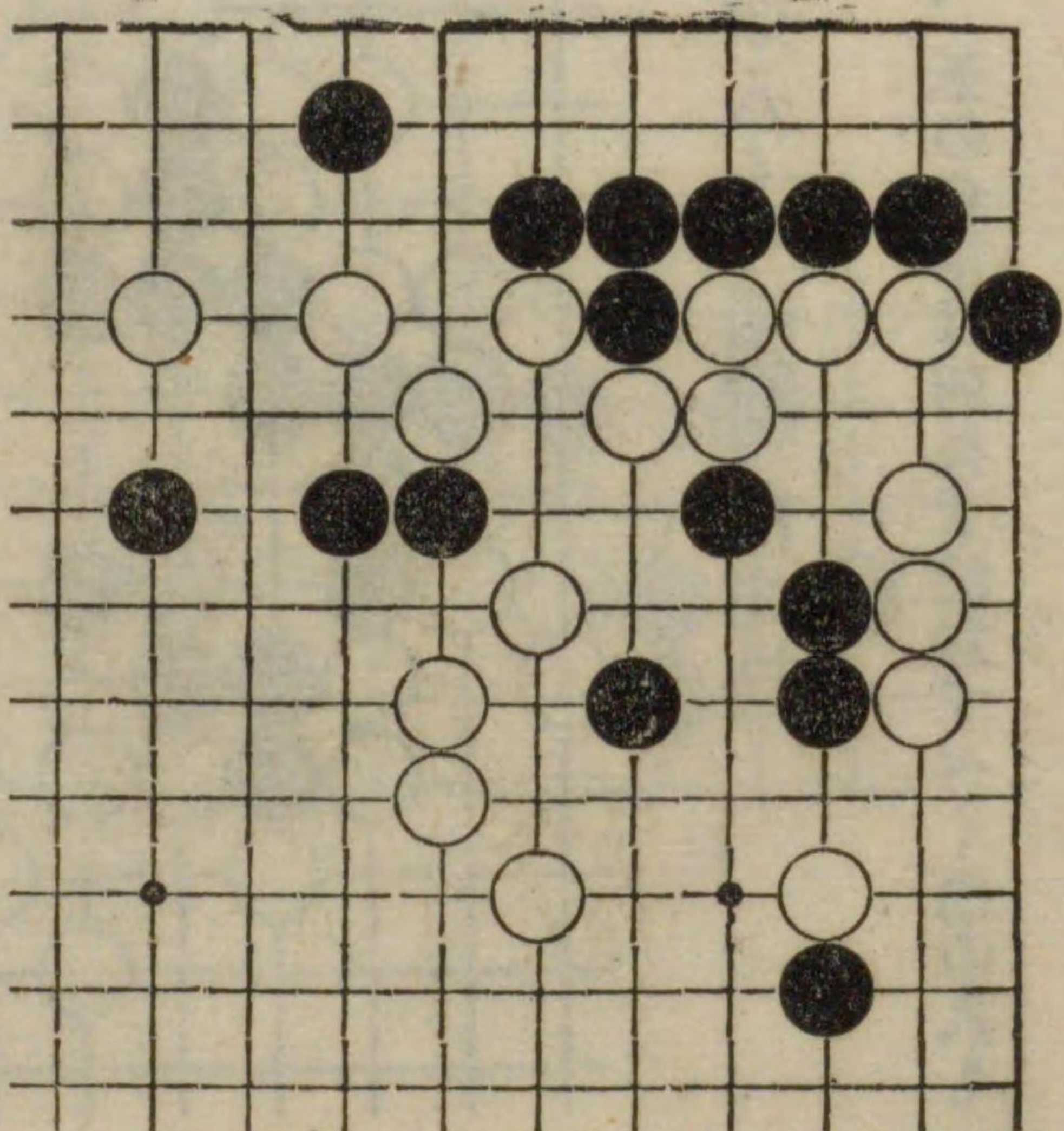
第七十九圖 白先劫

置碁に實際出來たる形にて黒のダメヅマリを利用し白手段す三、五の二手は妙なり。



第八十圖 黒先劫

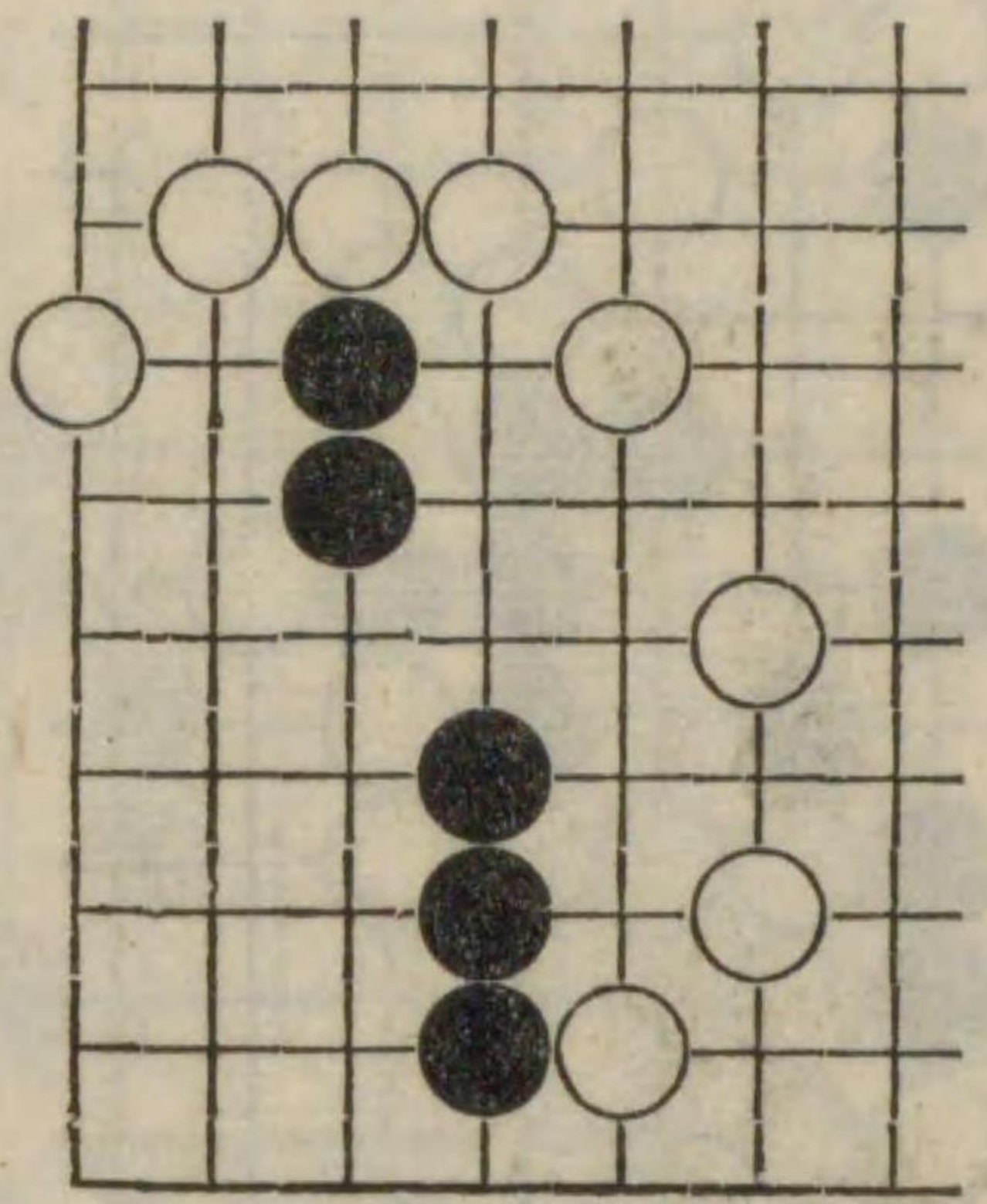
黒先にて圍中の黒四子を脱出せんとし白取らんとして劫となるなり外界に接觸しある黒一子は無論大關係あるなり。





第八十一圖 白先劫

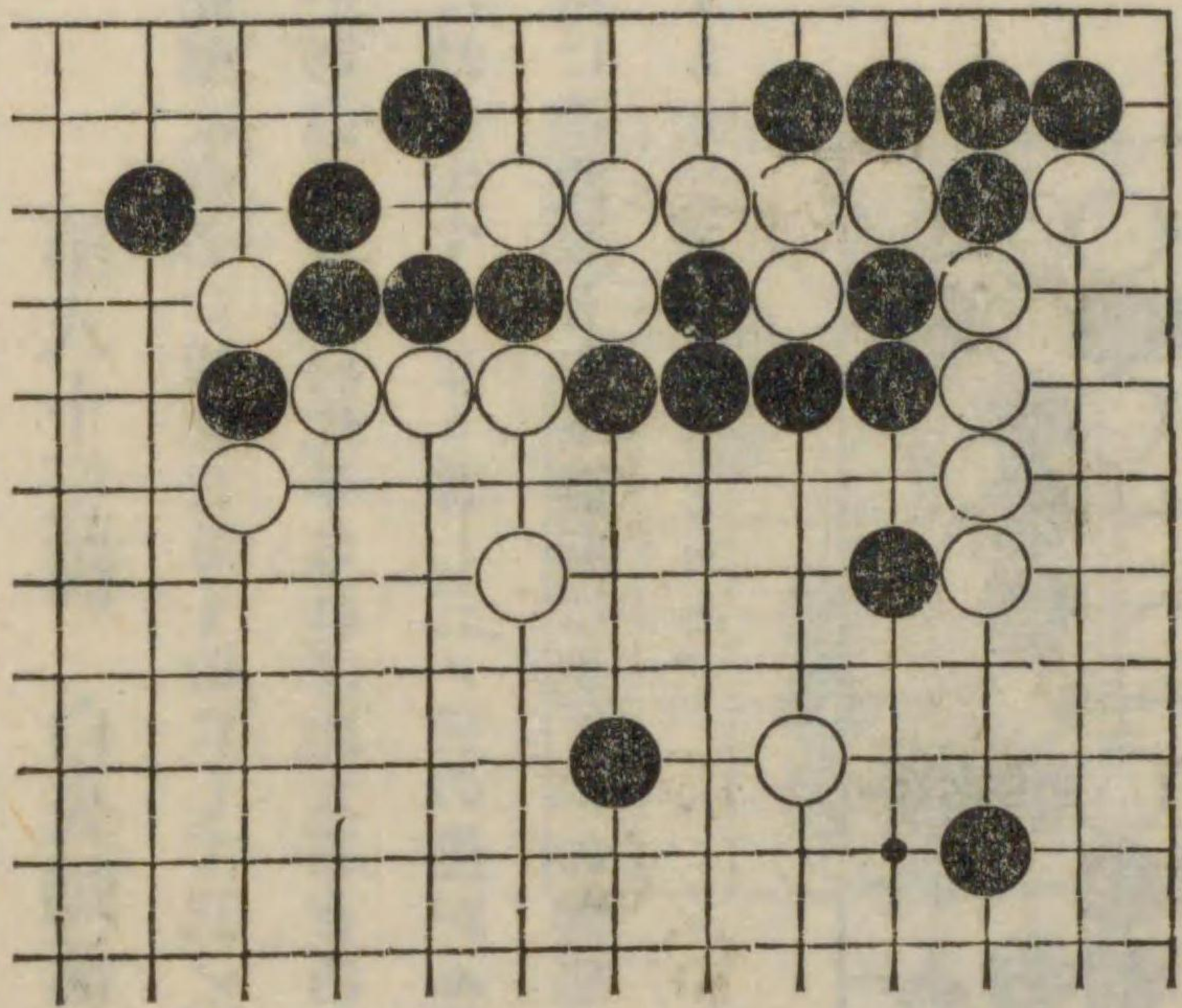
置碁に出来る型にて黒手抜きの状勢ゆる  
白より手を生ずるなり黒の第六着は良手  
なり。





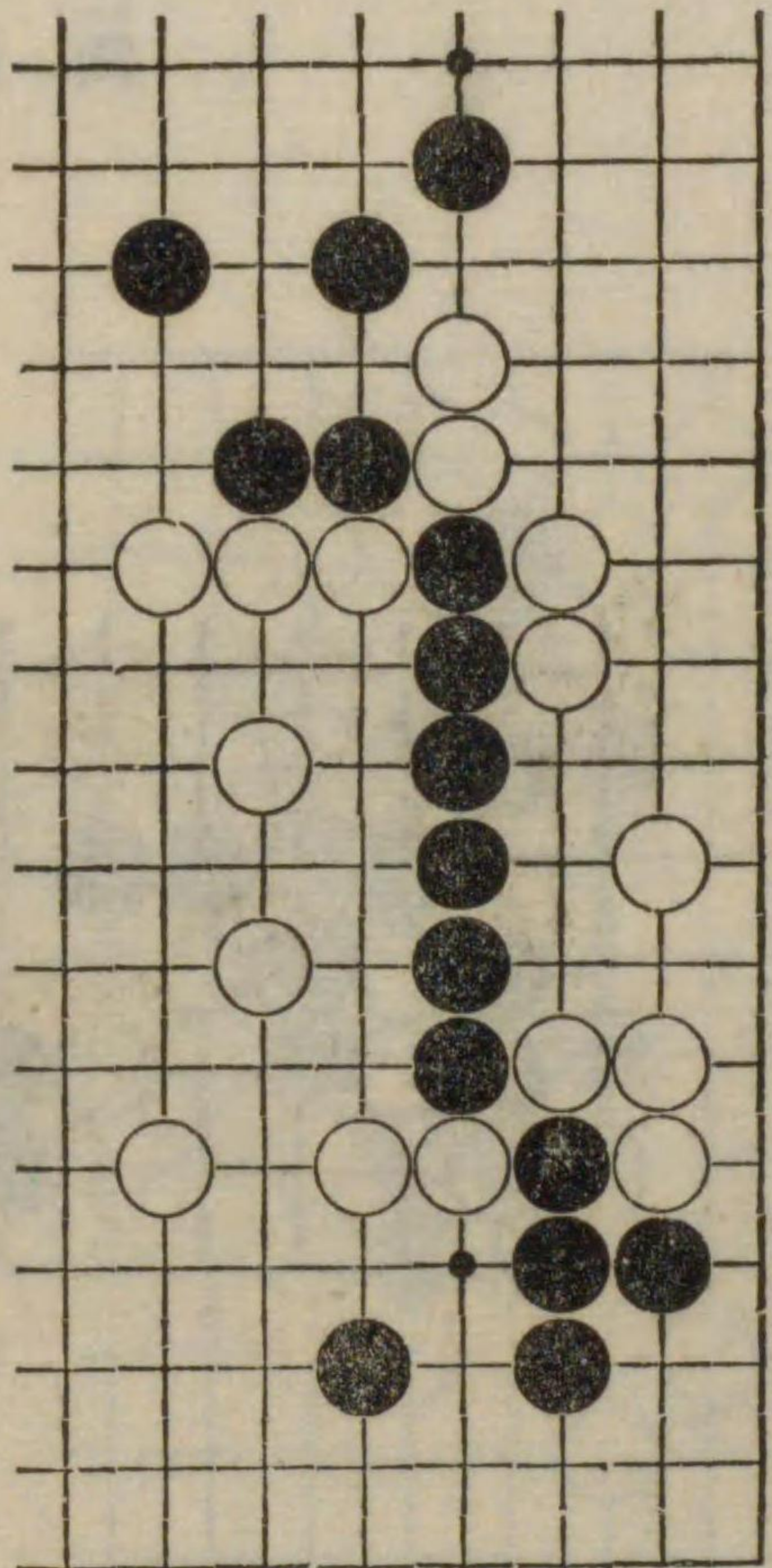
第八十五圖 白先劫

白の七子と黒の七子と攻合の型にて白の第一着第三着何れも面白し。



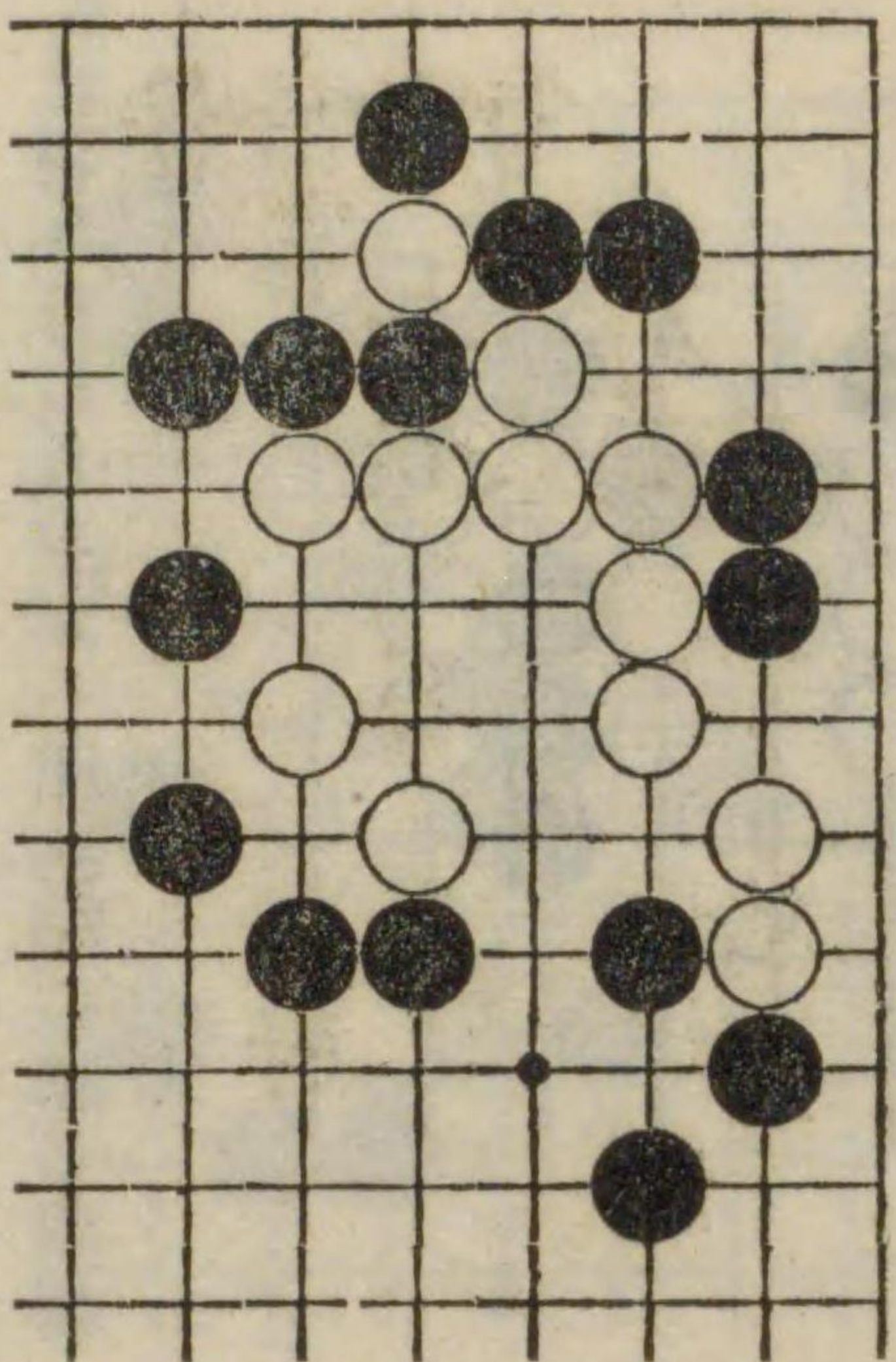
第八十六圖 黒先劫

圍中一線をなしをる黒の六子より右側の白に手段を施すにあり黒の第一着を常用の手筋とす。



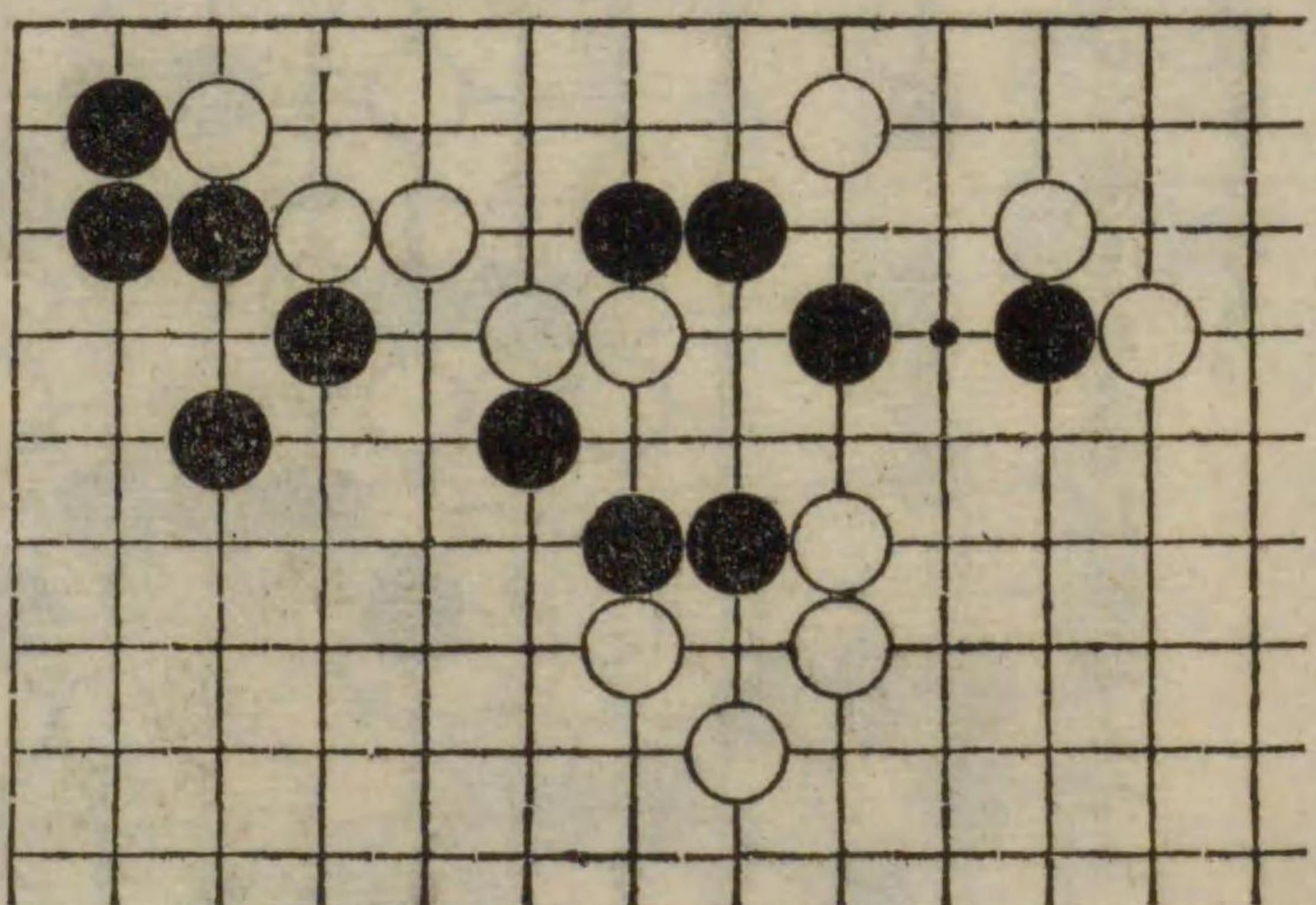
第八十七圖 白先劫活

白右隅に於て趣向するなり白九の手良くして注目し値す。



第八十八圖 白先劫

此形は互先の姿勢より出来たるものにして圍中の白五子を脱せんがため右邊黒の四子とカラミテ攻合を生ずるなり。

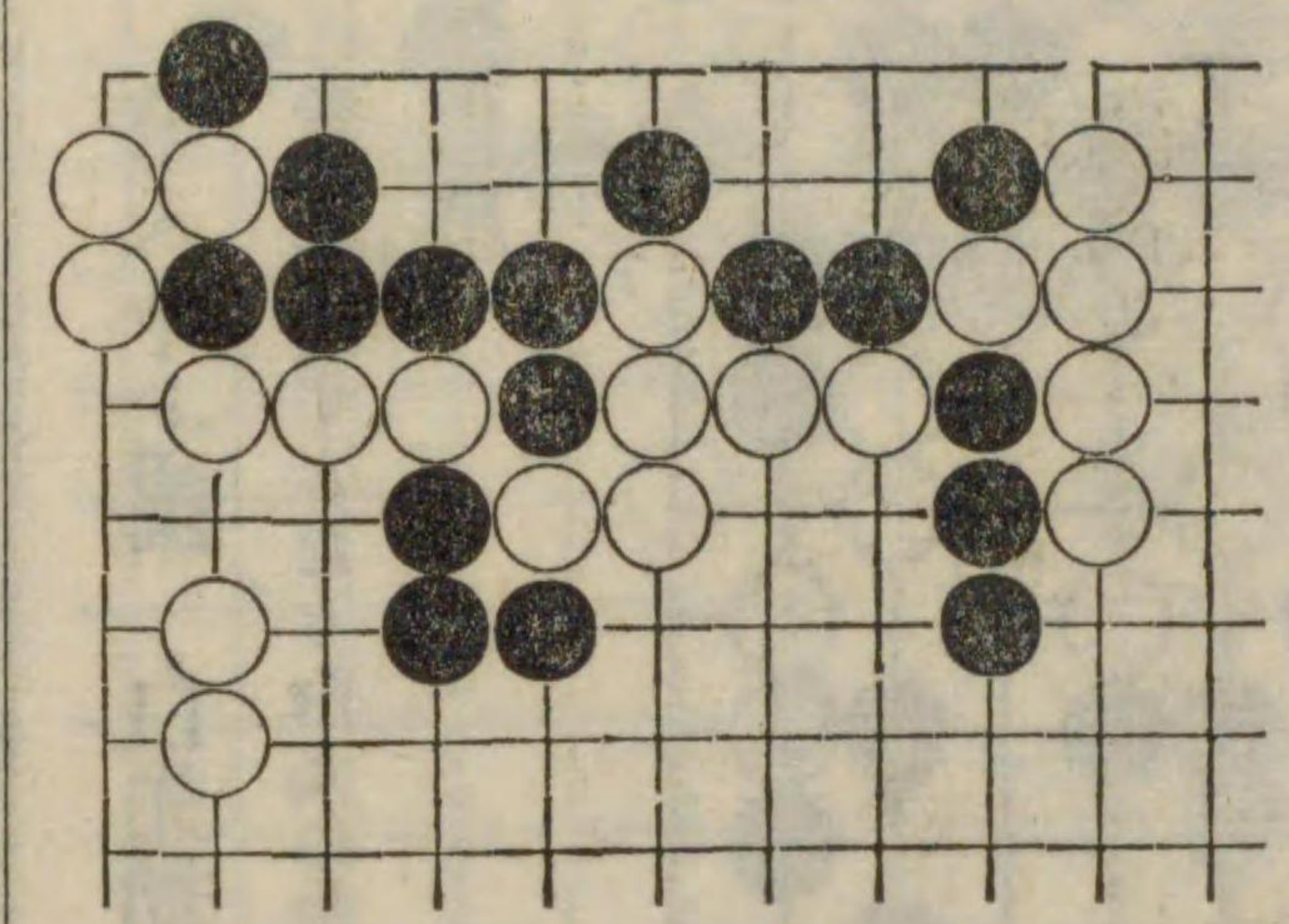




攻之部

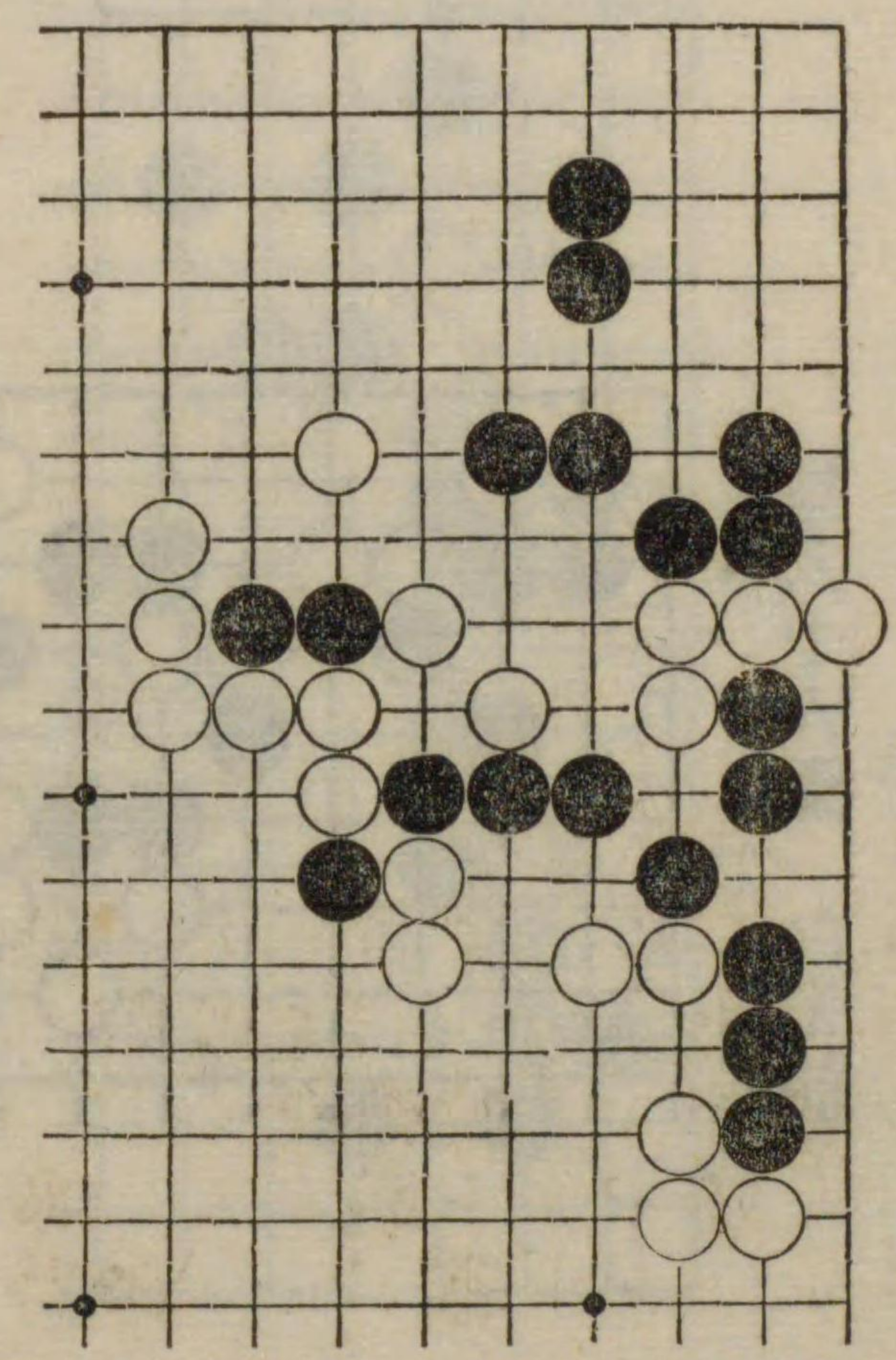
第八十九圖 白先勝

互先碁に出来たる實戰の形にして中央の六子と邊に地形ある黒との攻合なるが黒には切れ目あるを以て此弱點に乘じ攻合となるなり。



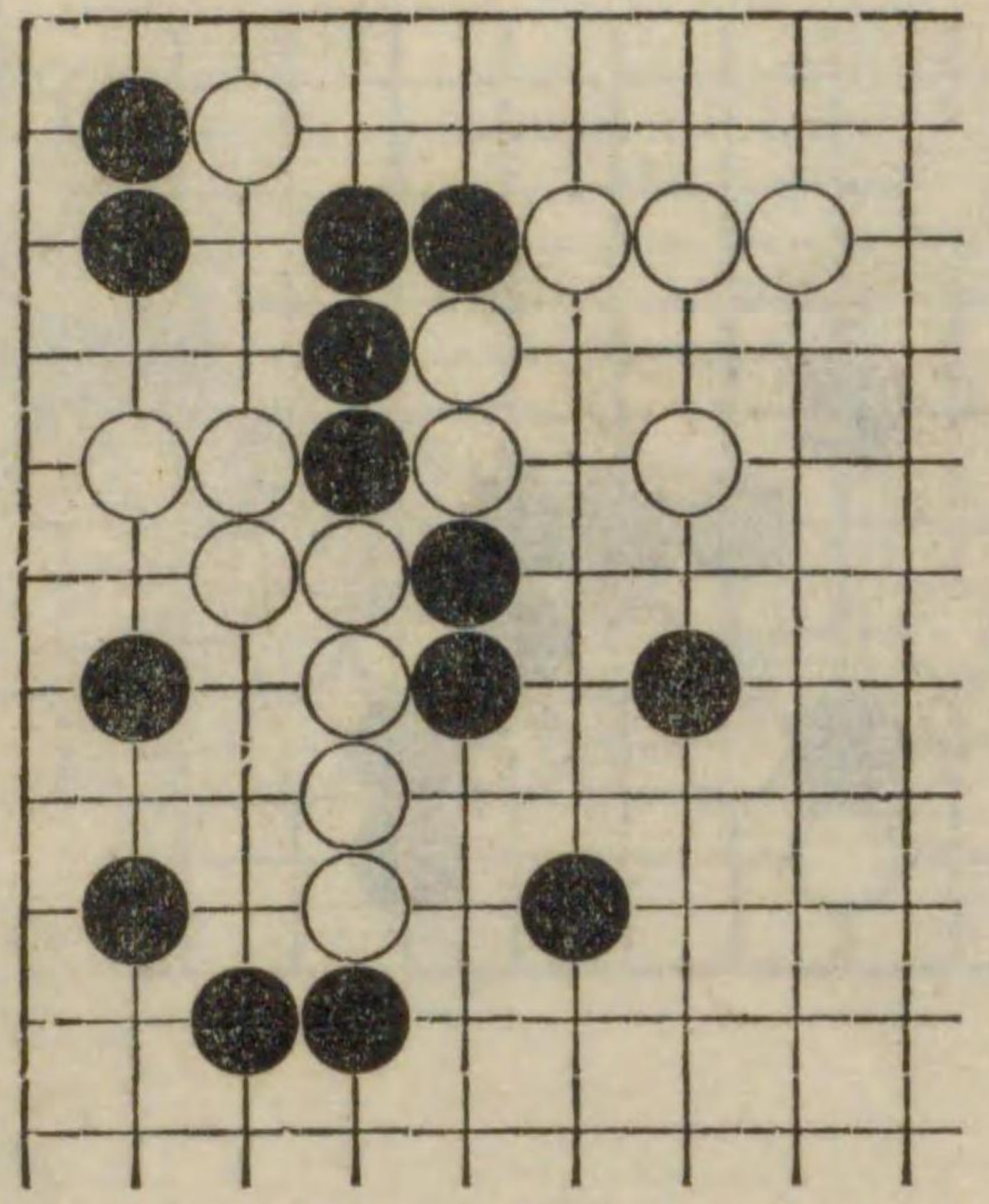
第九十圖 黒先勝

圍中の黒を白強ひて取らんとせば攻合となり却つて白の方失敗するなり。



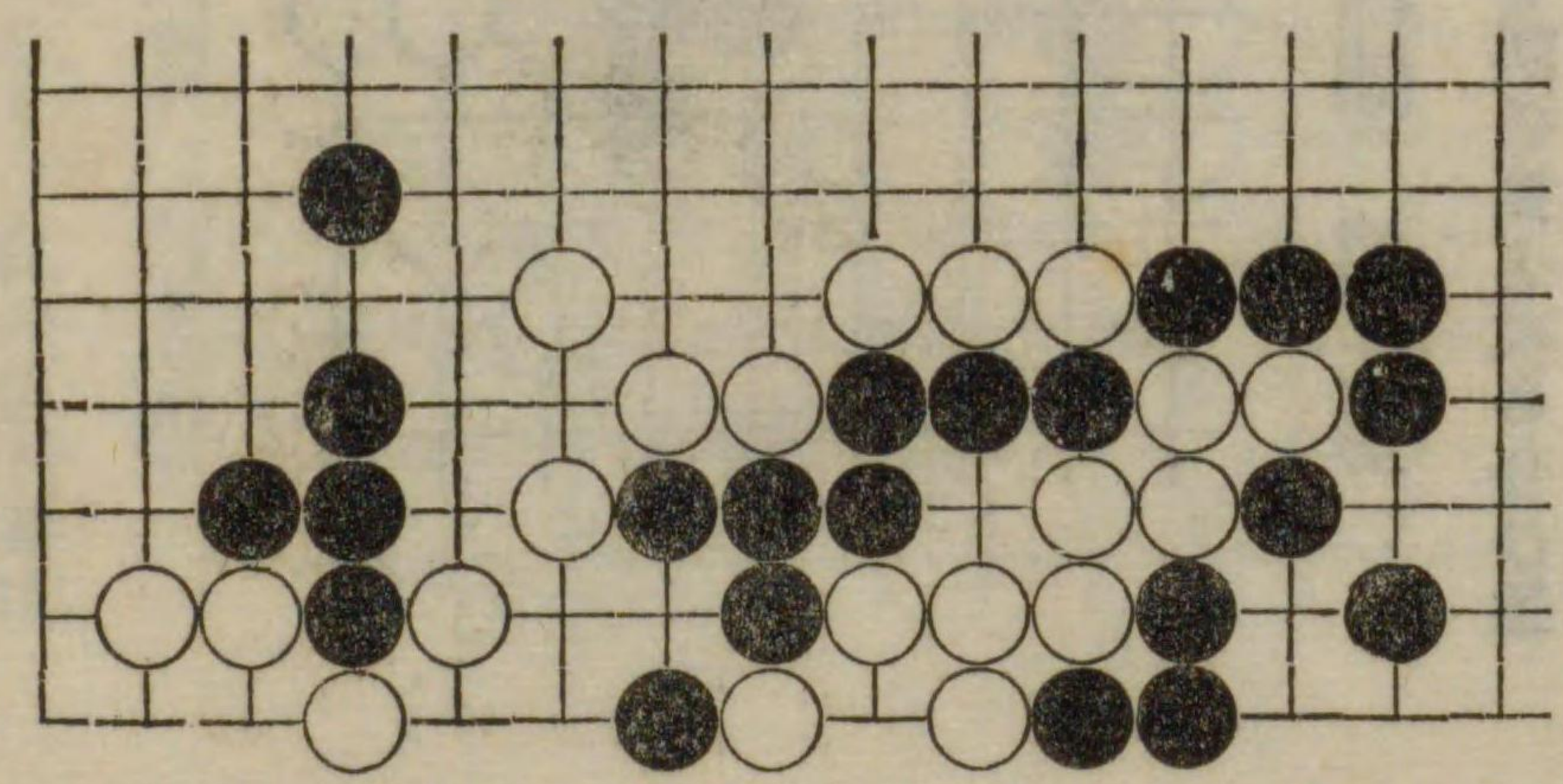
第九十一圖 白先勝

白先にて隅の黒を攻るなり一の手妙。



第九十二圖 黒先勝

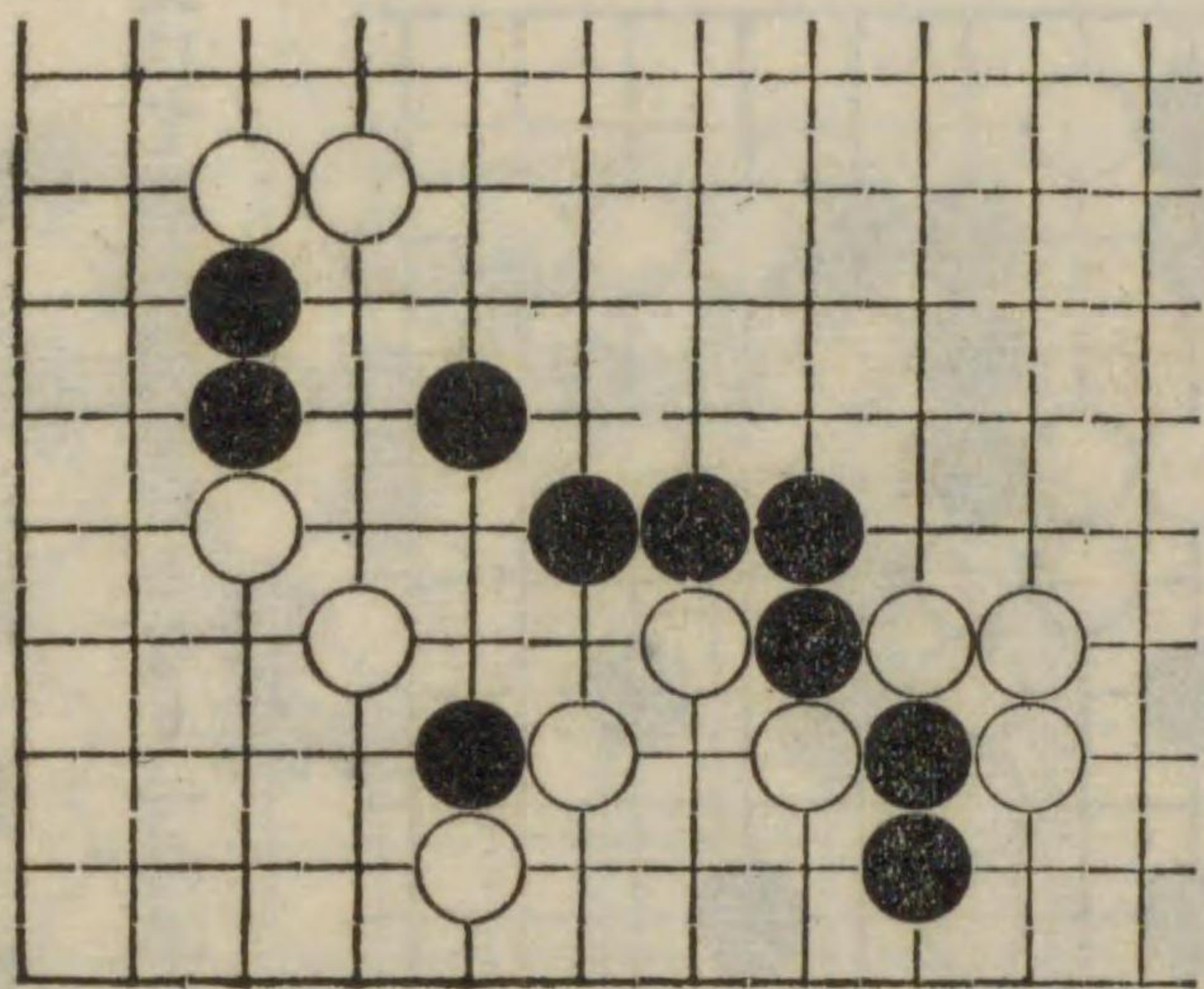
劫の附きたる中央の黒の八子と白九子の攻合に於て黒の勝つなり。





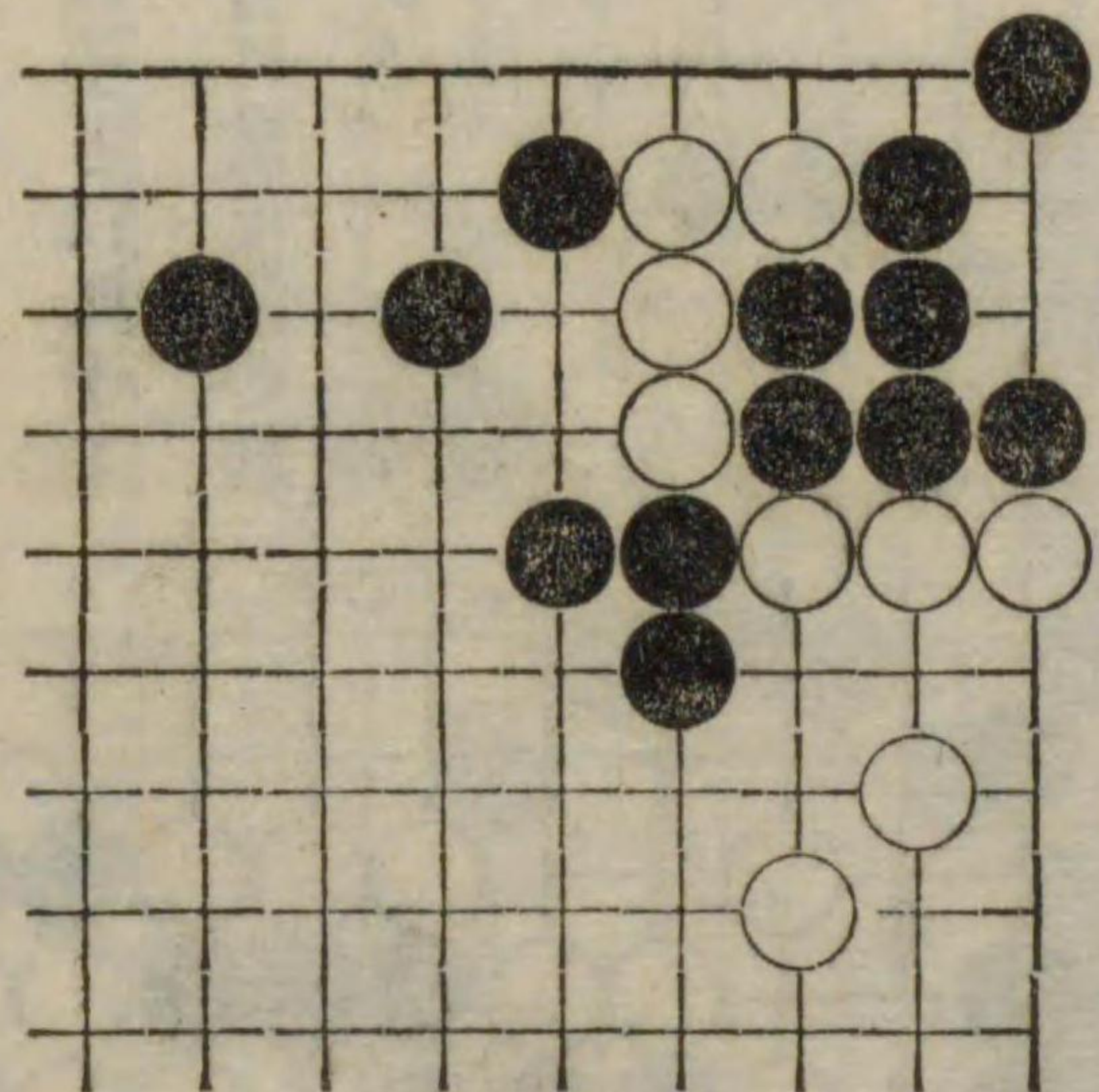
第九十三圖 黒先勝

黒先にて下がりある二子を救はんとし白強ひて捕らんとすれば攻合となりて黒の勝に歸するなり。



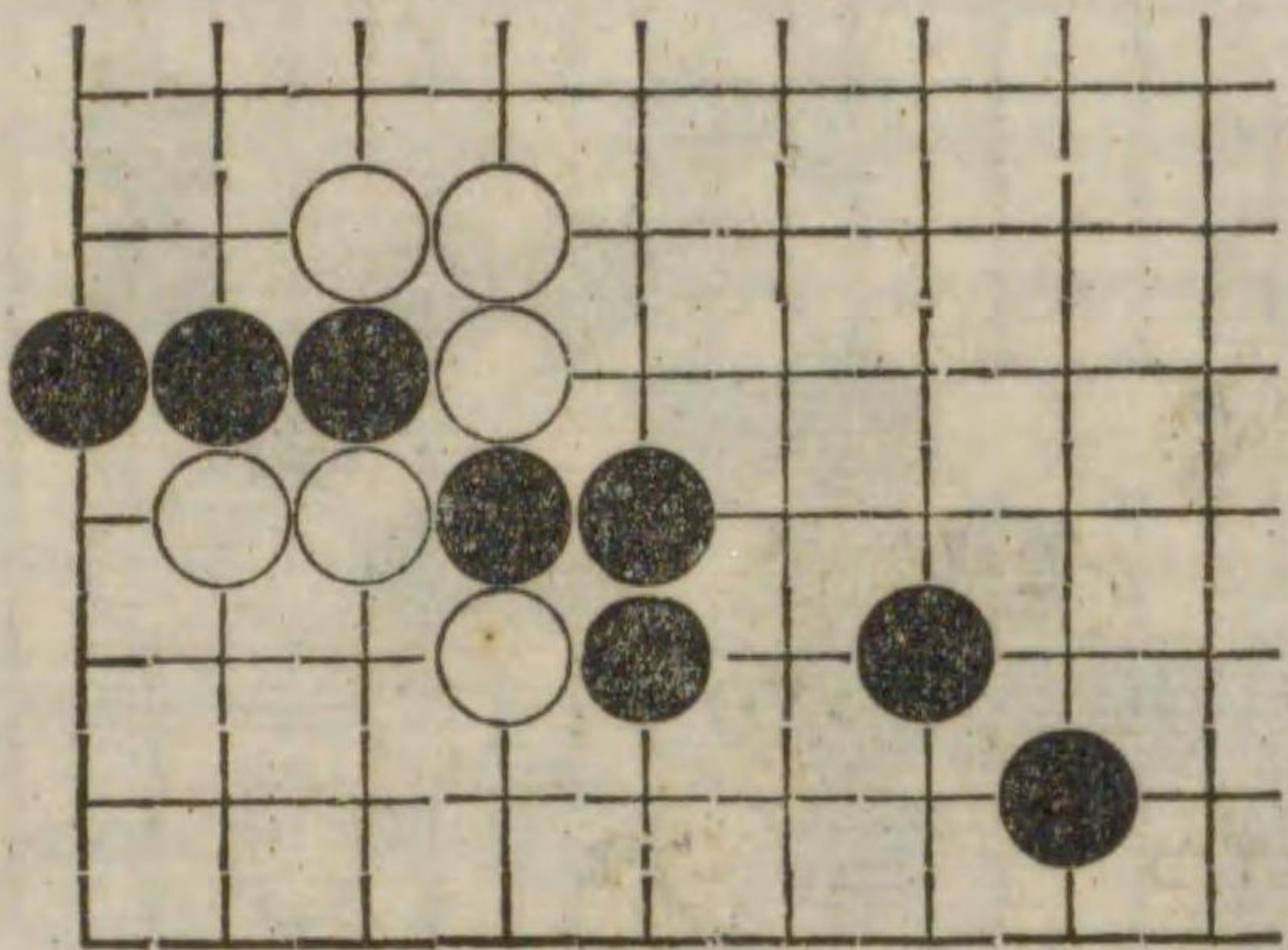
黒先にて白の四子と隅の黒と攻め合ひ黒勝つなり。

第九十四圖 黒先勝



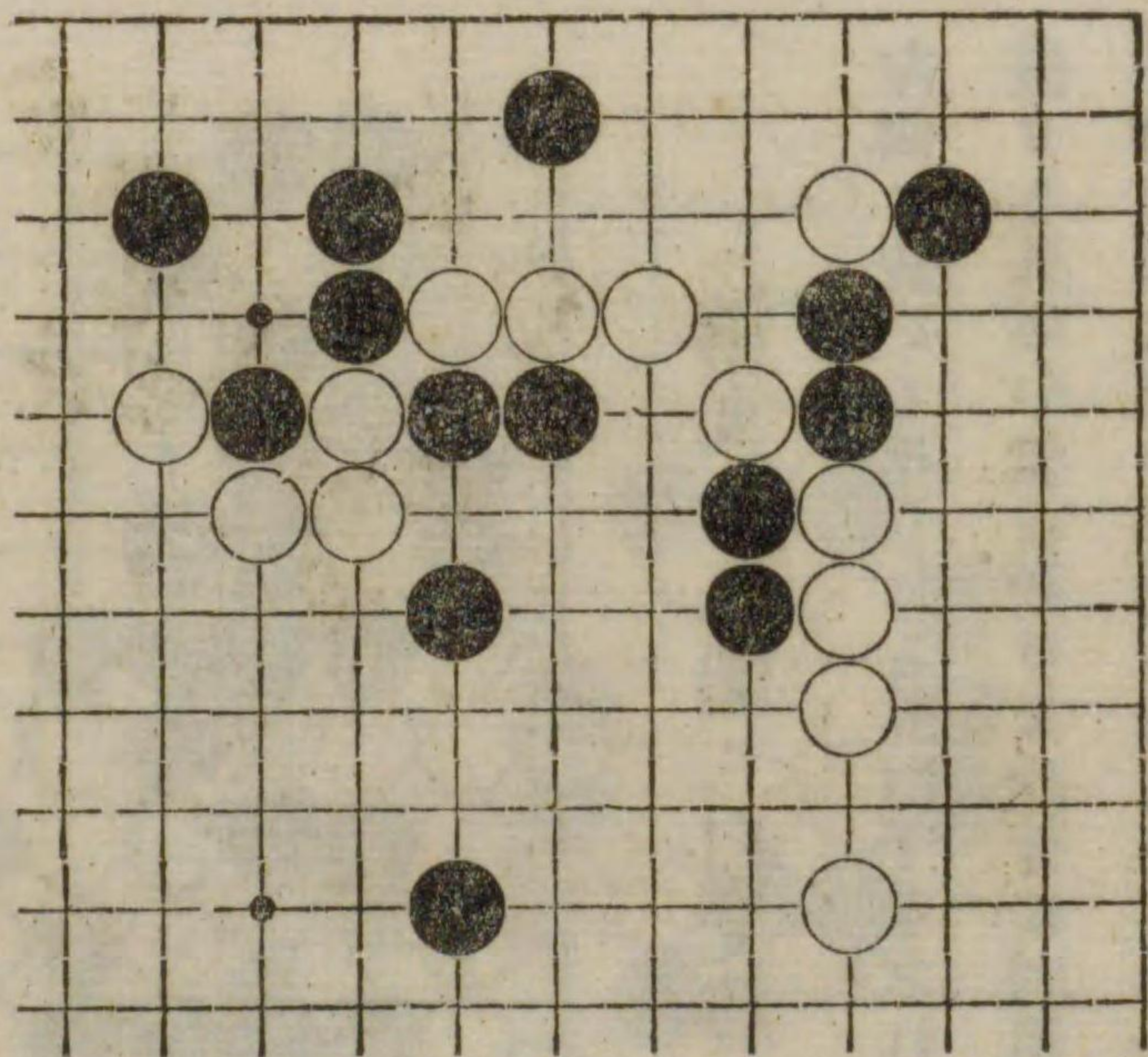
第九十五圖 黒先勝

黒先にて攻合となり隅の白三子を獲るなり。



第九十六圖 白先勝

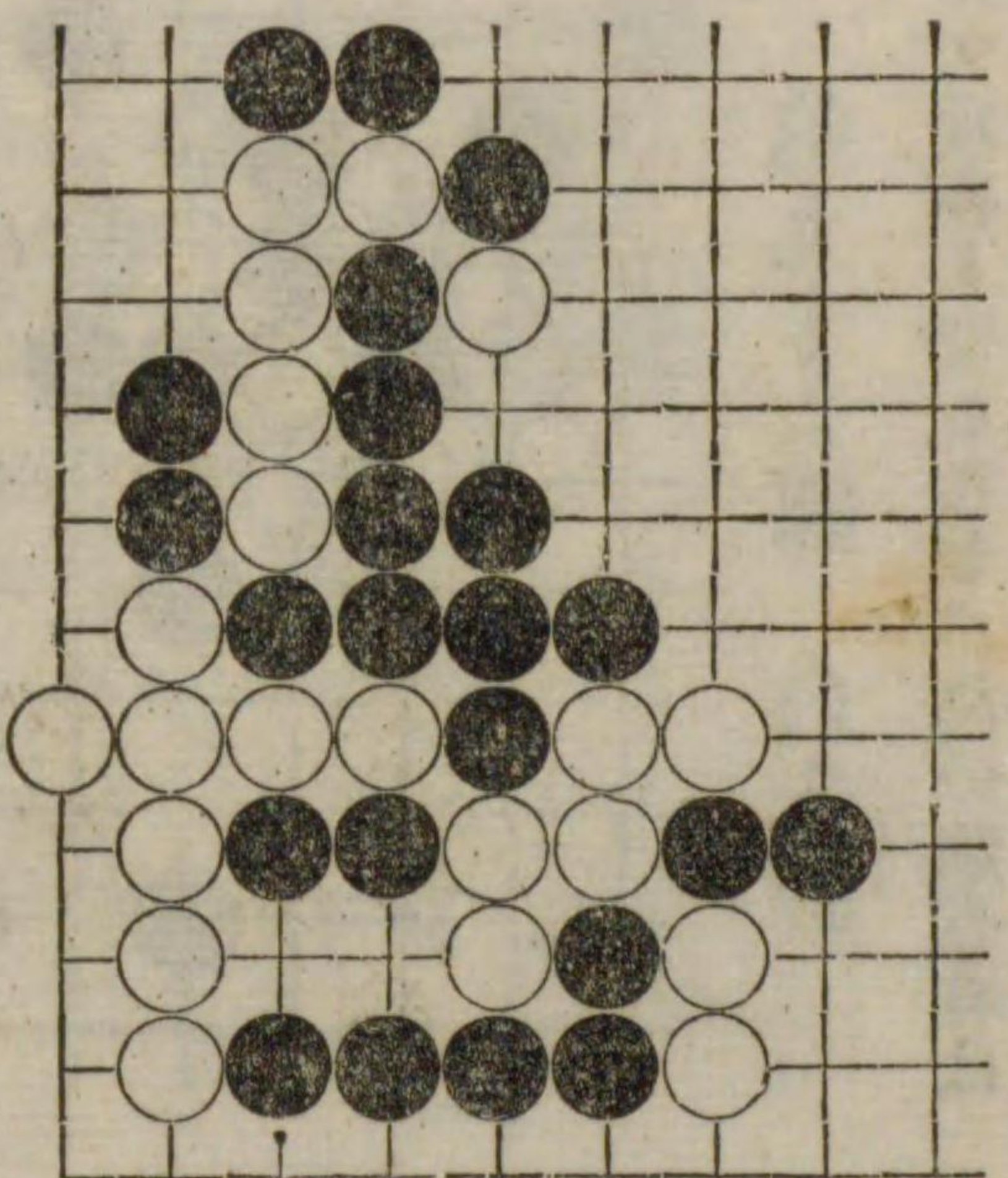
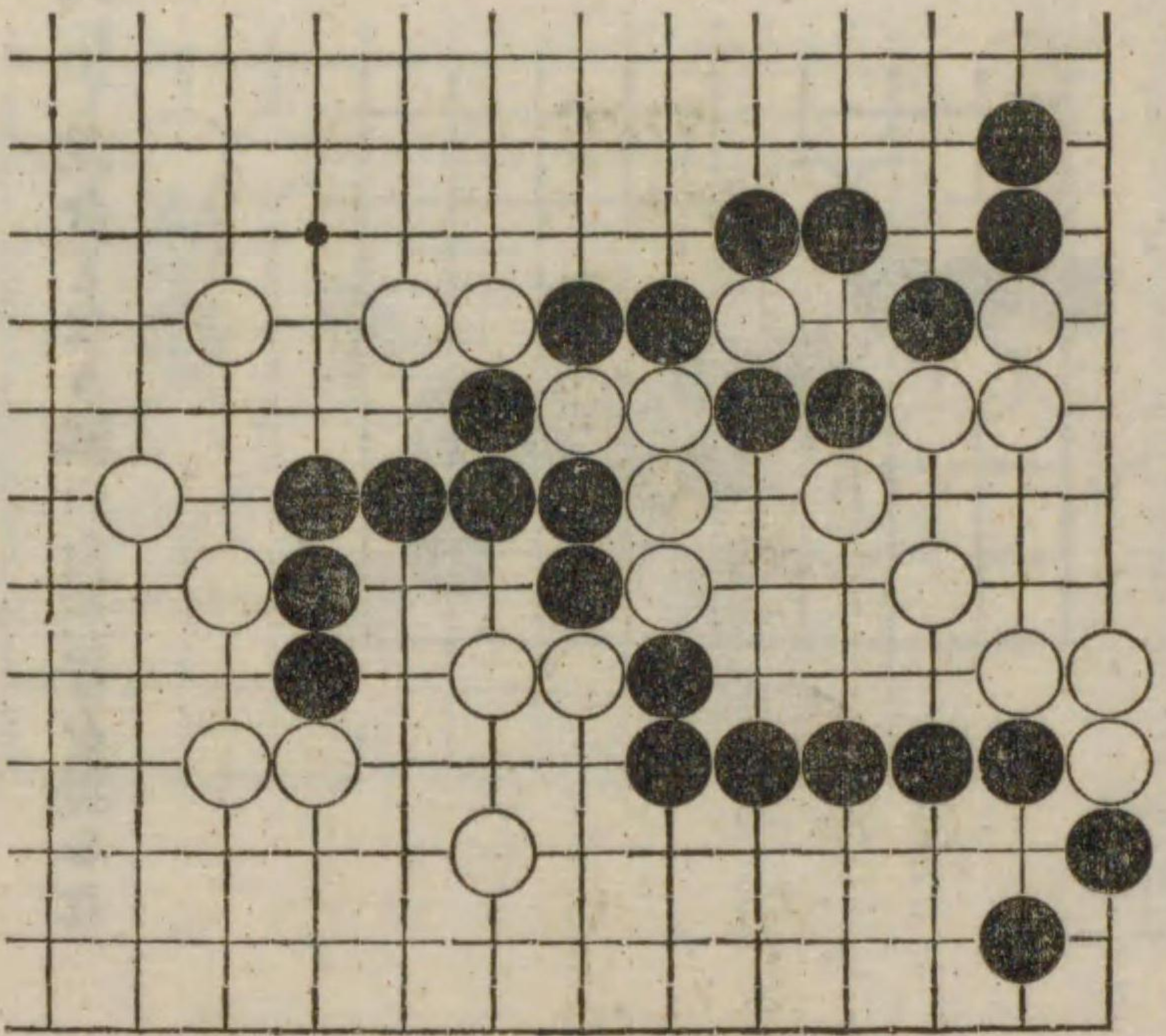
白先にて攻合となるなり、白の第五着は常用の手筋とす。





第九十七圖

黒先攻合勝



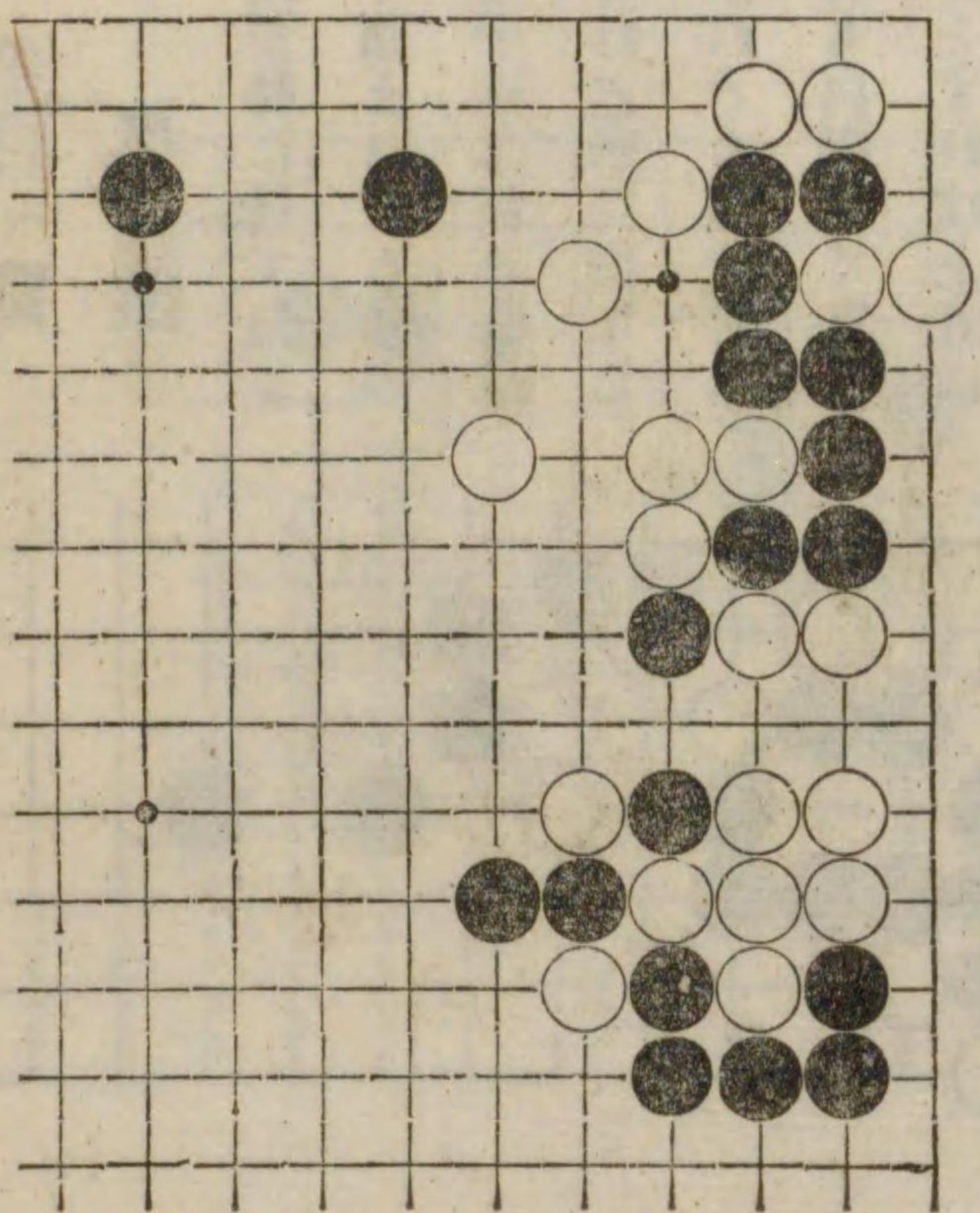
第九十八圖 白先勝

左側に於いて死したる五白子を之れに關係せる外部の黒に於ける攻合に利用して下邊の黒七子を鹵獲し遂に勝を得るに至る。

盤之部

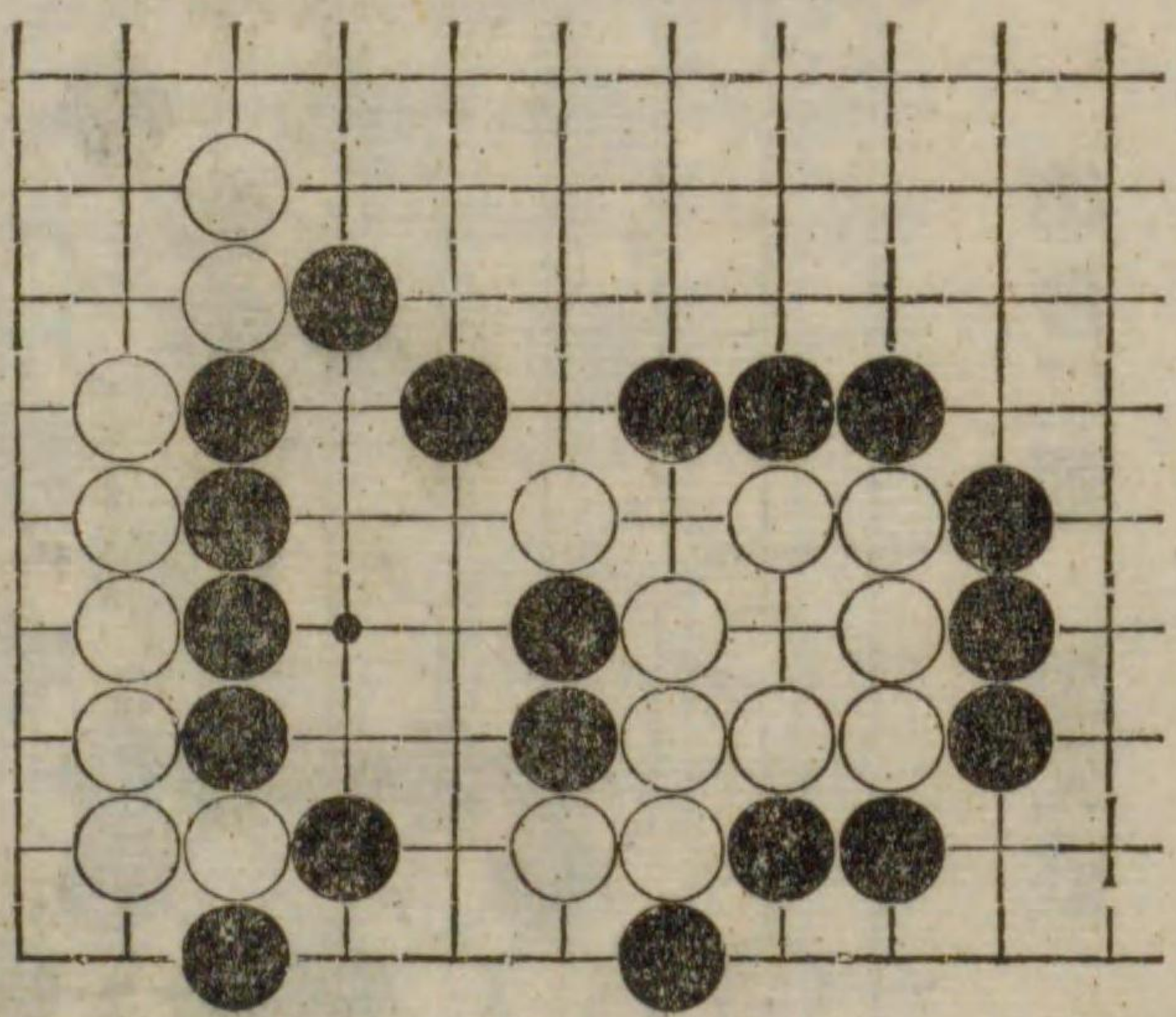
第九十九圖 黒先盤

黒は攻合の味を利用して目的を達するなり而して白が黒の連絡を妨れば黒は隅の八子を復活す。



第百圖 白先盤

白先にて圍中の大石左側の白と連絡す白三は手筋なり。

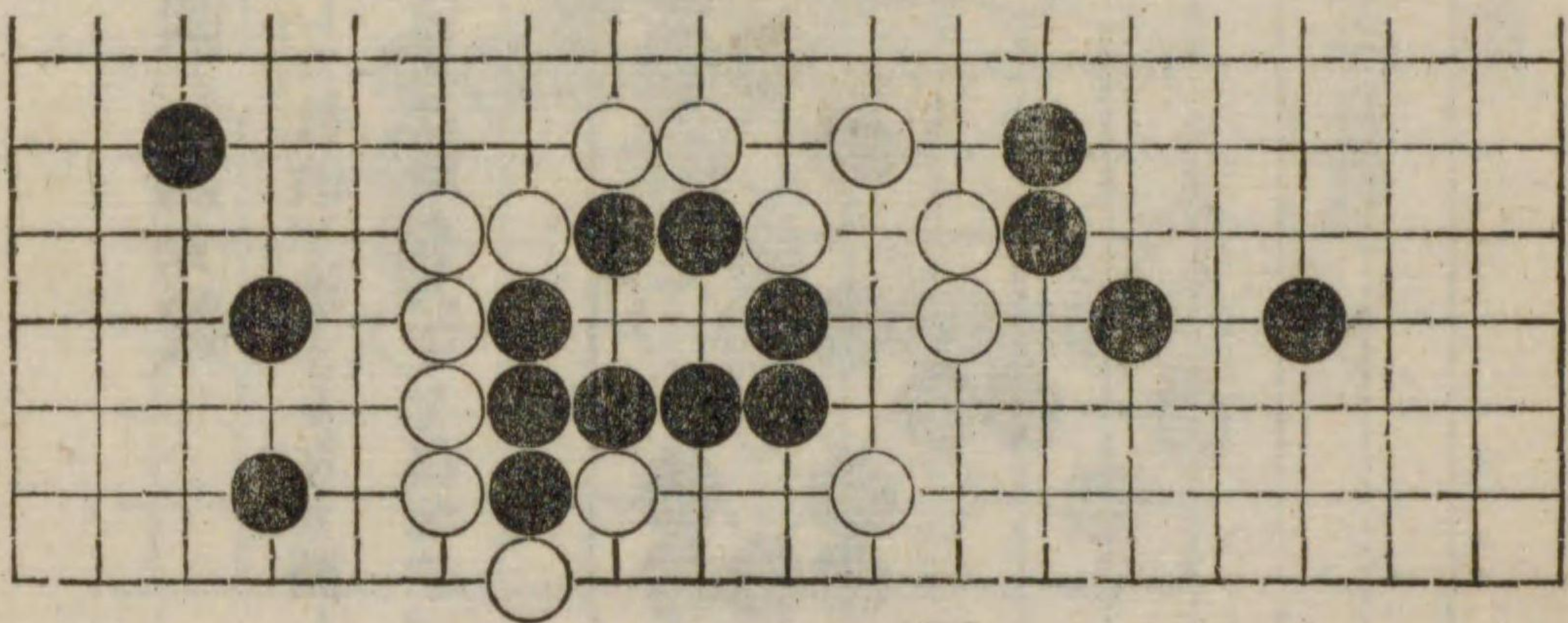




第百一圖

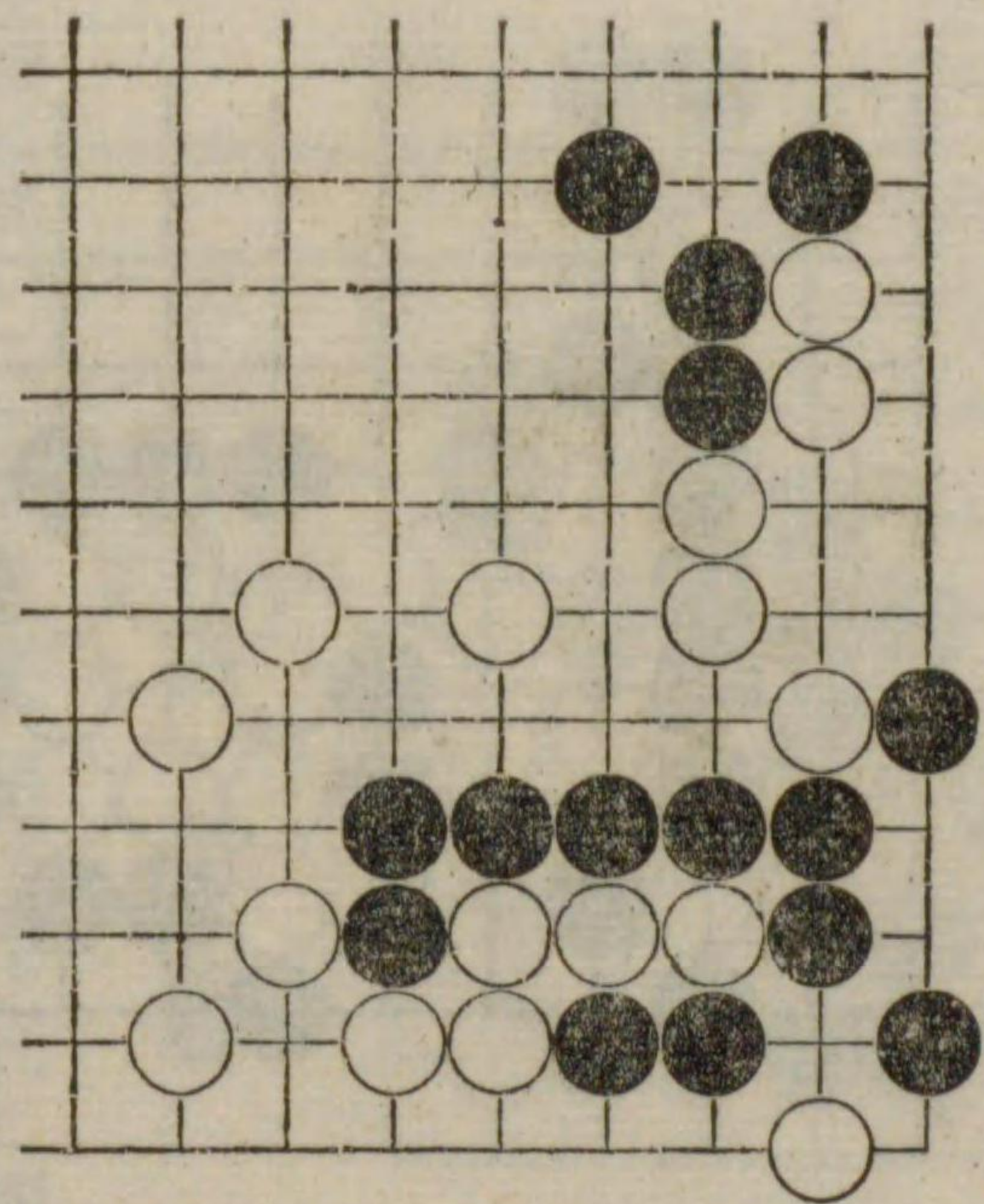
黒先盤

此形勢に於て白より圍まれざる黒の九子は二目の眼はあれど未だ活なし然れども黒先手に打ち白強ひて取らんとすれば上方に連絡するなり。



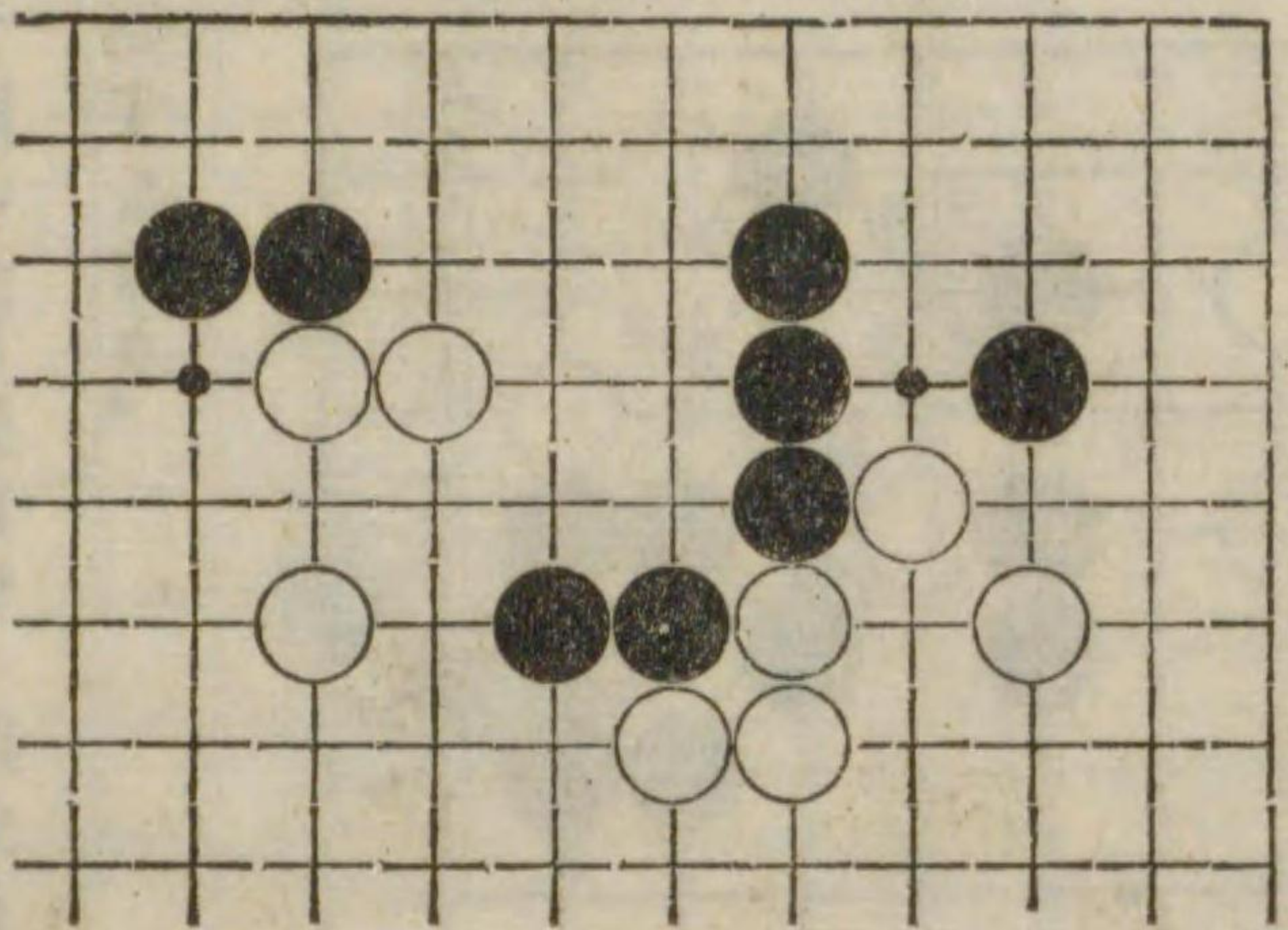
第百二圖 黒先盤

黒先にて隅の大石を活んとし白取らんとするも黒上方に連絡するなり。



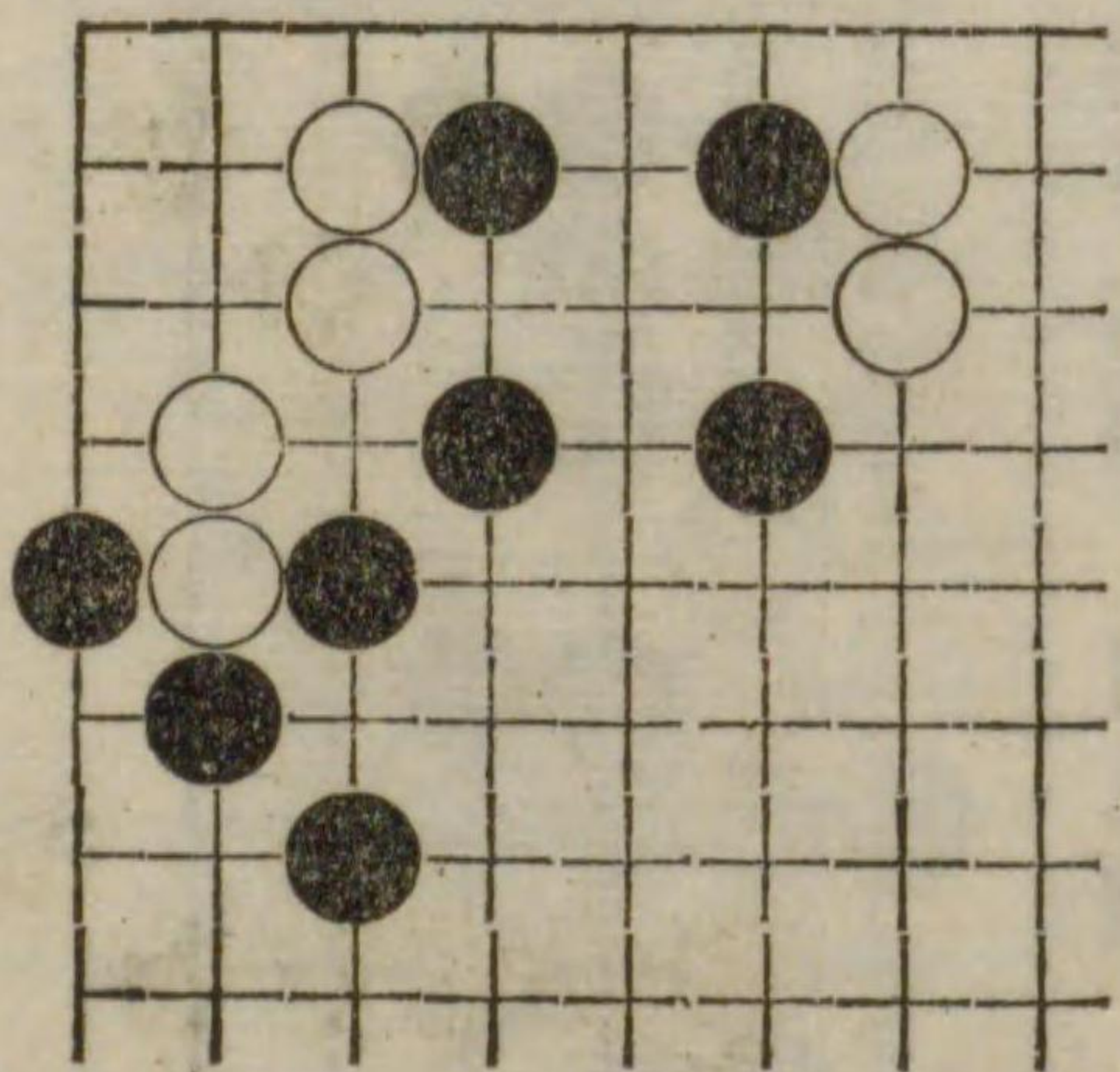
第百三圖 黒先盤

黒先にて上部の二子も白より切斷せらるることなくして邊と連絡するなり。



第百四圖 白先盤

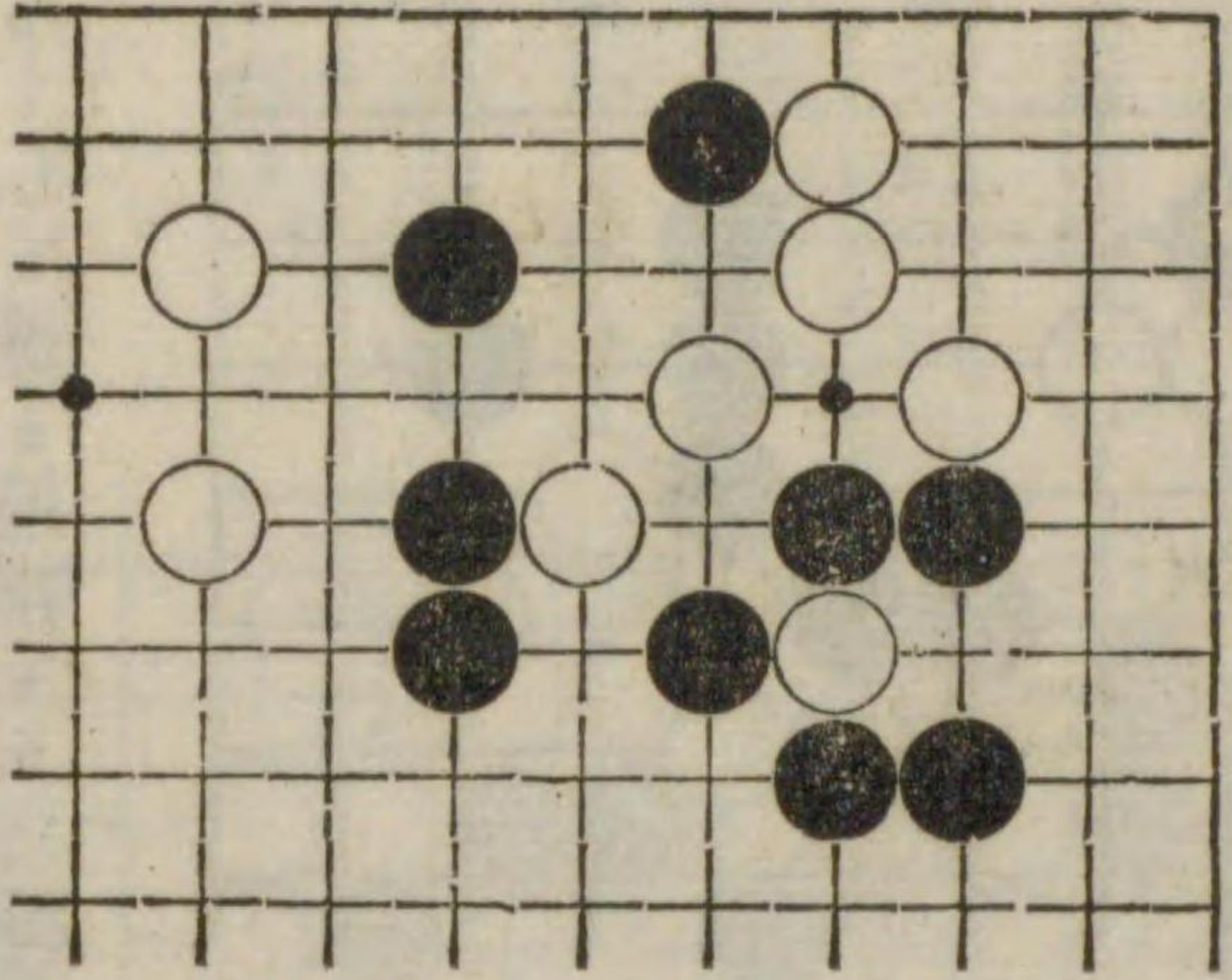
白先にて隅の石を活んとし黒之を取らんとすれば白外部の二子と連絡す。





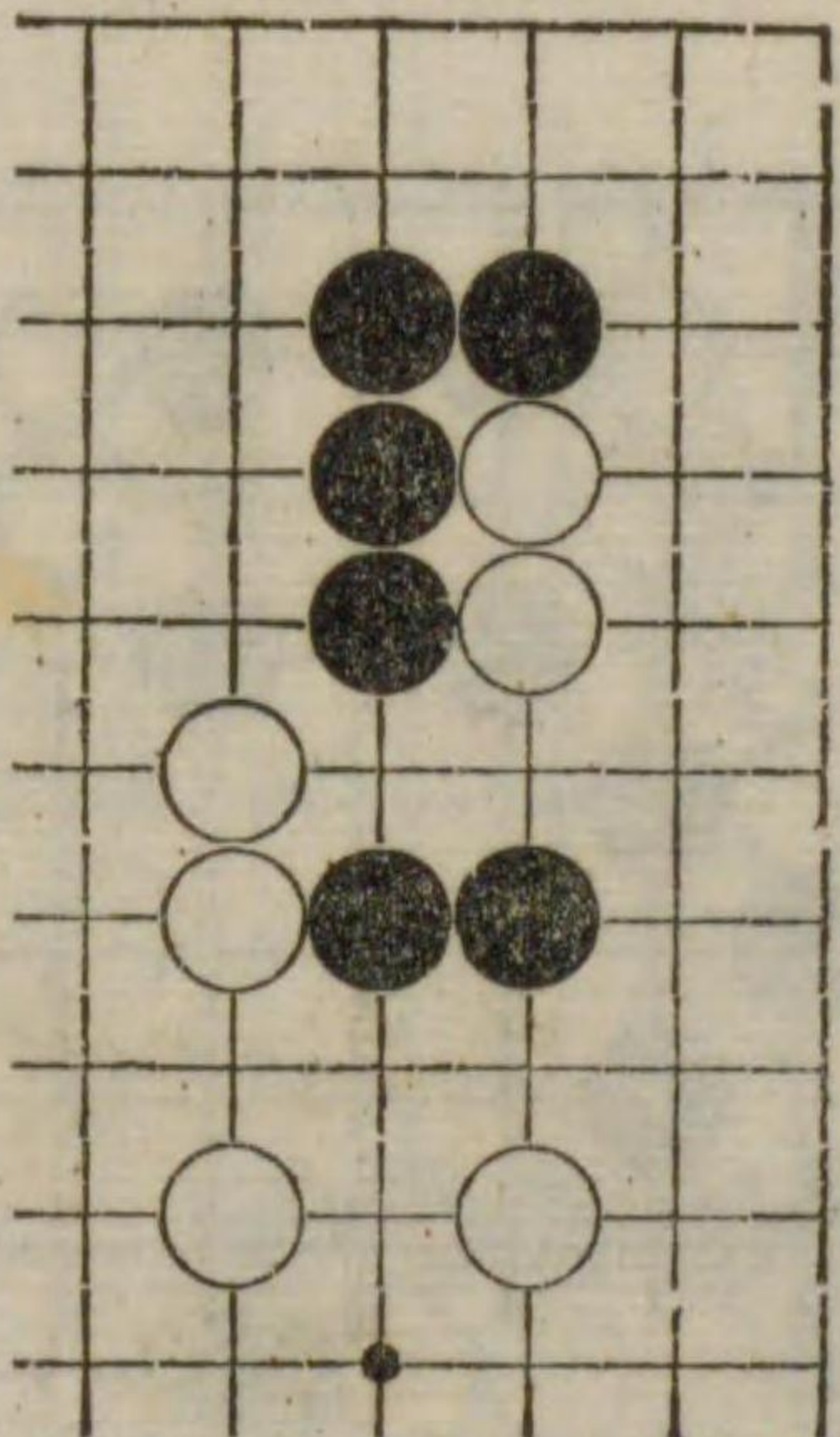
第百五圖 白先盤

白先にて隅の白を外部に一間飛ある二白子と連絡するなり。



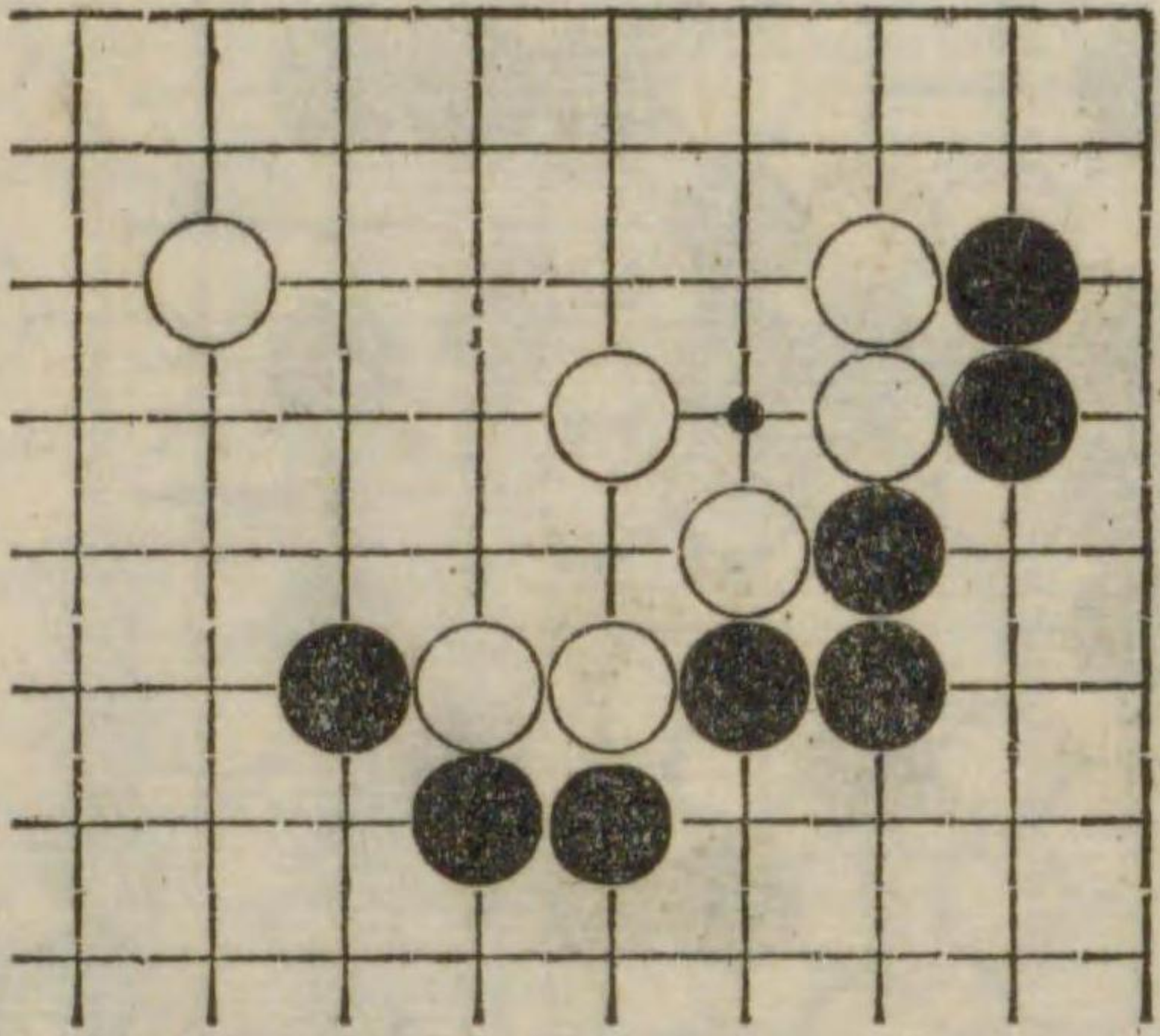
第百六圖 白先盤

白圍中の二子を利用して手段を施すなり。



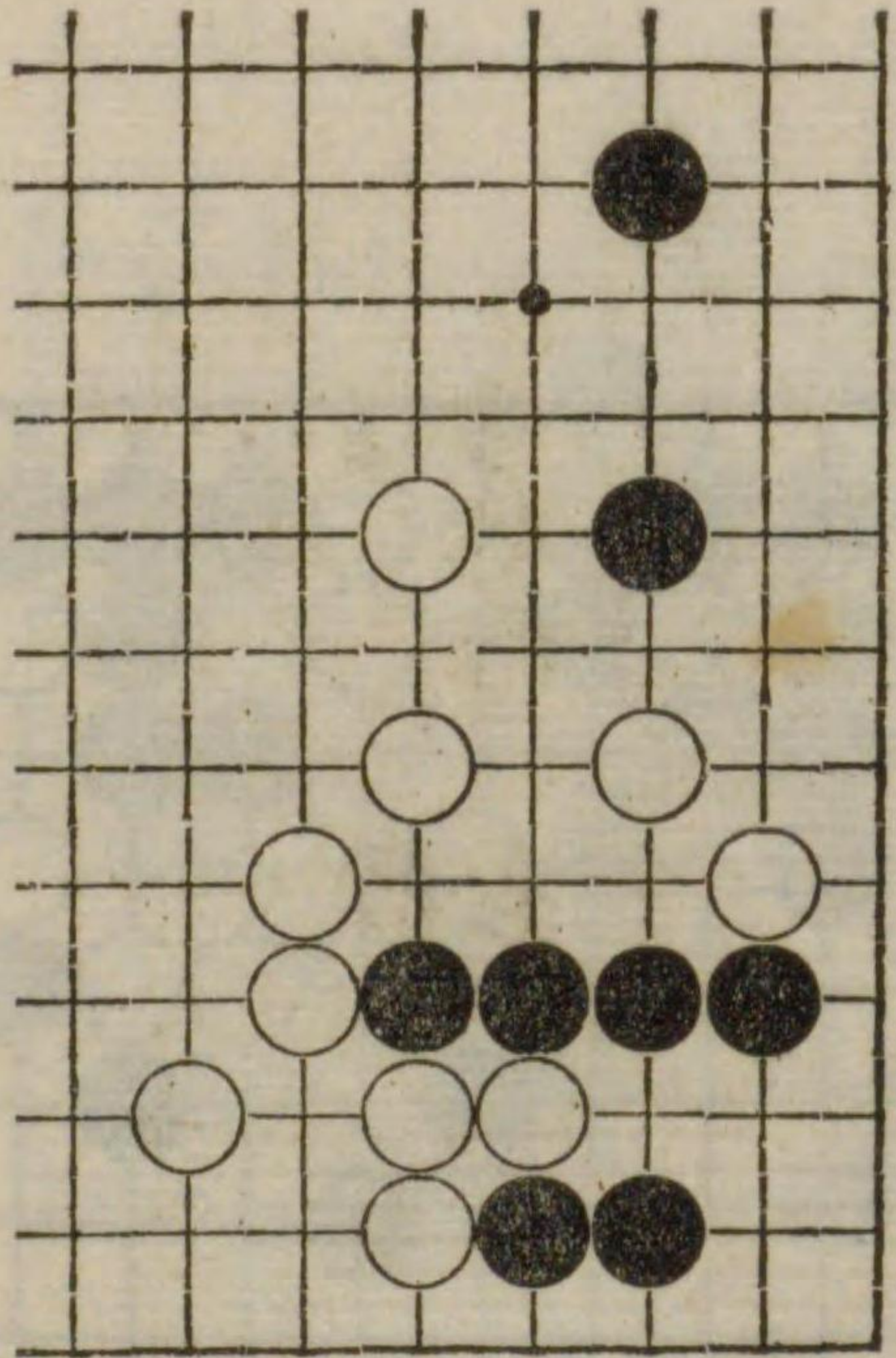
第百七圖 黒先盤

黒の第一着手筋なり總べて斯かるダメツマリの形には黒より白に施すべき手段あるものとする。



第百八圖 黒先盤

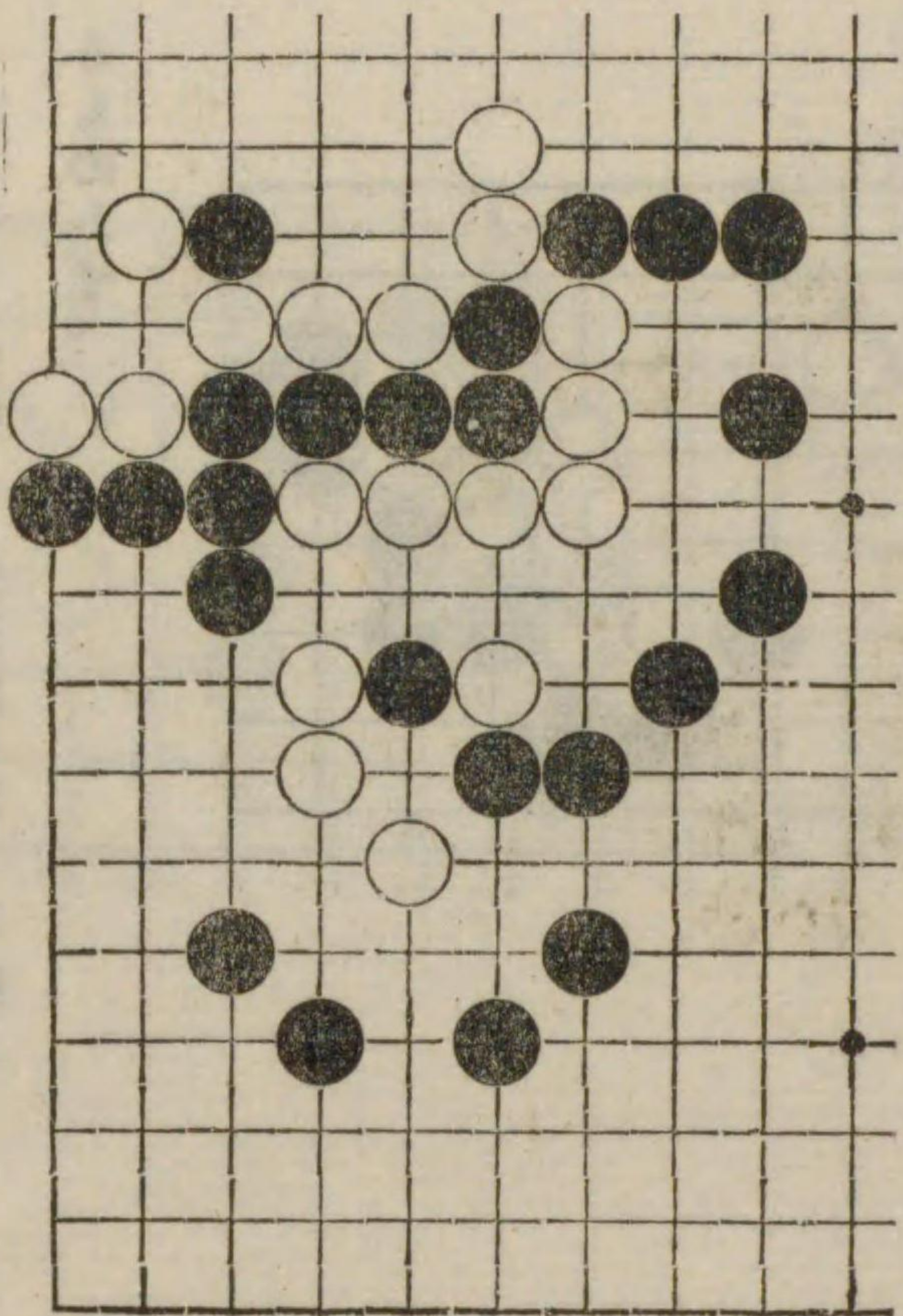
白強ひて隅の黒の眼を奪ふも隅の石は外部に拆きある石との關係にて活るなり。





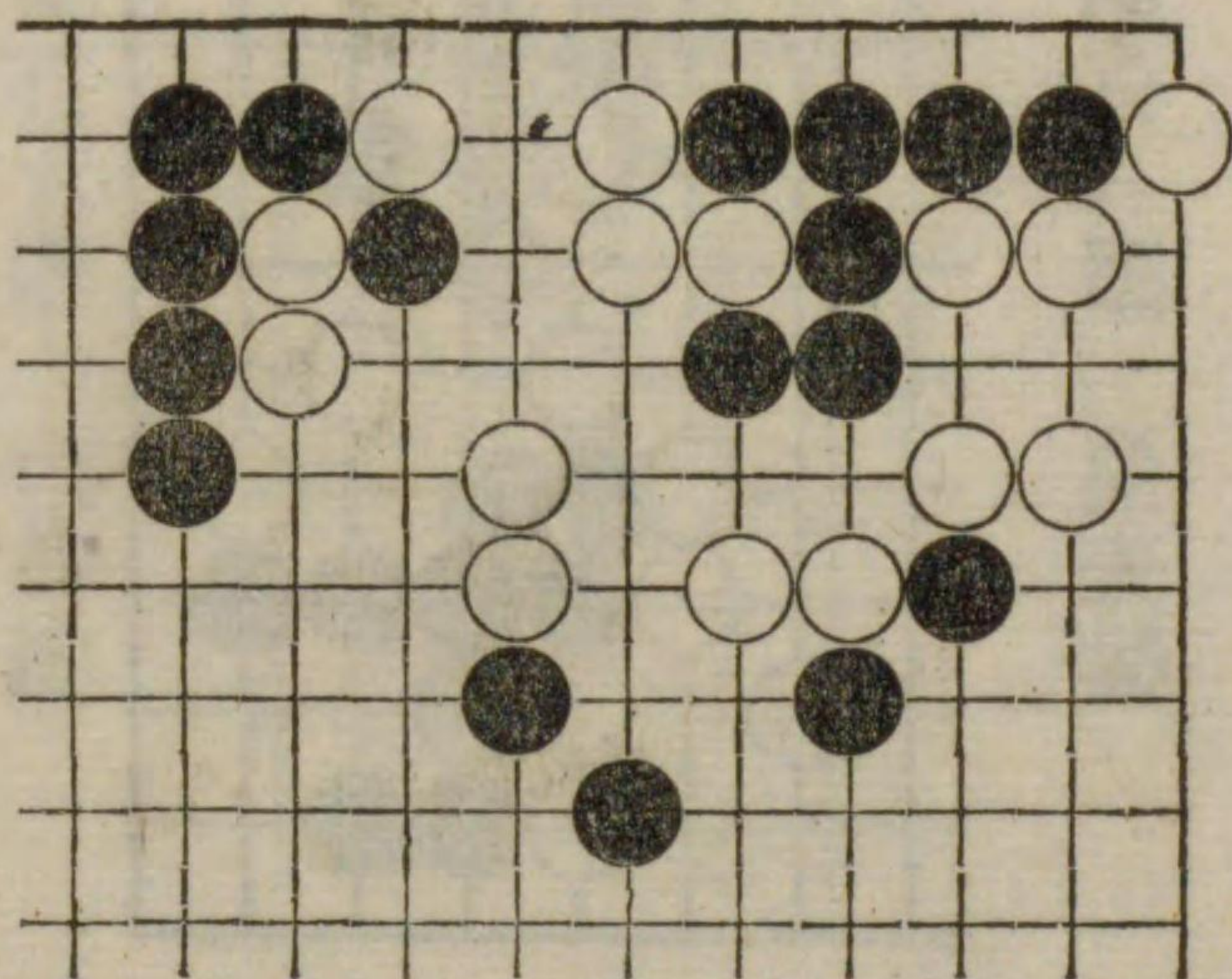
第百九圖 黒先盤

黒の十子下隅に連絡するなり黒の第一着妙手とす。



第百十圖 黒先盤

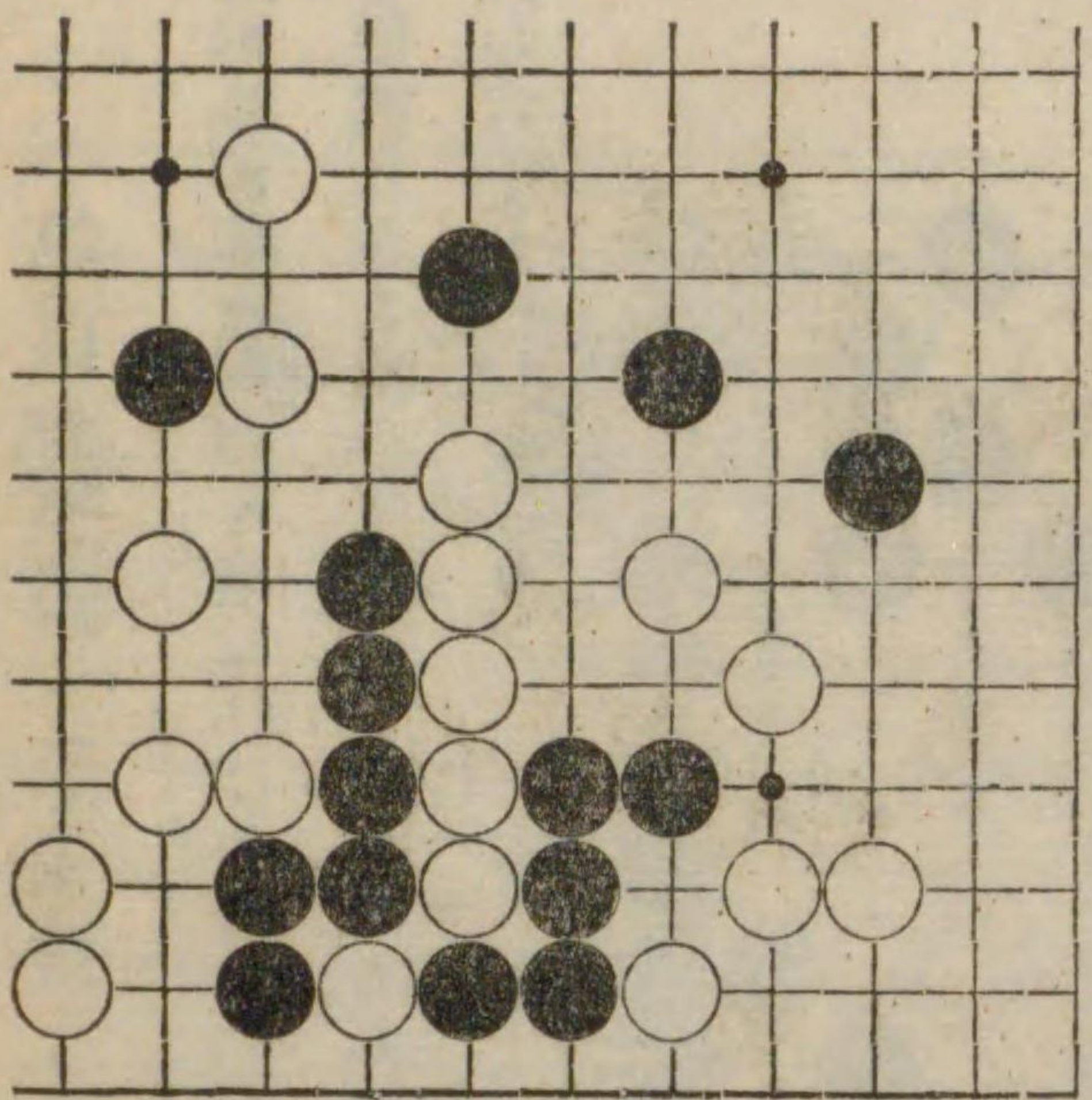
黒先にて外壁の五子と盤りて連絡す一の手妙なり。



夾、撲、持、之、部

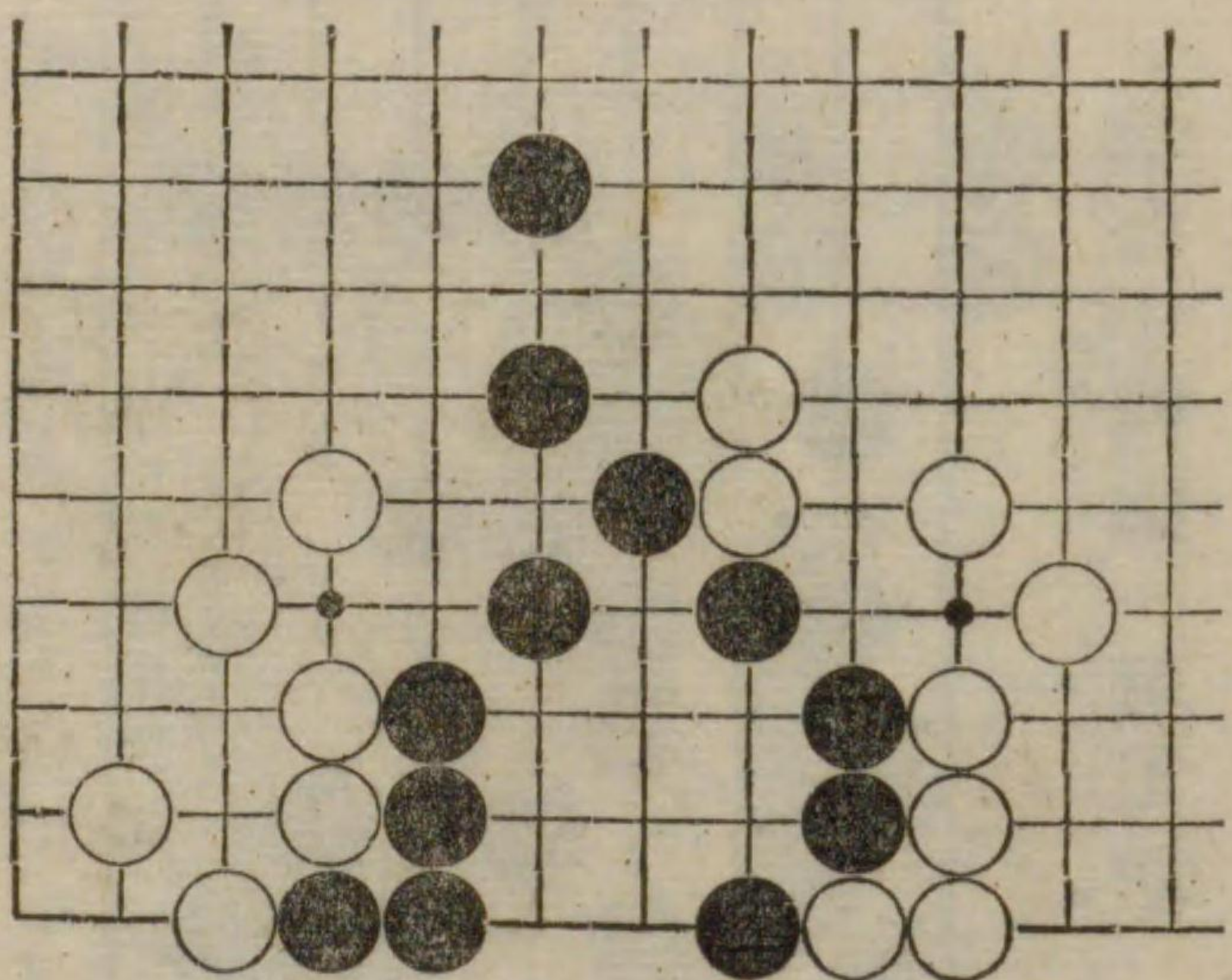
第百十一圖 黒先勝

圍中の黒を脱出する手あり白強ひて取らんと來れば夾みの手筋を生じて却つて白の數子を獲べし。



第百十二圖 白先勝

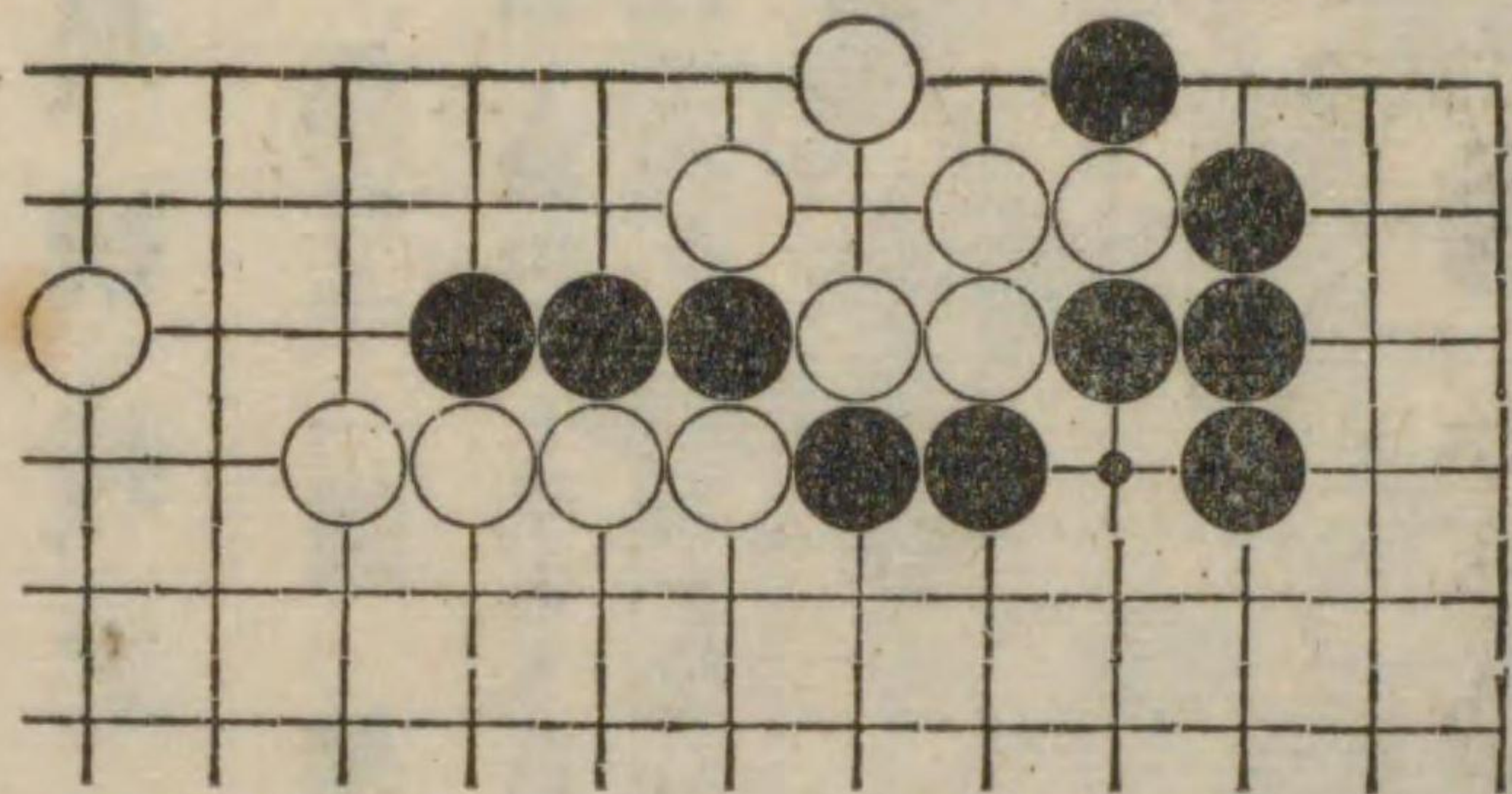
黒地中に得をなす手にて頗簡單白の第七着注意すべし。





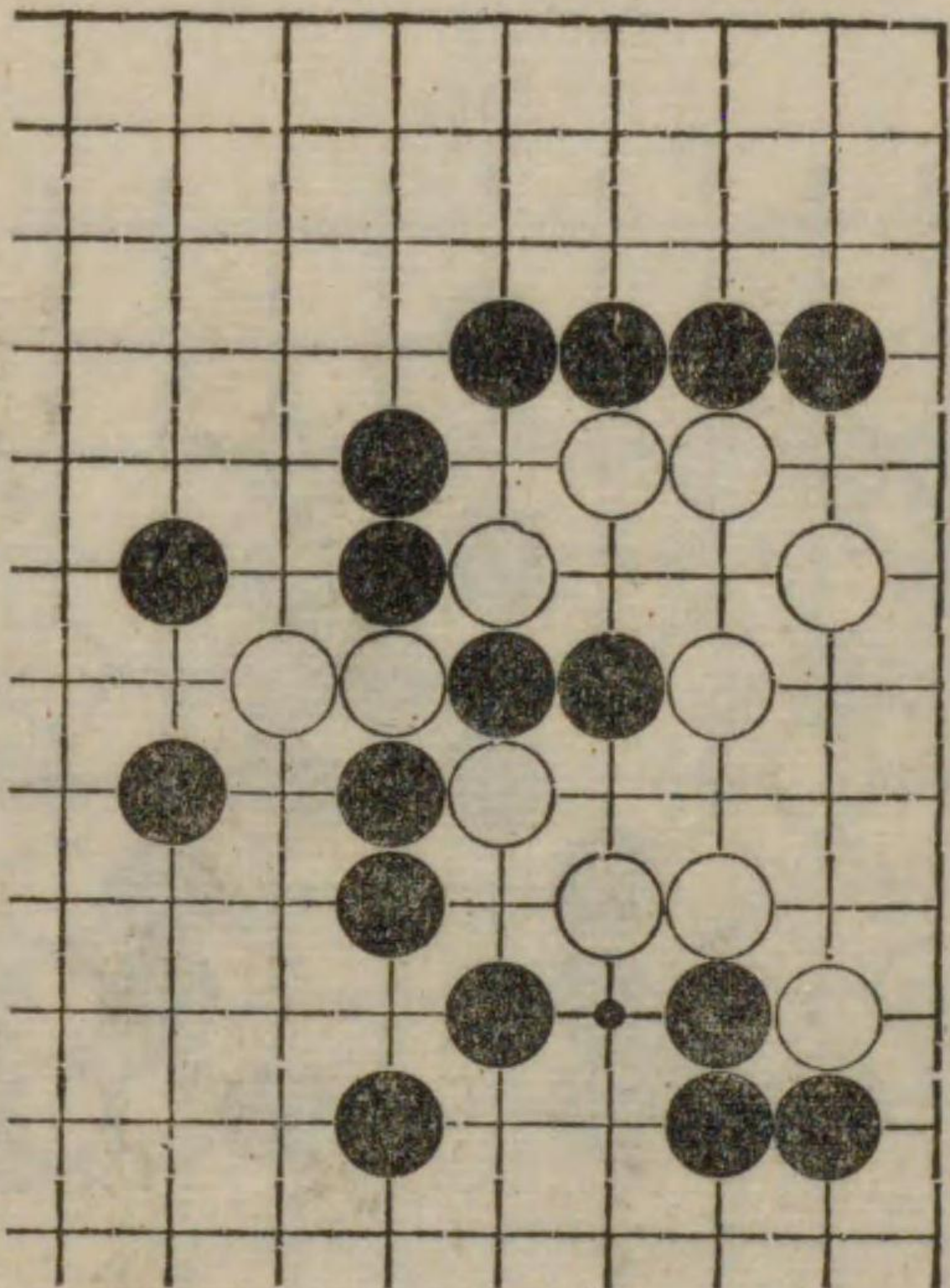
第一百十三圖 黒先持

此形勢は毎々出づる型なれば心得べし白の圈内にある黒の三子と一眼を具へある白の六子との攻合なり。



第一百十四圖 黒先劫

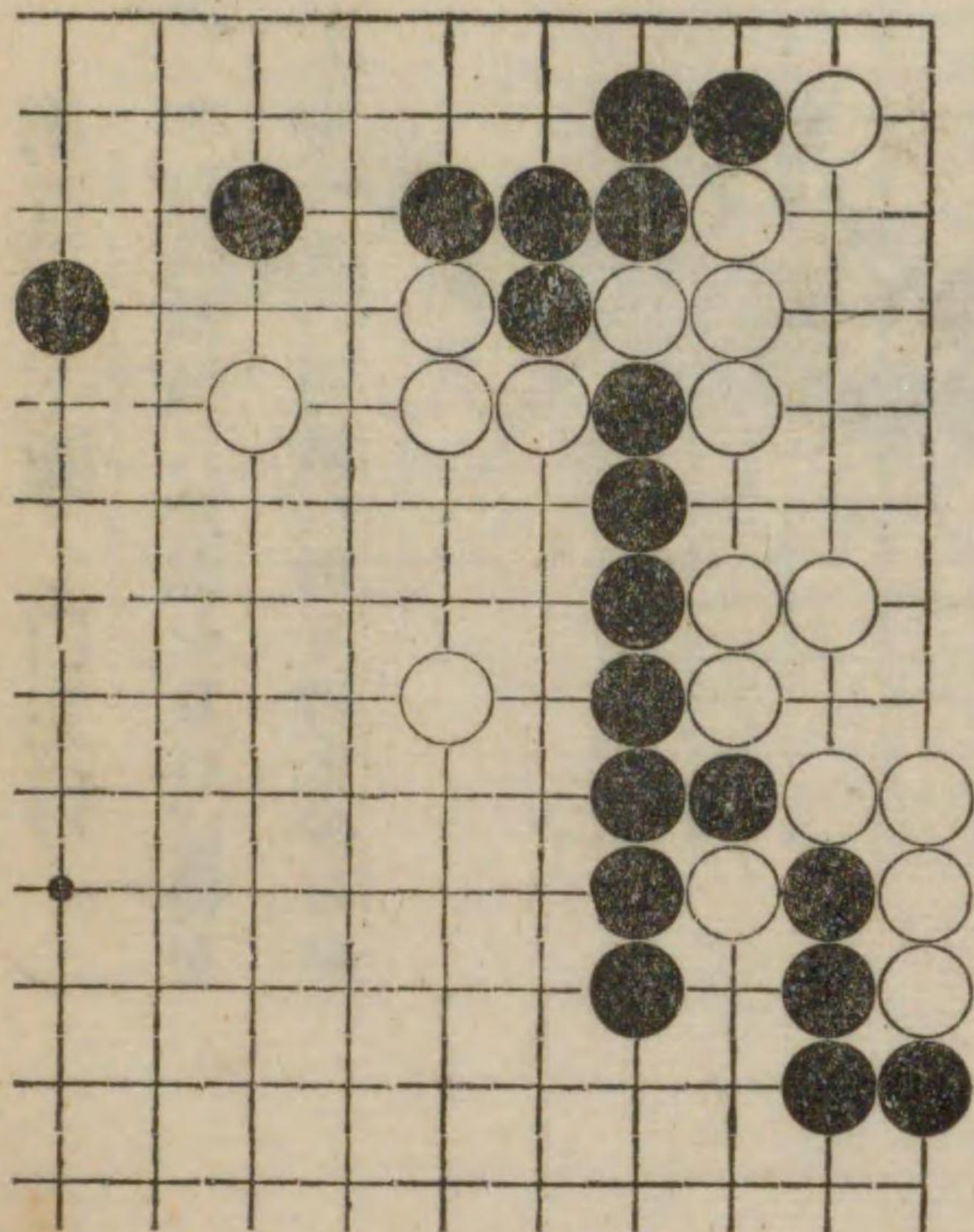
黒の第一、第三の兩着良手なり。



侵分之部

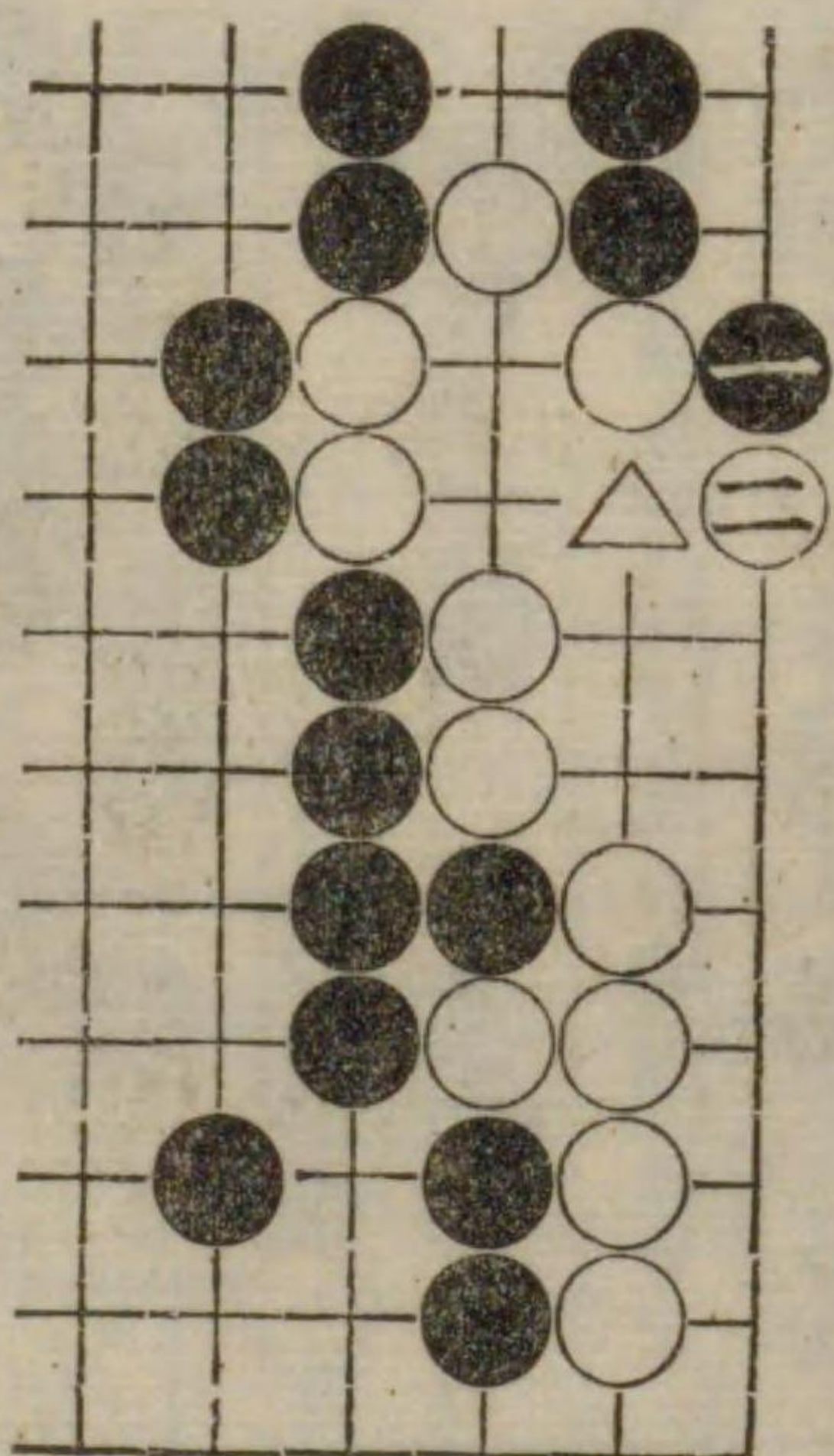
第一百十五圖 黒先一目得

本形は互先目外大桂馬掛けに往々起り易き定勢にして茲に掲げしは決して生死を問ふにあらず右邊の白地に黒が行ふべき侵分の最良法を案出せしめんがためなり而して外部の五子の白等は別に關係なきも姿容上配置せしに止るのみ。



第一百十六圖 黒先得

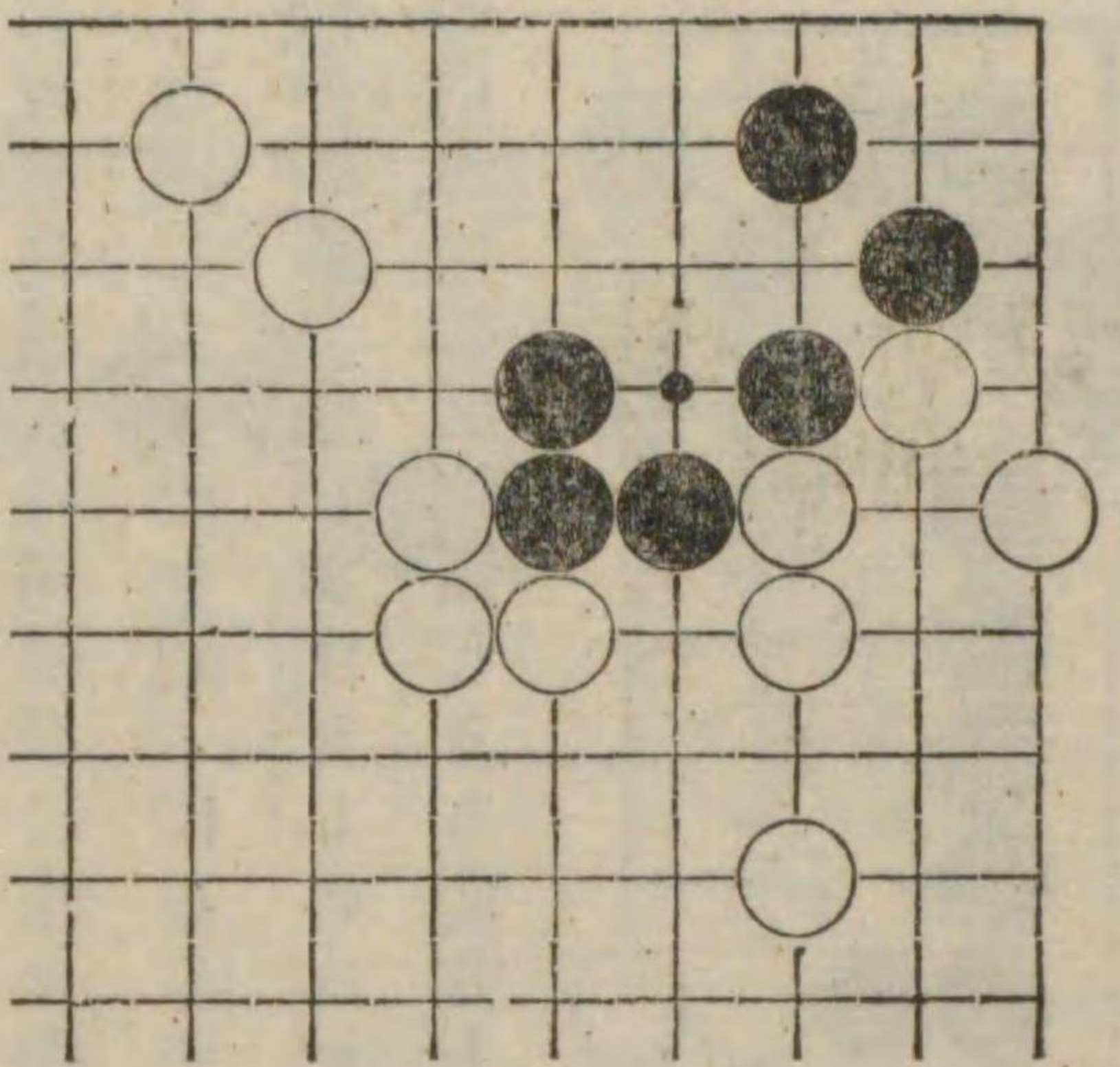
此形は置碁にあらはれたるものにて前問と同じく白の生死を論ずるにあらず唯侵分の損徳を説明するに用ひしものにて黒が一と縛ねしに對し白は△印に引くが普通なるに二と約へしとせば黒は如何なる手を以て此の白の無理を咎むべきか尤黒には最初より一にて△印に頂くる手もあるなれど故らに斯く打ちて示す。





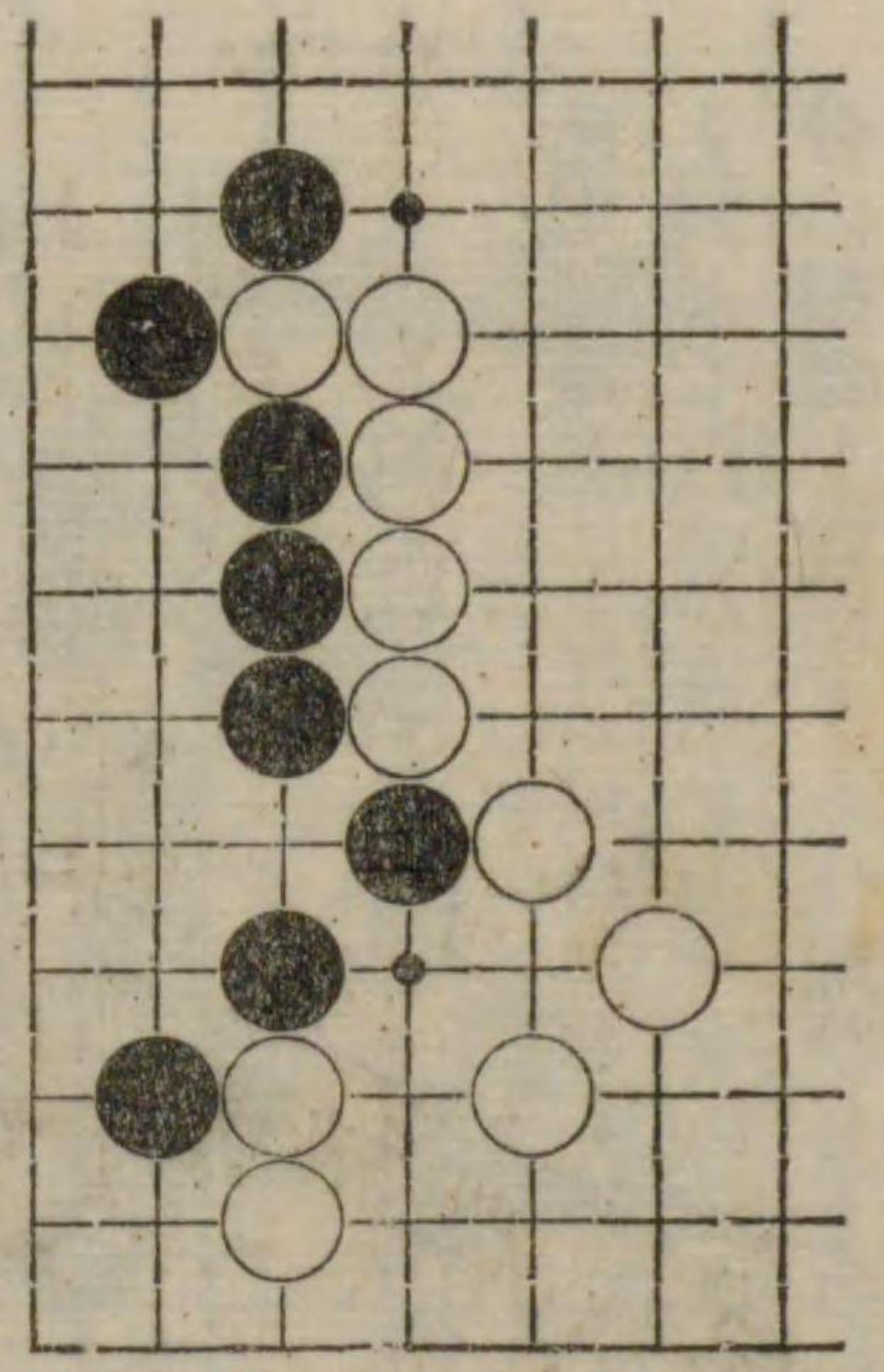
第十七圖 白先得

此形勢にて白は如何に此黒を攻れば得をなすべきや攻法の巧拙に因り得失少なからず。



第十八圖 白先得

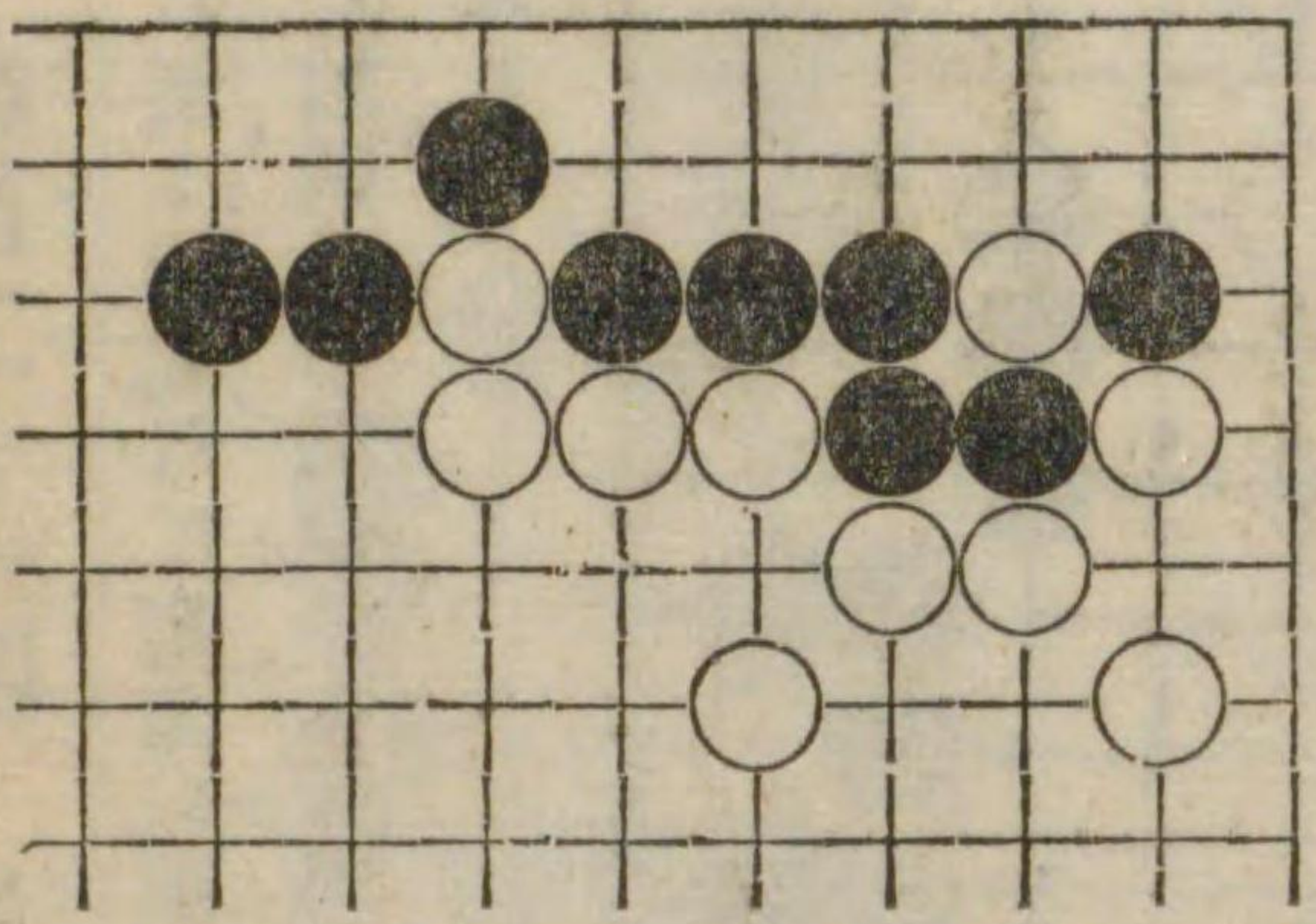
此形勢に於て白先なれば黒の地内に手を打ちて得をなすべし白の第三着は常用の手筋なり。



第十九圖

白先約十六七目得

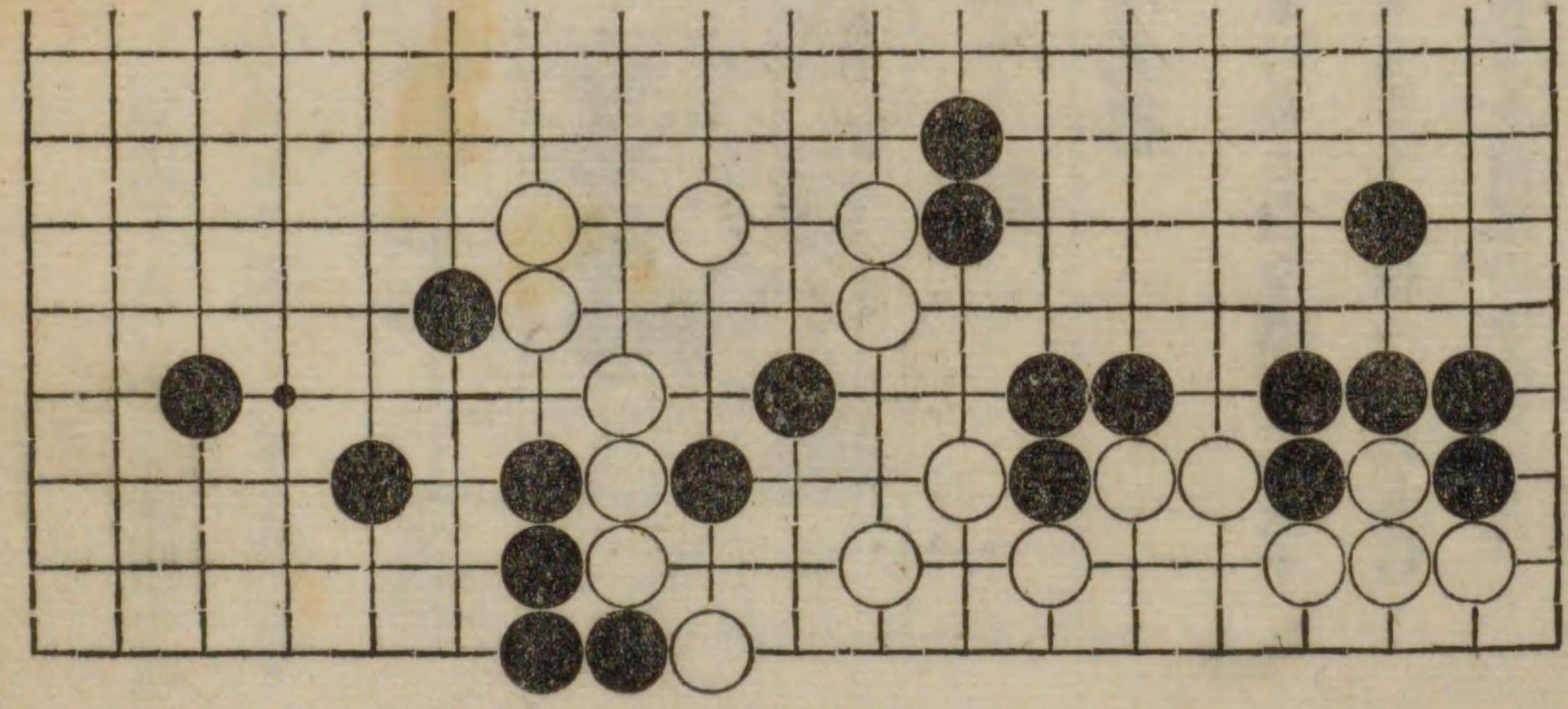
此型は互先碁の實戦より出來たる形にしてダメツマリより白に手を生ずるなり。



第二十圖

黒先大得

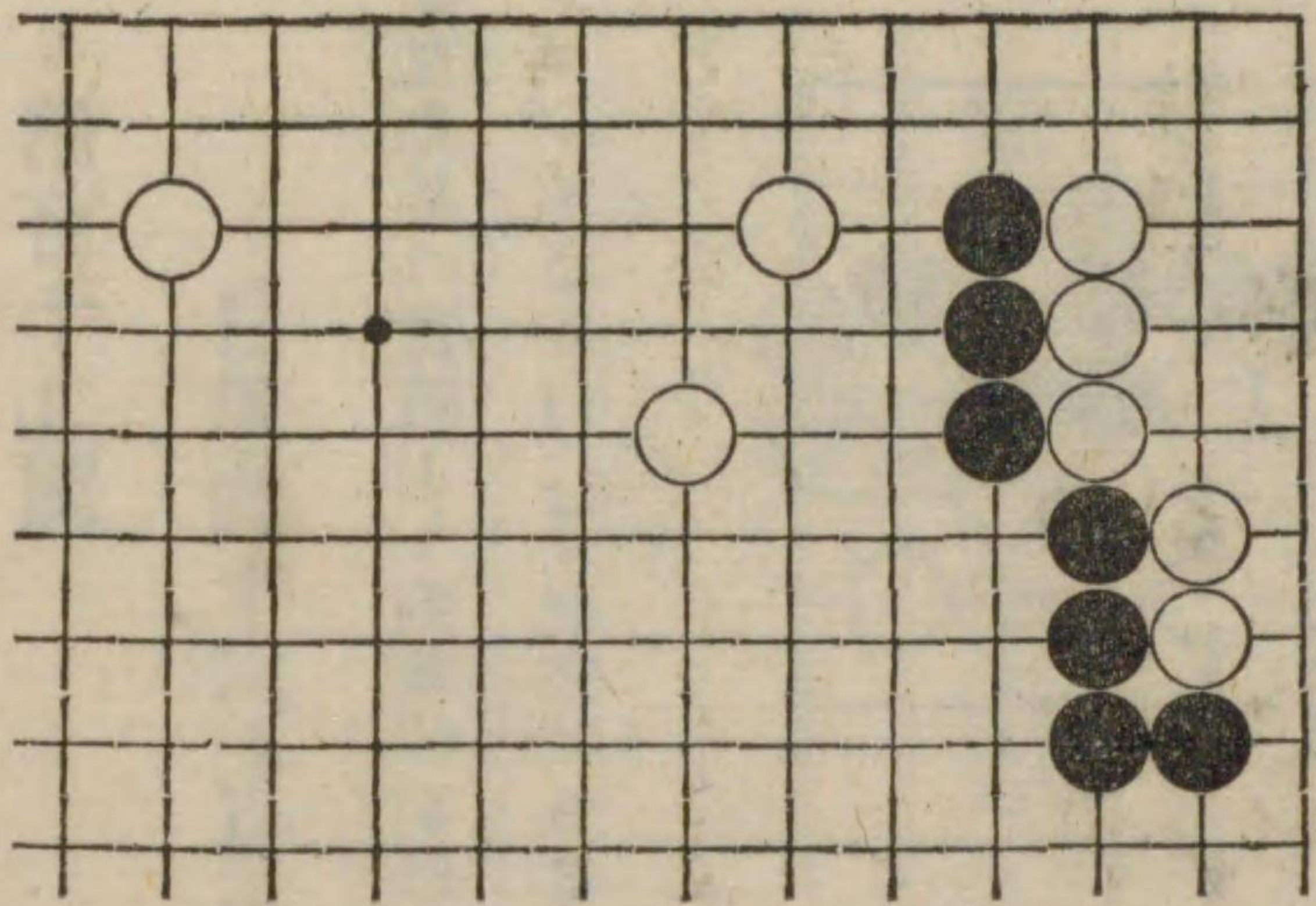
此形に於て黒先手に打たば白の圍中に尖みある黒の二子は外部との關係にて白地内に手を生ずるなり。





第二百二十一圖 黒先得

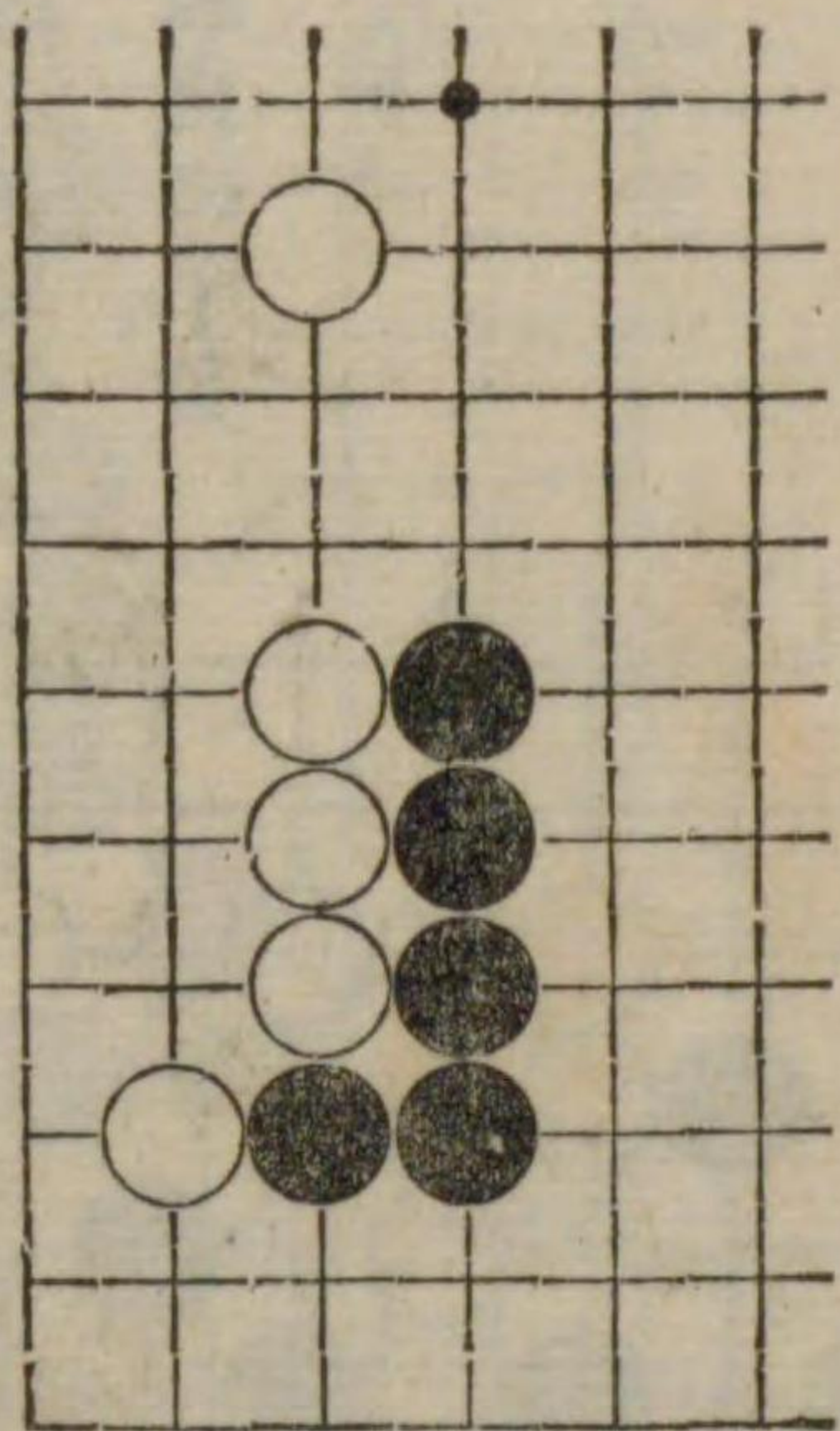
此形勢に於て黒先にて左方に展開せる白の敷地に右隅との關係により手段せば大利を得べし。



第二百二十二圖

黒先得

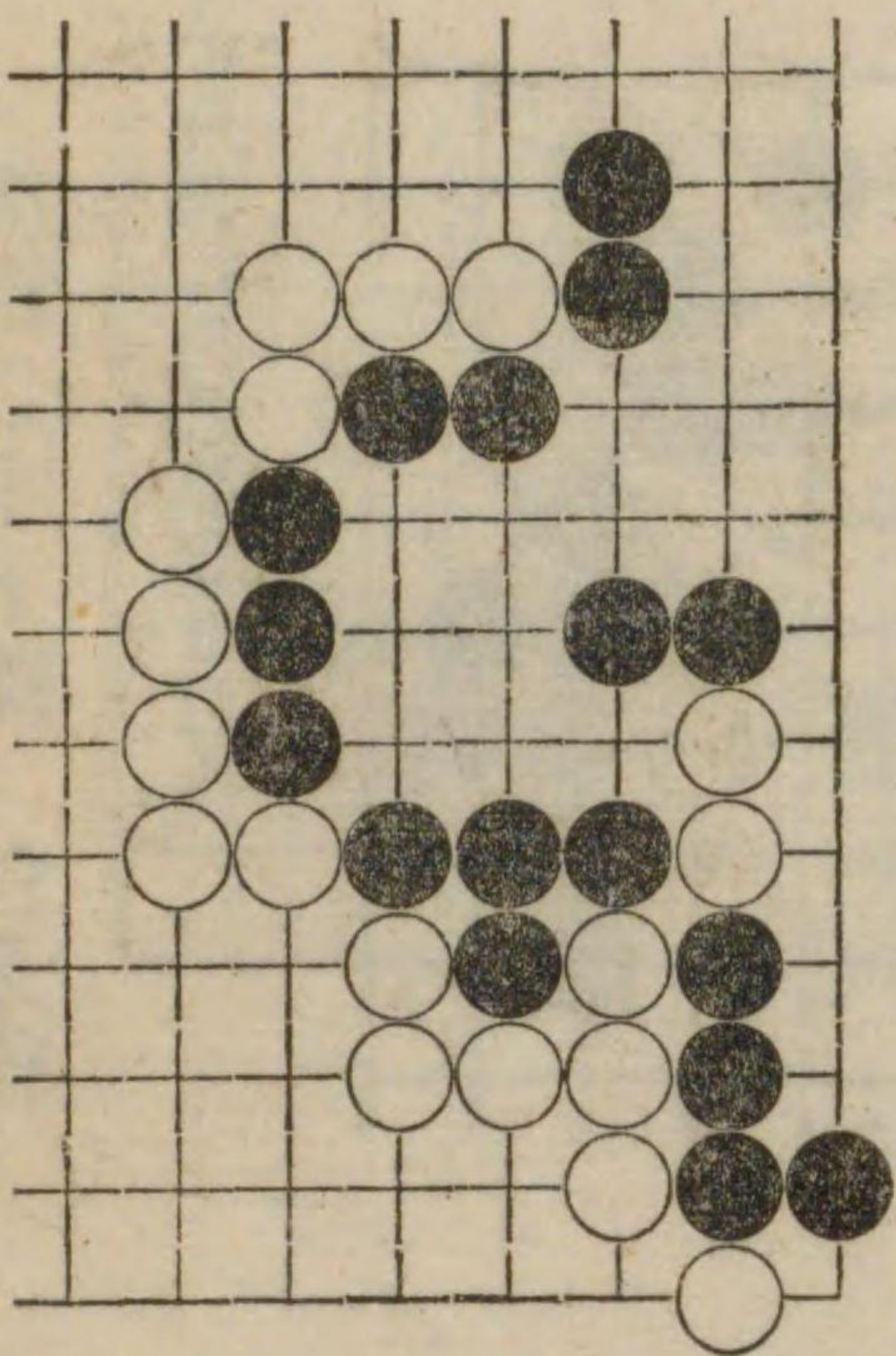
黒先にて二間拆きにある白を遮断する手あり尤白が遮断せらるゝを嫌へば黒大に利得す極めて簡易なる常用の手筋なり。



雑之部

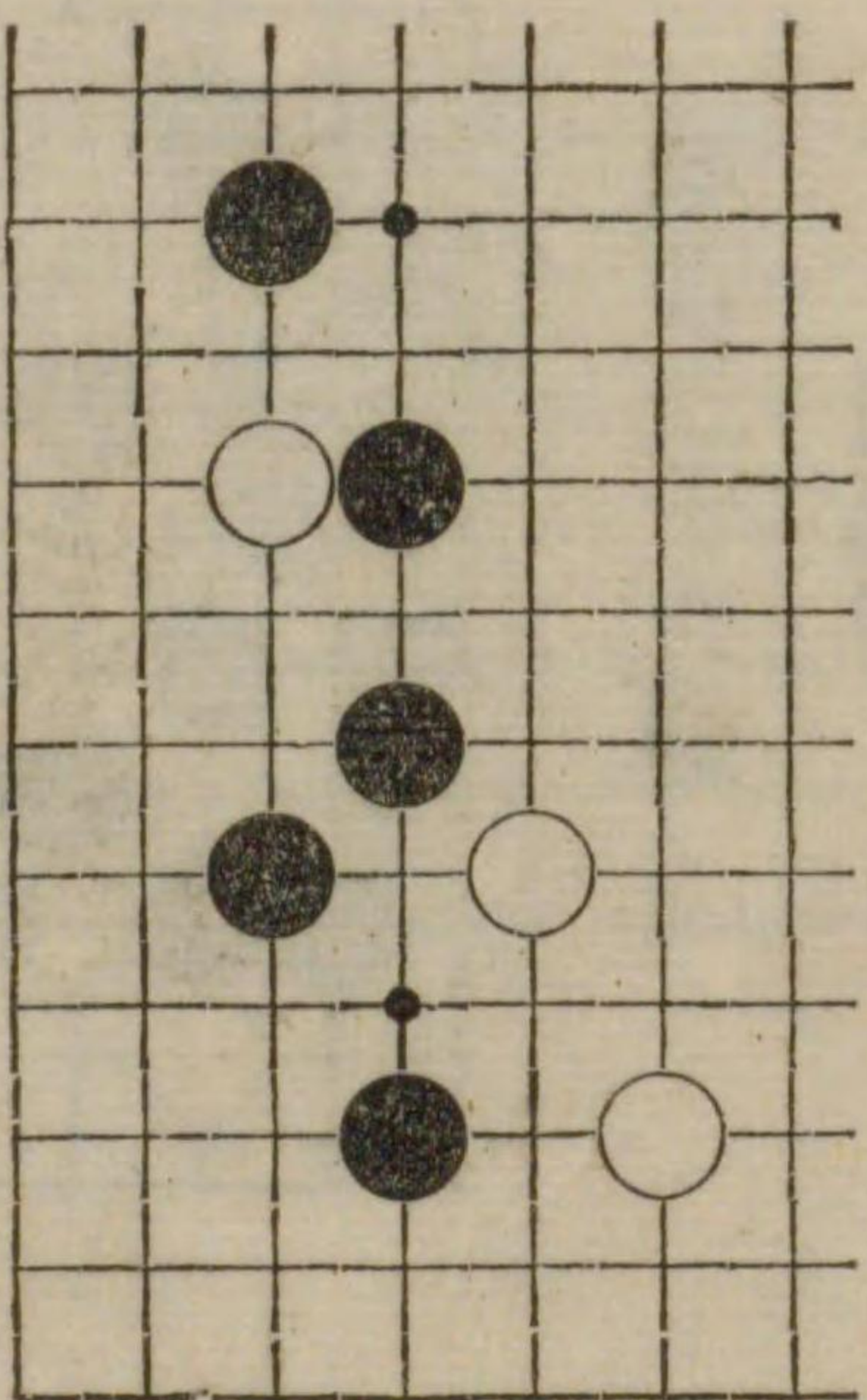
第二百二十三圖 白先勝

本圖は生死の問題にあらず白の第一着手筋にして之れが爲利得をなすことゝなる尤黒飽くまでも譲らざれば隅の四子を白に取られて莫大の損害を醸すに至る。



第二百二十四圖 白先得

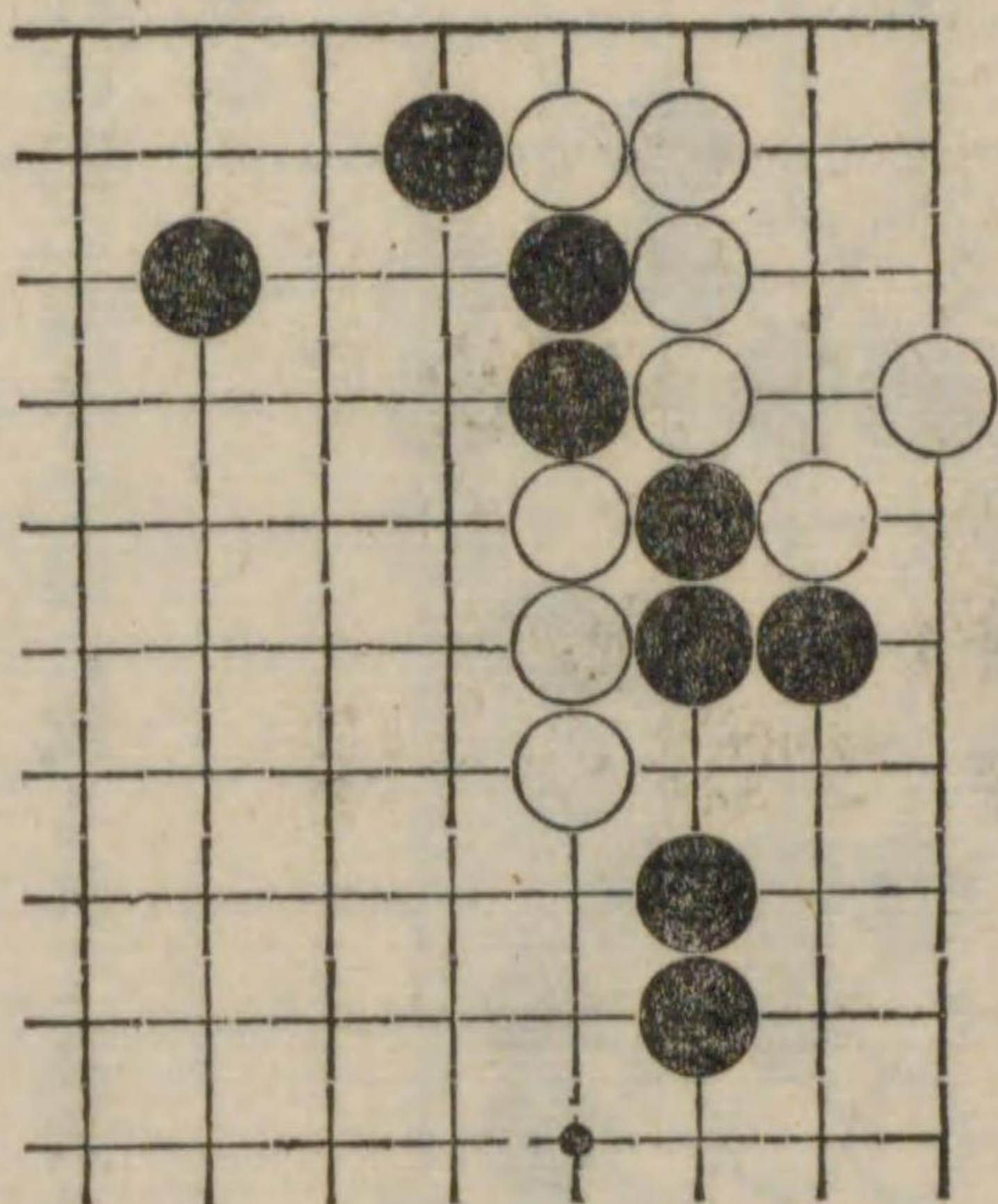
此形勢に於ては白より施すべき手段ありて圍中の白一子脱出するに至る每着手筋に合す。





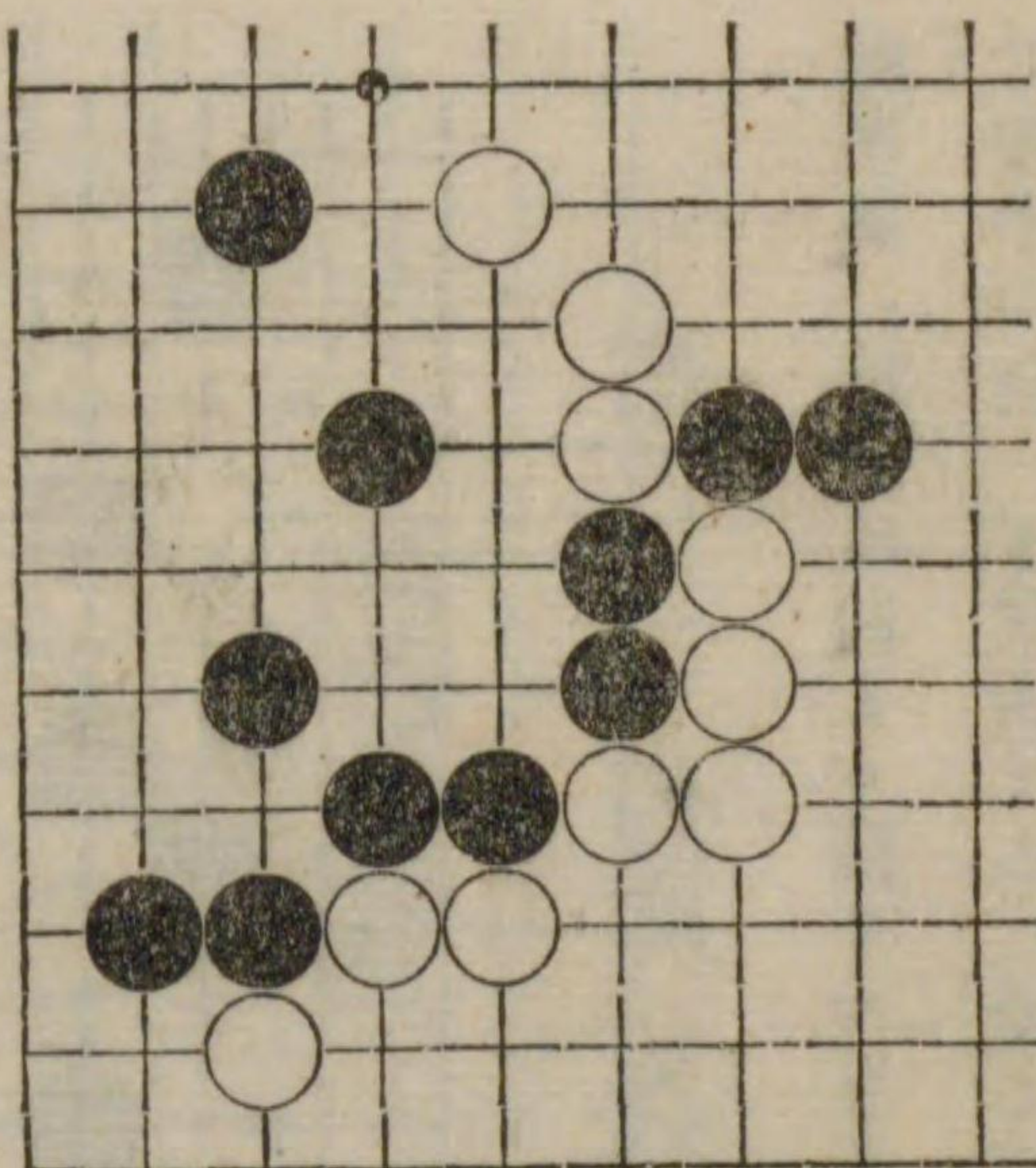
第二百二十五圖 白先得

左方の外部に白打着するなり。



第二百二十六圖

白先得

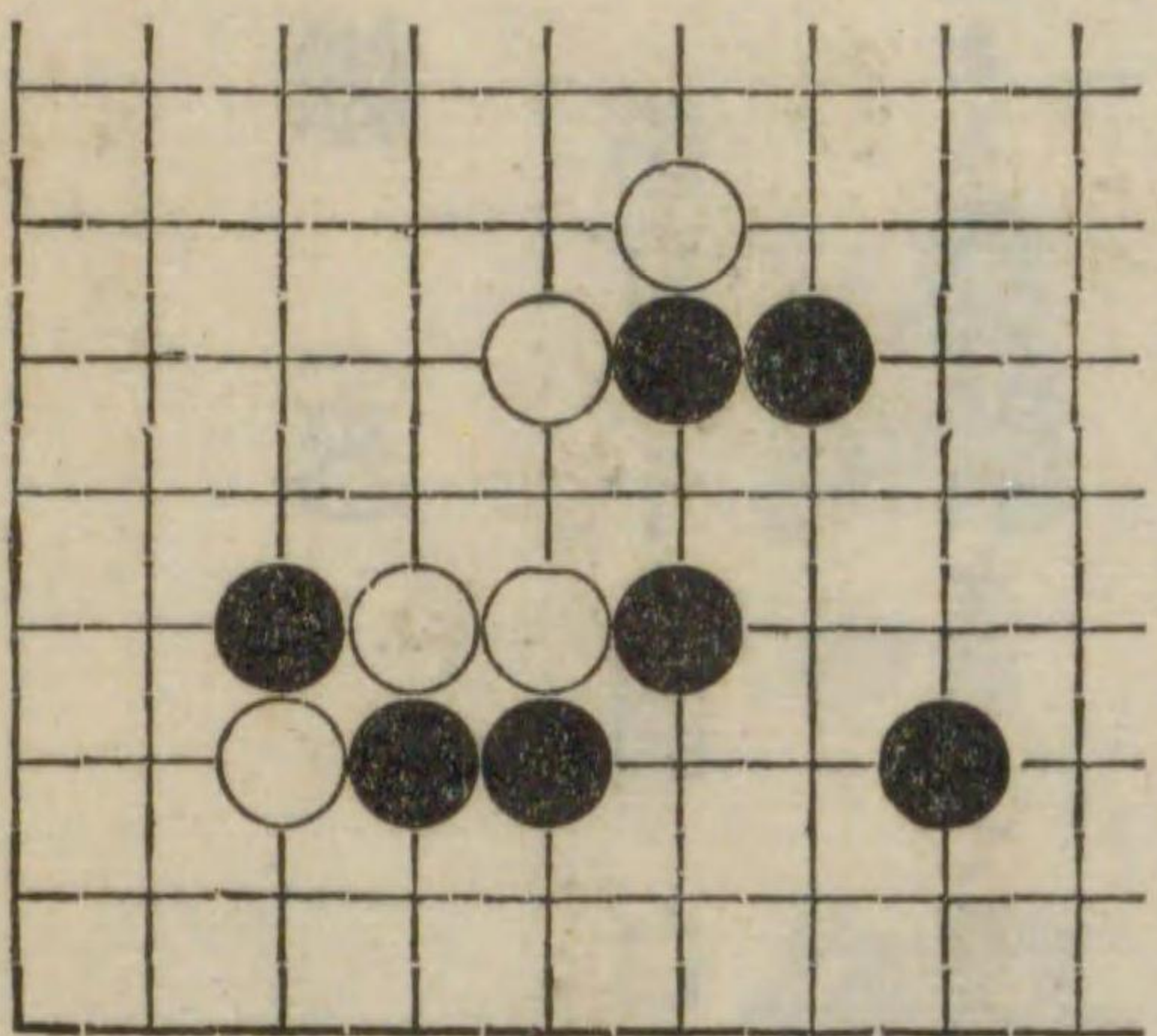


上部の三白子（下部の白四子も無關係にあらず）より左方の黒地に向て手段を試み利得す第一着、第五着常用の手筋なり。

第二百二十七圖

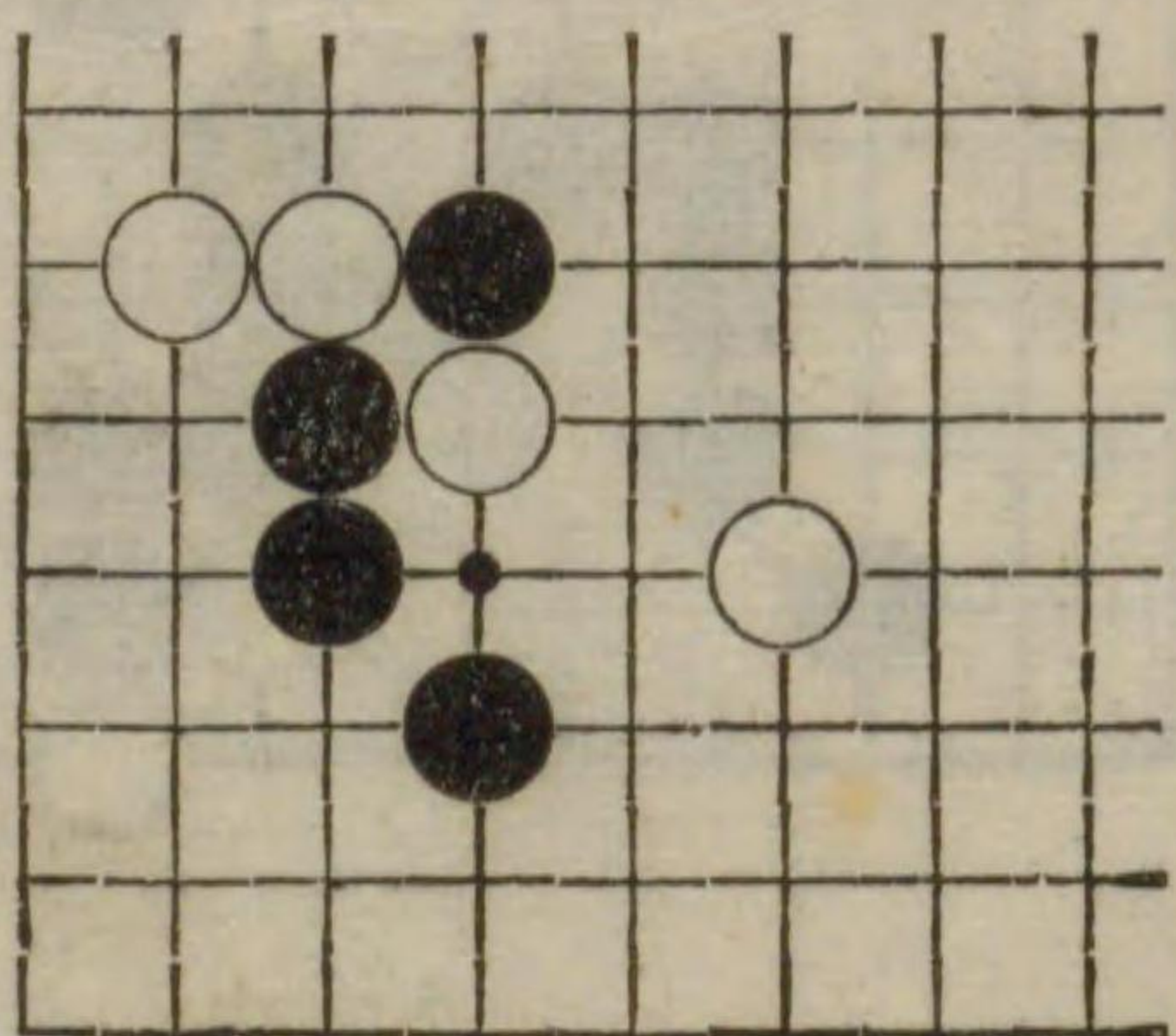
黒先得

此圖にて黒が打つ手は種々あれども切りある吾一子を捨て外部に勢を張る手段なり。



第二百二十八圖 白先

本形は互先の高目小桂馬掛けの定石にて今黒が切りたるところなり之に對し白如何に捌くかが問題なり。





雜 (夾)

第二百二十九圖 白先勝

下邊にある瀕死の白を救ひて却つて中央の黒を屠りて回生す極々平易なる夾みの一手なり。

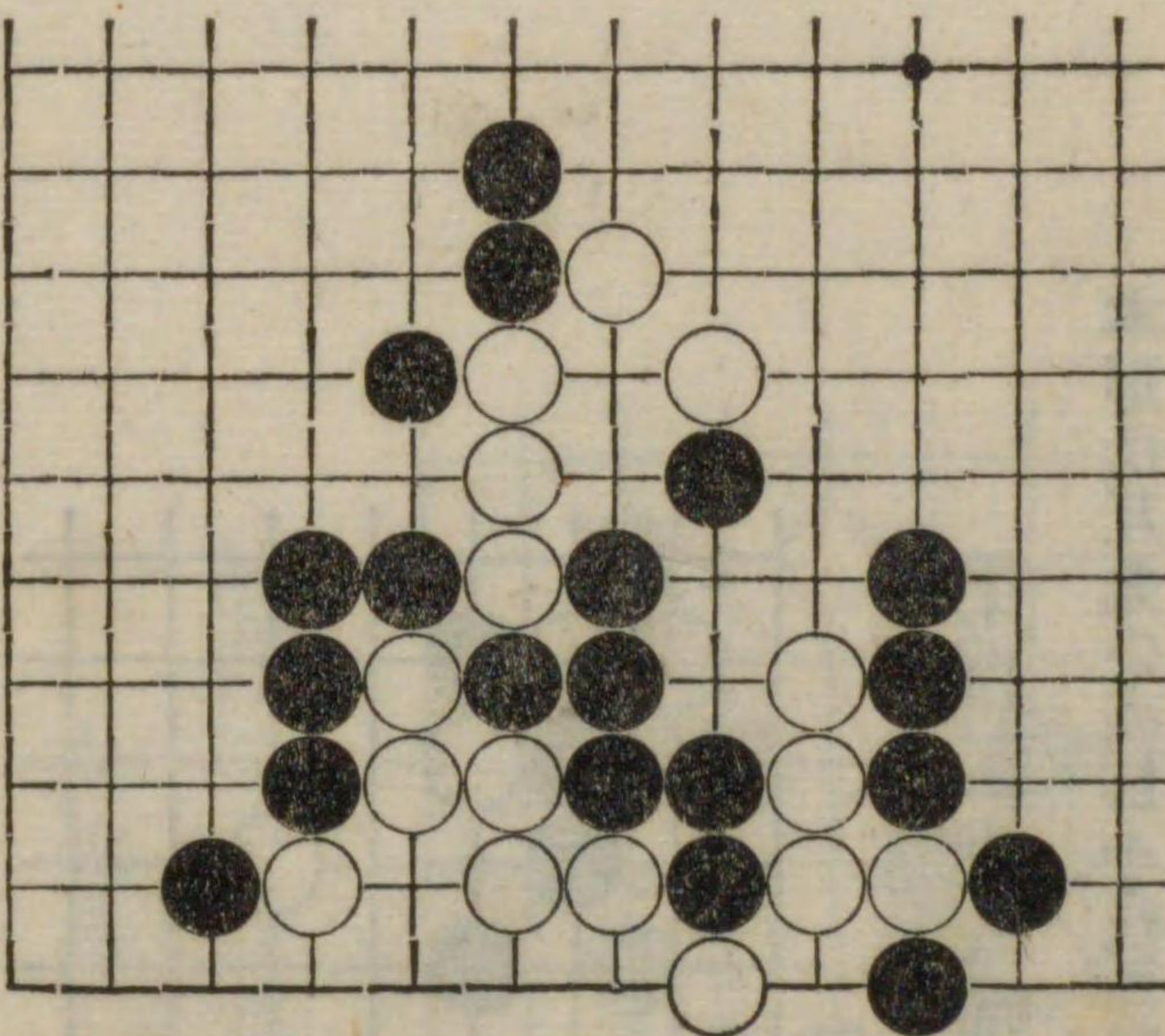


圖  
解  
說  
明

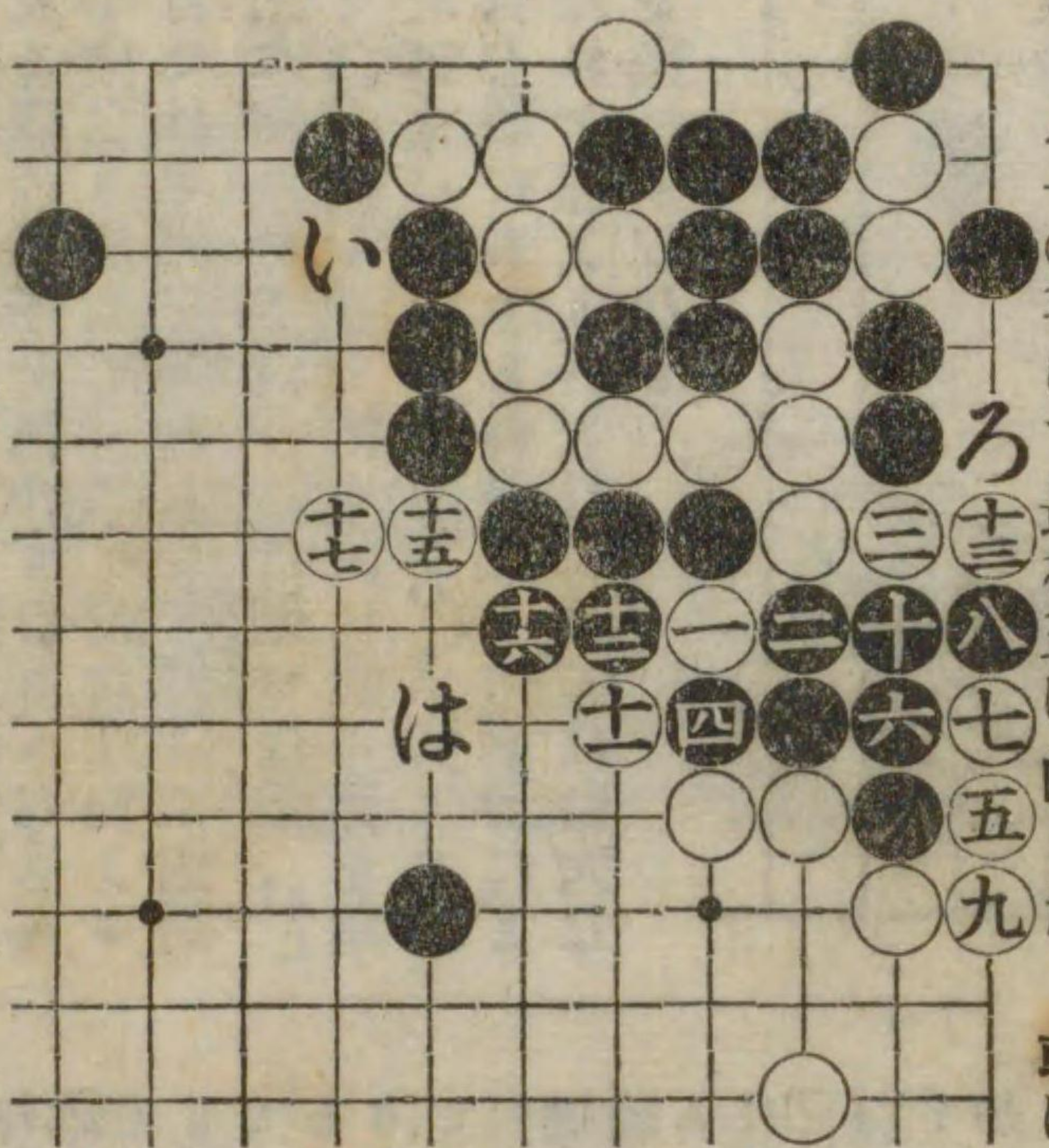


圍碁に用ふる術語

- |                             |                 |                                 |                  |                 |                 |          |
|-----------------------------|-----------------|---------------------------------|------------------|-----------------|-----------------|----------|
| 立<br>タテル                    | 冲<br>ワリコム       | 捺<br>オサヘル<br>(普通に約若し<br>くは抑と書く) | 點<br>ナカテ         | 拶<br>セメレ<br>(攻) | 鬆<br>トホアミ       | 出<br>イツル |
| 行<br>ノビル                    | 覷<br>ノゾク<br>(視) | 門<br>ハカス<br>(アシダニ<br>カケル)       | 征<br>シテウ         | 撲<br>ウツテガヘ      | 持<br>セキ         | 帶<br>ヂゴ  |
| 飛<br>ケイマ<br>(普通には<br>斜走と書く) | 毅<br>トル<br>(提)  | 斷<br>キル<br>(切、截)                | 辟<br>テサヘル<br>(罩) | 勒<br>メカク<br>(刺) | 開<br>ヒラキ<br>(拆) | 侵分<br>ヨサ |
| 尖<br>コスム                    | 割<br>アゲル<br>(托) | 打<br>ウツ                         | 聚<br>オホナカデ       | 夾<br>ハサム        | 做眼<br>メナル       |          |
| 幹<br>ワリコム<br>(俗に割込<br>と書く)  | 頂<br>ツケル        | 趕<br>オス<br>(押)                  | 劫<br>カフ          | 盤<br>ワタリ        | 締<br>シマル        |          |

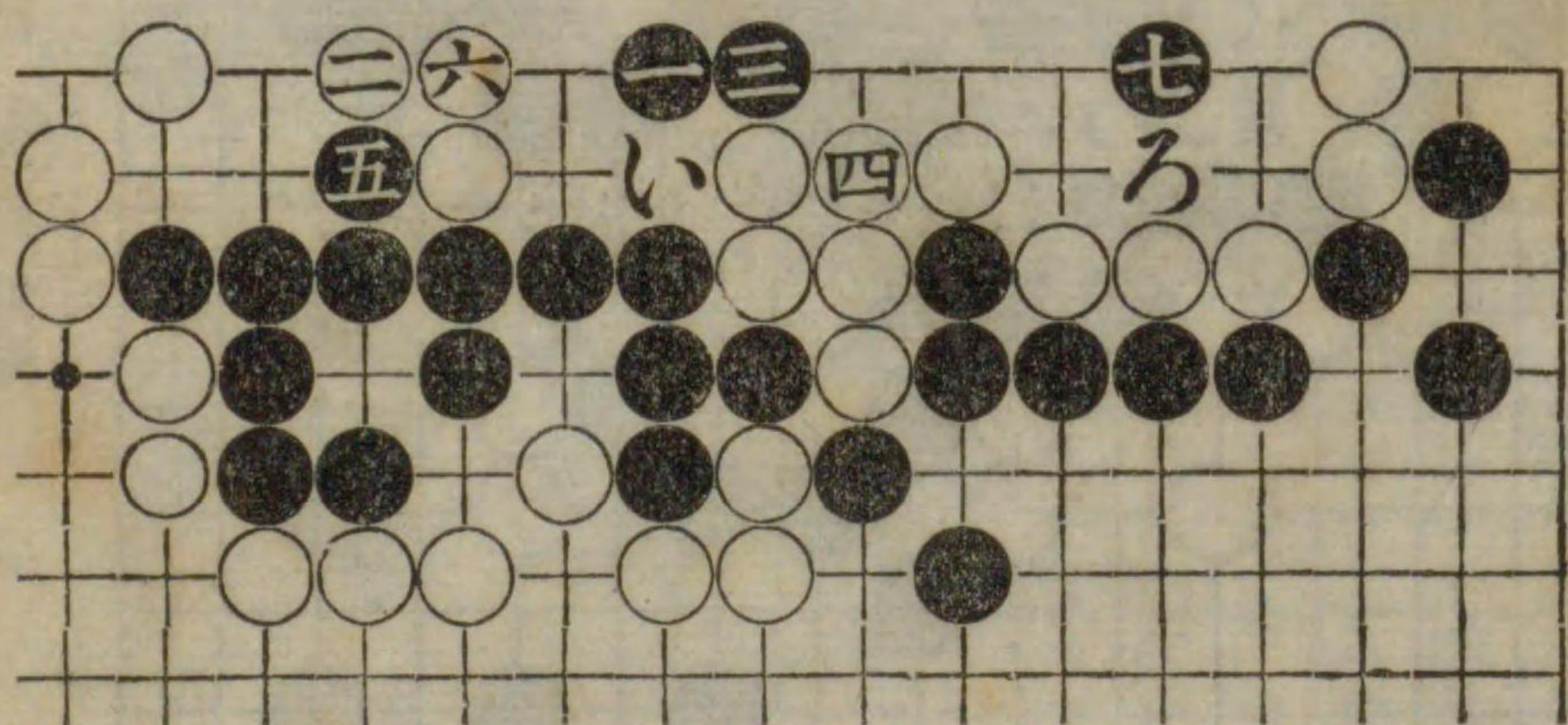
生之部

第一圖 白先にて活 七目粘



説明。白一、三と打ち而して五と縛る手筋は往々ある型なり(二の手にて最初三に曲りたり或は「い」白「ろ」黒五と打ち黒を活かす外なきなり六の手に於ても七の處か或は「ろ」に打ちて我石を全ふし而して黒を活かすを要す圖の如く強ひて敵(即ち黒)を屠らんとして己れを滅す、碁にも無理は通らぬものなり

第二圖 黒先にて活

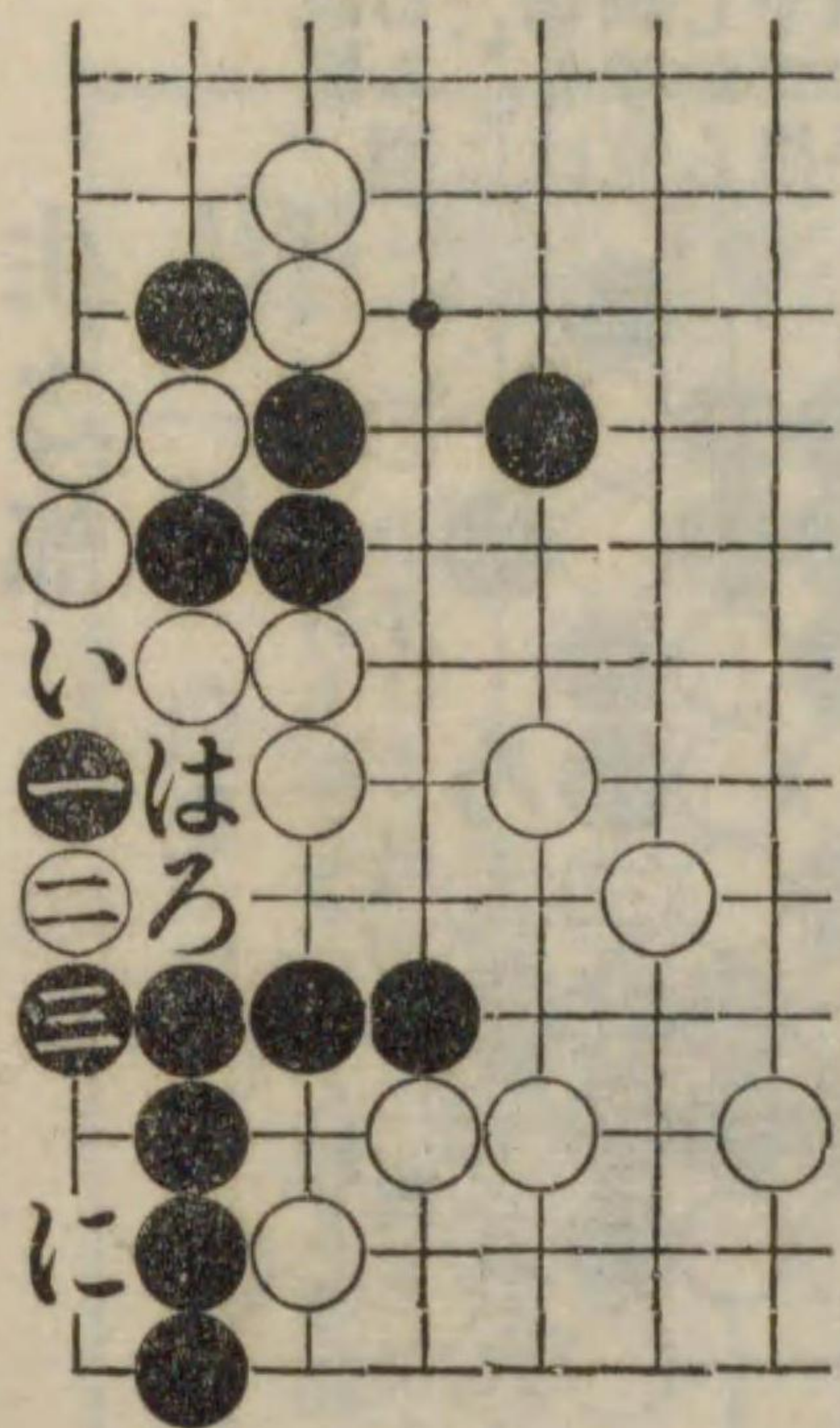


説明。本型は實際打碁に出來しものなり黒一と飛ぶは妙手といふべし其時白二は無理なり三に應じ黒「い」白「ろ」黒五と打ち黒を活かす外なきなり六の手に於ても七の處か或は「ろ」に打ちて我石を全ふし而して黒を活かすを要す圖の如く強ひて敵(即ち黒)を屠らんとして己れを滅す、碁にも無理は通らぬものなり



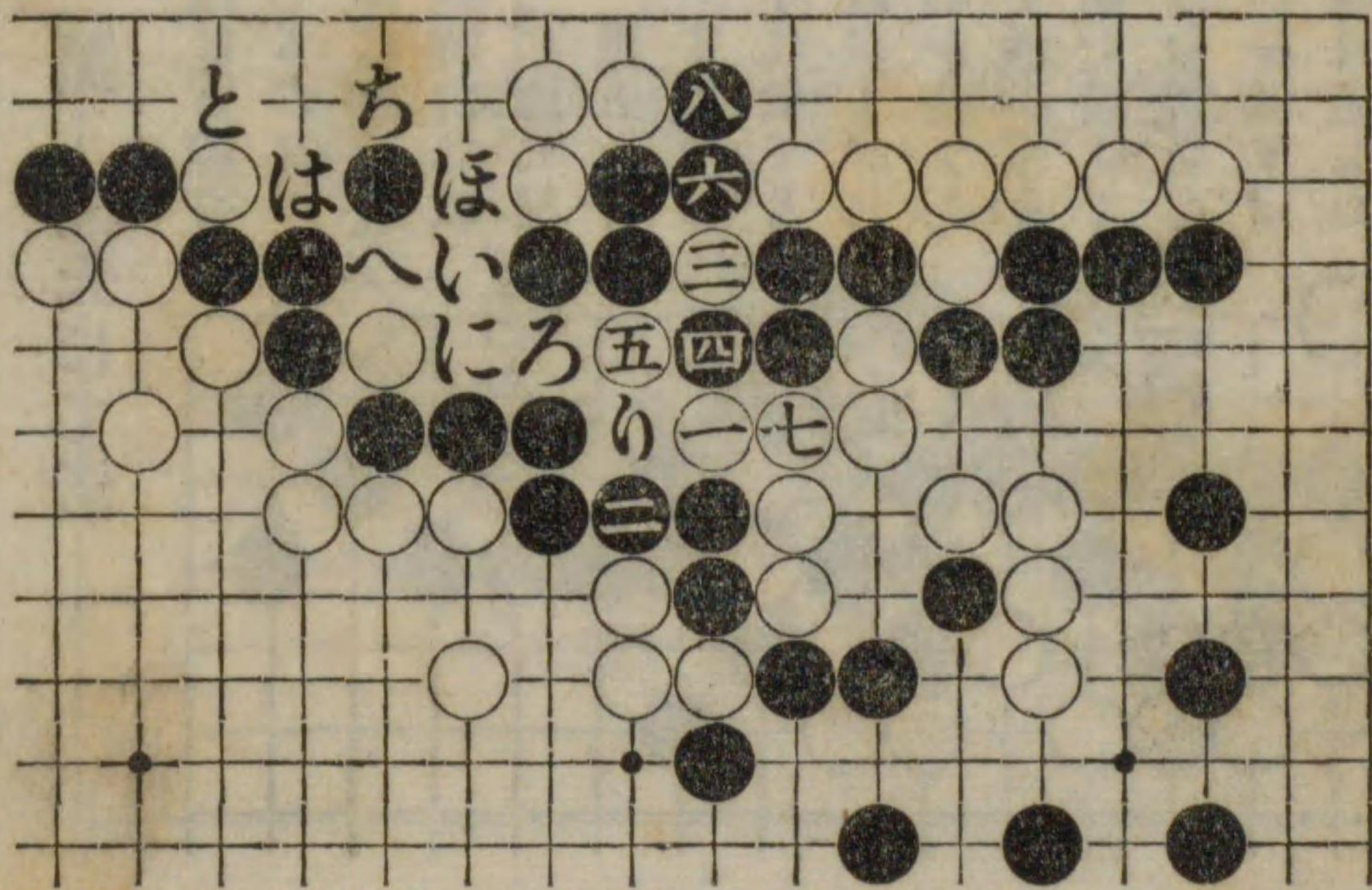
第三圖 黒先活

説明。黒一の手面白し若し白三目を呑みて「い」にツガば黒に「ろ」に打たれて折角吾有となしたる隅の敷子を活かすことゝならん黒三の手佳なり過ちて「ろ」に打たば白より「は」に打たれて何の得をもなす能はず無効とならん本圖に於て白「に」に點せば黒「は」に打ちて二の白を獲て活く故に隅の黒を屠らんとせば白は二の手にて「ろ」に尖ミツケ前の三目を黒に與ふる外なしこは碁勢によることなれど黒より一と打たれては白大なる損害を免れざるなり



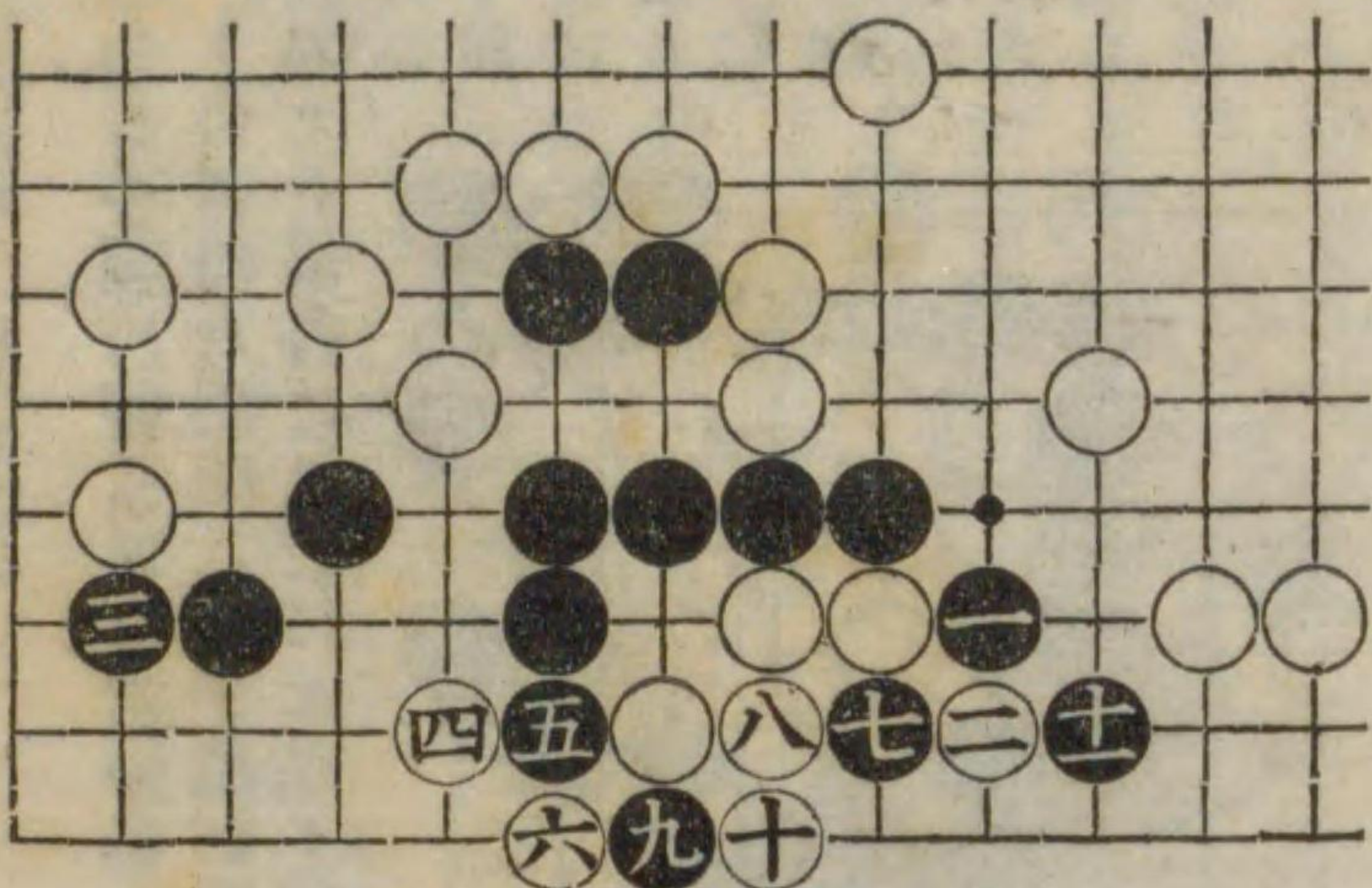
第四圖 白先活 九四目提

説明。白先にて圍中の八子に手を生ず白一と綽て以下三と割り込み五と切るまで手筋なり斯くて黒は四子を捨てざるべからざることゝなりたり尤黒八の手にて四目を粘かば白は「い」に捲り黒「ろ」に捲きし時「は」にアテコムべし又黒「ろ」に續がすして「に」にアテなば白八の處に約へて黒を「ろ」に粘がし而して「ほ」にツギ黒「へ」に打抜き白「と」に「ち」に下りし時白「り」にて白勝となるなり



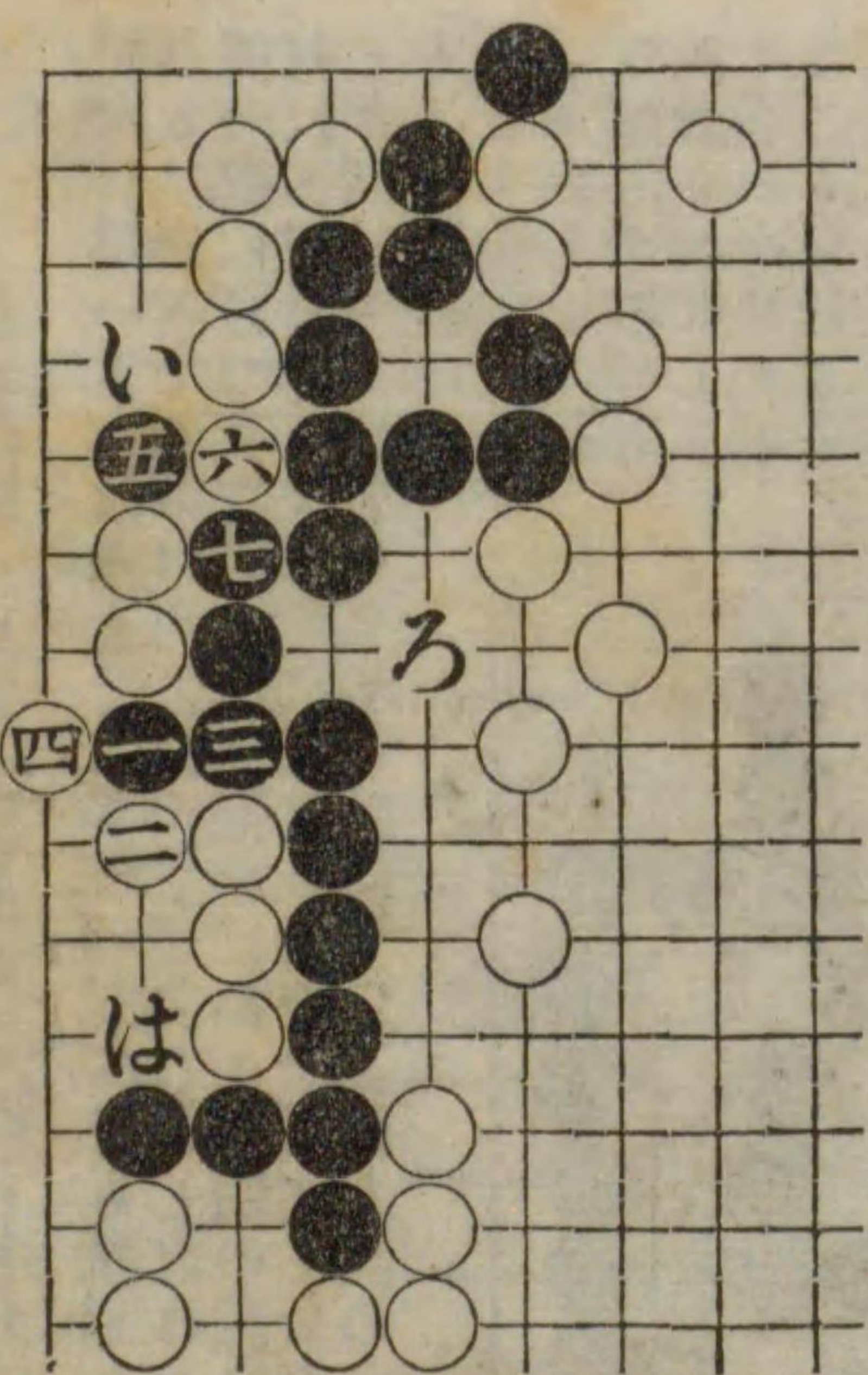
第五圖 黒先活

説明。黒七と切りて九とウチカキしは手順なり圖の如くなりては白は黒の大石を獲ること不可能なり



第六圖 黒先活

説明。黒一と刎出すは手筋なり之にて活形易々たり若し一の手にて鈍くも三に打たば白に一の處に應せられて眼型を作り能はざる事となるべし本圖の如くなりては白は「い」に應ずる外なく黒「ろ」に眼做るも「は」より攻るも眼型忽ち成るべし此形に於ての要手は一の刎出と五の頂越との二手なり



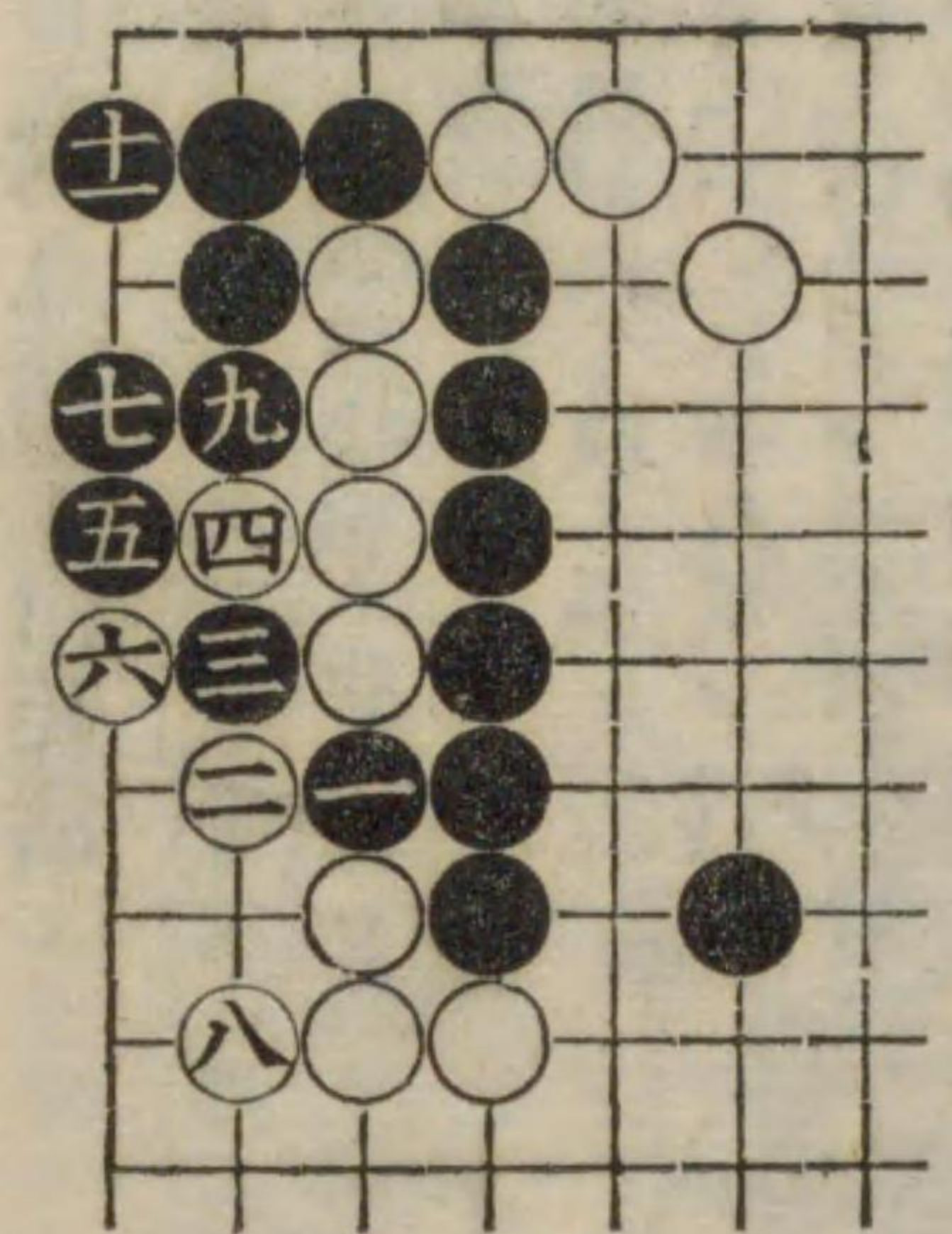






第十一圖 黒先活

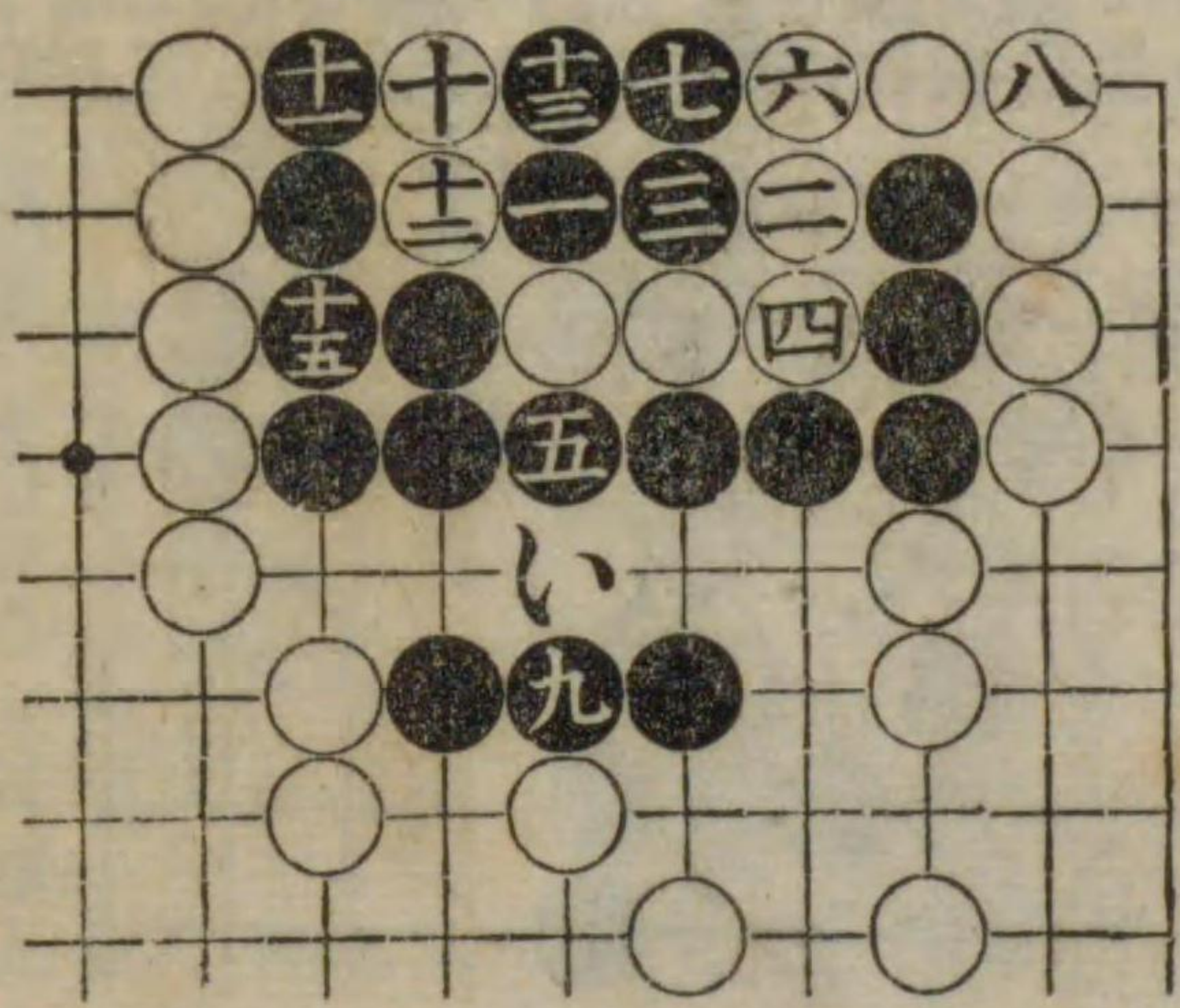
説明。此形は置碁の實戦に出來たるゆゑ示すなり黒三と切り五と縛る手筋宜し尤五の手にて七或は九に打ちても隅の黒は活なれど三の處の白眼を潰せぬだけ不利なり



十五目粘

第十二圖 黒先活

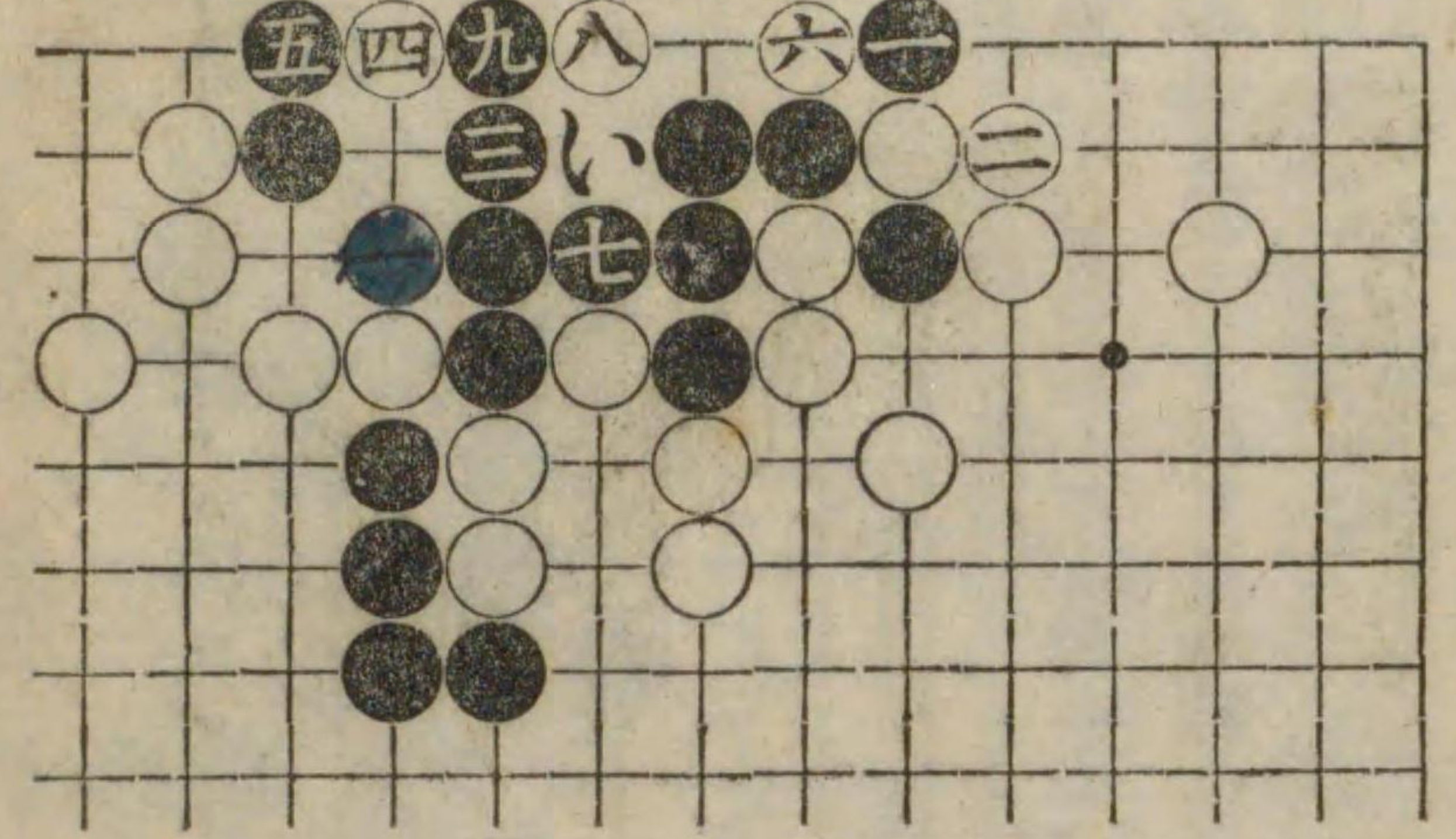
説明。本圖は置碁に出來る型なり黒一と縛ねたるは善し又十五のツギも宜し黒一を若六へ約へると白二黒八白一黒十二白七黒劫粘白「い」黒五白十一黒十白九にて死にとなるなり故に黒の劫を粘ぐ手を九にツギ劫とするより外に手なし黒の難なく活きるものを劫としたるは黒の不覺といふべし又黒八へ提る手を七へノビれば白十二へ當てにて黒一なれば白三にて宜し白の十二へ當てる手筋能く參考すべし



十四刺 十六四目提 七跡切

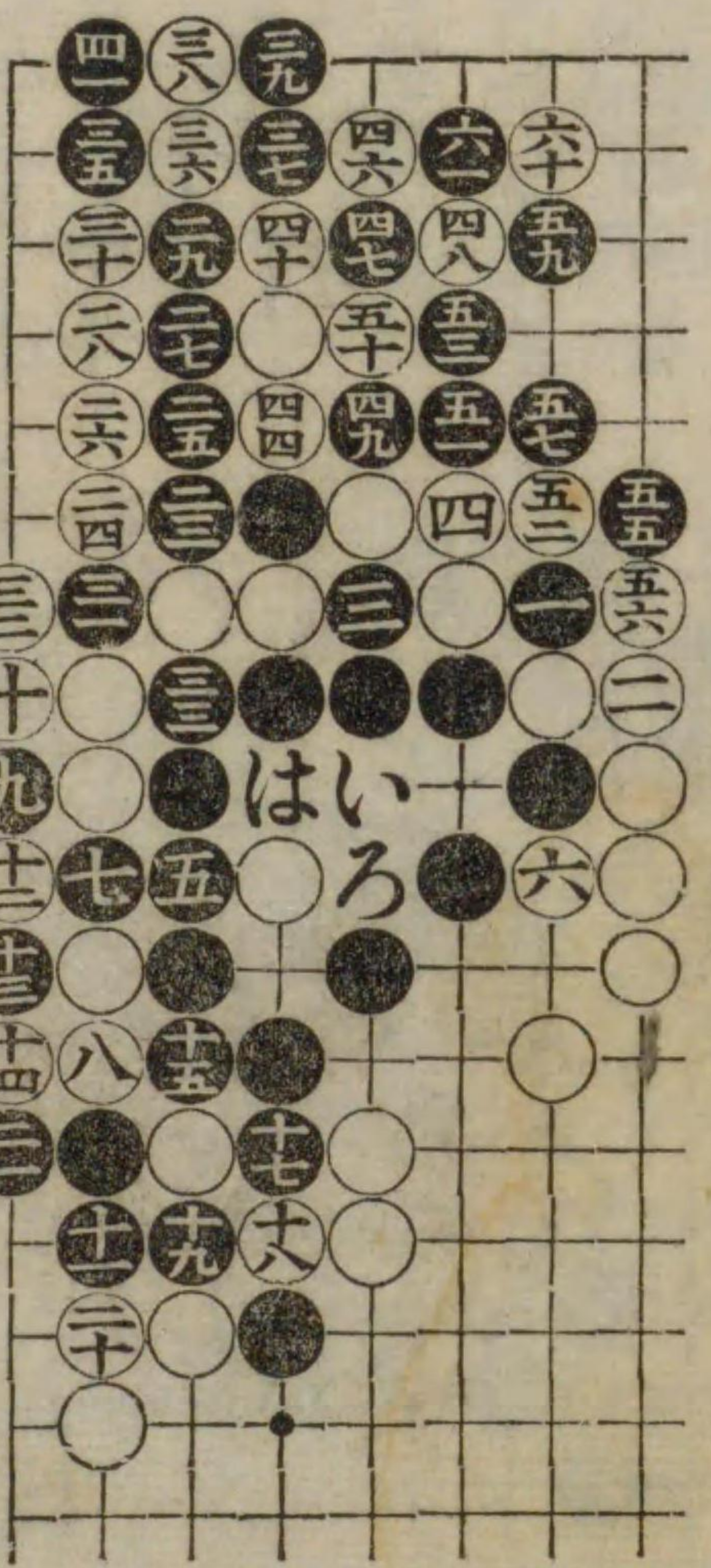
第十三圖 黒先活

説明。黒一と縛ね三と曲がりたるは善し白四を七なれば黒「い」にて容易く活となるなり此處に三と曲りたる手の如何に斯かる形に於て適合せるかをささるべし。



第十四圖 黒先活 (持)

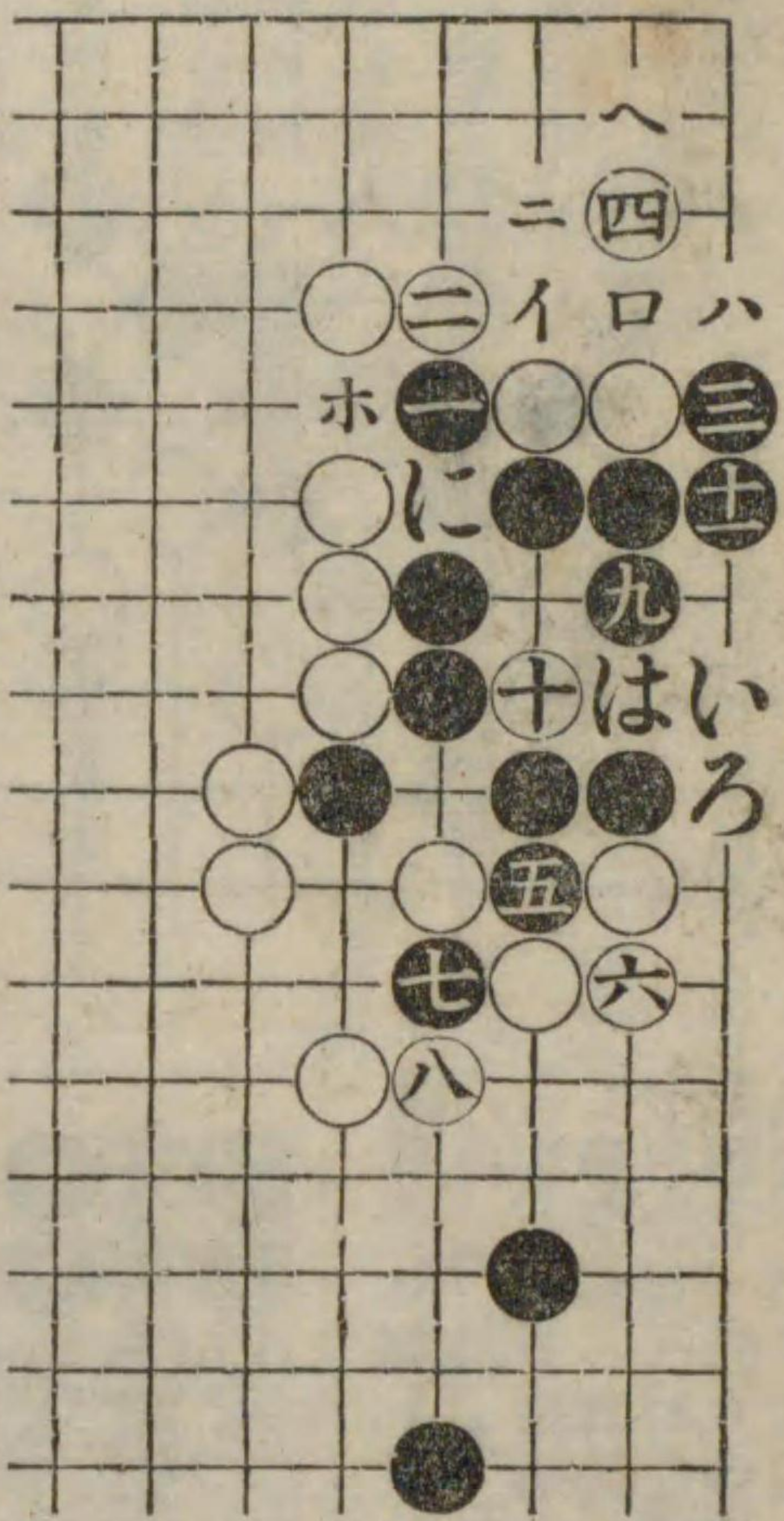
説明。白六と打ちて黒石を殺さんとすは無理なり七へ粘ぎ黒六「い」黒「ろ」白「は」黒三三にて即持なり然るを白六と打つゆゑ此の如き結果を生ずるなり併黒一手手順を誤れば死なり依て初學者の爲其の手順を示すなり白八の時黒九の打込手順宜し黒十を十五へ打たば黒二四八打ちて可なり黒十三の打込手順宜し黒四七、四九の切りもよし白又八を十二へ盤れば黒八白十三黒九白十黒十五白十一黒二一白三二黒三三白三四と二目粘は黒三五へ粘りて同型となるなり。



九へ粘 三三へ粘 三一へ粘  
 三六へ打込 三八へトル 五目粘  
 四目粘 四目粘

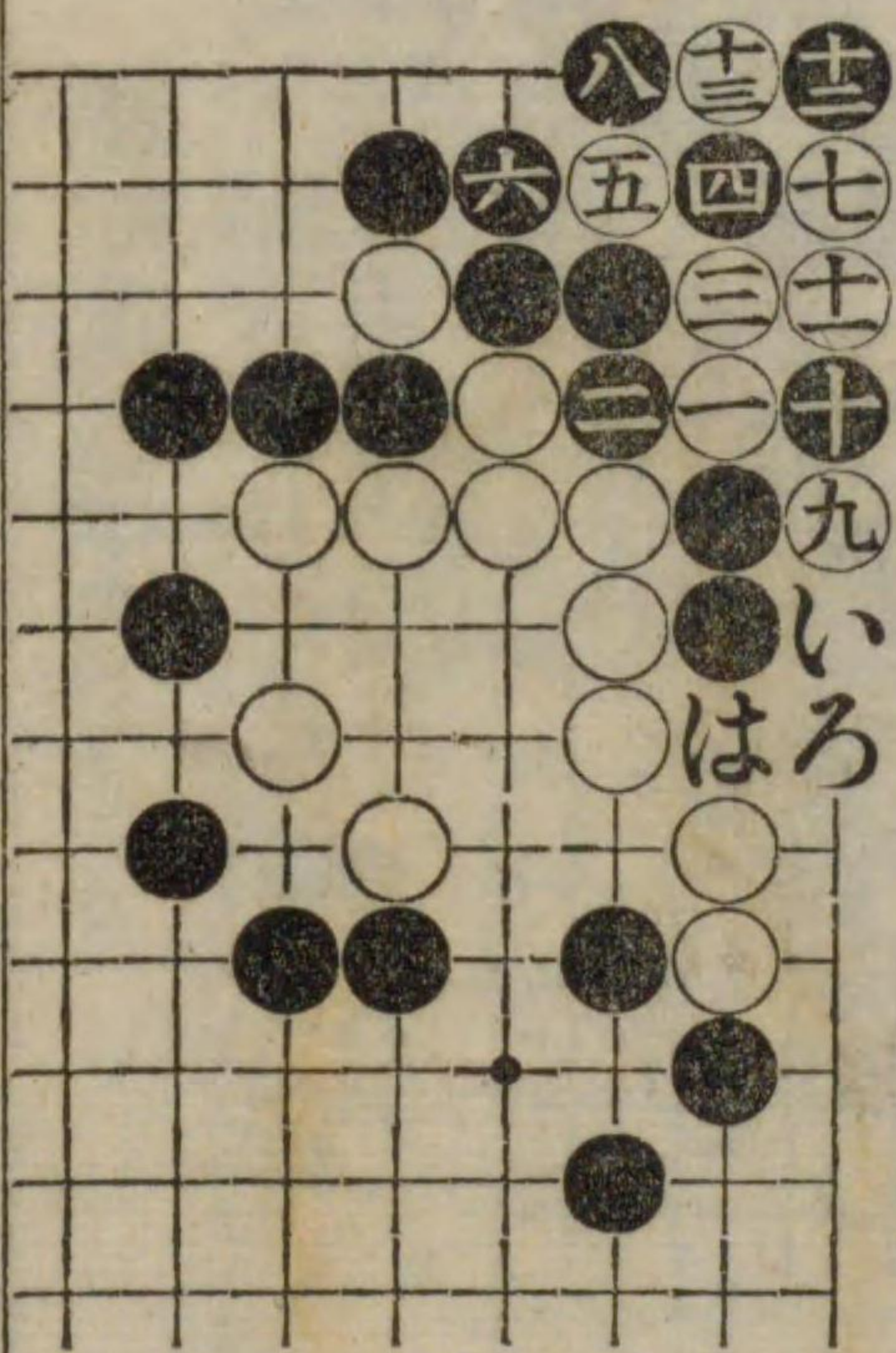


第十五圖 黒先、活(持なり)



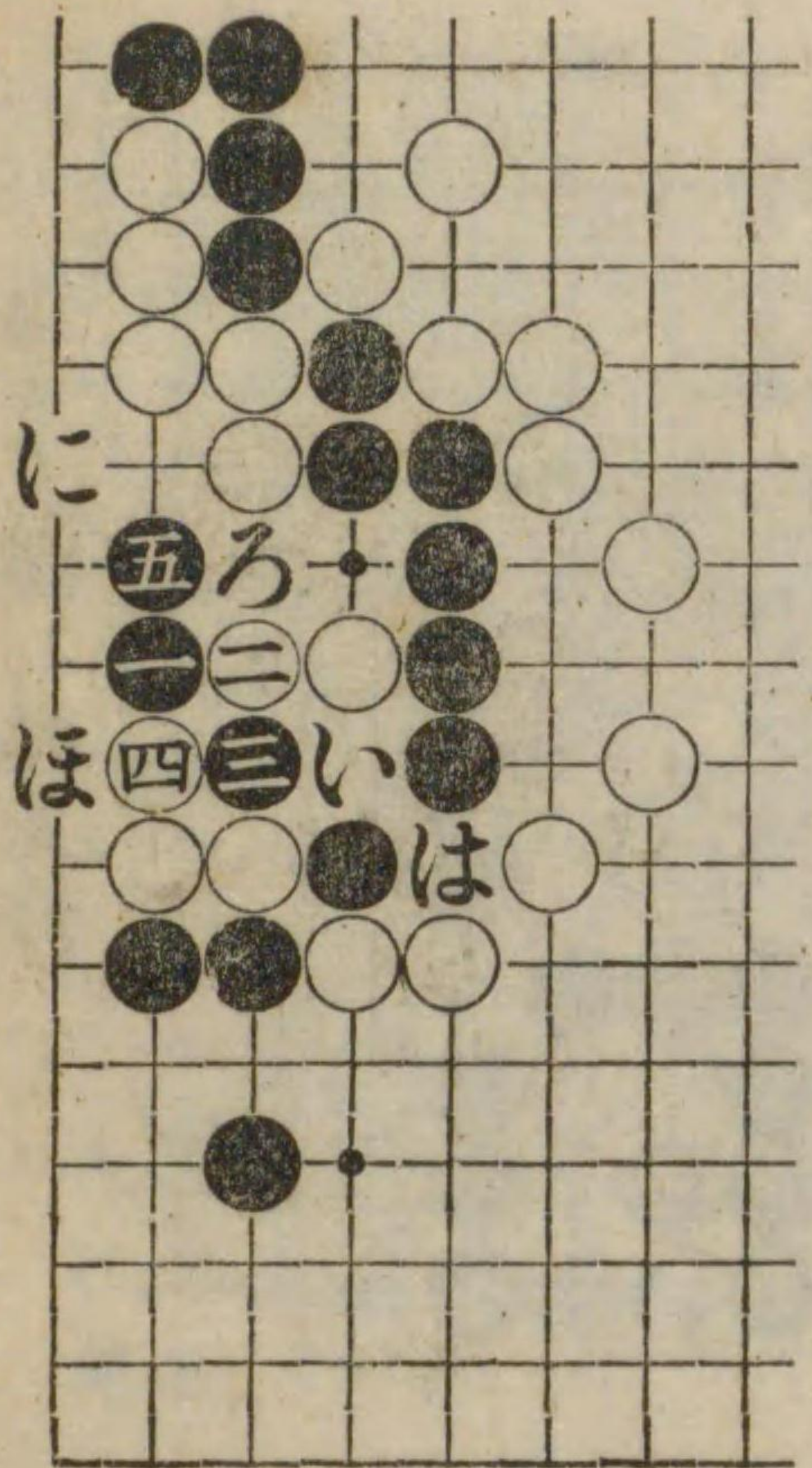
説明。黒一と縛ね出し三と縛ね五、七と打ち九と曲がり白十の時黒十一と打ち此の時白「い」黒「ろ」白「は」黒「に」にて持なり白二を若「に」へ切らば黒「イ」白「ロ」黒四白「ニ」黒三白二黒「ハ」白「ホ」黒「ヘ」にて隅へ眼出来るなり白又十を十一へ打込めば黒は十白「い」黒「ろ」にて活なり。

第十六圖 白先劫活



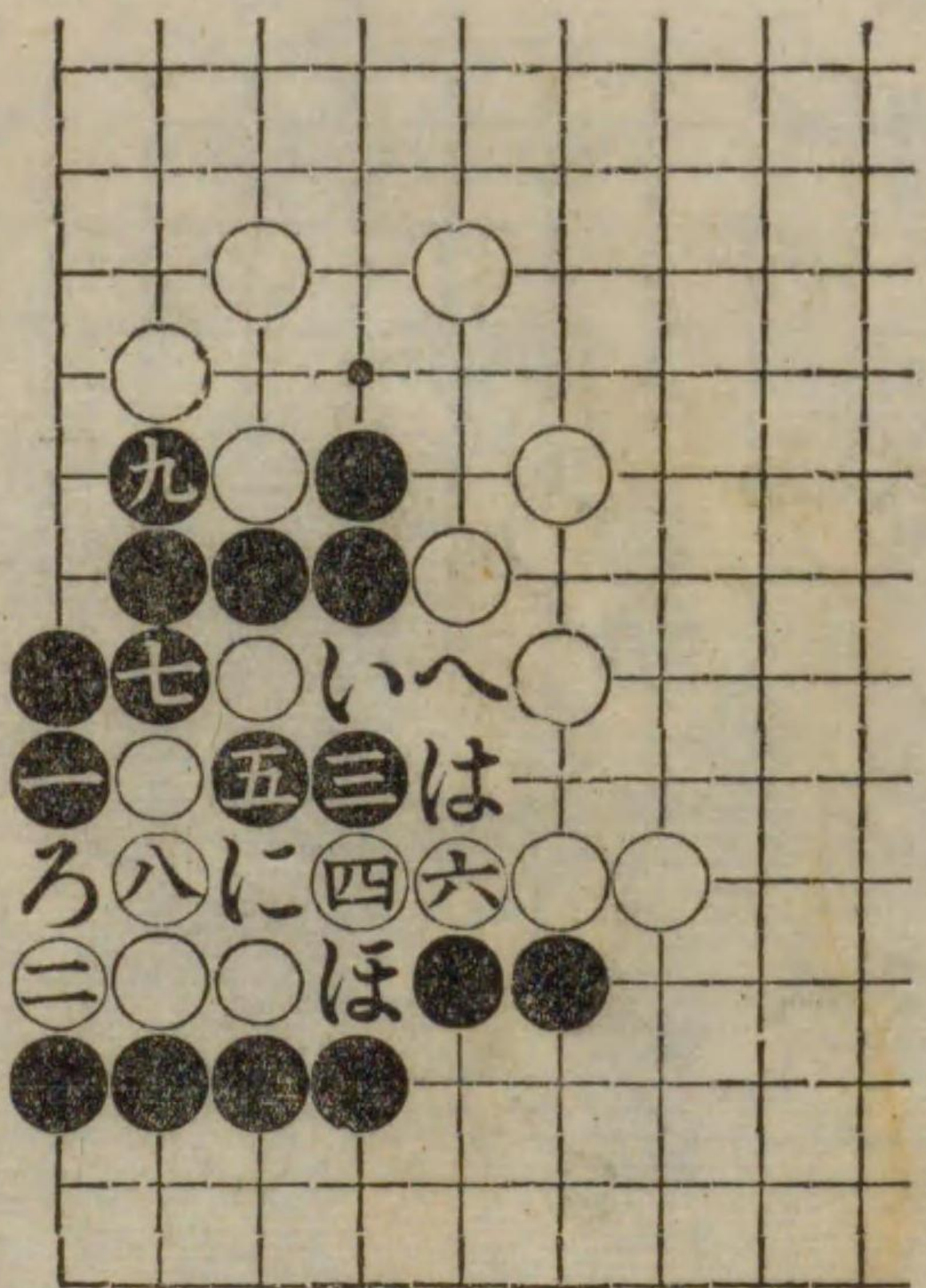
説明。白一と縛ね出し五と打ち九と縛ねる手は善き手なり若黒十を十一へ打込めば白十黒「い」白「ろ」黒十一へ提りて白「は」にて後に切りが出来て白の活なり因に黒八の手を十三へ下がる白に九と縛ねられ勢ひ十一へ打込むの外打つ手なくなりて前説の如く白に手順好く運ばれて白を活すことゝなるなり故に後十、十二と打込み劫争とするより外に手段なきなり。

第十七圖 黒先活



説明。黒一とオキたるは手筋なりこれを同型と思ひて三より先にするときは白に「い」へ切られて黒の失敗に終るなり此の時白若四を「い」へ切れば黒「ろ」白「は」黒五にて手數善し一と打たれたる以上白の二と四は無理なり二の手にて五へ尖ミ頂ケ黒二白「に」の活々となすが本手なり其の時黒、若手を抜けば白「い」へ當て黒「は」の時白「ほ」と尖む手の如き妙手出来るなり故に黒後手として打つべきものなり。

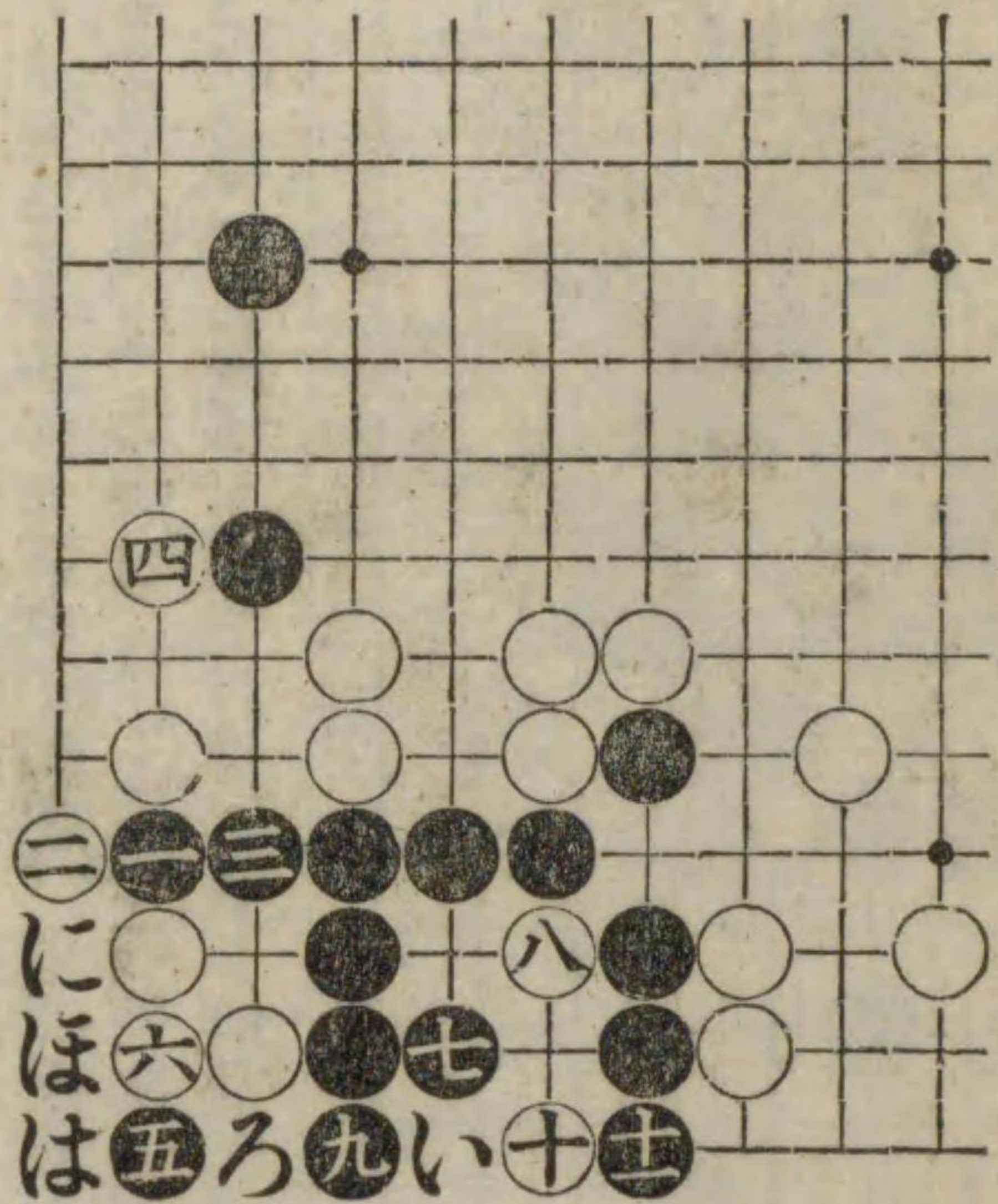
第十八圖 黒先活



説明。黒三は手筋として善き手なり此の時白四を「い」へ出づれば黒五へ當て、善し白二の時若「ろ」へ約へれば黒「い」白三黒「は」白六黒四白五黒二にて宜し其の時白「に」へ打ち劫の型なれども黒「ほ」白「へ」となり黒手を抜きても劫ゆる問題にならず。

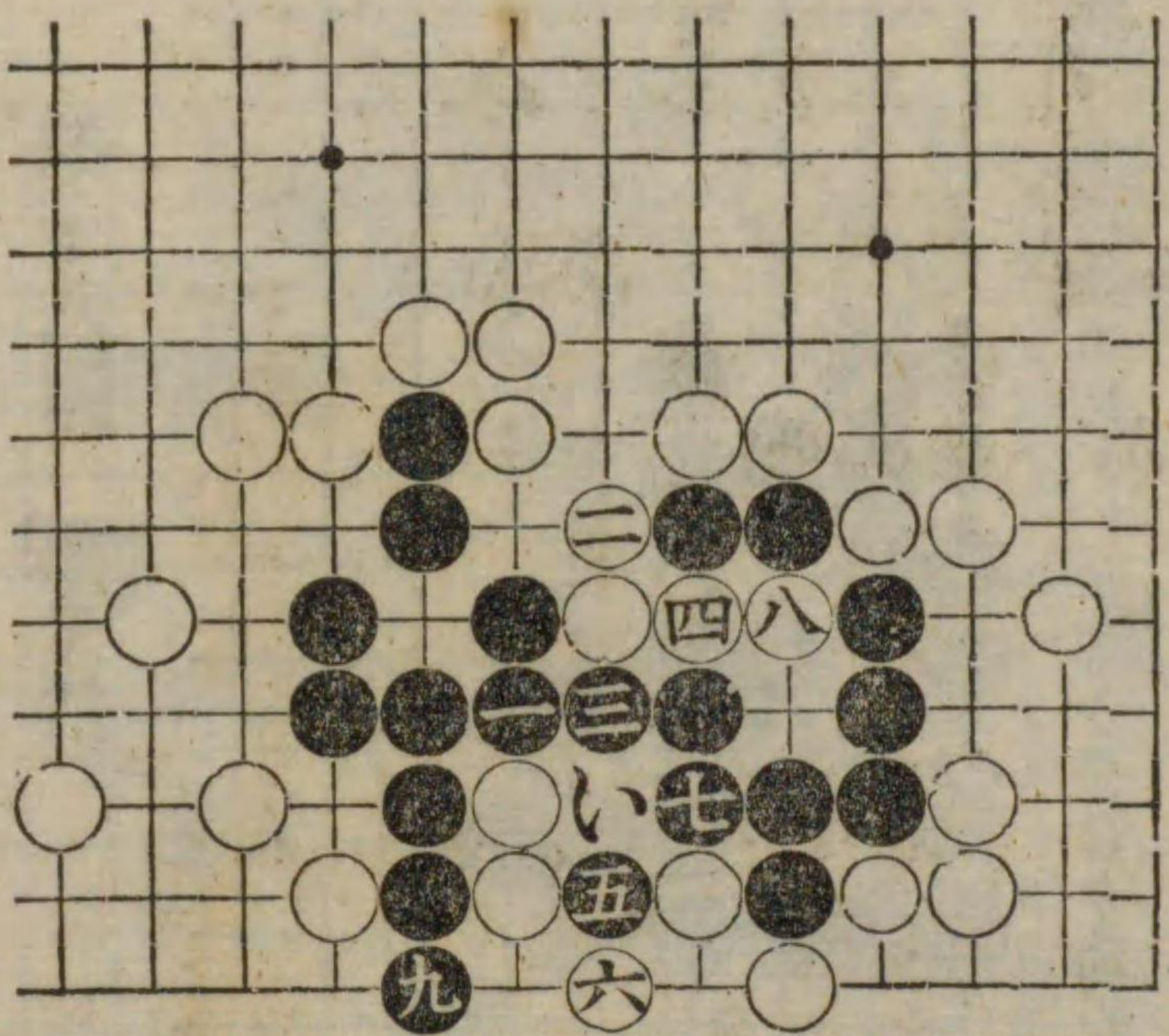


第十九圖 黒先持



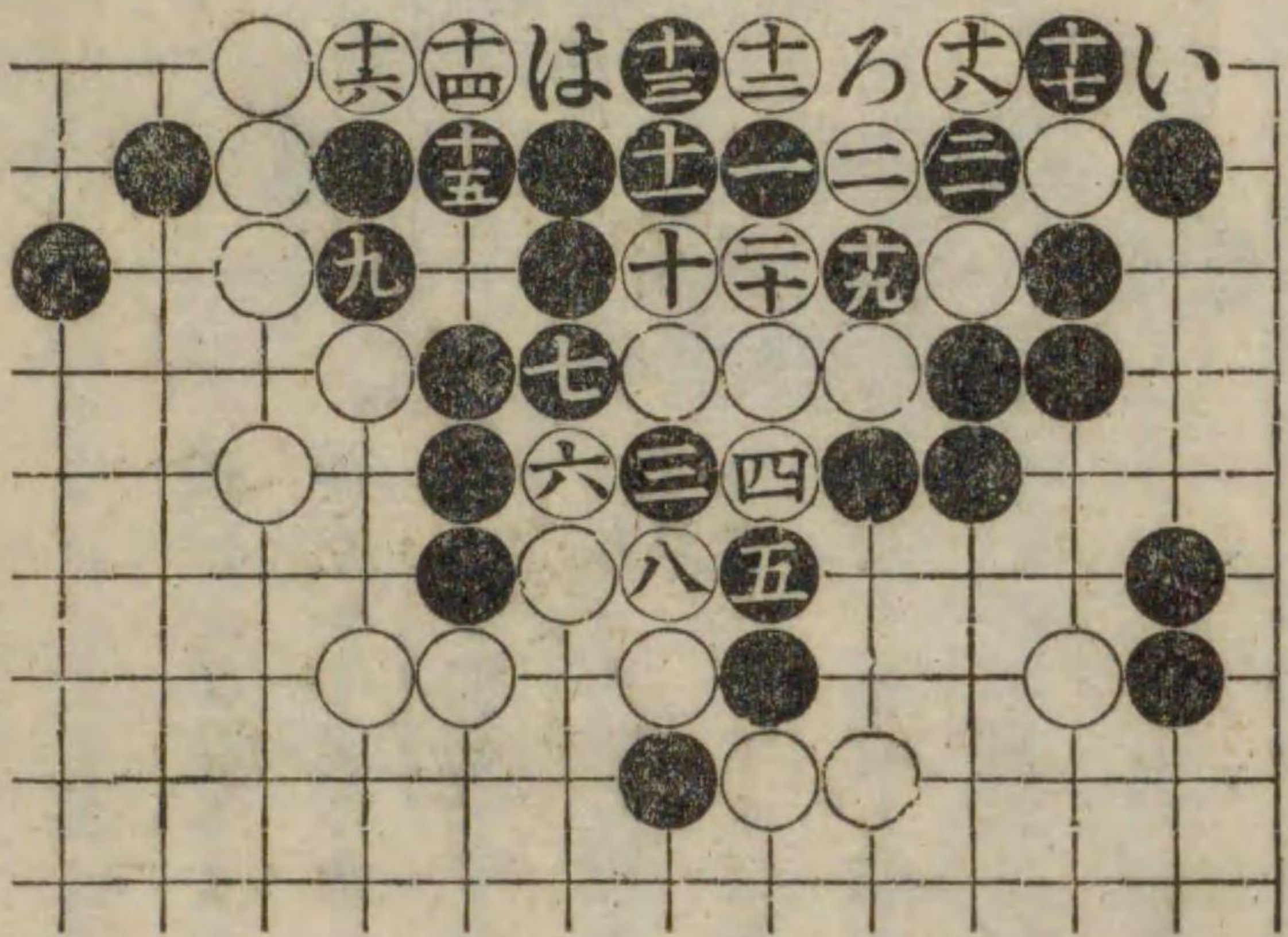
説明。黒一と割込みたるは手筋にして善し五とオキたるは良手なり白若八を九へ縛ねば黒八白十黒十一白「い」黒「ろ」白「は」黒「に」白「は」黒又「ろ」へ打込にて黒活となる白十と打ちて黒を殺さんとするは無理なり「ろ」へ打ち黒「い」となるが本手なり。

第二十圖 黒先にて活く



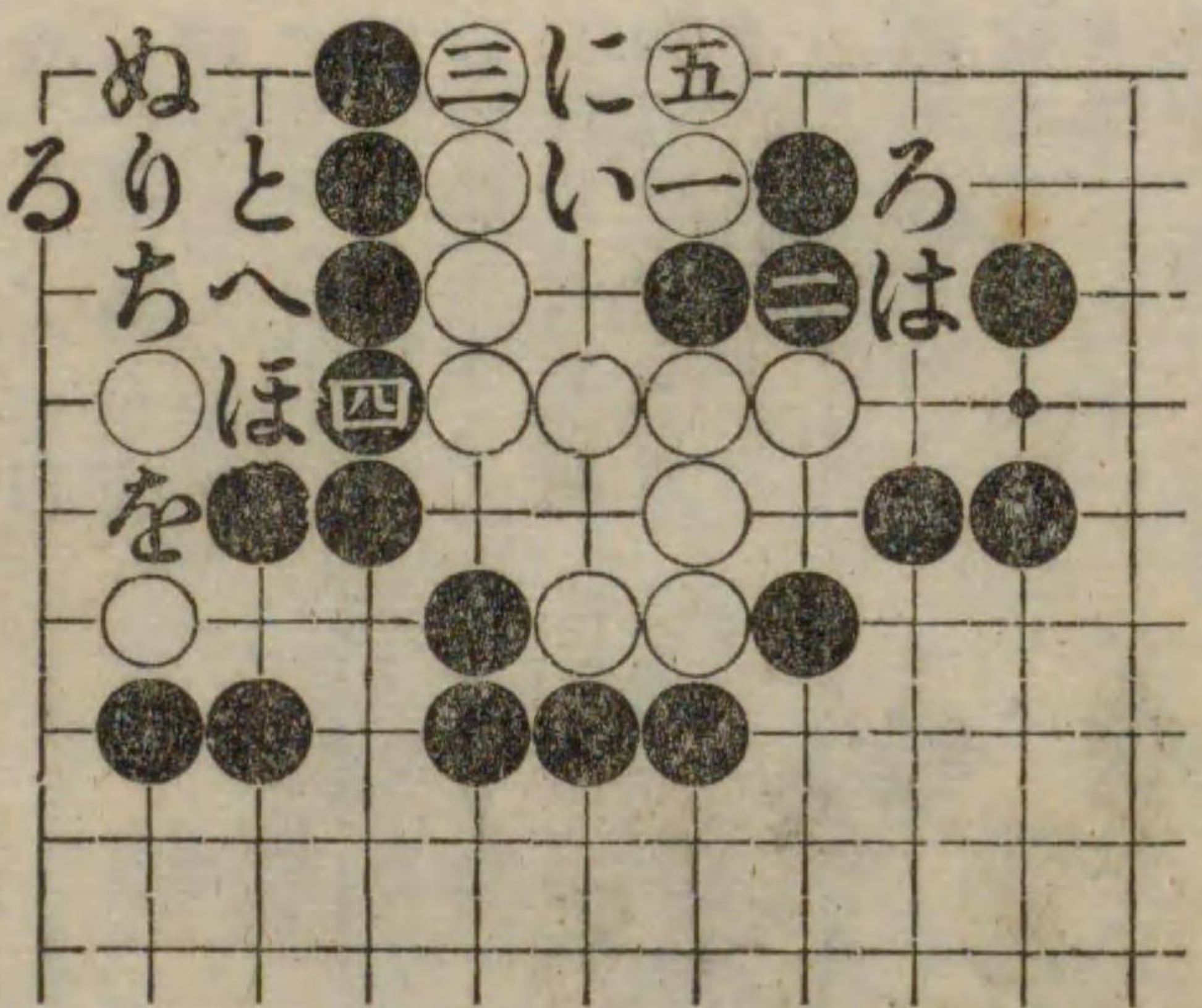
説明。黒一の手善し此手を他に打つべからず白二の手を三の處に打たば黒は「い」に切るべし之にて矢張活なり。

第二十一圖 黒先劫活



説明。黒一と打ち三と頂越すは手筋なり以下手順皆善し此の時白他へ劫立をして「は」二へ劫を提起し時黒は「い」へ粘ぎて兩劫の形となるなり強ひて黒石を取らんとするには「ろ」か二へ粘がねばならぬ爾かすれば黒は手を抜きても劫となる、故にそれは白無理なり白若十の時十四へオカば黒十五白十六黒二十白十九黒十白十三黒十二白「は」黒「ろ」にて連絡す。

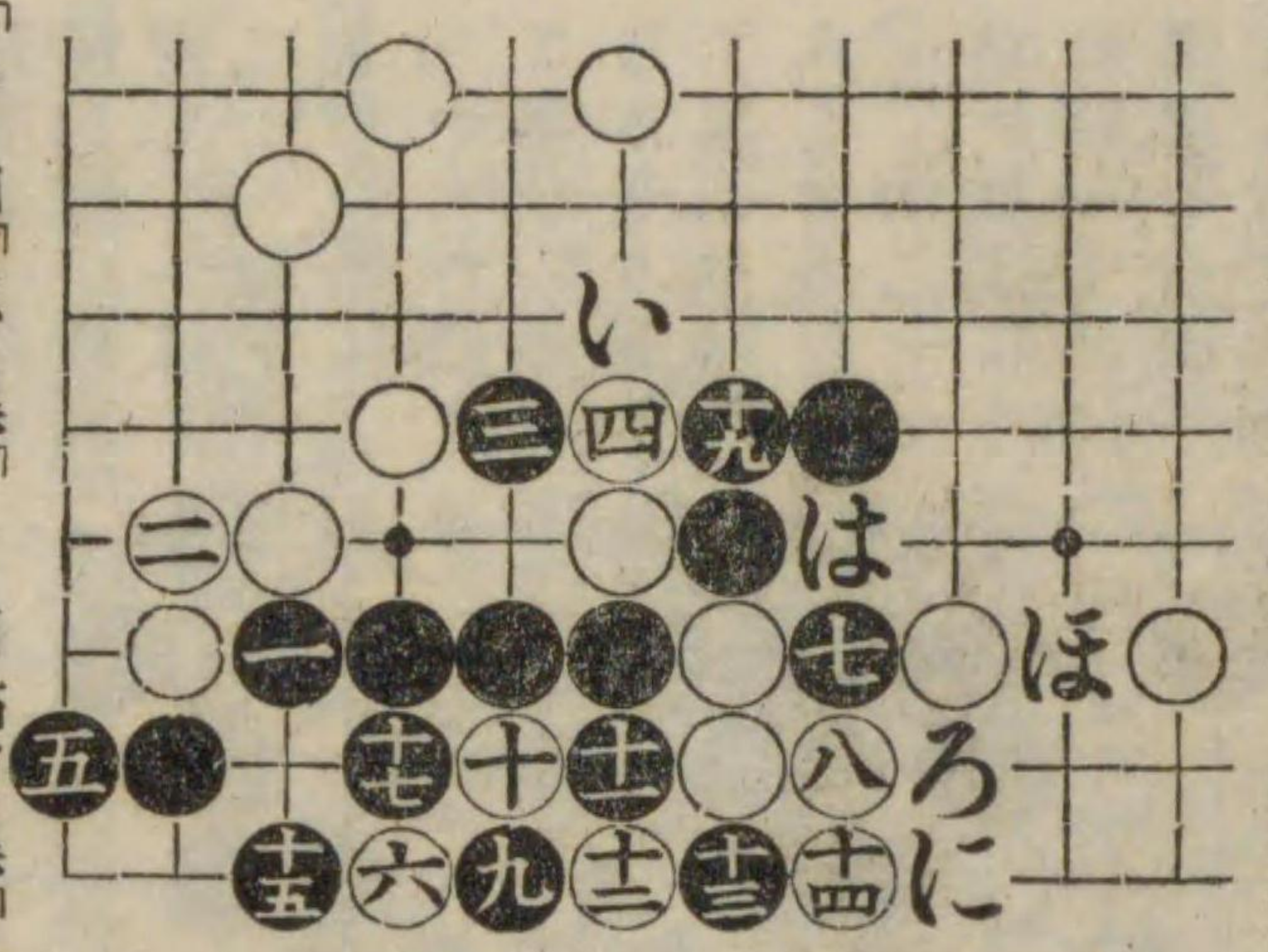
第二十二圖 白先にての結果



説明。變化一、黒二と續く手にて五の處に縛れば白二の處に切り黒「い」に提起白三に約へ黒四に續き白「ろ」に列出し黒「は」に切りし時白「に」に打ちて活く。  
變化二、變化一の手順の中黒四に續く手をやめて「は」に打たば白四の處に突出し黒「ほ」白「へ」黒「と」白「ち」黒「り」白「ぬ」(此「ぬ」にツクル手をなさずして「を」に打てば黒より「ぬ」に打たれて敗すべし)黒「る」の時白「を」に續きて白勝つ。

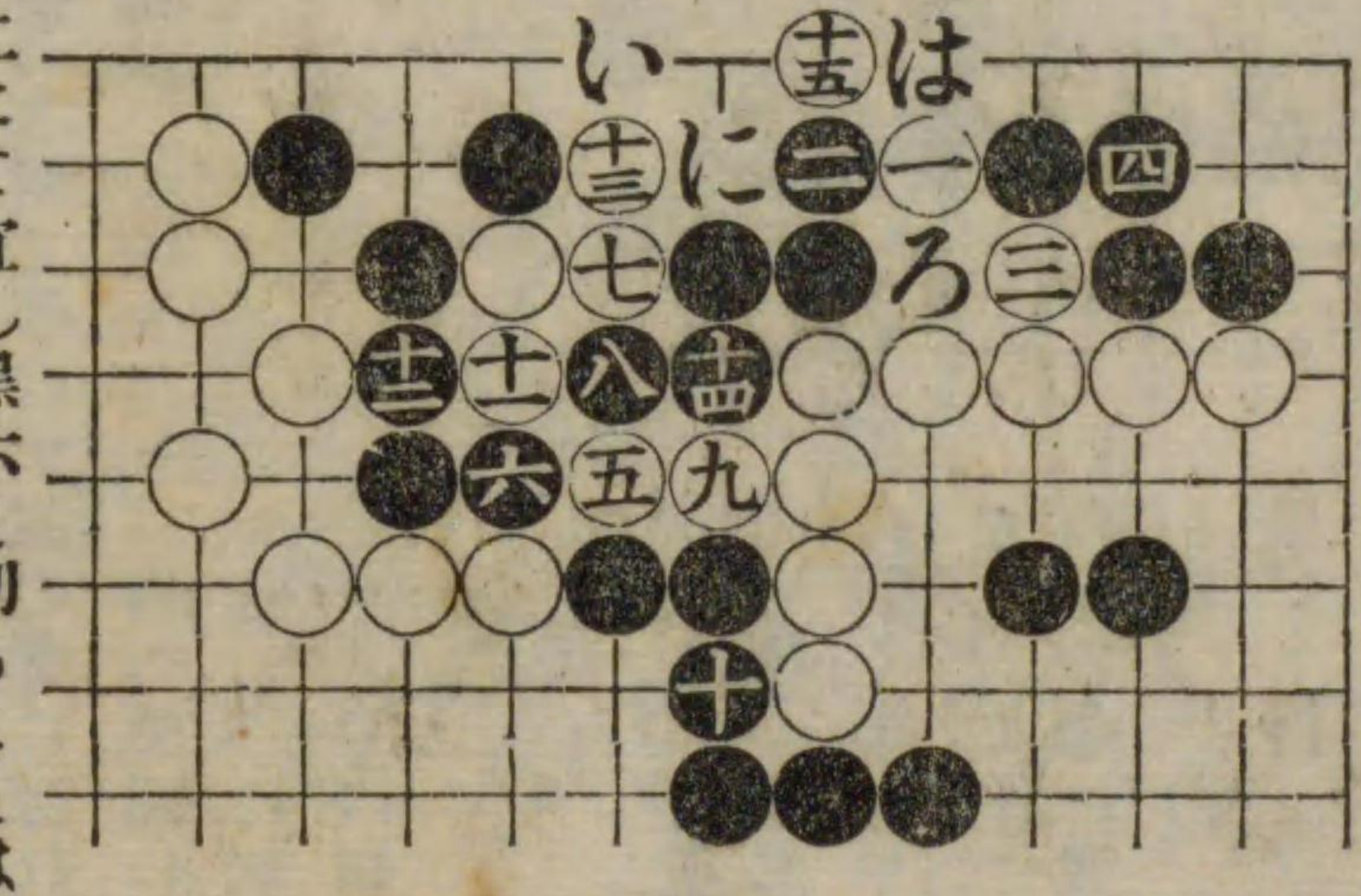


第二十三圖 黒先活



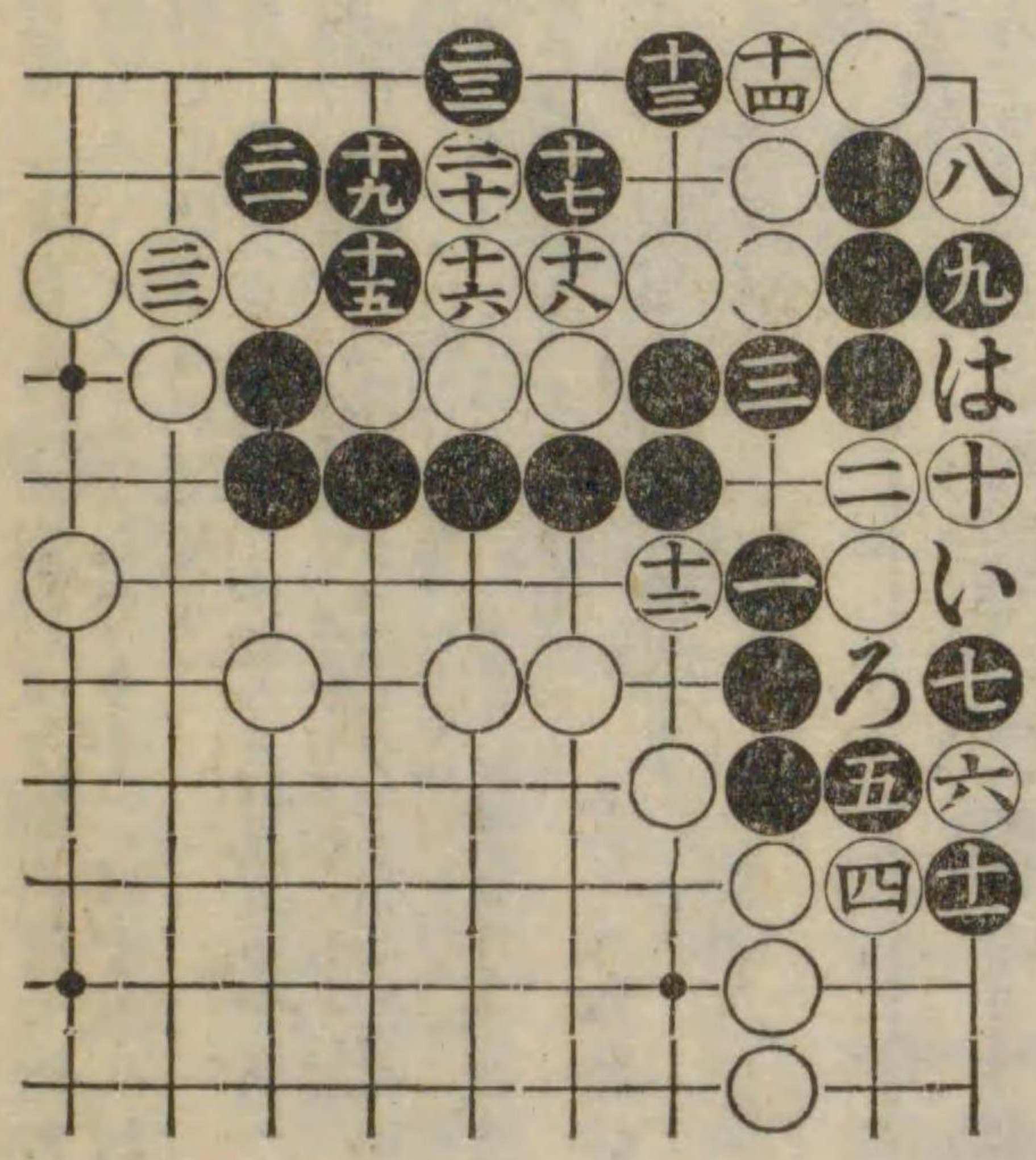
説明。本圖は別段六ヶ敷妙手なけれども碁は手順が肝要なるものゆゑ初學者の爲に其の手順を示すのみなり白が此黒を取らんとするは無理なる手段と知るべし尙本圖形に於て白「い」なれば黒「ろ」白「は」黒「に」白粘ぎ黒「ほ」にて征となる然し征に取れぬ時は黒に手段なきなり故に本形は征の關係にて生死を左右す。

第二十四圖 白先活



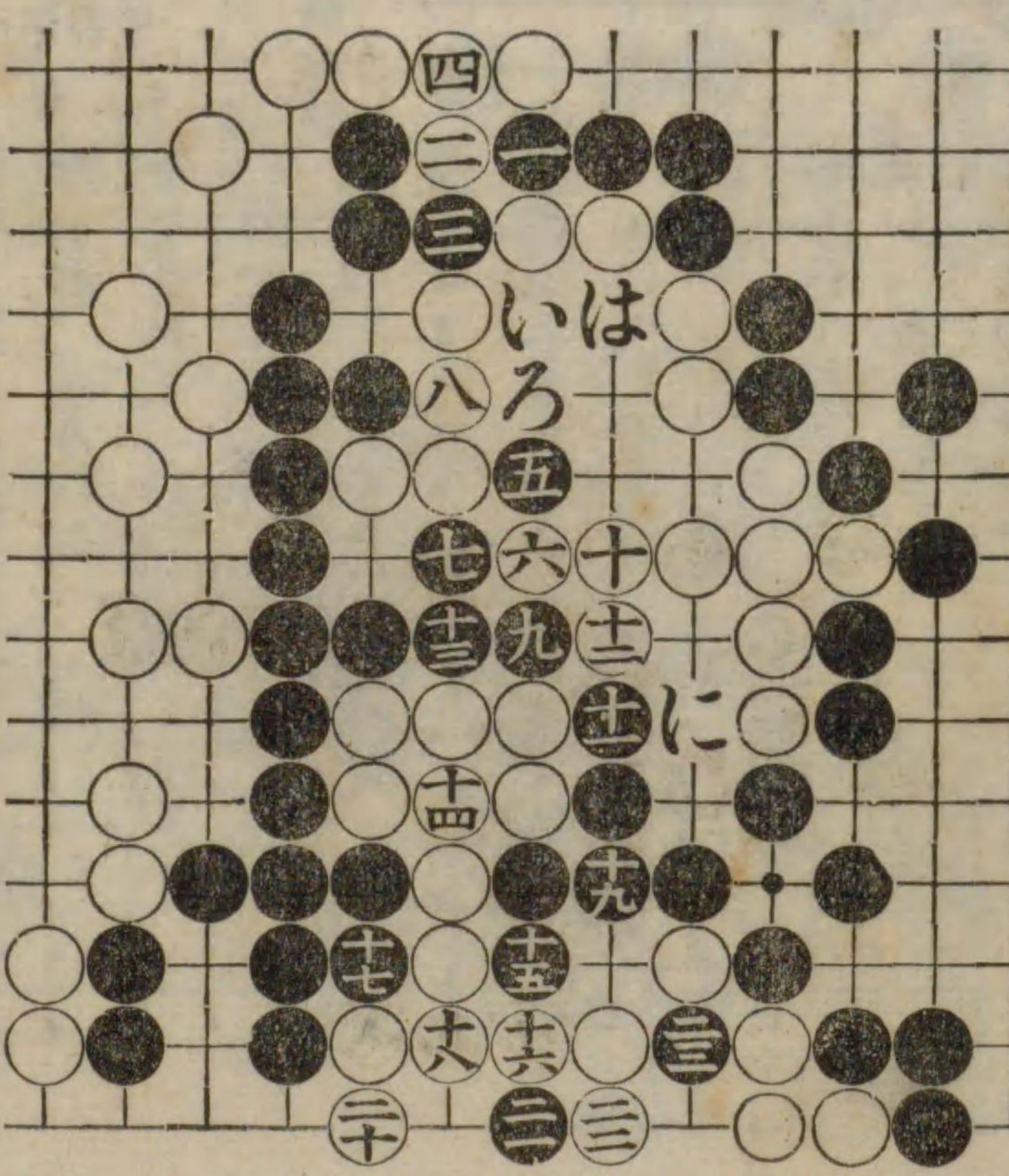
説明。白一、三と打ち五の縛ね善き手筋なり黒八を若十三なれば白九黒十白十二にて善し黒又十四を「い」なれば白「ろ」黒「は」白「に」白粘ぎ四黒「に」白粘ぎにて攻合ひ白の勝なり最初白一の時黒二を「ろ」なれば白三黒四白五黒六白七黒十三白九黒十白十二にて善し黒若十三を八なれば白九黒十白十三黒「に」白「い」に黒十二白「い」にて甚だ善し黒又「に」を十一なれば白「に」黒十四白二にて宜し黒六と切ることは無理なりと知るべし。

第二十五圖 黒先劫活



説明。白八を十一へ粘ば黒十白「い」黒「ろ」白「は」黒十三へオキにて活なり白としては斯く打つが本手なり強ひて黒石を殺さんとするは自から害を招く基となるなり慎むべし。

第二十六圖 黒先活



説明。本圖は某氏の對局に出來たものなり黒五は手筋として最妙手なり白若六を八へ粘がば黒六白七なれば黒十三白九黒「い」にて善し白又七を「ろ」へ約へれば黒十一にて白石切斷らるゝゆゑ白惡し

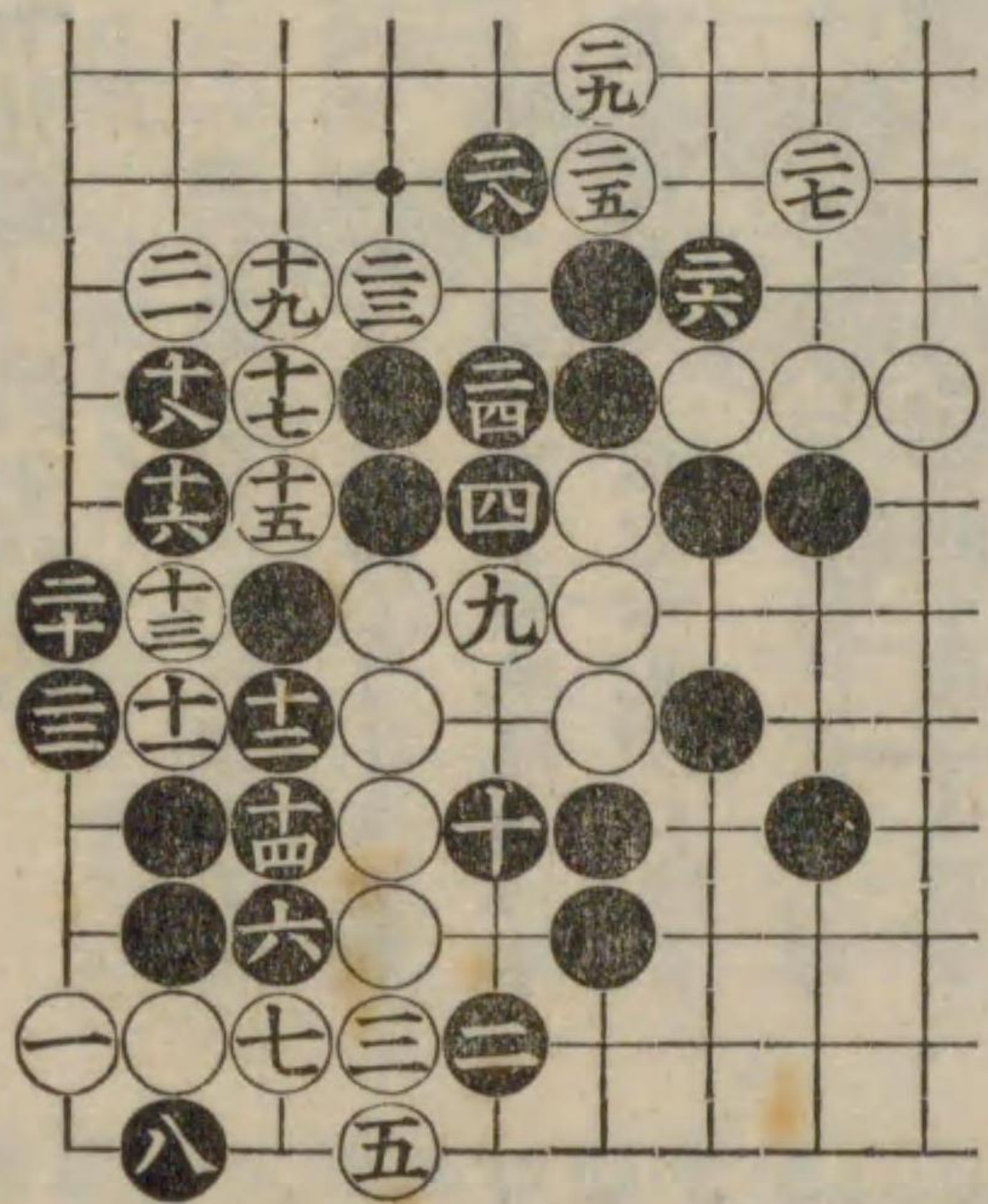


くなるなり白十二は無理なり斯く打つため却りて白石を取らるハメとなるなり十二は十五へ打ち黒十二と連絡して活きるが穩なり。

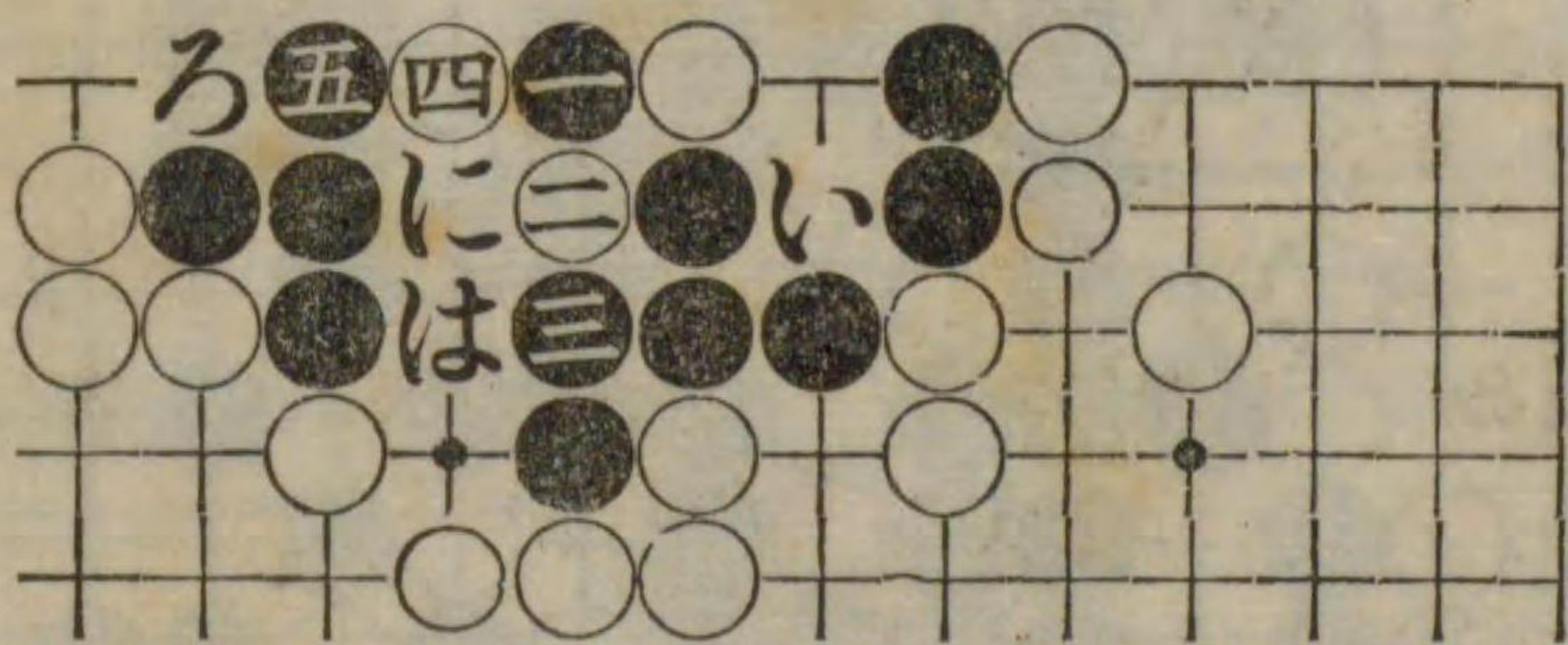
「附言」此型某氏等の對局に出來たる時黒五の時「い」へ切り白「は」となりしたため五の妙手を消滅したたり如何となれば黒「い」を打ち後に五へ頂けたる時白七黒十三白六黒九白十一黒十二白「に」となりて黒に手段なきことになりたり若黒「い」の切りを打たず置き白七の時黒八へ出る故容易に眼型出來たるなり黒最初打ちしたため害をなす打着の善悪は機會あるものなれば注意すべし。

第二十七圖 白先活

説明。黒八、十と白石を殺さんとするは無理なり夫れがため却つて白石を取らるる事になり行くなり白十三善し以下の手順は初學者と雖、分る手なり。



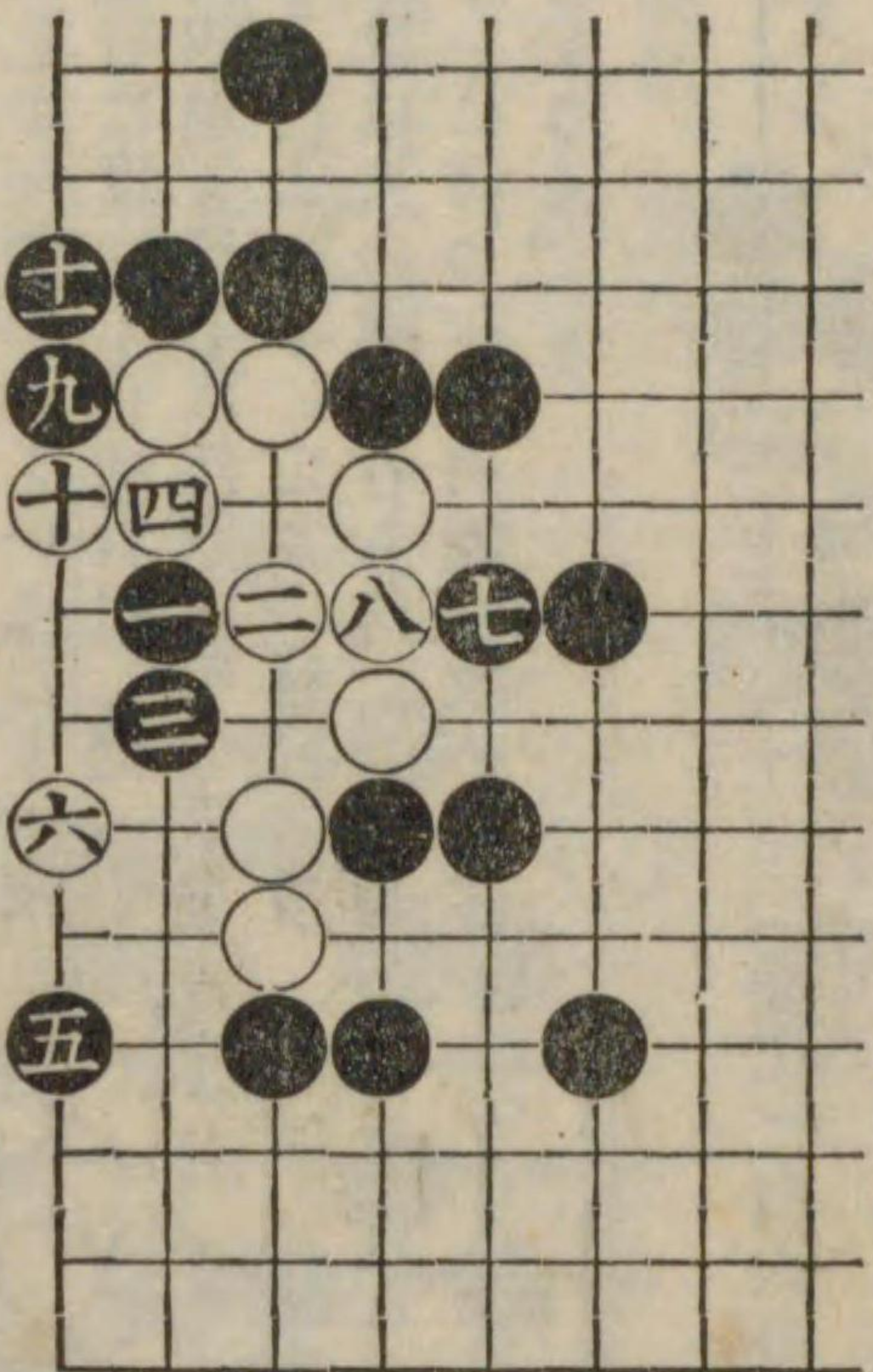
説明。黒一の頂、善し若、右方の二子を吝みて「い」に續かば白「ろ」黒「は」白二黒三白五にて死なり、又黒五の手を誤りて「に」に打たば白より「ろ」に綽ねられて劫となるべく「ろ」に下らば白より「に」に打たれて死となる注意すべき事なり。





第三十一圖 黒先にて白死

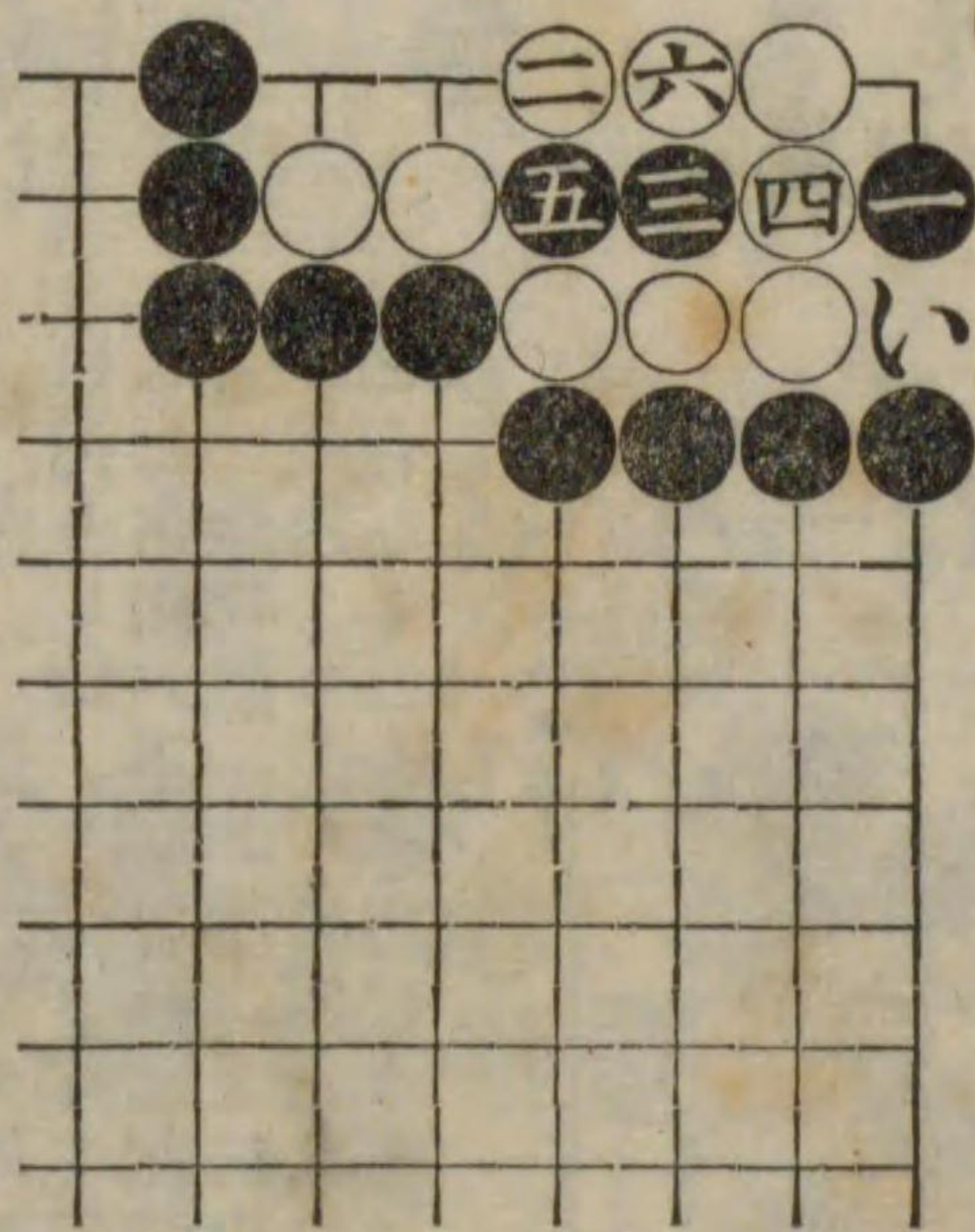
説明。黒一とオクは手筋なり次ぎに五の飛面白し常用の手なり總べて敵の石を取らんとするに俗手にては効を奏しがたきものなり。



七五の處刺

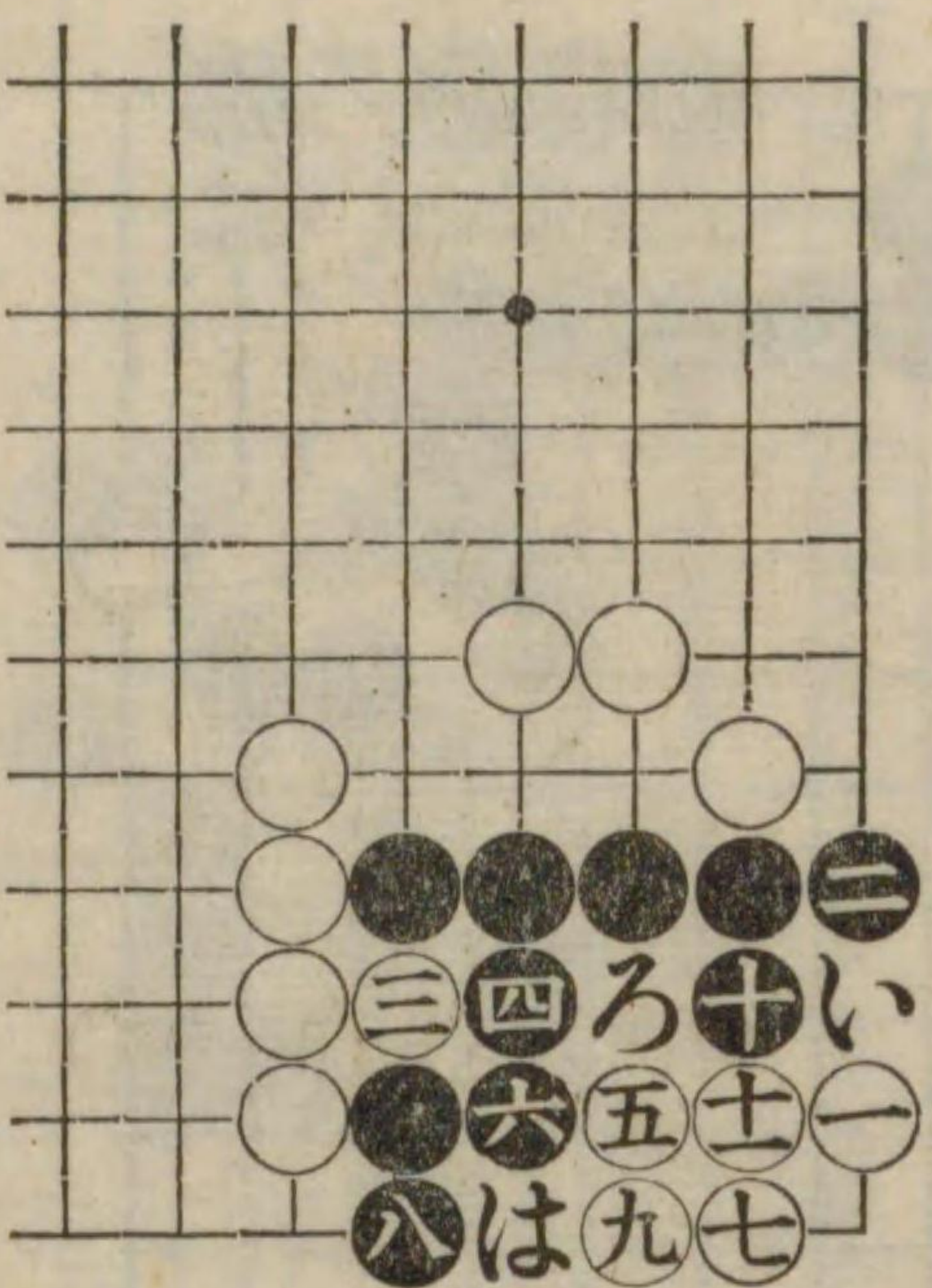
第三十二圖 黒先白死

説明。黒一の手は常用の要處なり若し白二の手にて「い」に打ちし時は黒は四の處に出で白三の處に約へなば黒は二の處にオクなり。



第三十三圖 白先黒死

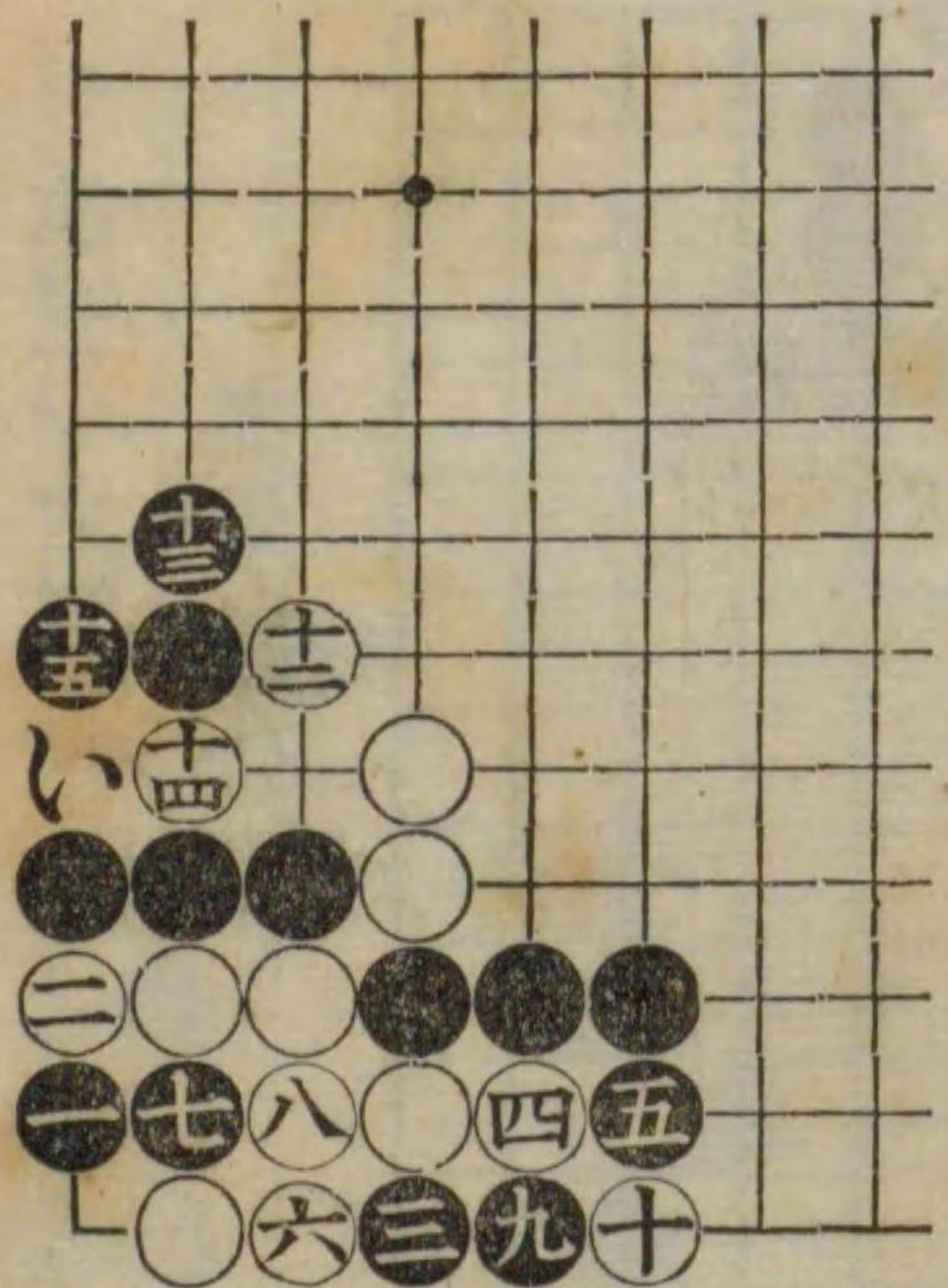
説明。白一の手は前同様の要處なり五と打ち七とコスミし手注目し値す黒八の手を九の處に打たは白はたゞ八の處に綽ねてをらば善し白十一のツギも必要の手なり、これにて五目中手となりしなり、それは白には一眼あるによつて黒は「いろは」の穴へ悉手を入れて攻めざるを得ざればなり。



第三十四圖 黒先白死

説明。黒一は一ノ二(位置の目を稱す)の要處なり黒三の頂も注意すべき手とす黒七、九も善く殊に九と二目にして捨て十一とウチカク手筋は初學者の心得べきことなり最後に黒十五の手良し此手は兎角「い」と受け易けれど白より十五の處にウチカカレるときは形勢破壊すべし。

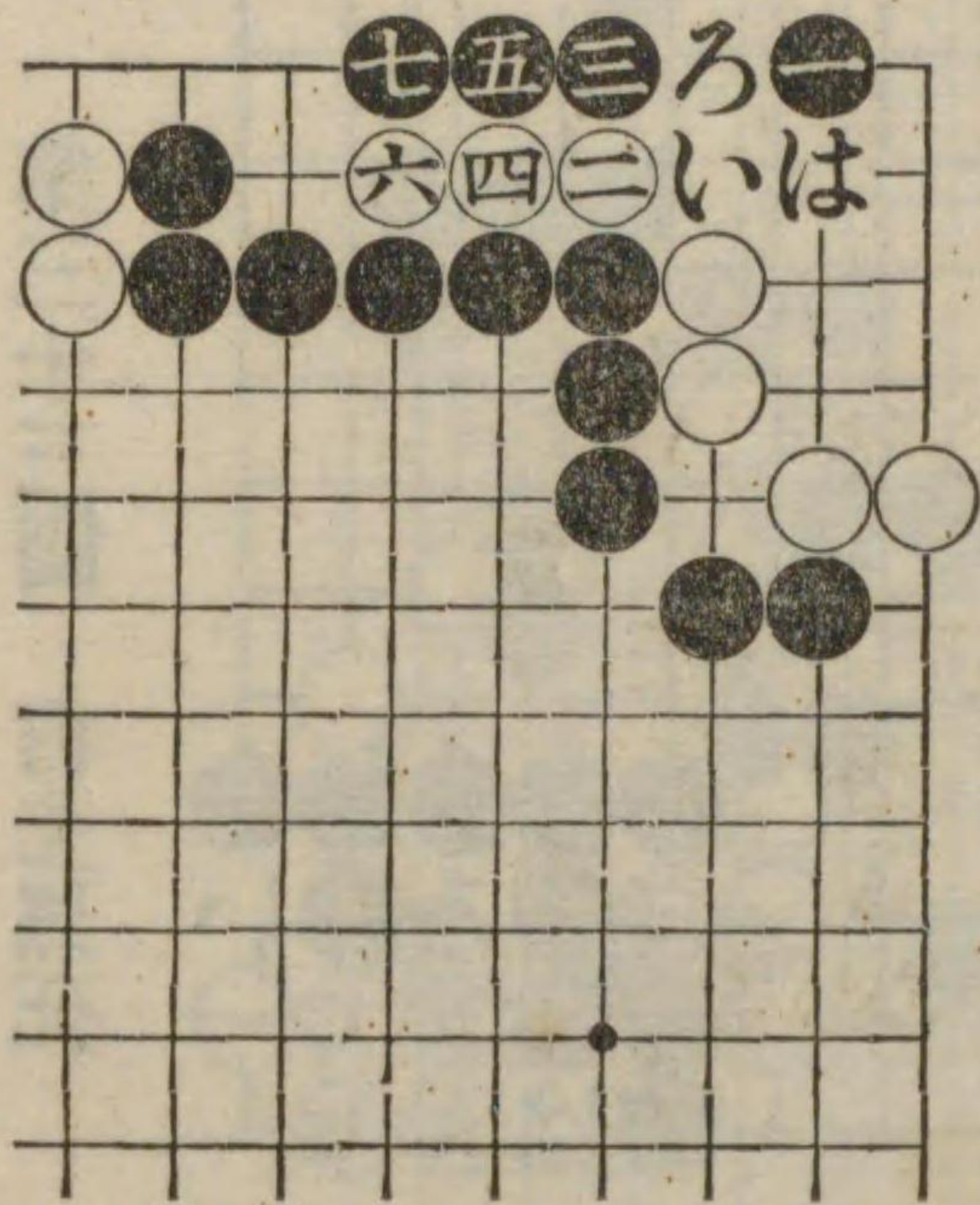
十一九の處刺





第三十五圖 黒先白死

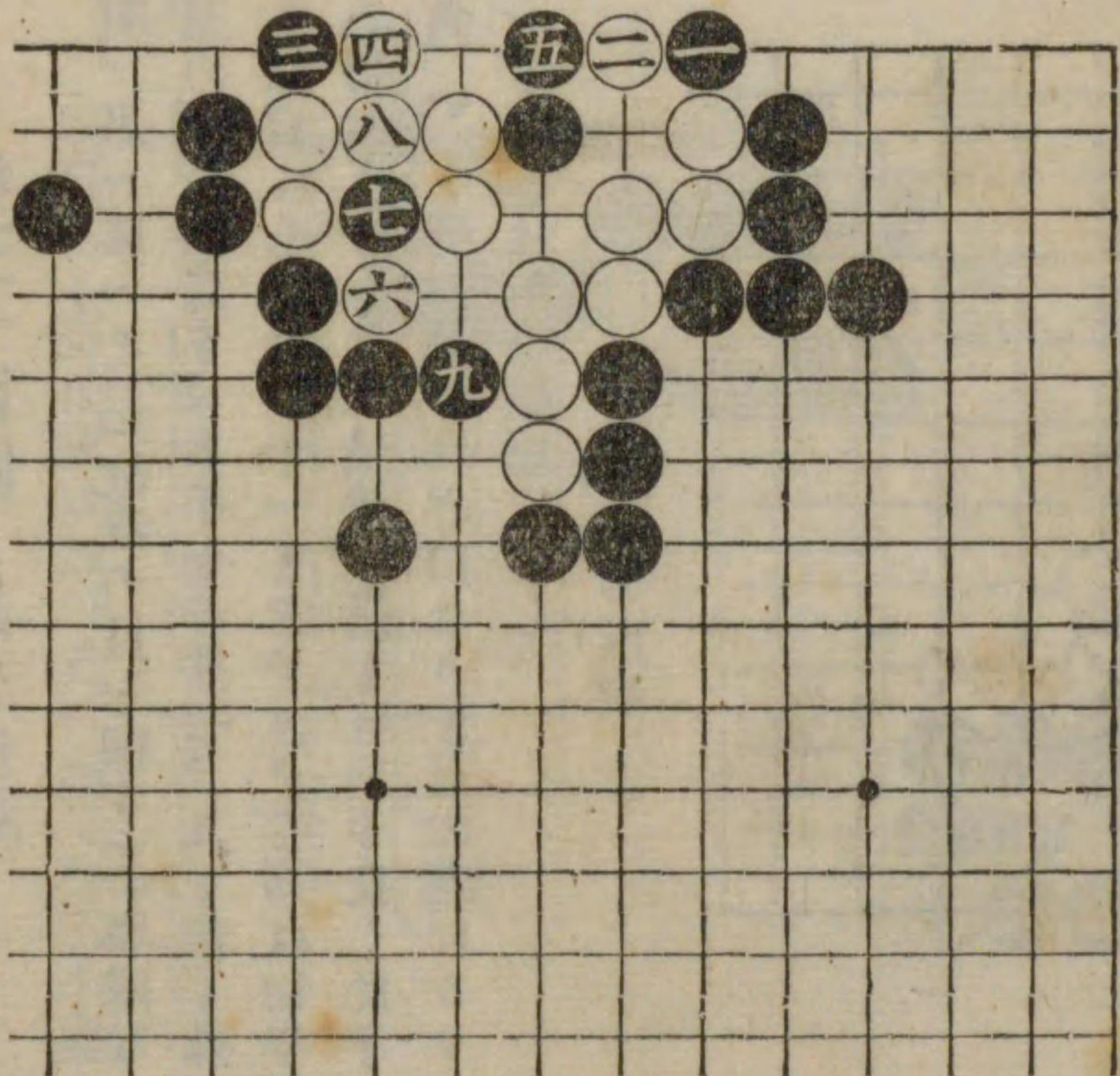
説明。黒一の手面白し此手を他に打ちては宜しからず白四の手にて五の處に約れば黒「い」に切り白「ろ」に一目提起し時黒「は」に粘べし又白六の手にて七の處に約れば矢張黒は「い」に切り白「ろ」に二目提起し時黒「は」に粘ぐこと前と同じ。



第三十六圖 黒先白死

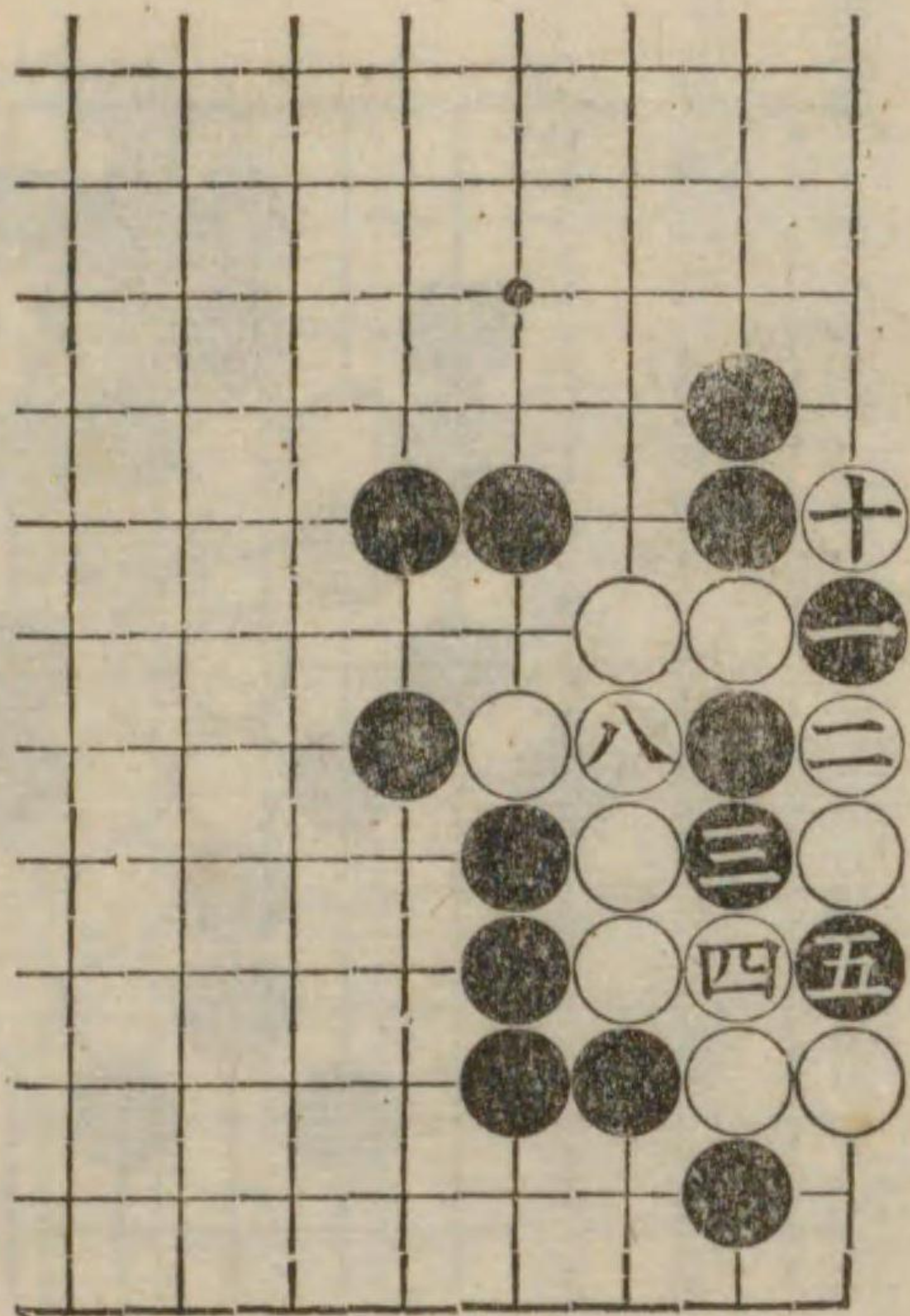
黒先白死

説明。黒の手順宜しく玩味すべし。



第三十七圖 黒先、白死

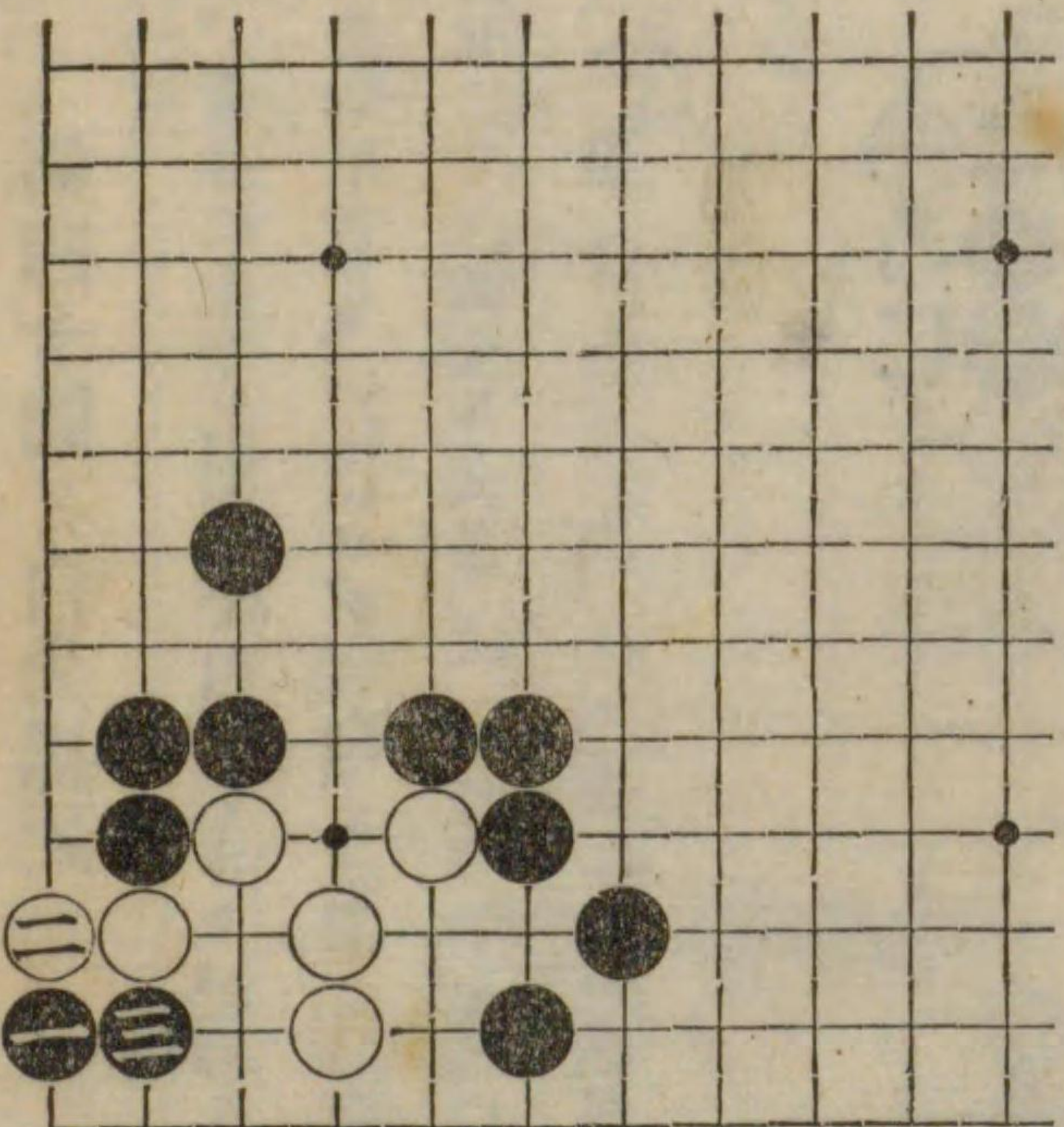
説明。別に説く程の事もなければ石を殺すには用ふる手なれば心得べし。



六打カウ  
七トル  
九ツグ  
十七中手

第三十八圖 黒先白死

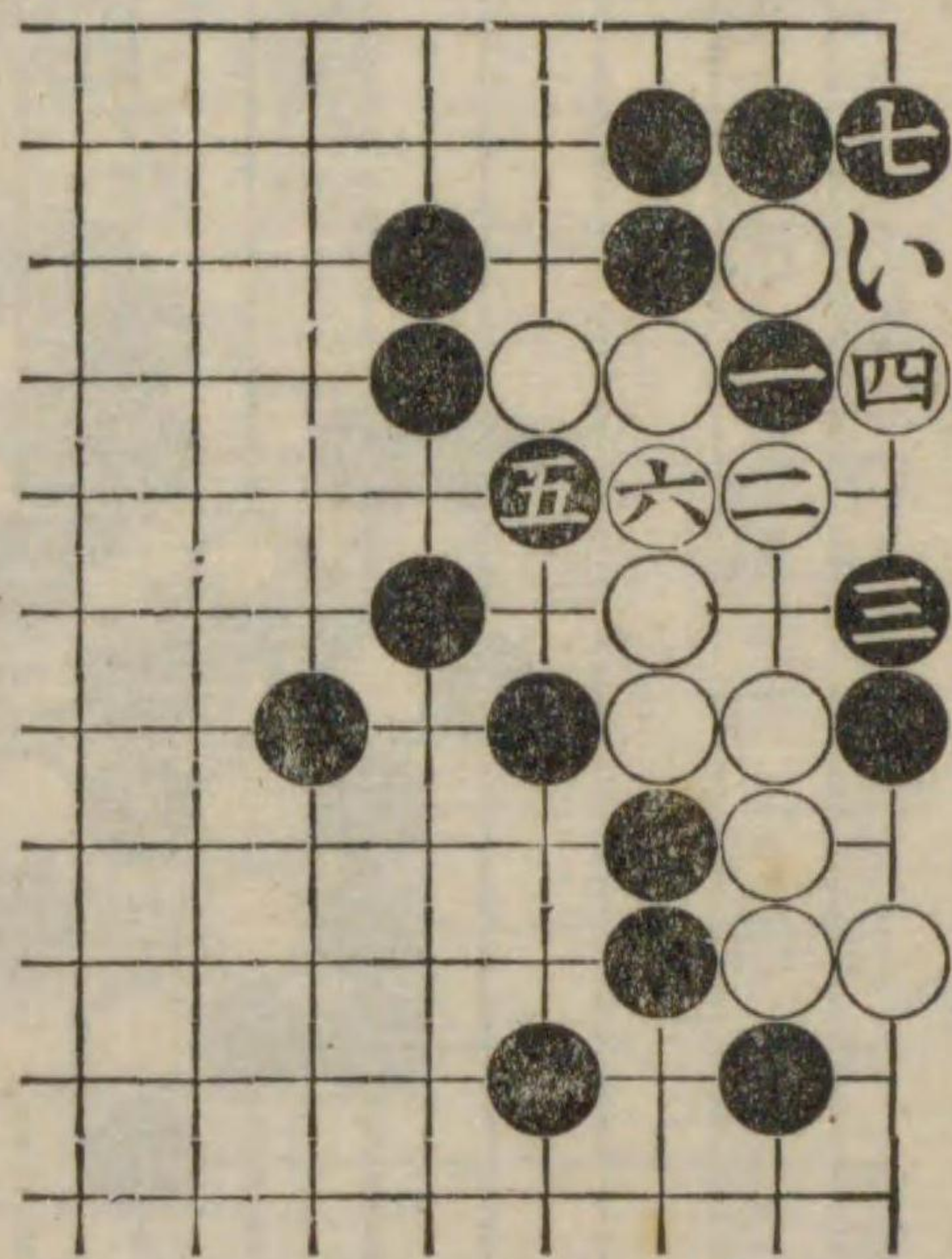
説明。黒一の手筋にて白死す白二を三の處なれば黒二の處に盤りて佳なるは言ふまでもなし。





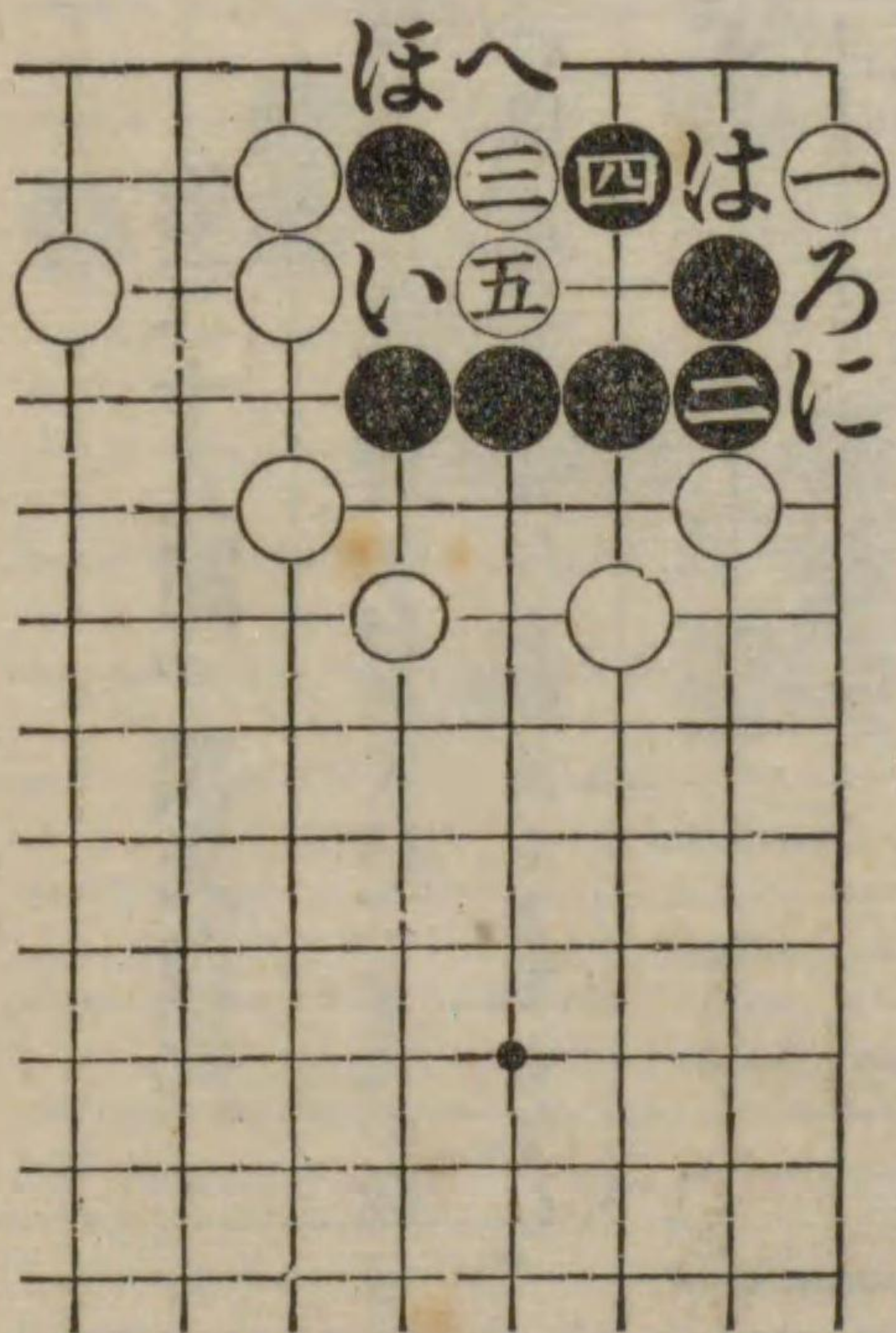
### 第三十九圖 黒先白死

説明。黒一と切りて三と行る手善し白四の手を五の處に眼做らば黒は「い」に提りて善し。



### 第四十圖 白先黒死

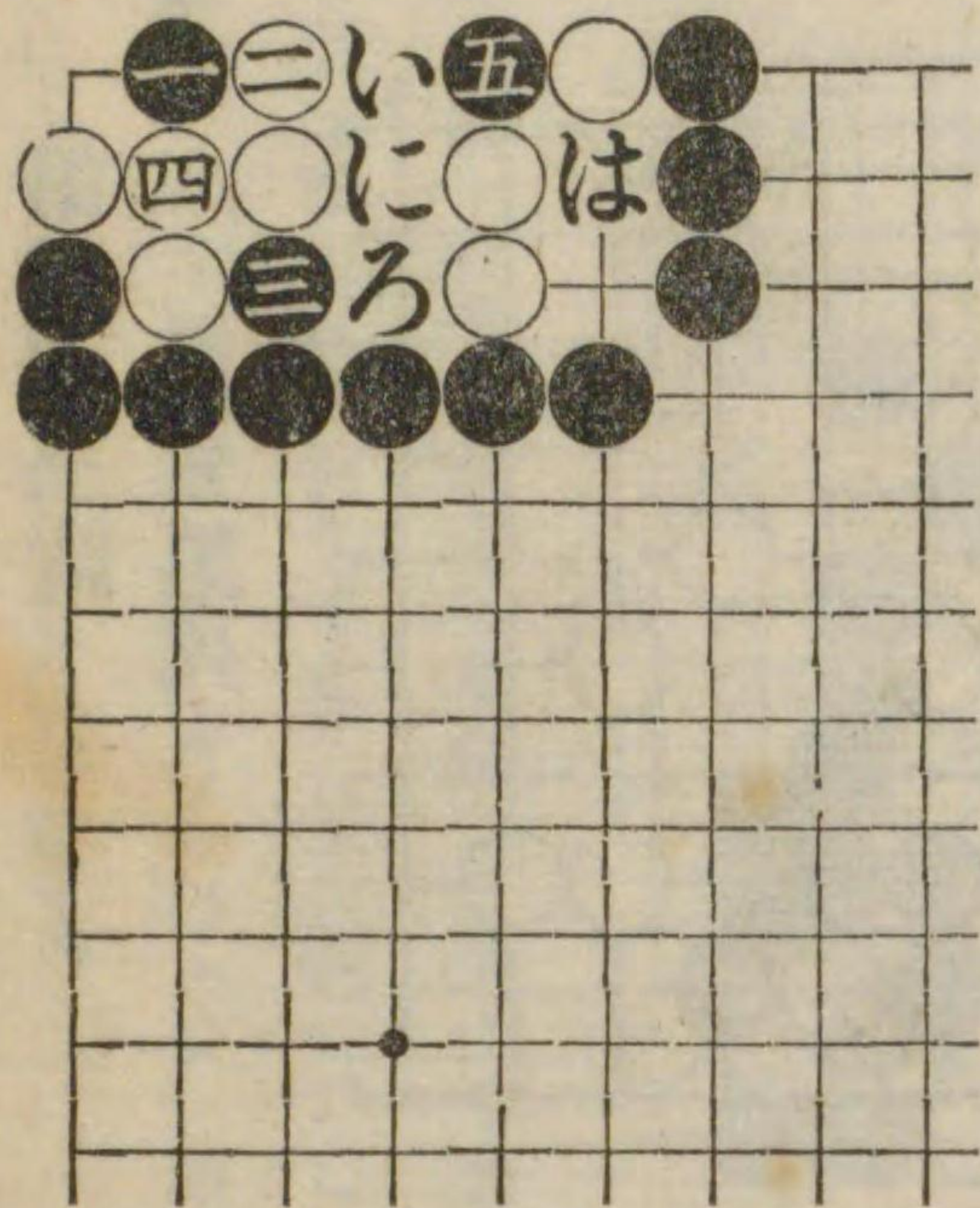
説明。置碁に生せし形にて白一とオクが善き手筋なり此時黒若し「い」にツゲば白「ろ」黒は「白二黒四白五にて白勝なり又黒「は」に打つ手を二に打たば白「に」黒「は」白「ほ」黒「へ」白四にて矢張黒死となる。



### 第四十一圖

#### 黒先白死

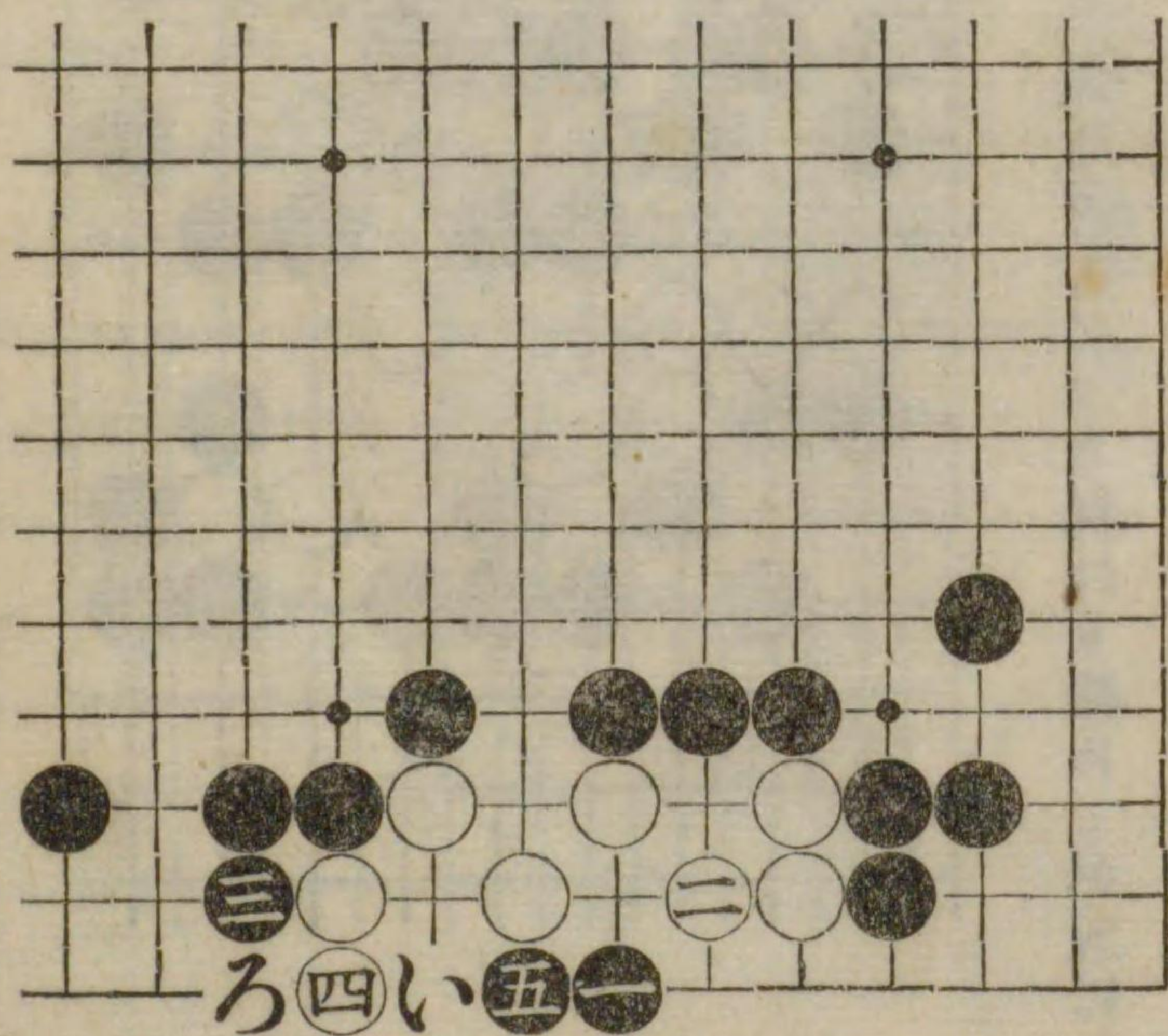
説明。此形は關五段稽古碁に出來したるものにて黒五の手が面白きなり如何に變化を試みて打つも白死なり即ち白「い」に提らば黒「ろ」にて宜しく又白「は」なれば黒「に」に勿込みて可なり。



### 第四十二圖

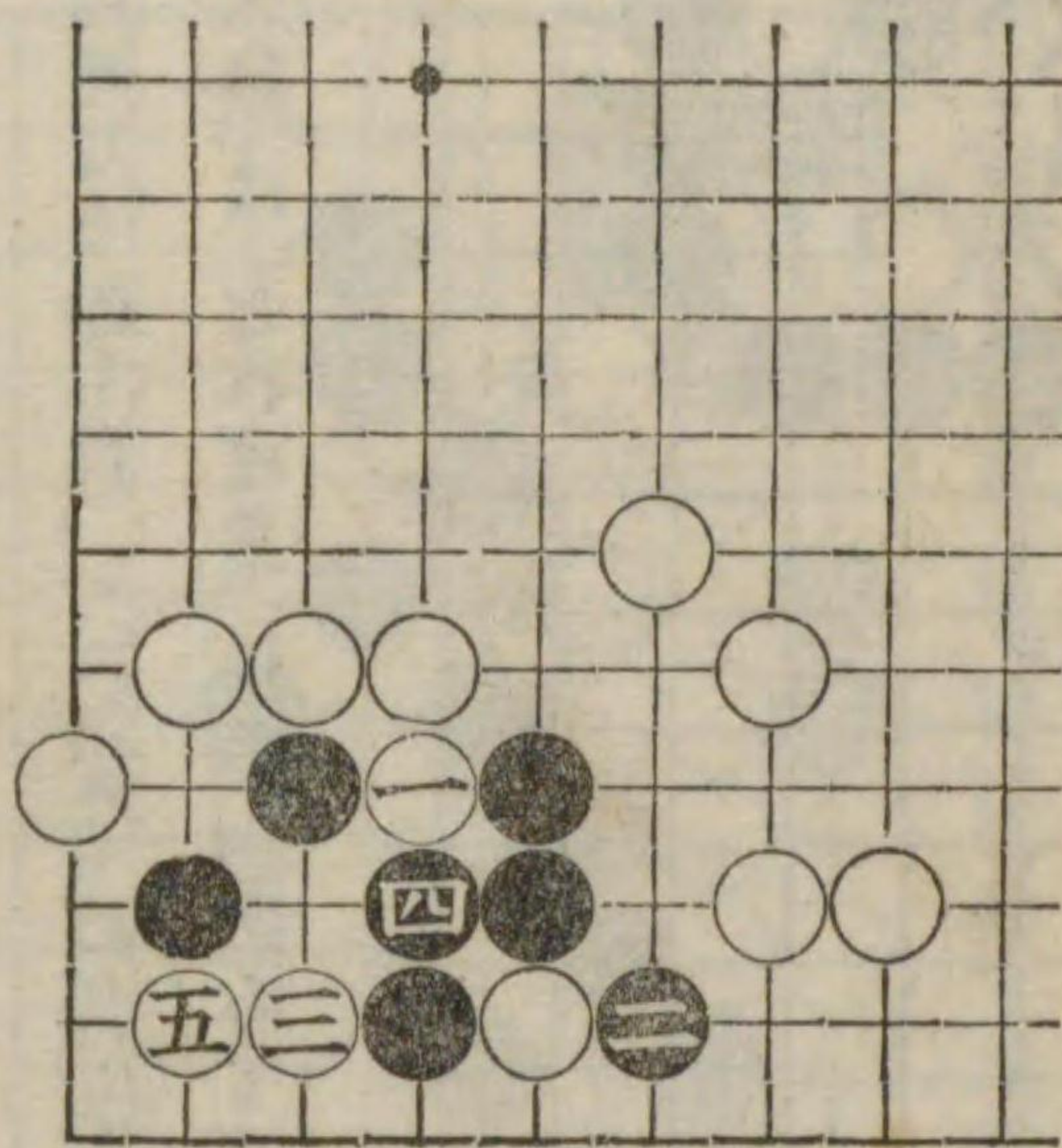
#### 黒先白死

説明。黒一とオクが良手にて白若し四の手にて「い」に眼做らば黒は「ろ」に下りて此眼を奪ふべし又白「い」に打たずして「ろ」に綽れば黒「い」にオクべし。



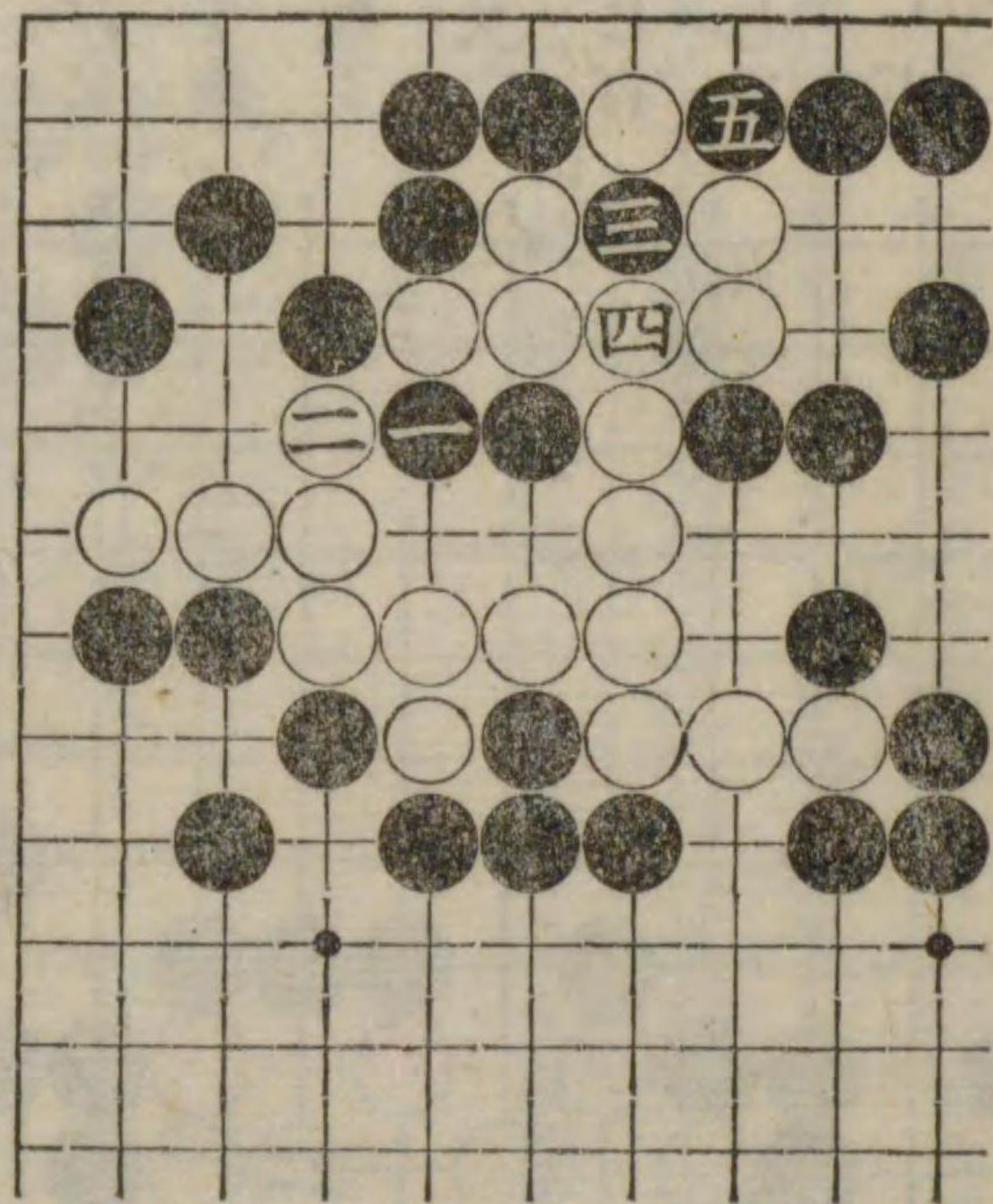


第四十三圖  
白先黒死



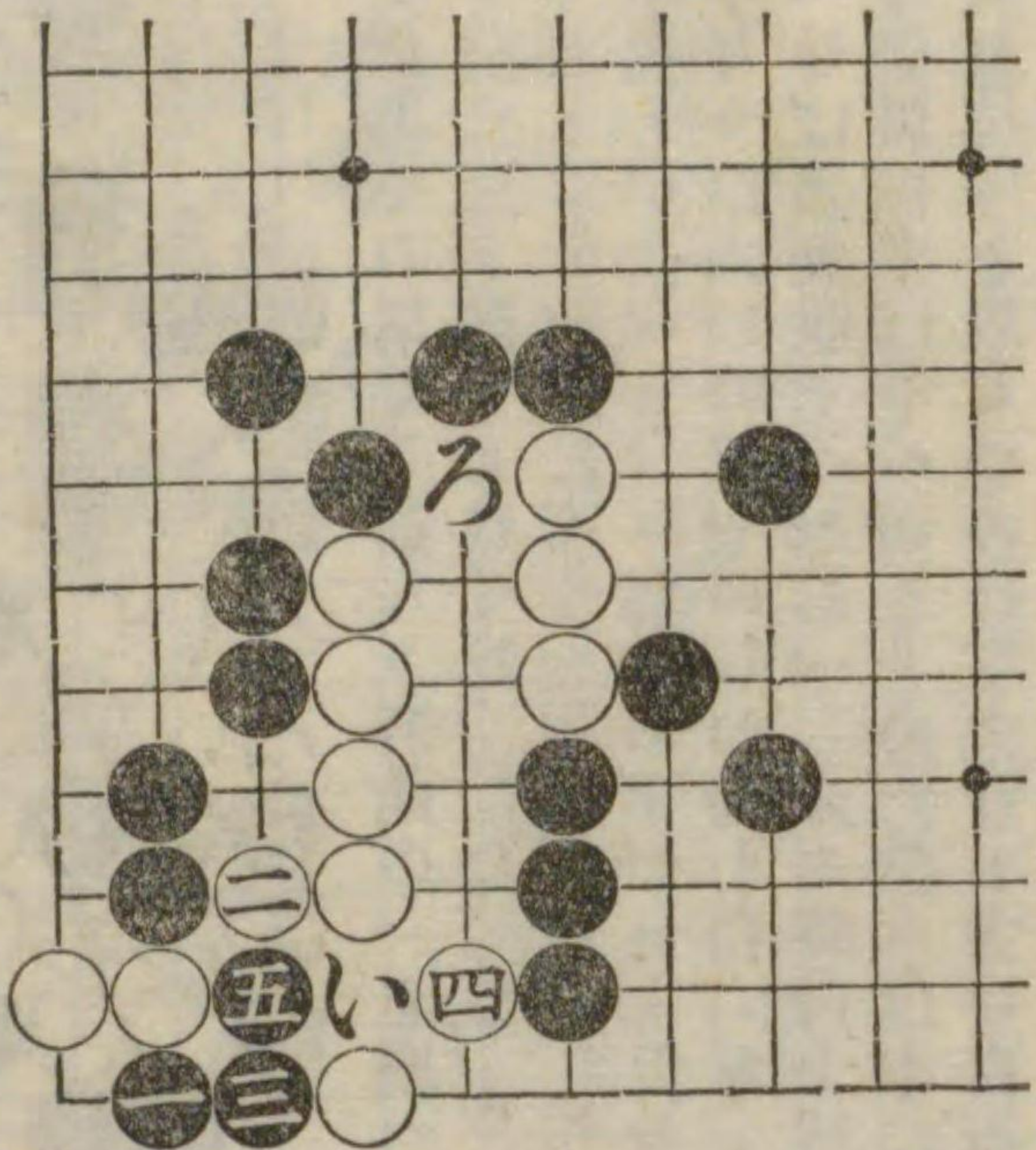
説明。白一と出で一子を捨てるゆるる黒死となる  
圍碁には石を捨つる手に妙味ありとは之なり黒  
四の手にて五の處なれば白は四に切るべし格別  
六ヶ敷手にはあらざれども白の一子を捨つる意  
味を初學者に示すなり。

第四十四圖  
黒先白死



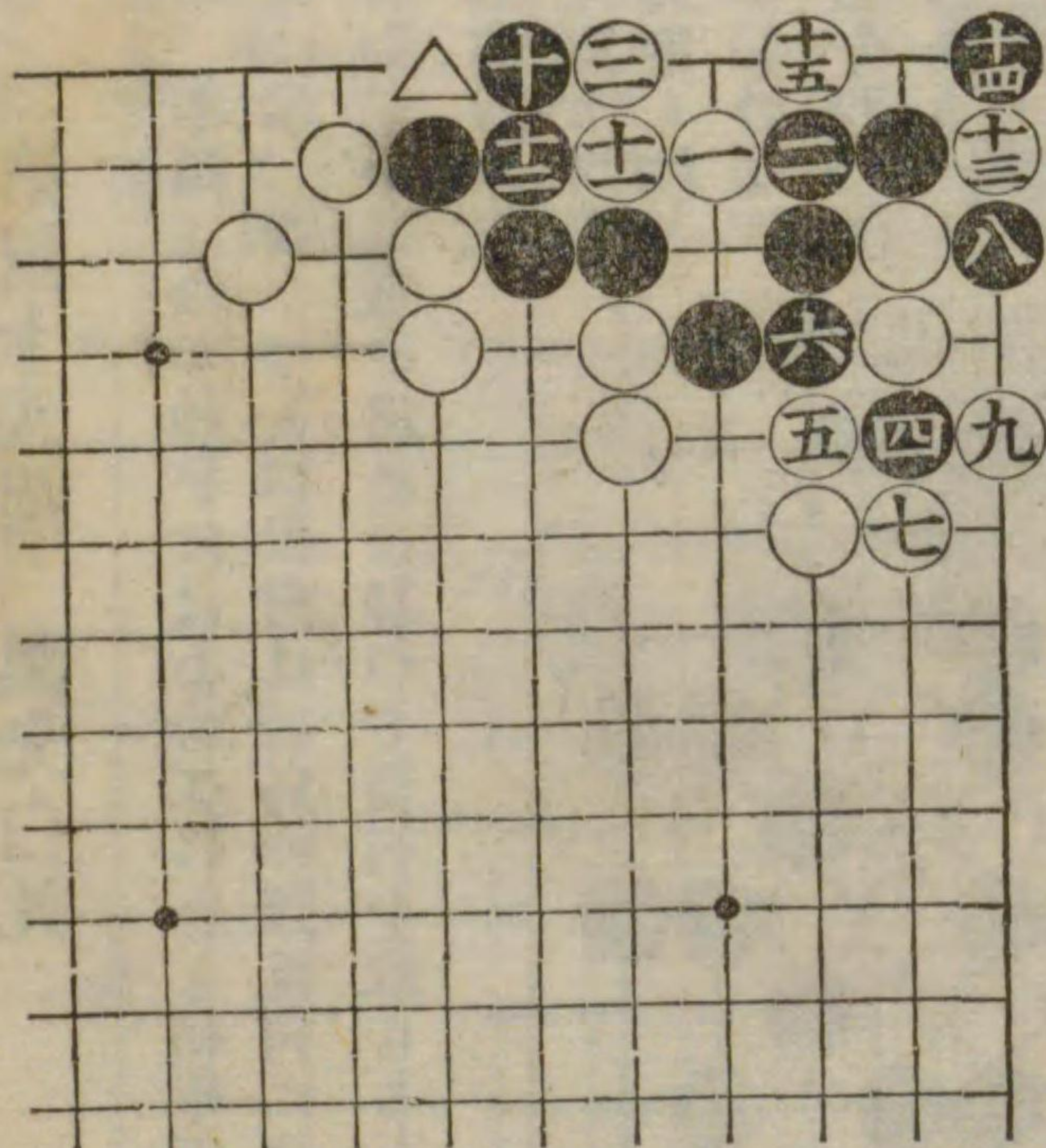
説明。小林三段の稽古碁より採れり極めて卑近に  
して考究の價値なきが如きも極々の初學者にては  
打ち損する事なきにしもあらず。

第四十五圖  
黒先白死



説明。黒一の頂は妙手なり白二の手にて五に打  
たば黒は四の處に打ちて宜し又白四の手にて五  
の處にツグも矢張黒は四に打ち白「い」の時黒  
「ろ」に上部の目を奪ひて白を殺す。

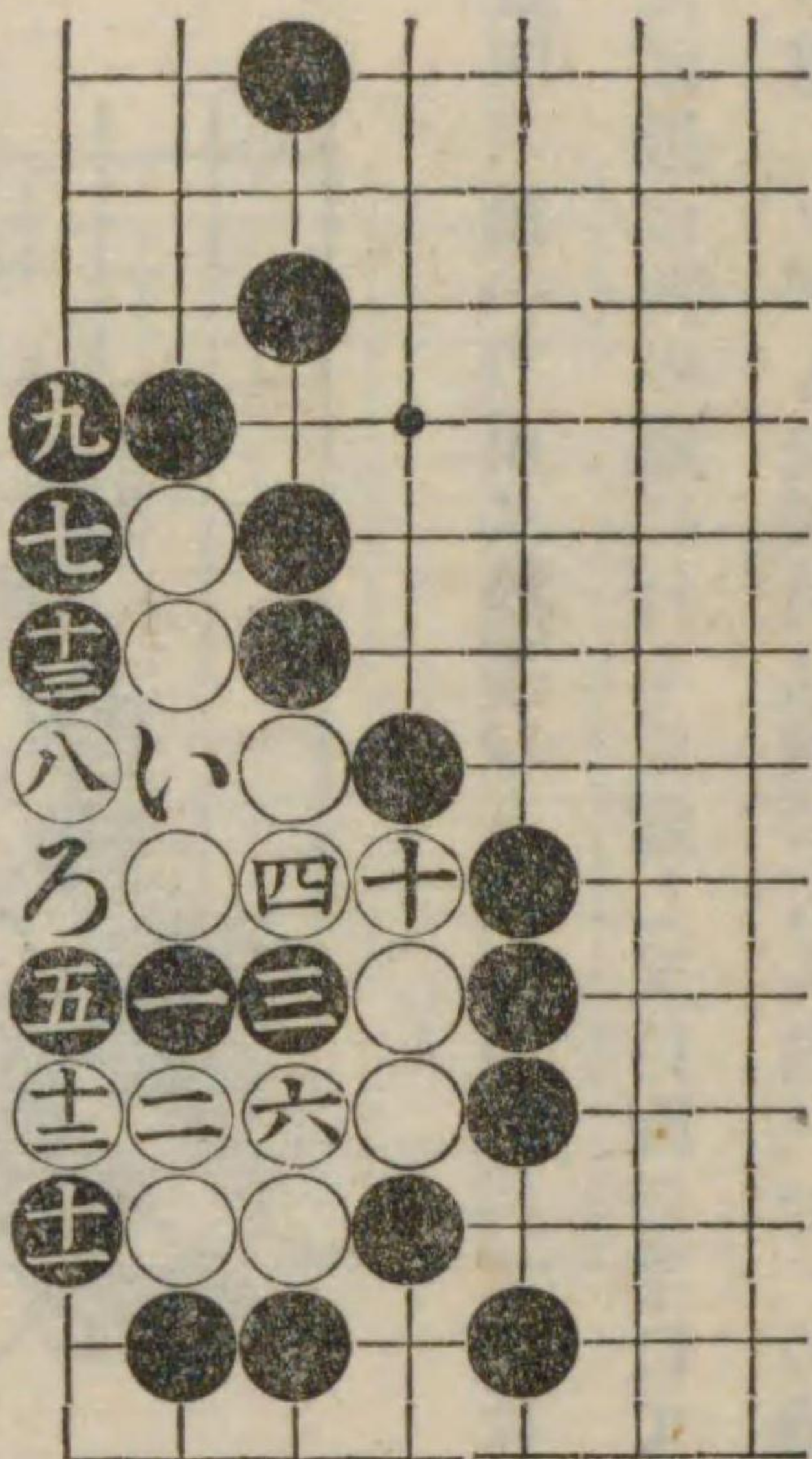
第四十六圖  
白先黒死



説明。本圖は置碁に出来る型なり白三妙手なり其  
の手筋宜しく参考すべし黒十と十二に粘げば白△  
印黒十白十三にて白善し。

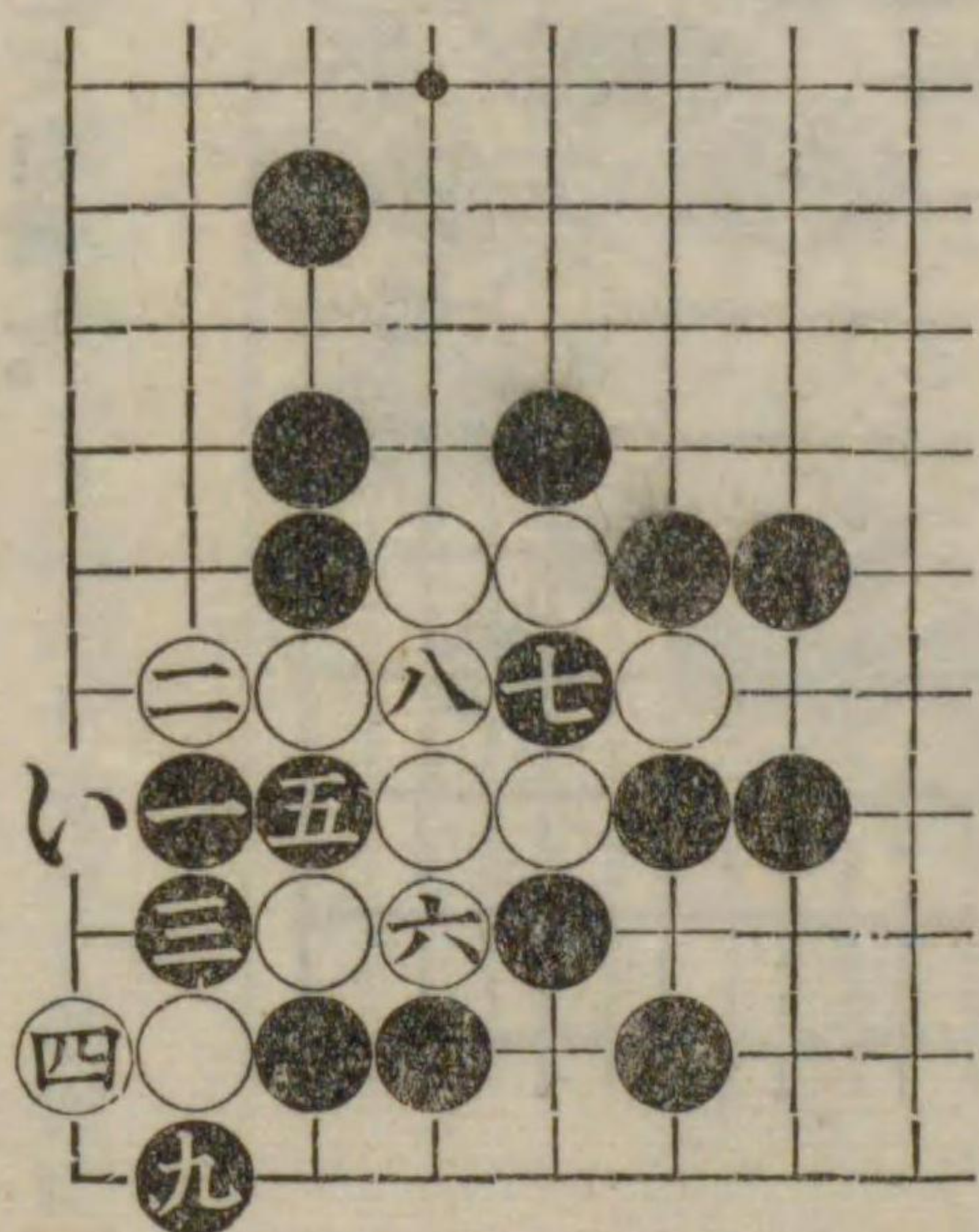


第四十七圖 黒先白死



説明。黒一の頂け手筋なり若此の一を四へ當てると白に三と應じられて黒「い」白二黒「ろ」白五にて劫となる容易に死すべきものを劫となしては不覺といふべきなり黒五の下がりも當を得たる手なり白六の時黒七の綽ね善し白六を「ろ」へ約へなば黒矢張七へ綽ぬべし此の時白十三へ約へなば黒輕卒に十へ切ると白六黒八白十二にて黒は只三子を取るのみにて大なる方の白石は活きらるゝことゝなるなり故に十へ切らずして八へ打込み白九の時黒十へ切らば全部死にとるなり。

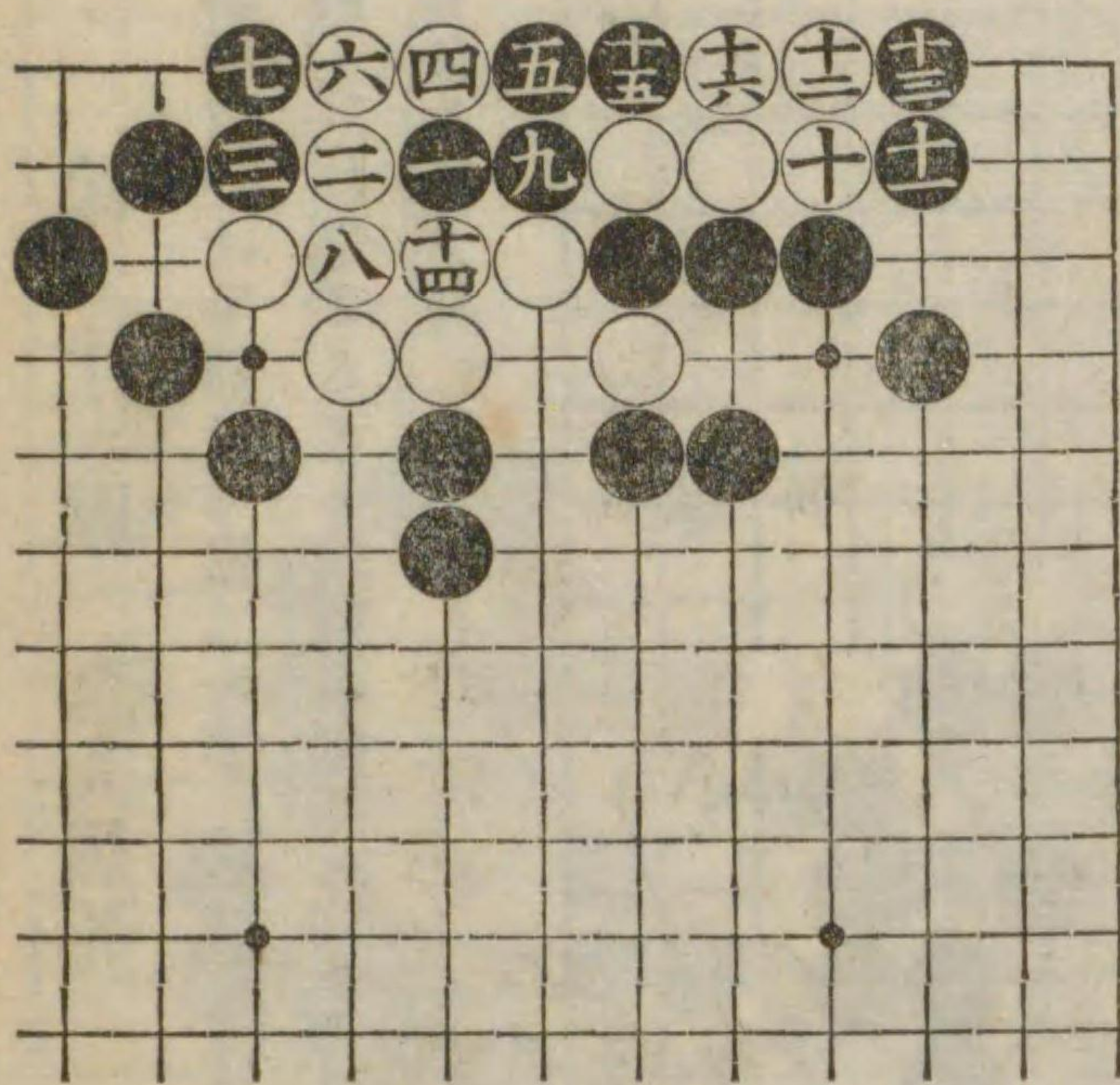
第四十八圖 黒先白死



説明。本圖は餘り妙手にはあらざれども初學者のために示し置くなり初學者は對局の際兎角に白石を取らるゝを嫌ひ爲めに却つて白石を取らるゝことになり又敵石を活かす等の失策も往々あるものなり「石を捨つるに妙あり」との格言の如く本譜の黒五の手は二子を態と三子にして敵に與へるため全部の白石を殺す事が出来るものなり石を捨つるを嫌ひて五を打たず九へ縛ると白に「い」へ綽ねられて活くる事になり宜しく研究の料とすべし。

第四十九圖 黒先白死

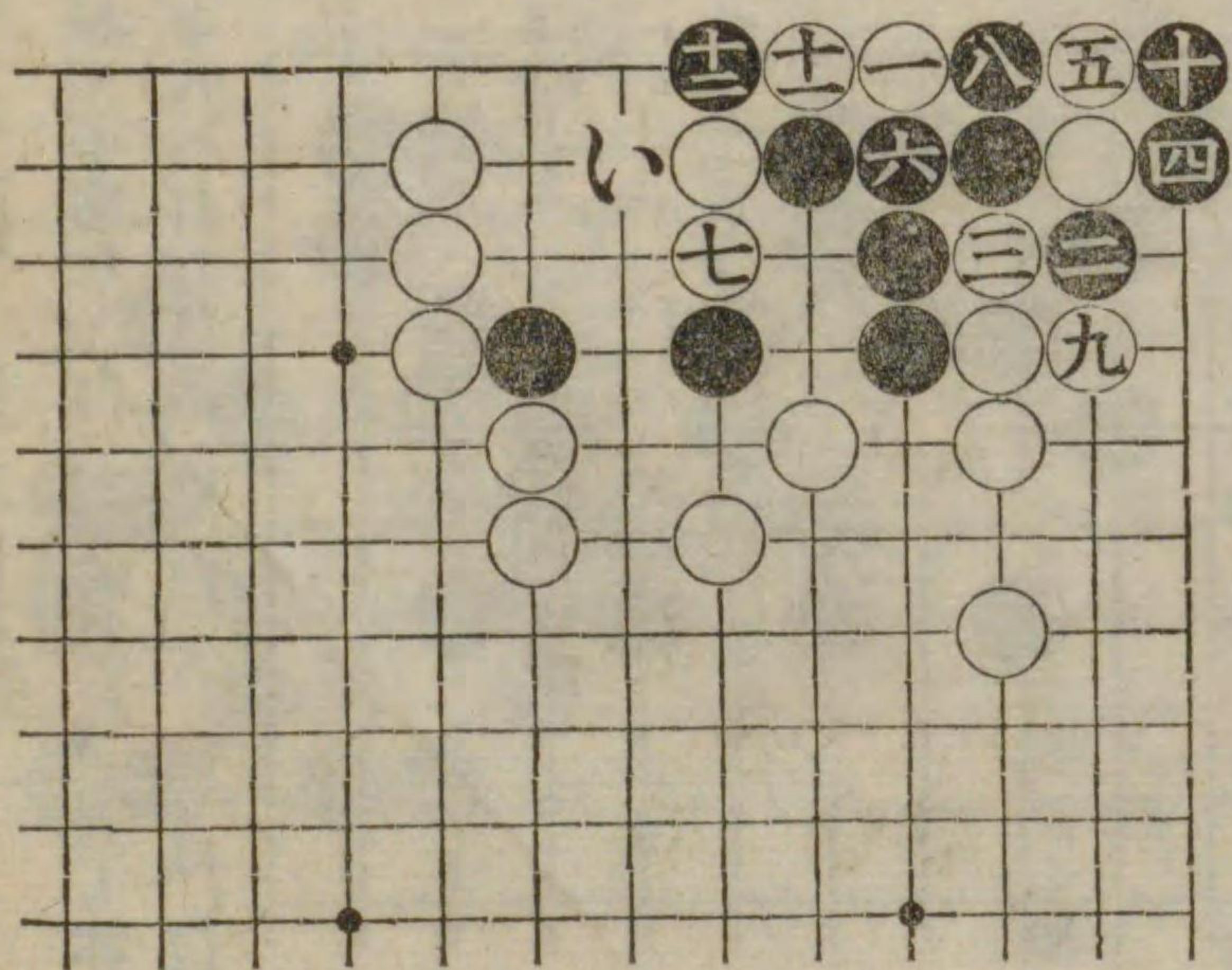
十一九の處キル



説明。黒一と覗きたるは善し若此の一を二へ飛ぶと白に一へ尖頂られて黒八白五にて白の活となるなり白四の時黒五、七と打ち九と切りたるは妙手なりこれにて後切りとなるなり。

第五十圖 白先黒死

十三十一へ打込む

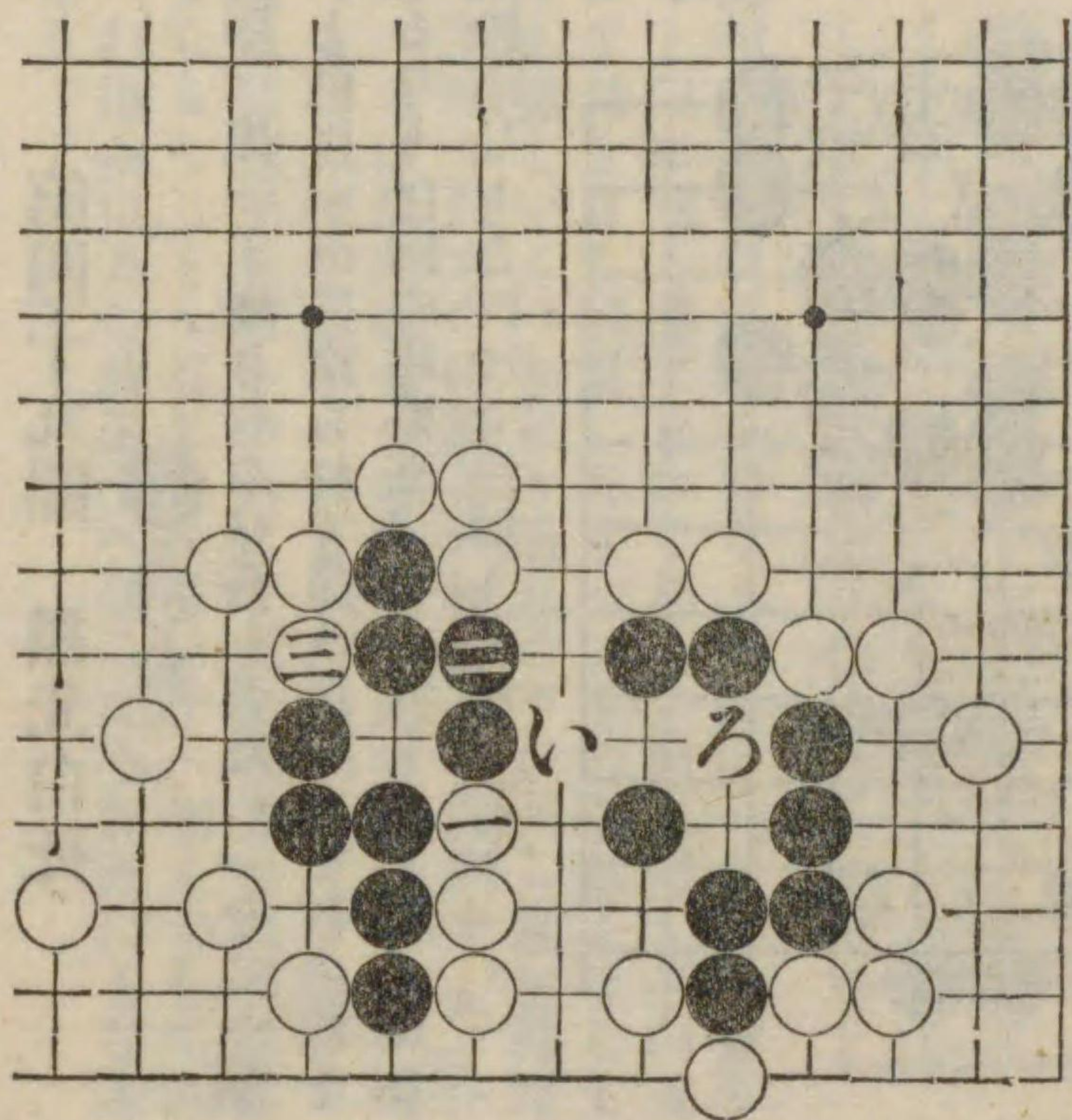


説明。白一のオキ善き手なり黒若、四を五へ縛ねなば白四黒十一白九黒「い」白八にて善し黒二を八へ打たば白七黒二白四にて善し黒又四を八へ打たば白五黒六白七にて同型なり又黒二を七へ打てば白八にて宜し。



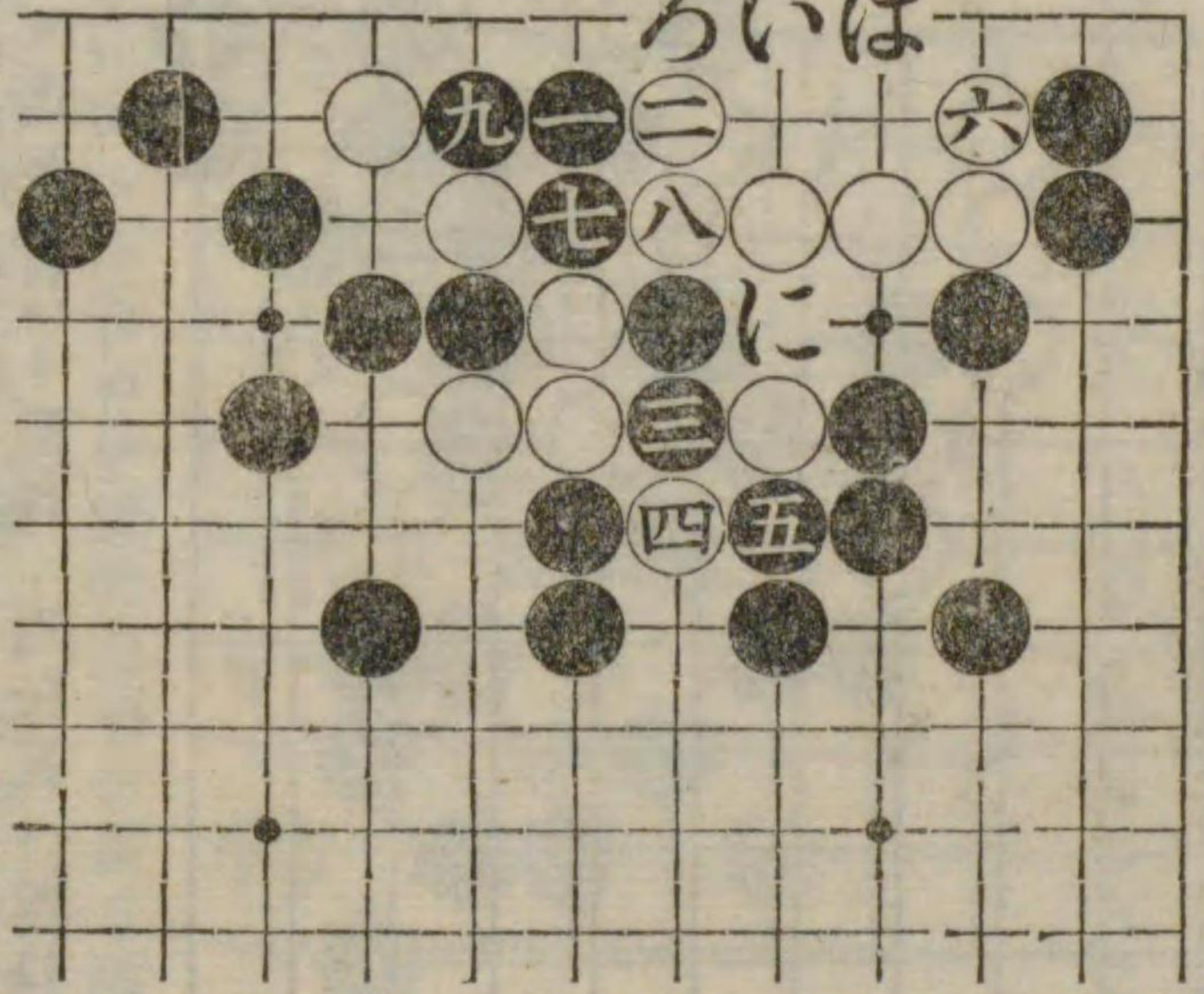
第五十一圖 白先黒死

説明。白一は手筋なり黒二の手にて「い」に打たば白「ろ」に點するなり其他如何に打つも白一と打ちたる以上黒に活路なし。



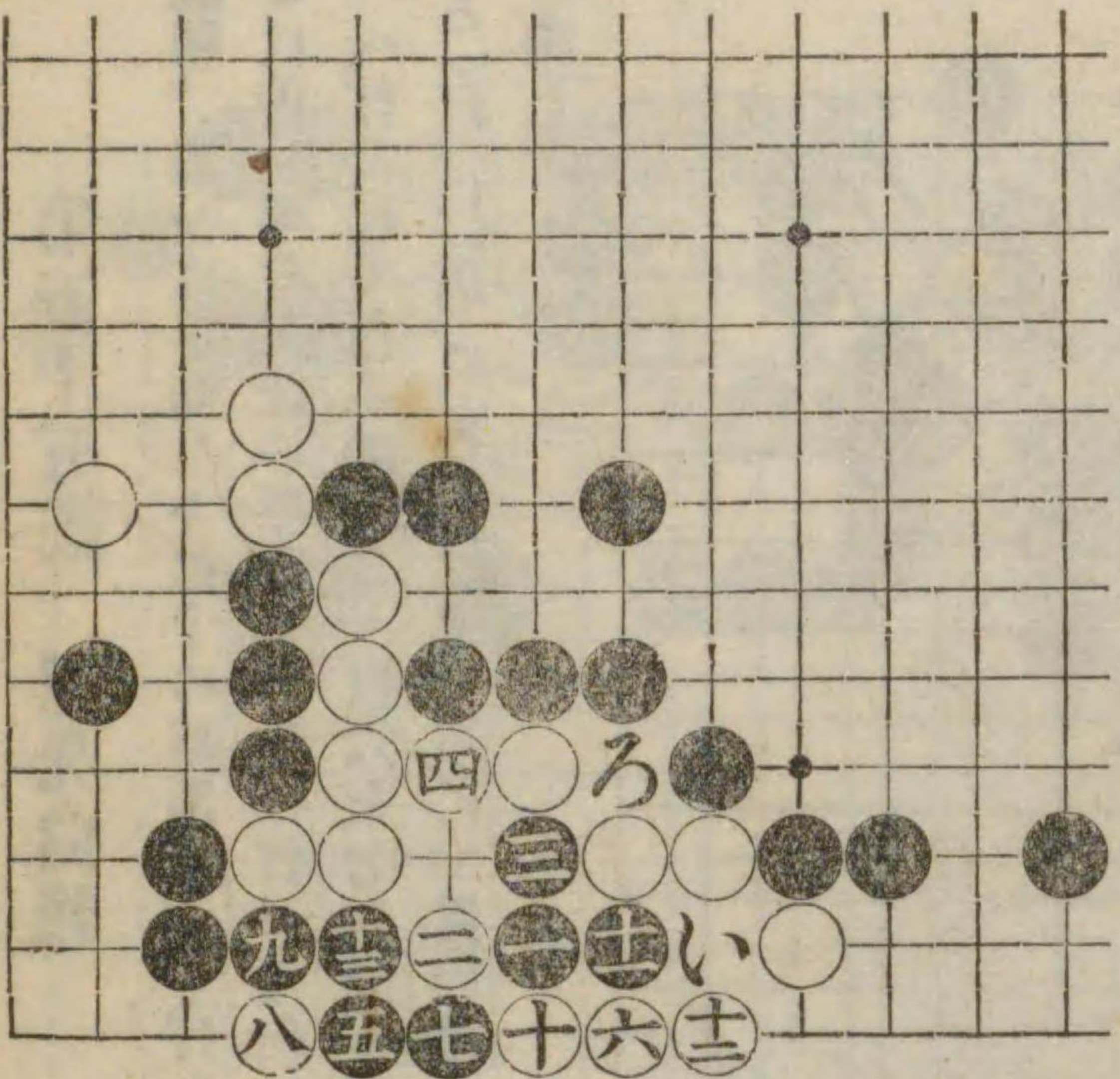
第五十二圖 黒先白死

説明。黒一は好き手筋なり白二の時黒三、五も亦善し若し白六を八へ打たば黒「い」白「ろ」黒「は」白「に」黒三へ打込みにて死なり因に黒一の手を三へ先手に打ちても同型の様なれ共「ろい」は否らず黒の手順悪しき故に白石半分丈は活きる事なるなり如何となれば黒一を三へ打てば白四黒一白五黒八白「に」黒七にて白「ほ」へ出づることを得るに由る碁は手順なりといふは是等の事を示すなるべし。



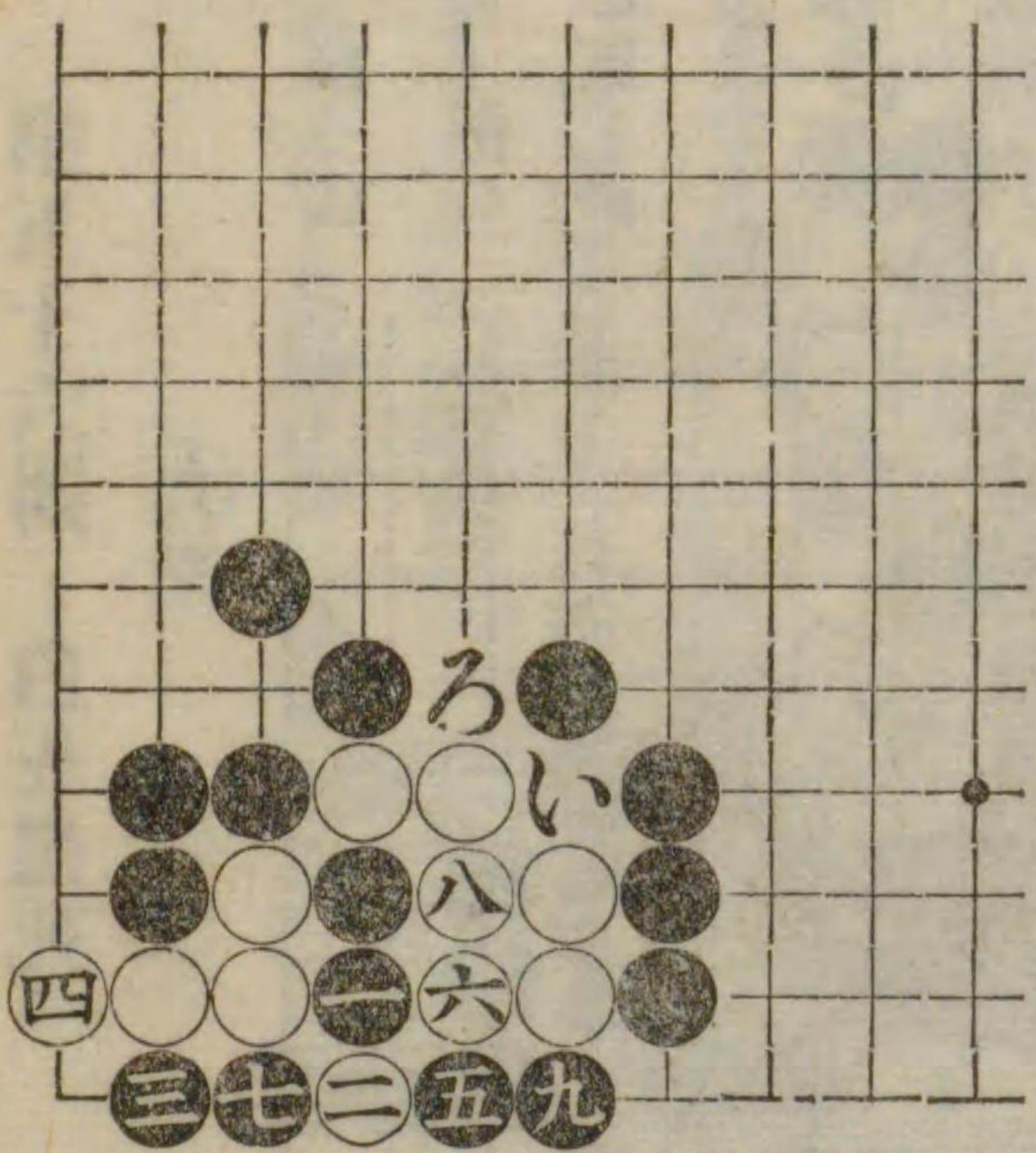
第五十三圖 黒先白死

説明。黒の五の手大に善し白六を若七へ打たば黒十一白「い」黒「ろ」にて手順善し又六を八へ打ち黒九の時白十へ縛ねば黒六白七黒「い」にて善し。



第五十四圖 黒先白死

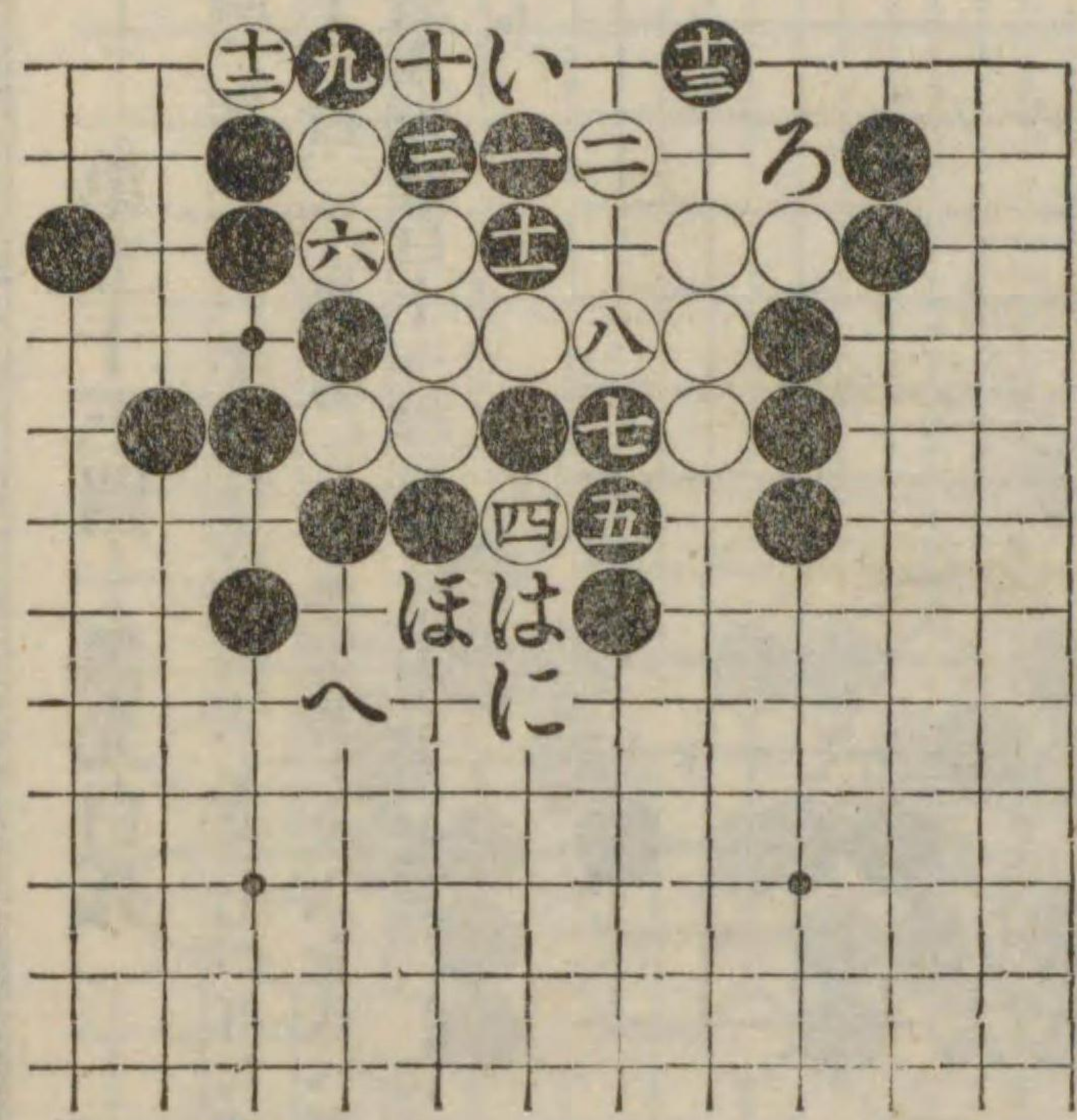
説明。黒三は妙手なり此の時白四を六なれば黒四白八黒九となりて這は問題とするに足らず白二を四へ下がらば黒五へ尖みて白九黒「い」白八黒「ろ」にて勝となるなり五へ尖む手往々ある手筋なり参考とすべし。





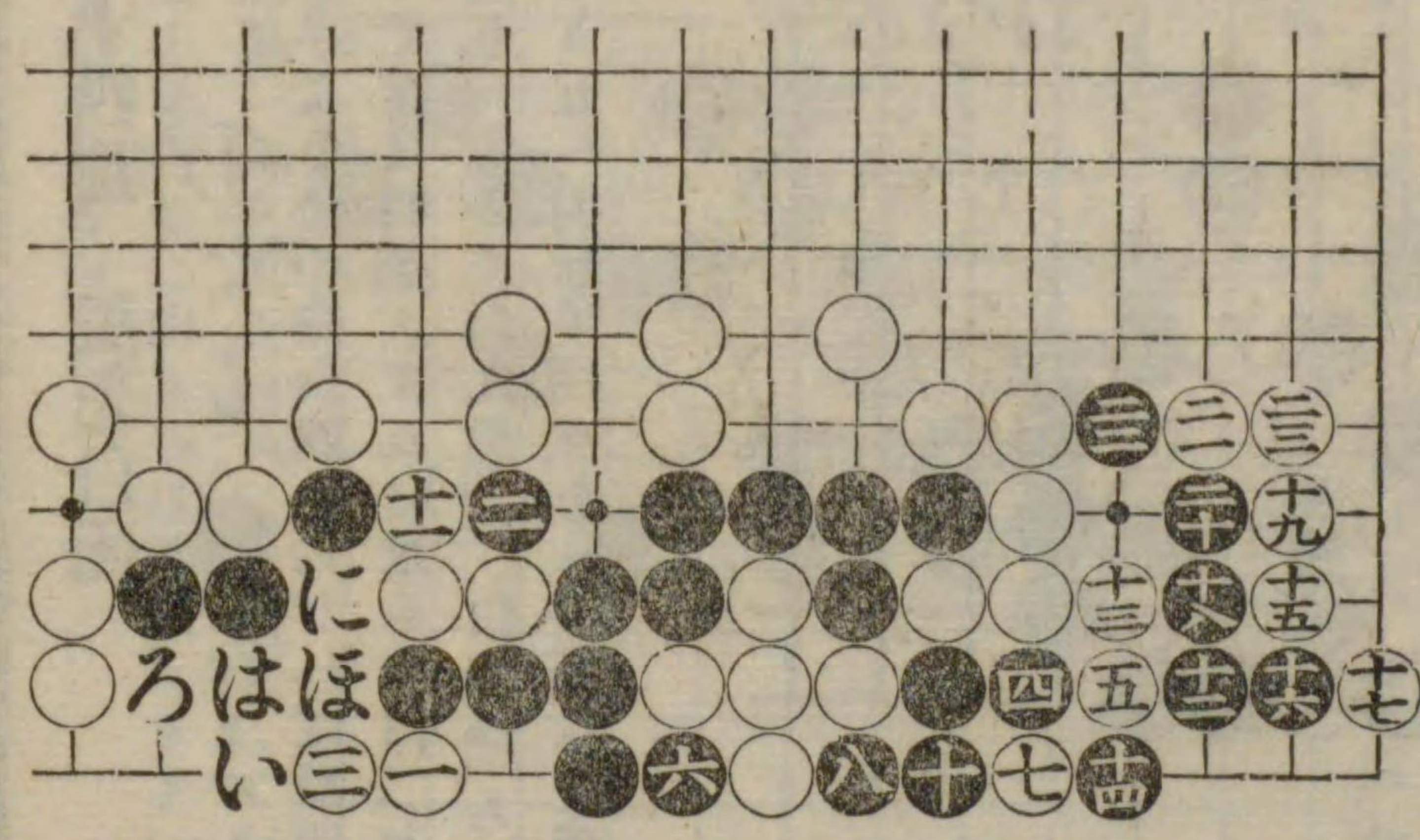
第五十五圖 黒先白死

説明。黒一は手筋なり白十の時黒十一と打ちたるは善き手なり此の手を「い」へ打つと白に十一へ打たれて白の活となり白六を七へ提らば黒「ろ」白「は」黒「に」白「ほ」黒「へ」にて黒の運び大に善し。



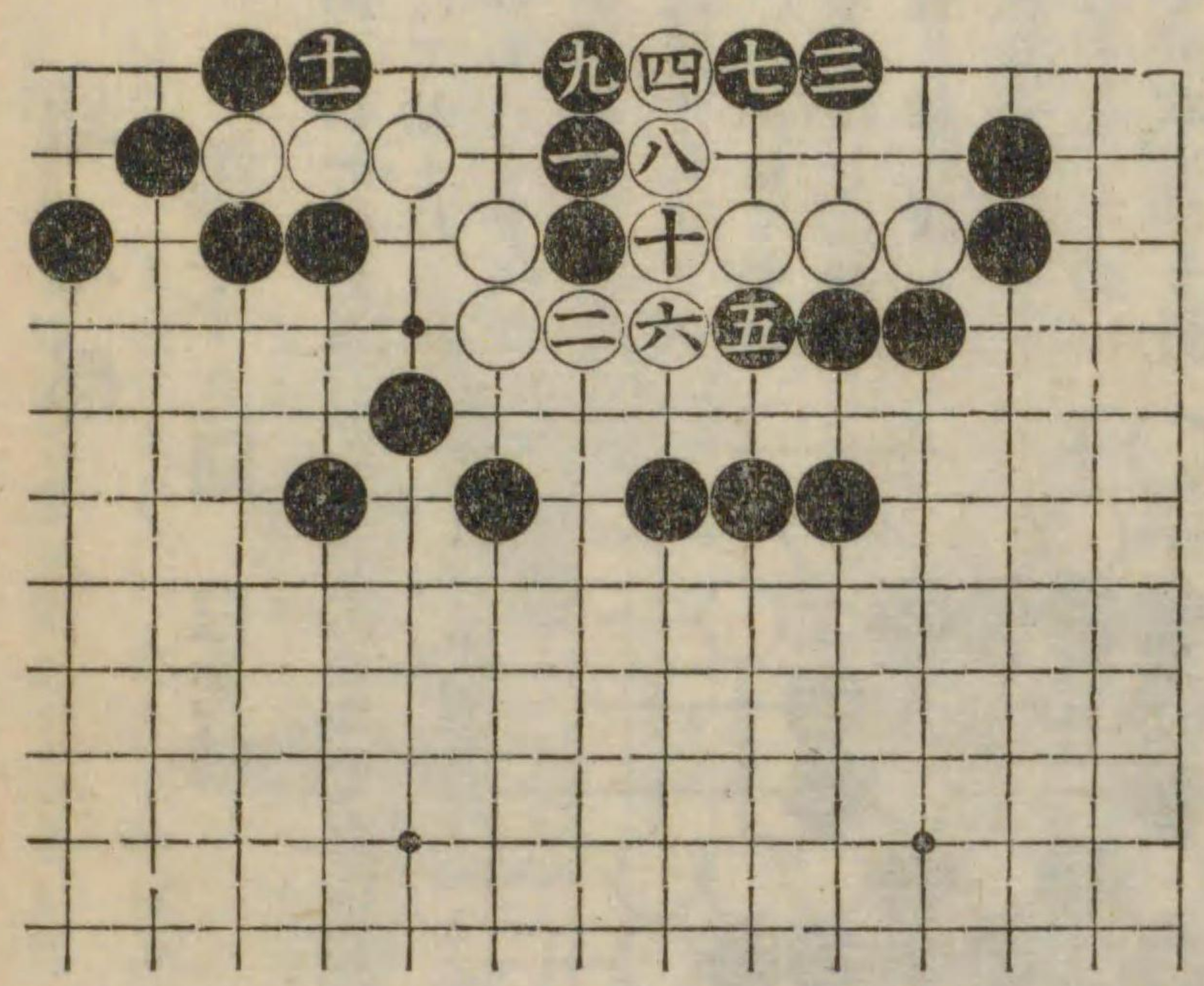
第五十六圖 白先黒死

説明。白一は妙手なり黒に手段の施し様なし黒二の手を若、「い」に打たば白「ろ」黒「は」白「に」にて善し黒又「い」を「は」なれば白「い」に打ちても「ろ」にても宜し。



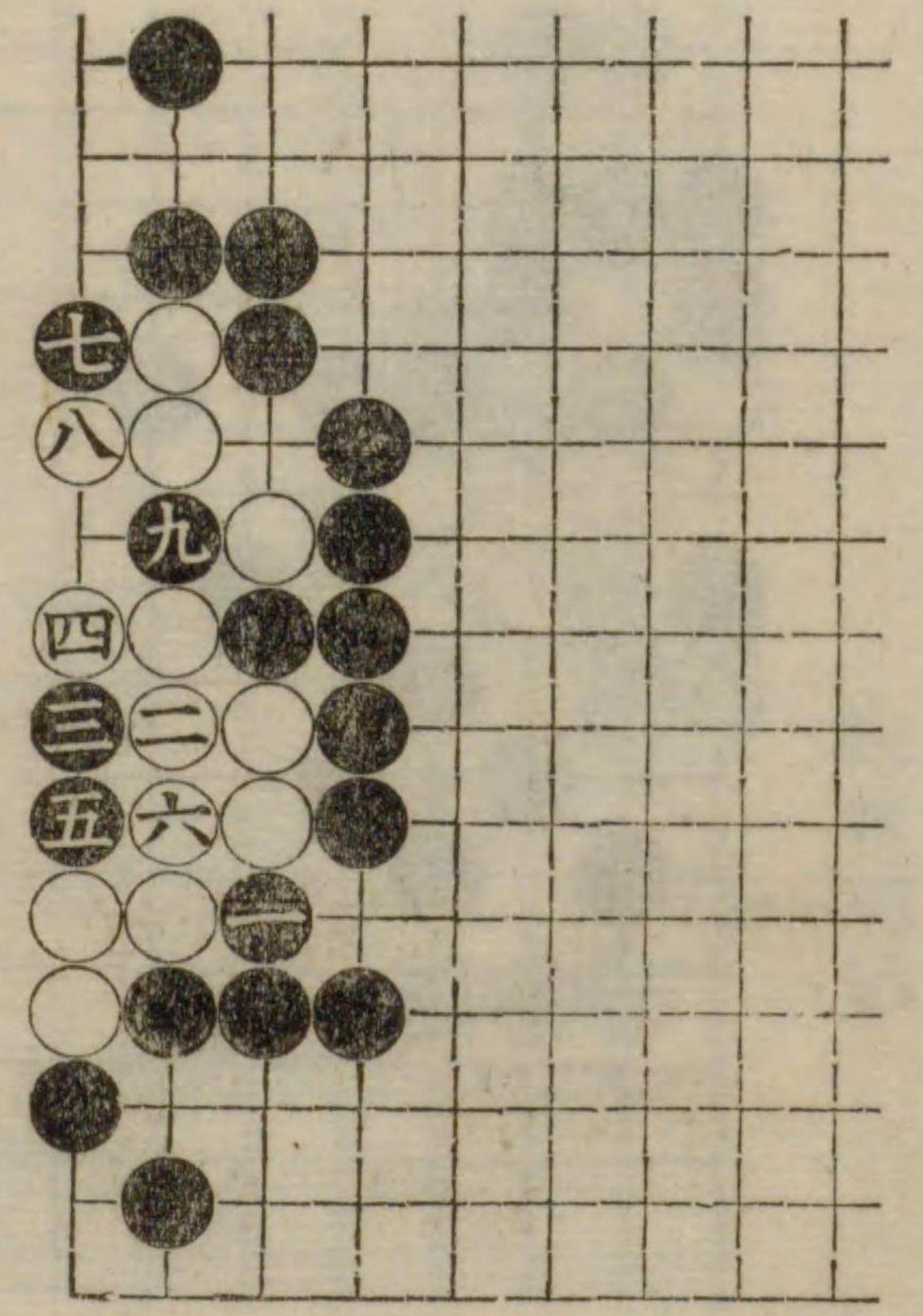
第五十七圖 黒先白死

説明。黒一と下がり而して三と斜走したるは大に善し此處白に手段の施すべきなし格別六ヶ敷手筋にはあらざれども初學者のためにのみ示し置くなり。



第五十八圖 黒先白死

説明。此形は實戦より採録せる型にて能く置碁に出来ることあれば頗る簡單にして考究の價値なき程のものなれど其變化等は讀者の試みに任すこととせり。

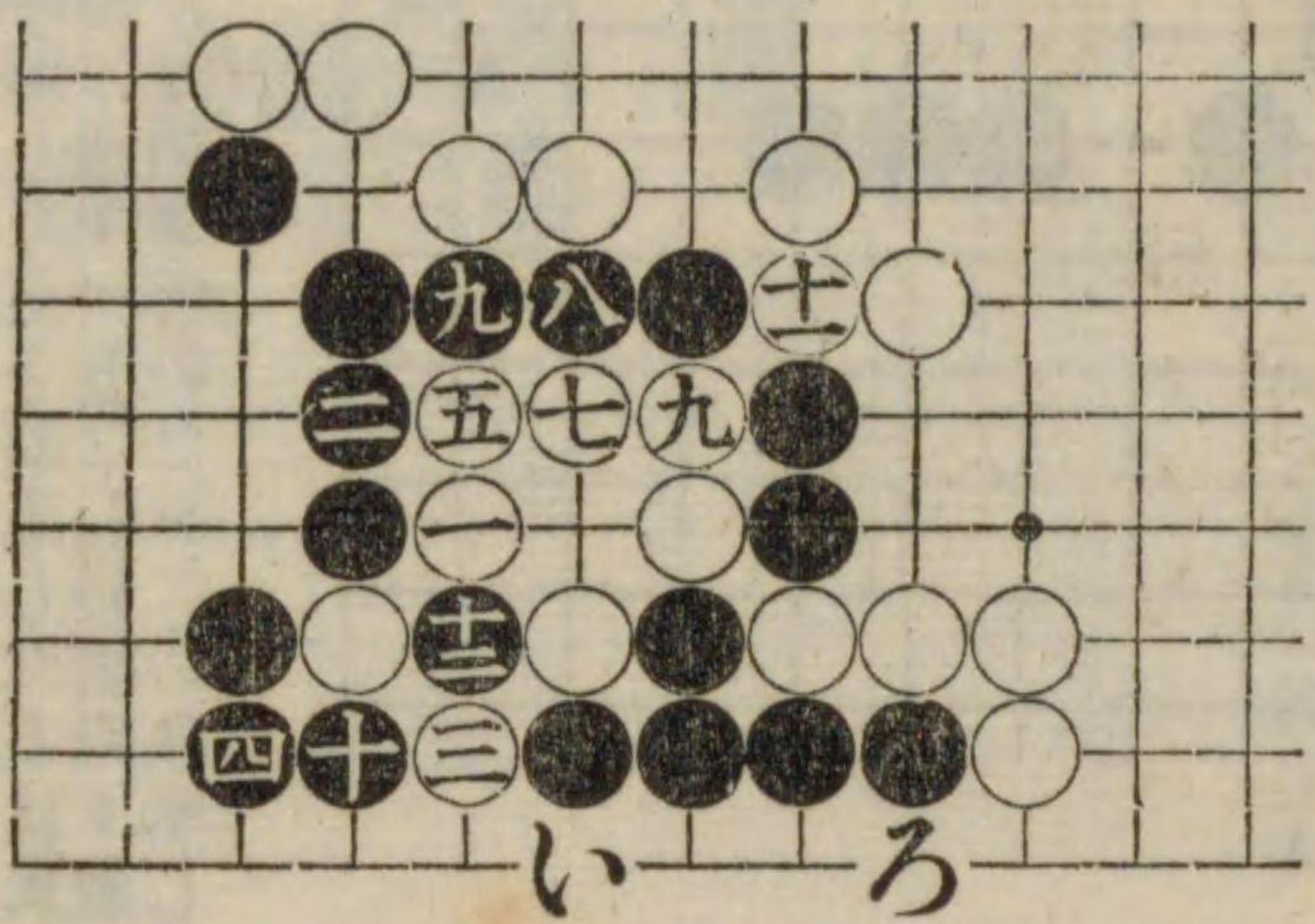




### 劫之部

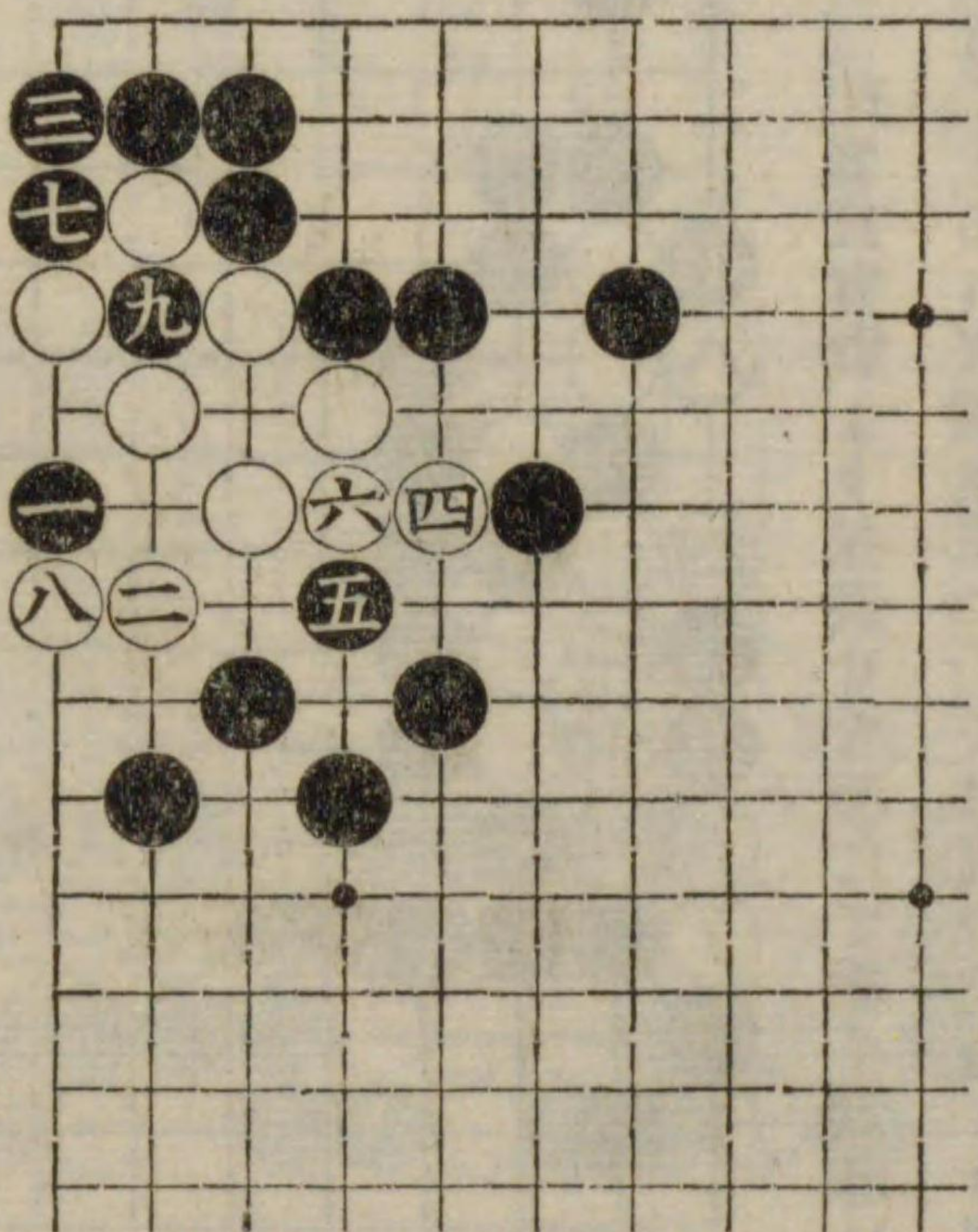
#### 第五十九圖 白先劫

説明。白一の綽及三の約は共に手筋なり以下九迄にて劫となる黒十の手にて十一に續かば白は「い」に綽ね黒十にアテ白「ろ」に綽ねて矢張劫なり然し此劫は黒若し劫に敗るとせば莫大の損ゆえ黒は十とアテ劫になすが本手なり同じ劫争にても其劫に勝つと負くるに大に得失の相違あるものゆえ心して打つべきものと知るべし。



#### 第六十圖 黒先劫

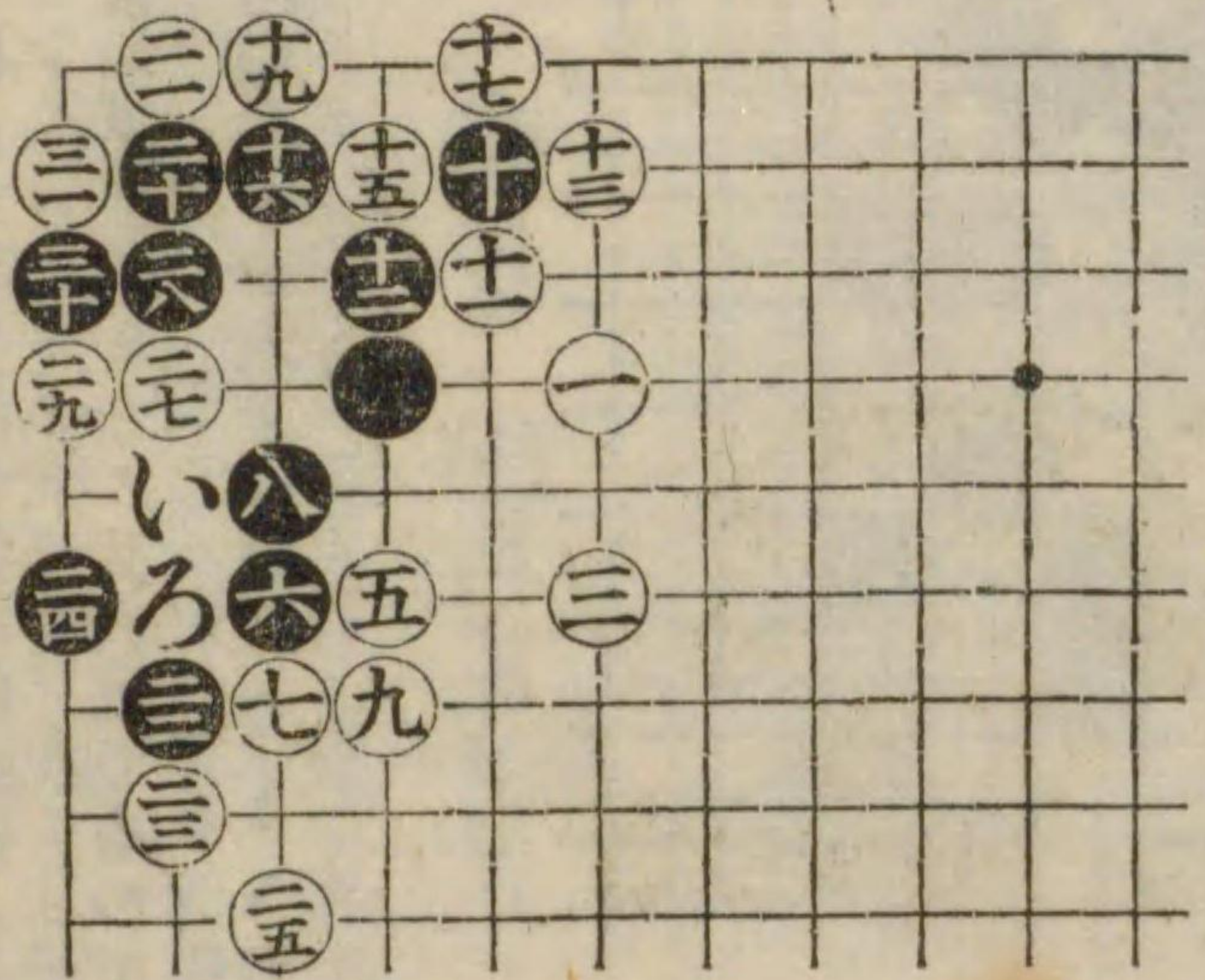
説明。黒一の走り面白し三以下黒手順宜しくして遂に白の眼形を奪ひて劫となす手段玩味すべし。



#### 第六十一圖

白先劫

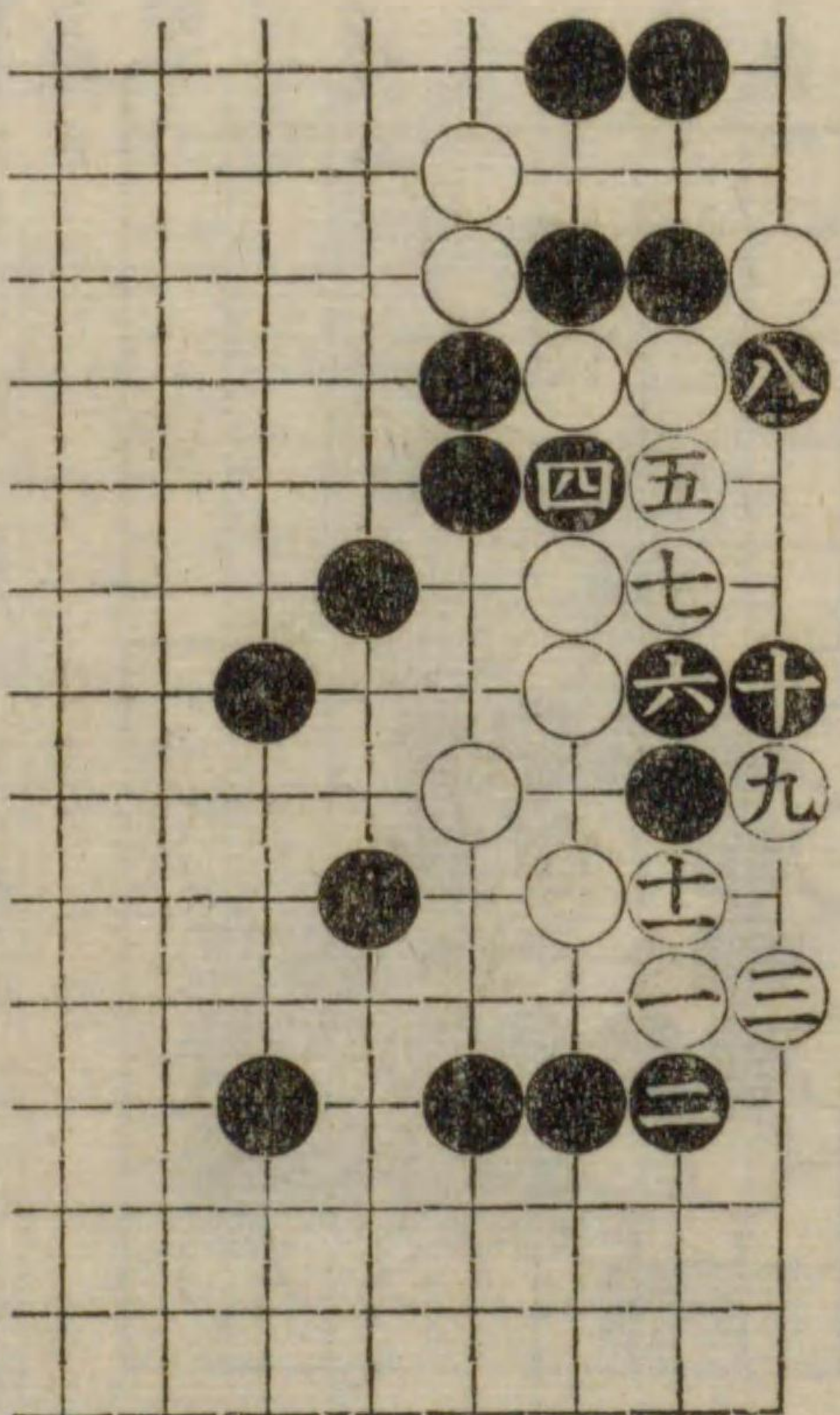
説明。本形は實地の置碁に生じたるものなれば参考のため其徑路を記すること、せり尤黒は二、四、十、四、十八、二六と五手を抜きて他に打ちたるものと見るべし白二七のオキは要點なり白二九を「い」に出づれば黒より「ろ」に續かれて却つて黒を活かすことゝなる。



#### 第六十二圖

白先劫活

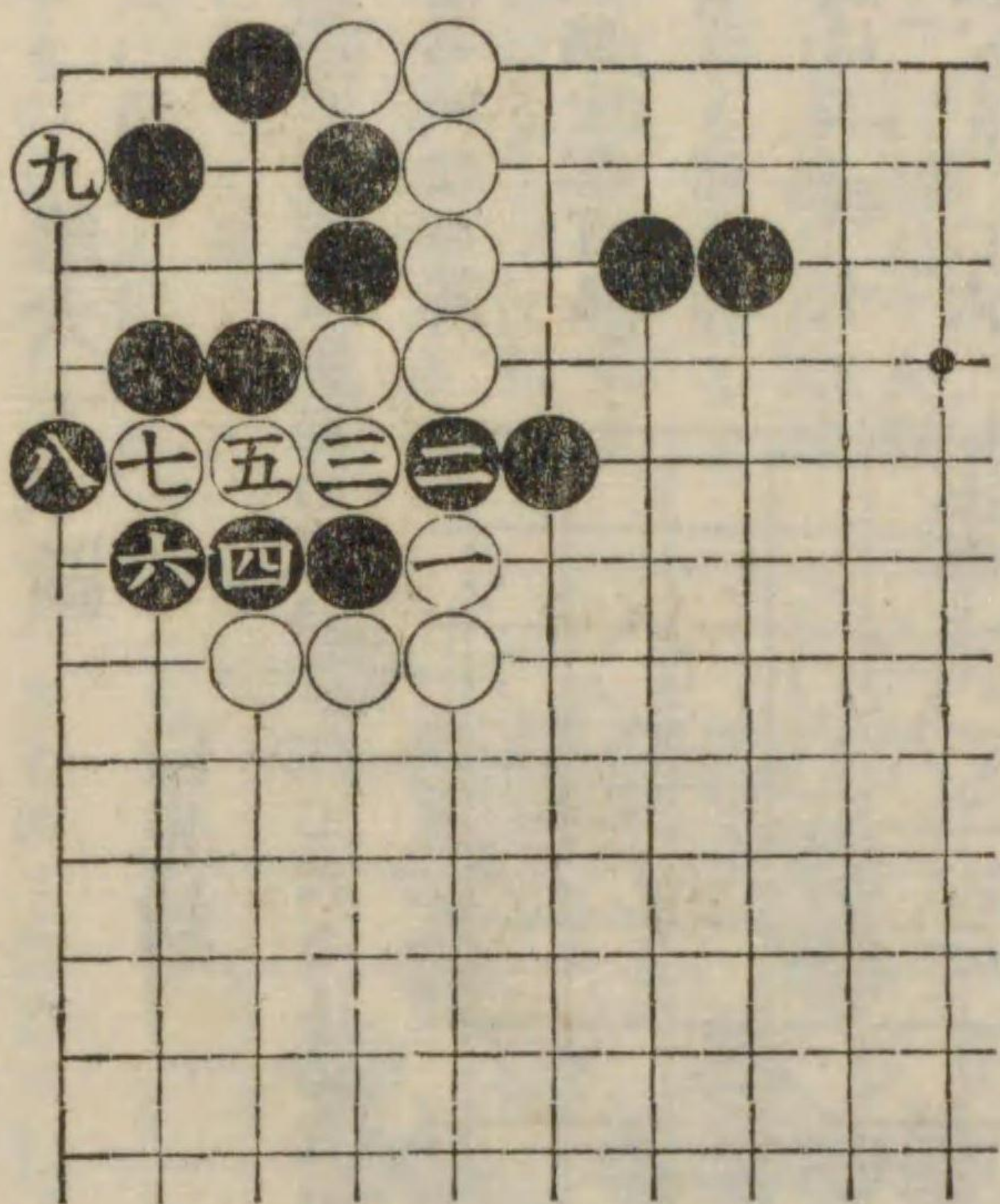
説明。白九手筋なり黒六にて八にウチカクも白より六の處に打れて眼做らる又八の手にて九の處に曲らば白に八の處にツガれて活きらるゝなり總べて彼我共に要點は同一の處にある場合生死には殊に多し。





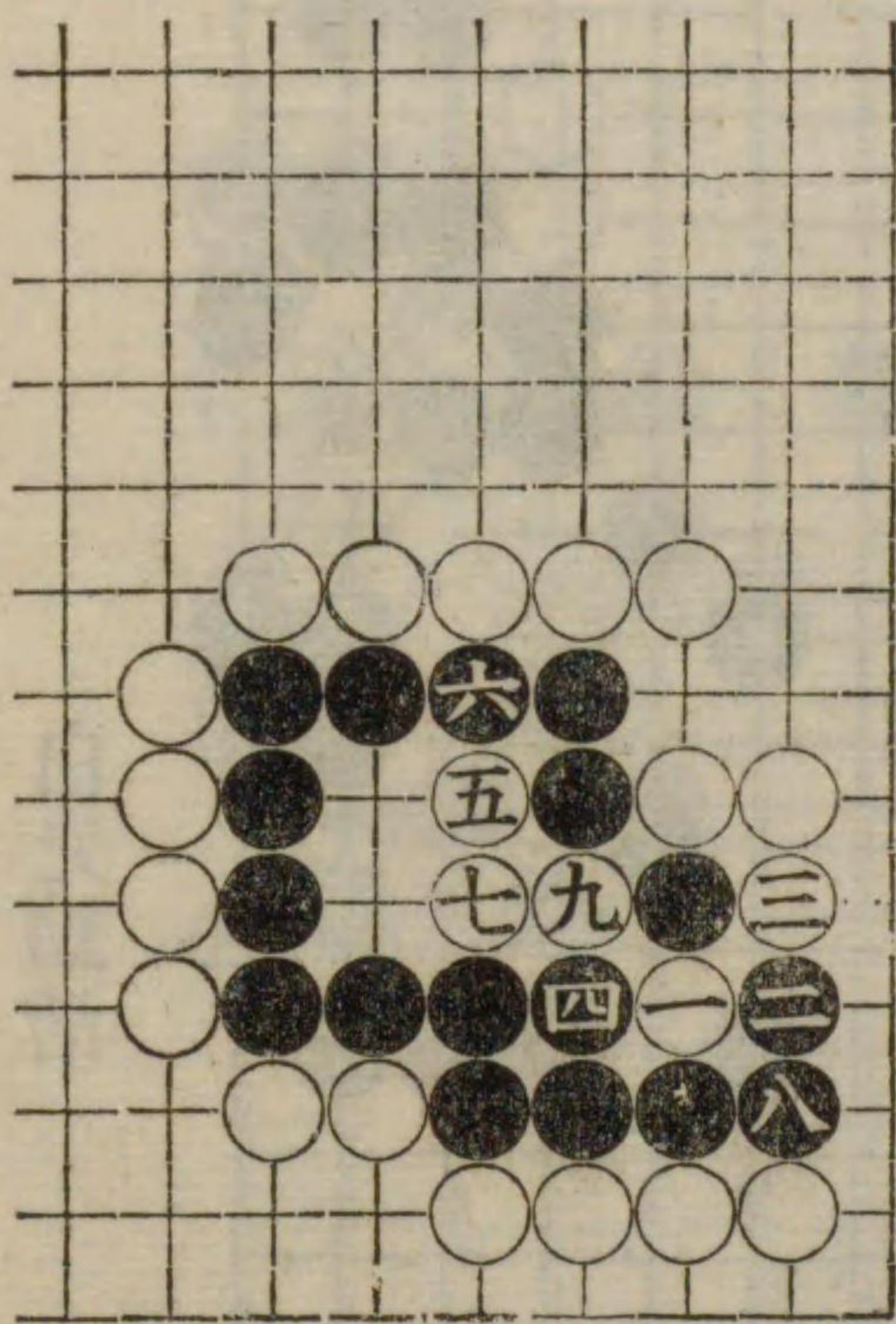
第六十三圖 白先劫活

説明。白一より七まで味を打つには當然運ぶべき手筋である九の手が即ち一ノ二の處であつて劫形となるが結局圍中の六子は活ることゝなる。

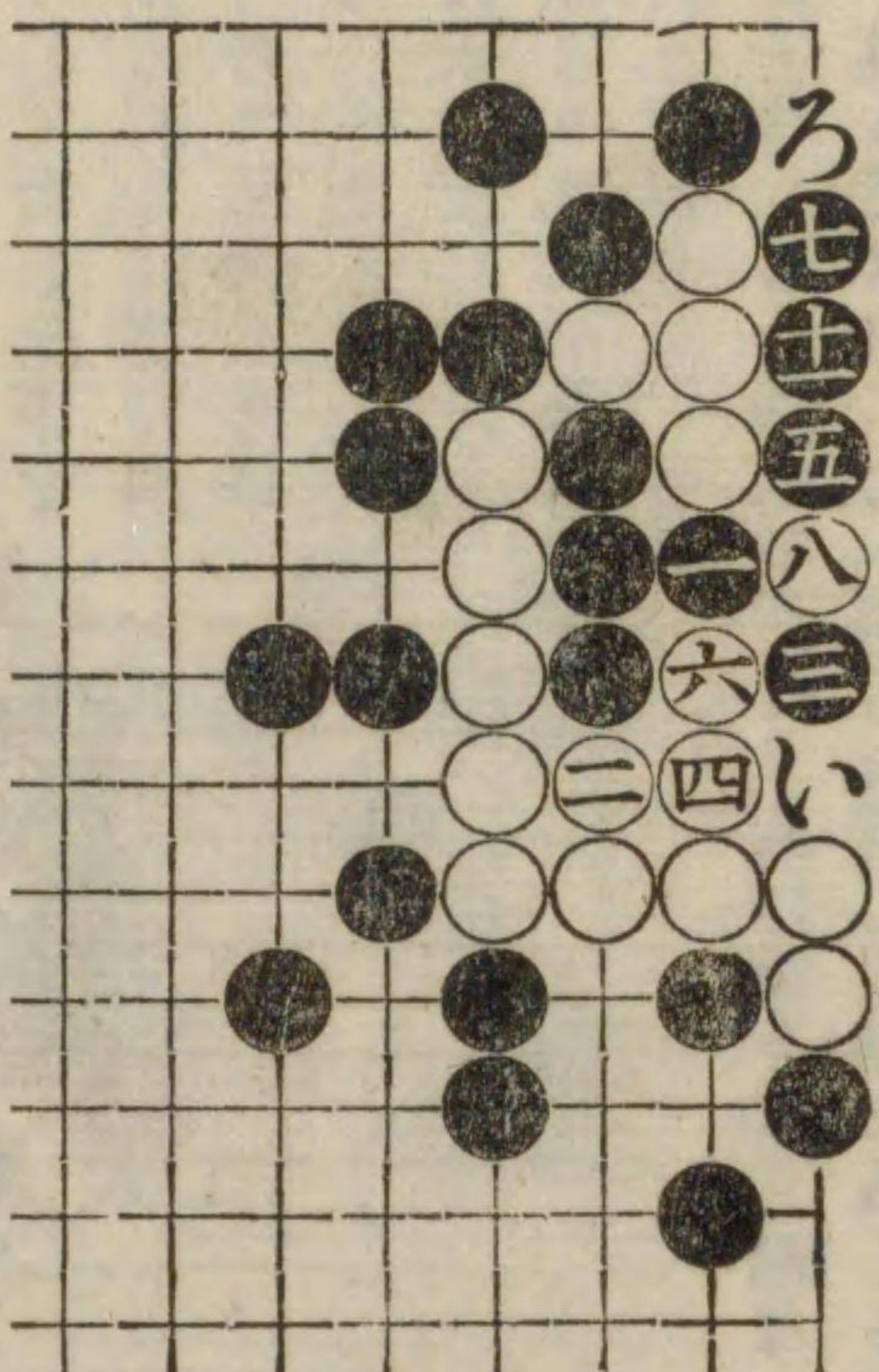


第六十四圖 白先黒劫死

説明。白一と打ち以下五の手面白し之にて白勝。



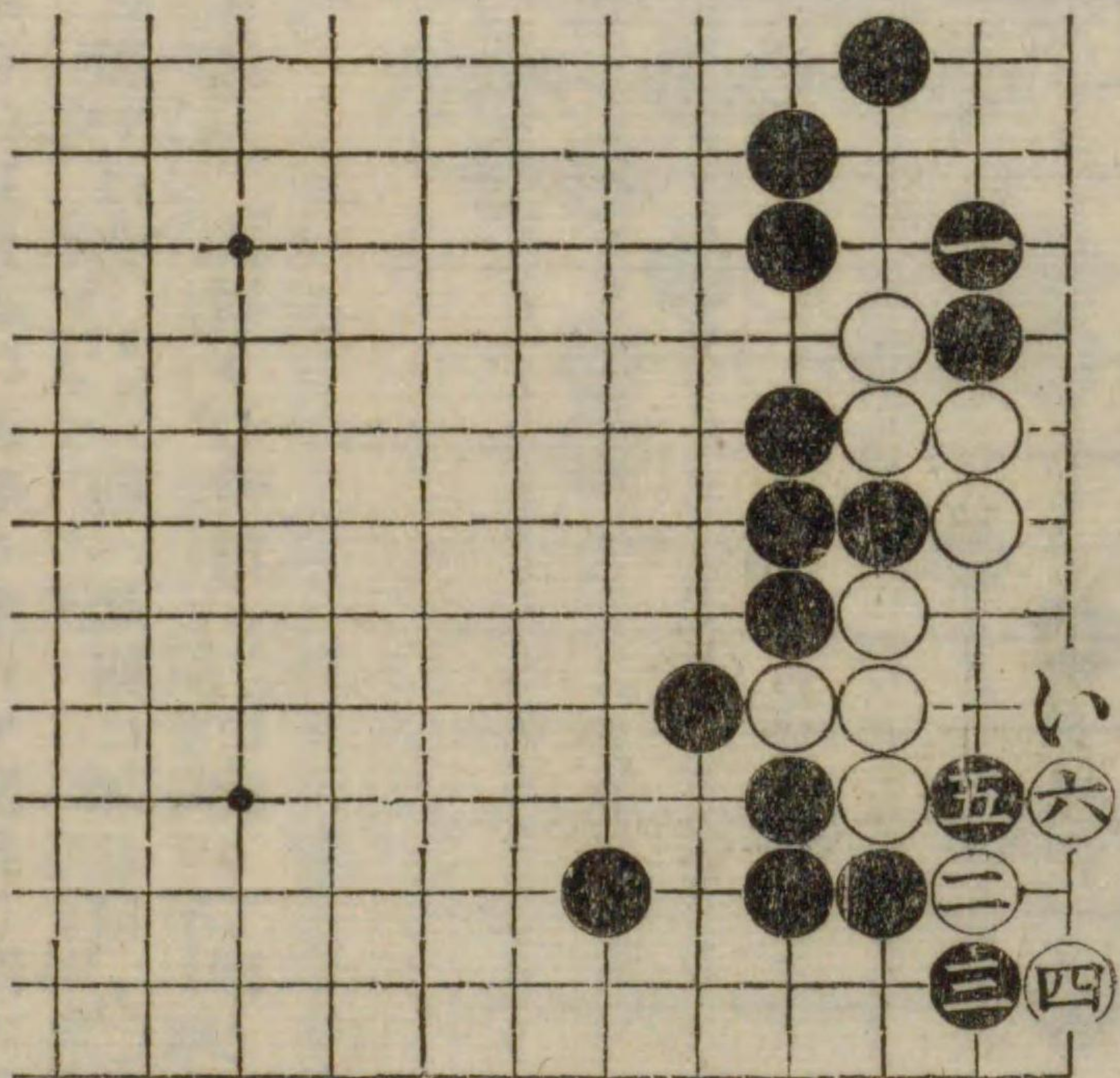
第六十五圖 黒先劫



九提返 十三ノ六に打つ

説明。黒三手筋なり夫れより五と打ち遂に九と提り返へすに至るの型往々見るところなり心得べし白四の手にて六に抛ち黒四の處に提りし時「い」に打ちても劫なれども白としては圖の方「ろ」に打抜き残るだけ優れり。

第六十六圖 黒先活

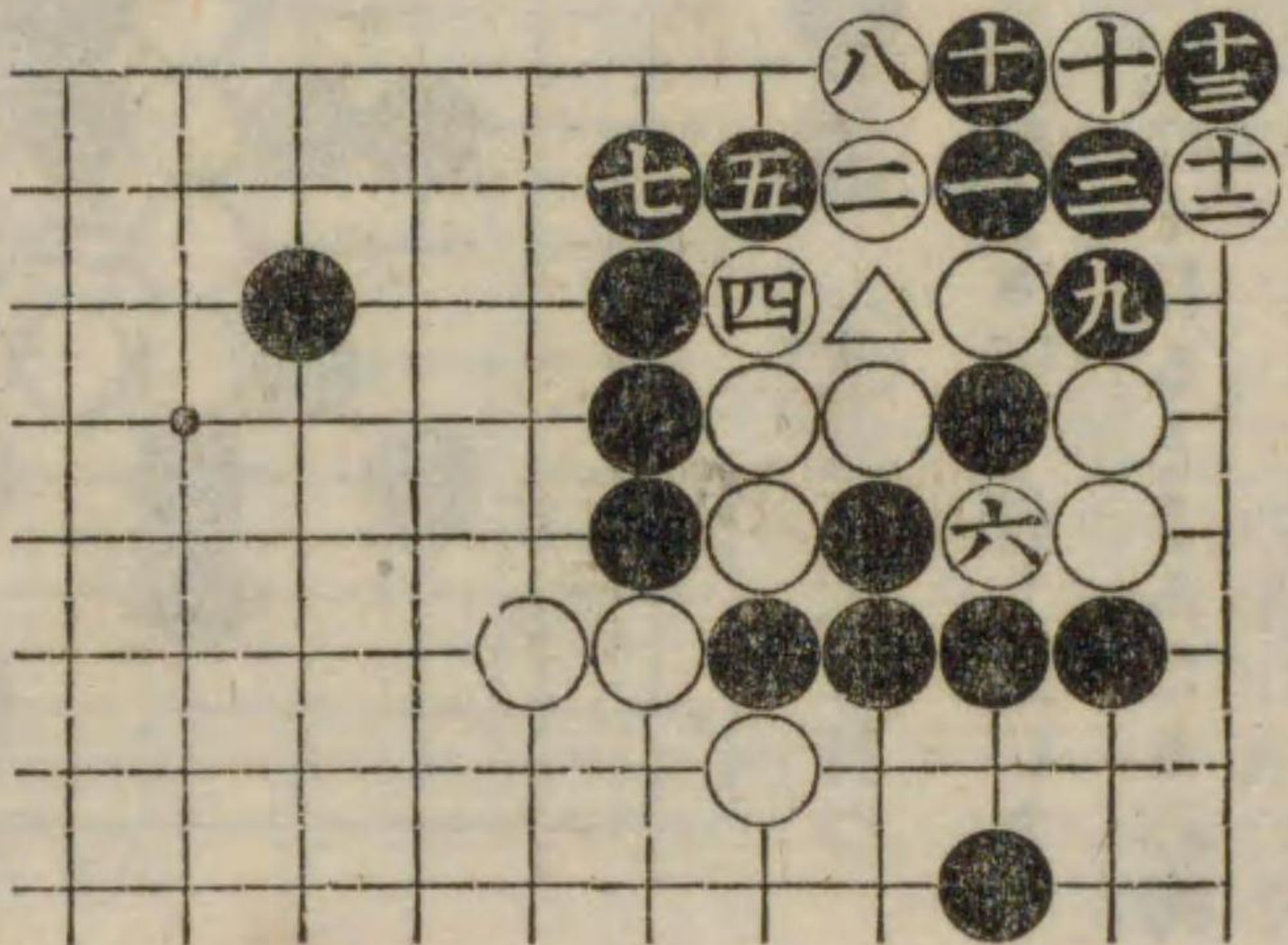


説明。本形は小林三段が六目置かせし碁に出來たるものにて極めて平凡なれども往々生じ易き型なり黒一の手にて五より先手に綽ねたき心地すれど然る時は白より「い」に飛ばれ夫れより黒一に引かば白より二に切られて無事に活を得せしむ注意すべき事なり。



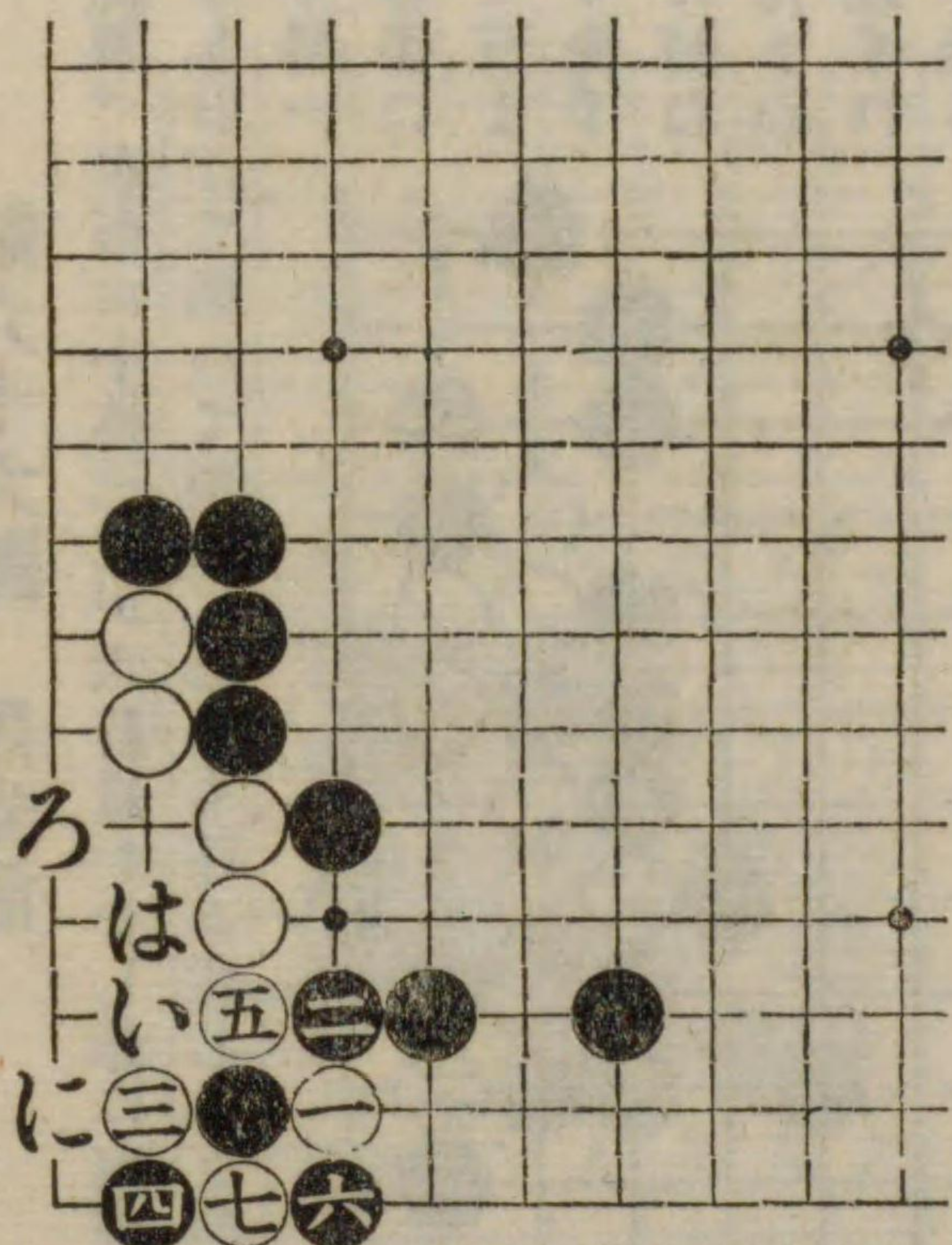
第六十七圖 黒先劫

説明。本圖は面白き型なり黒一とツケるは善き手筋なり若し此一を二に打てば白に一の處に約へられ黒△印の時白より三子を捨て活きらるゝなり殊に一と頂るが善き手なり白四も良手にして若し此手を六に打たば黒に四へ打たれ白△印黒九にて死となる又白四を五に双ぶと黒より九白六黒四白△印黒七にて白死となるなり黒七の手にて八に盤りても劫なれど然る時は白に七へ切られ若し黒劫に負くる時は莫大の損を醸すゆゑ斯く打つを本手とす。



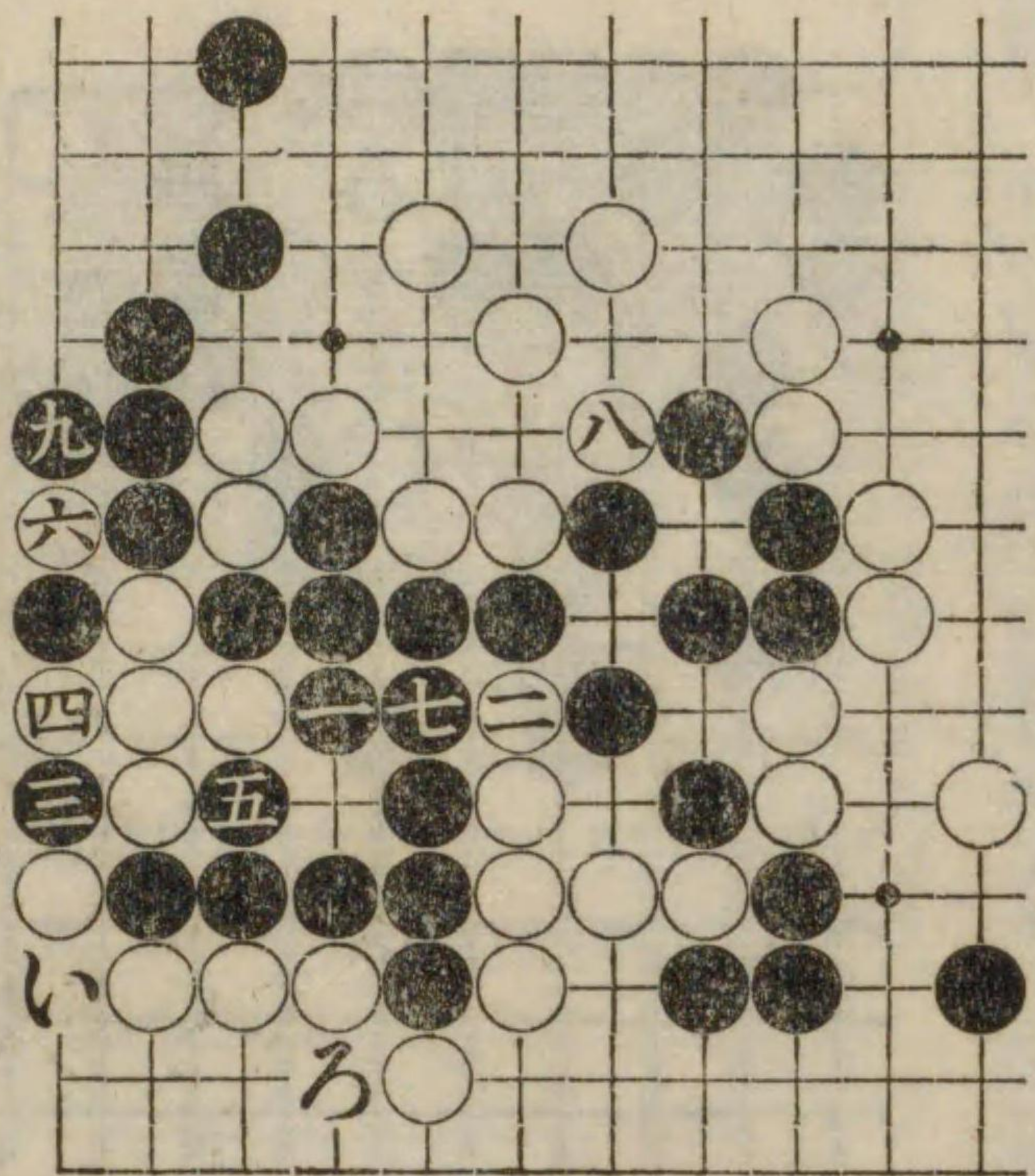
第六十八圖 白先劫

説明。本形は互先碁に出来る型にて黒若し四の手にて五に續かば白「い」に約へ黒四に縛ね白「ろ」にカケツギ黒「は」に切りし時白「に」に曲りて活となるなり。



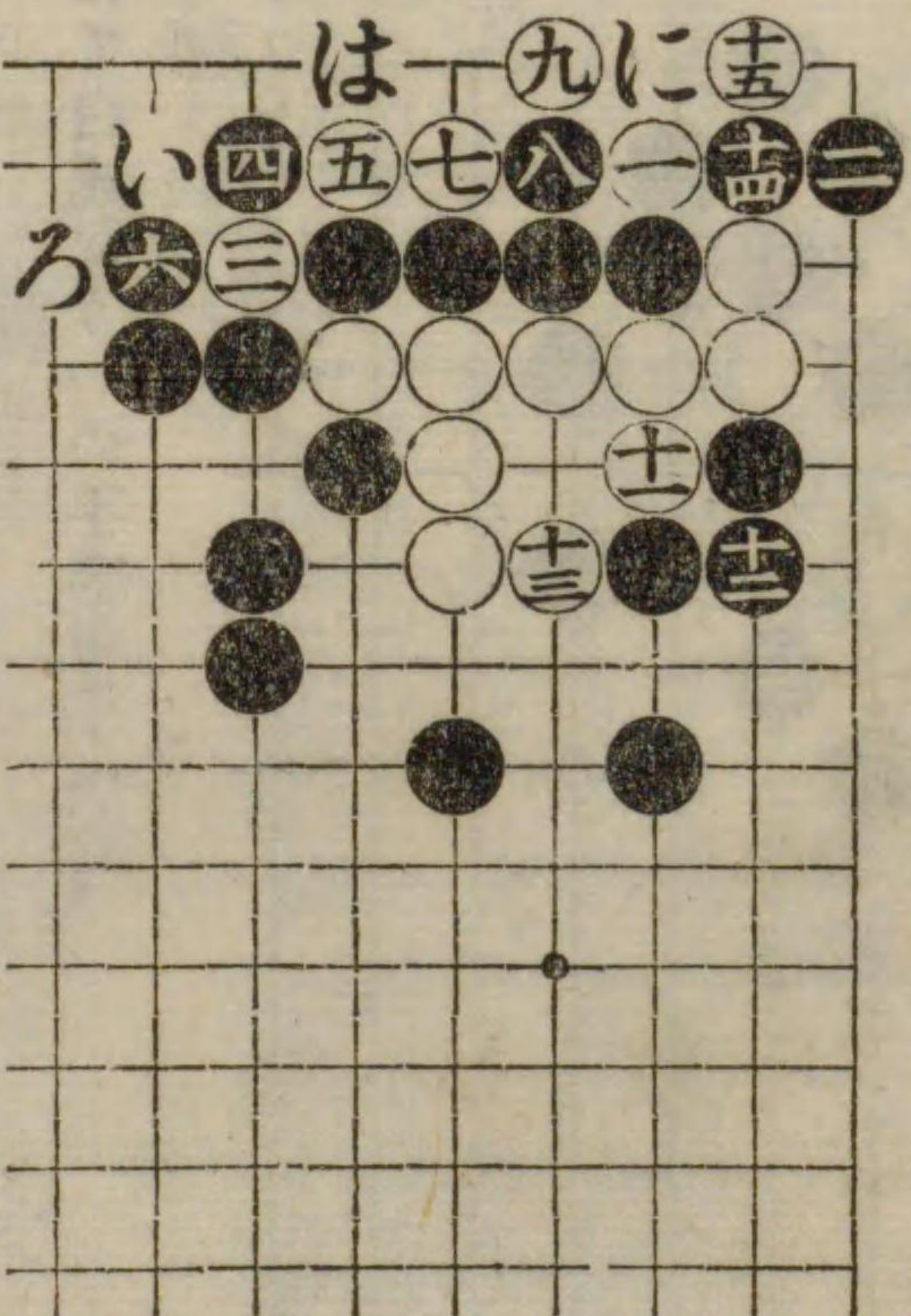
第六十九圖 黒先劫

説明。此形勢は餘り六ヶ敷手にはあらざれども實際に出来たる型ゆる初學者の爲めに其の手順を示し置くなり此時白「い」に粘げば黒「ろ」へ切る手のあるもの故に劫を提れば善し。



第七十圖 白先劫

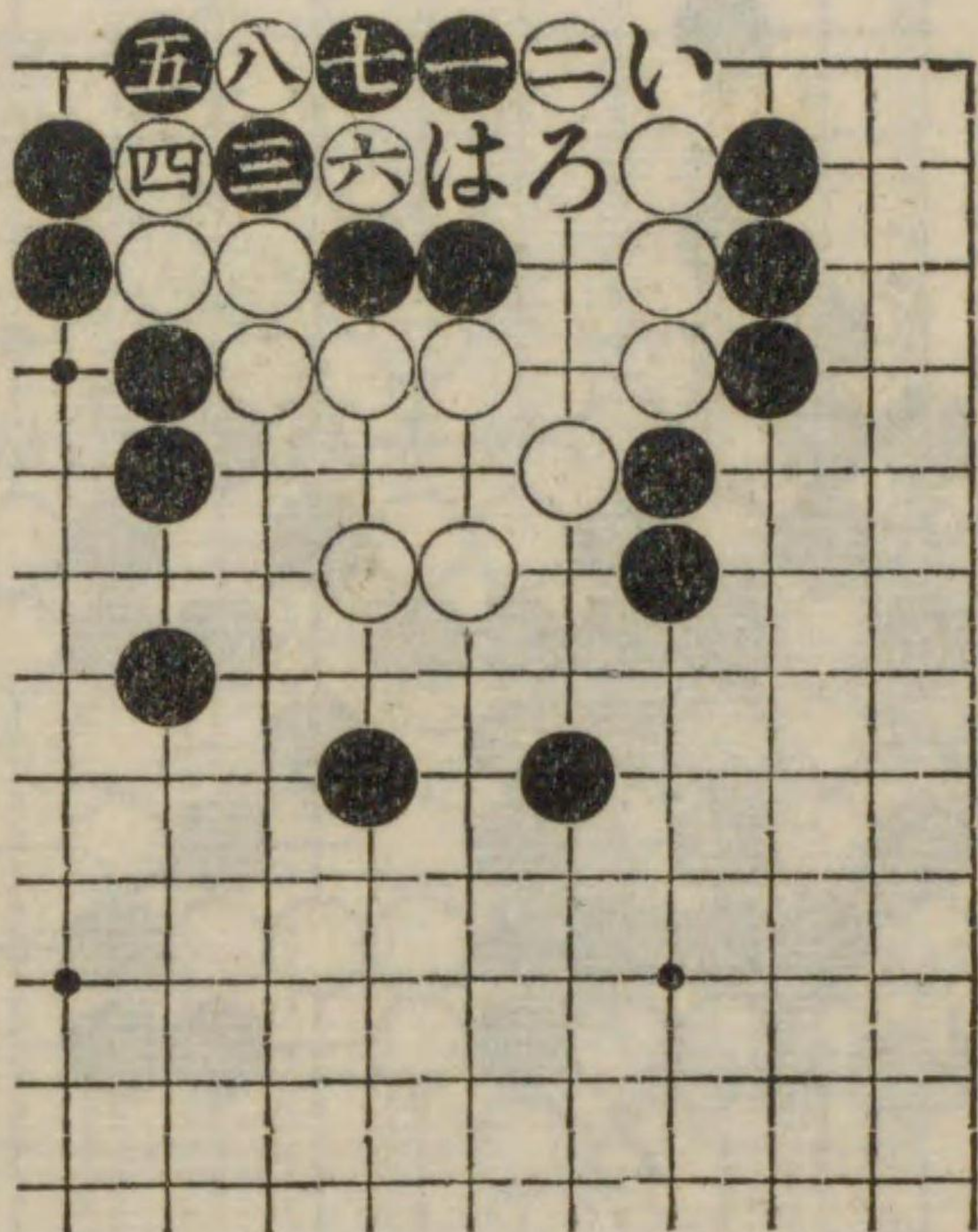
説明。白一と縛ね三と切り五と切る手妙手なり黒若六を七なれば白十一、十三と眼を持ち黒十四白十五にて白善し黒又七を八へ約へなば白十四黒十一白六黒」と「白」ろ」黒「は」白九黒七白「に」にて活なり。





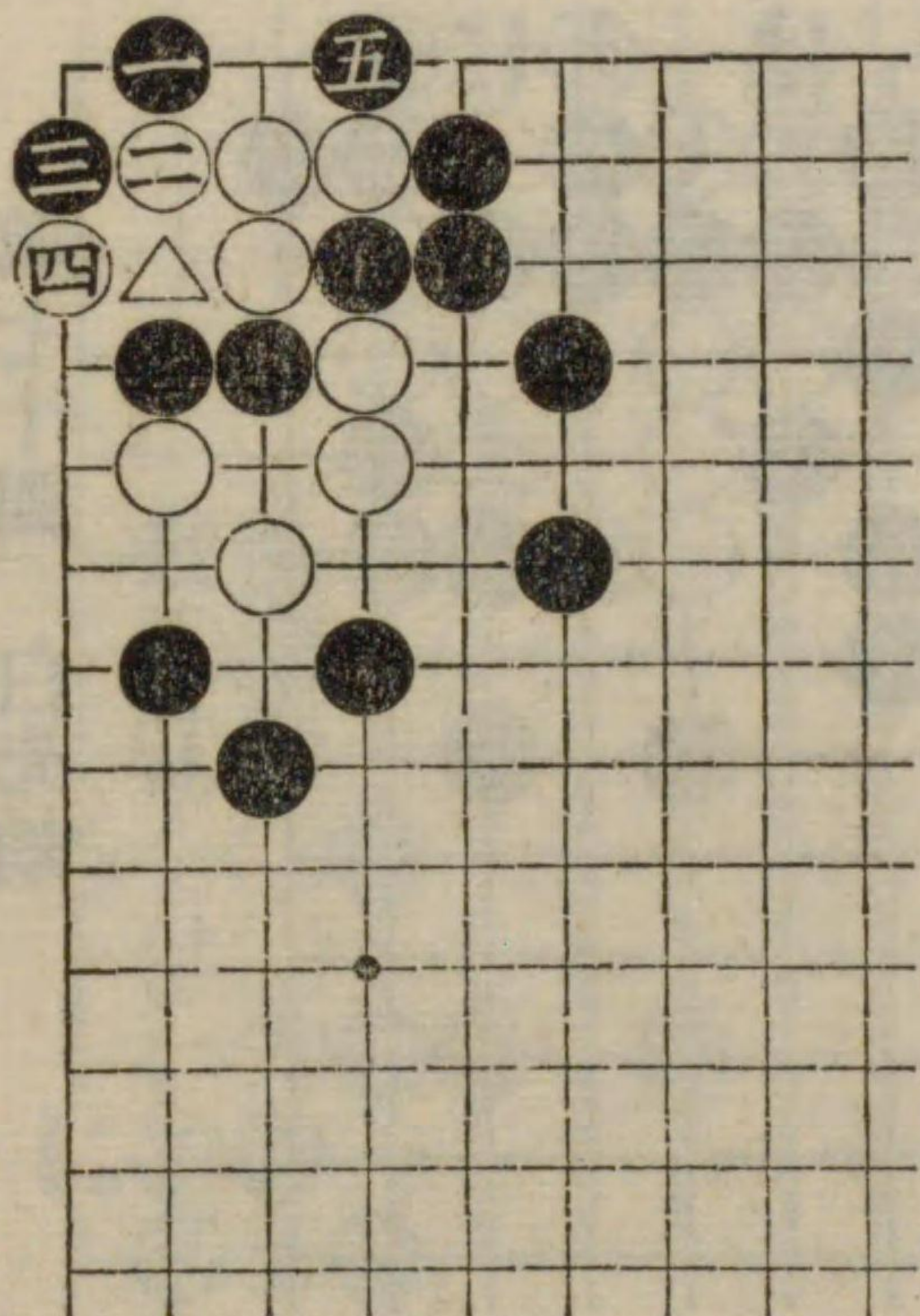
第七十一圖 黒先劫

説明。黒一妙手なり二を「い」へ下がらば黒八に飛びて白死になり。



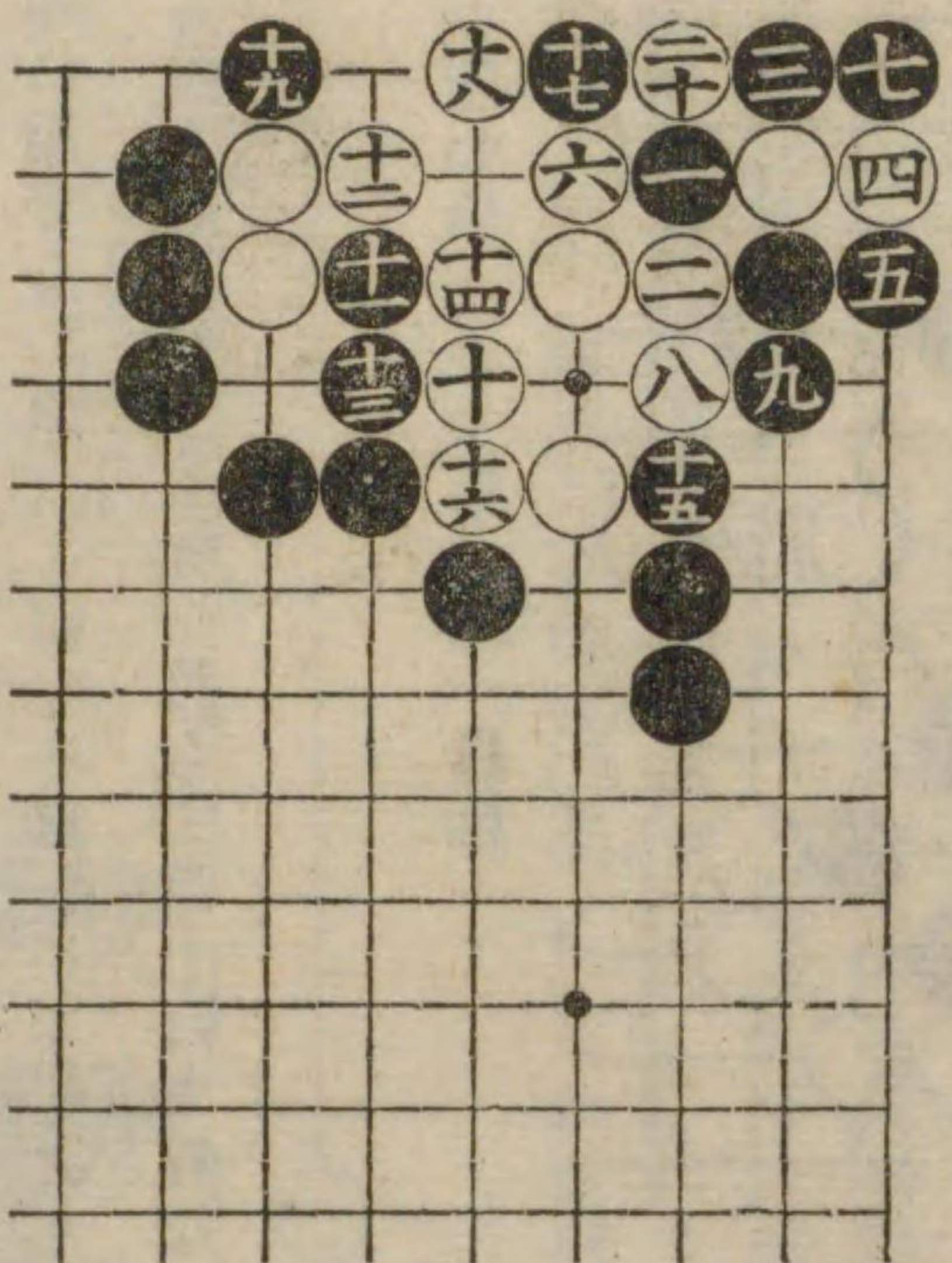
第七十二圖 黒先劫

説明。黒一は妙手なり白若二を△印に打てば黒五にて白死なり一の手参考すべし。



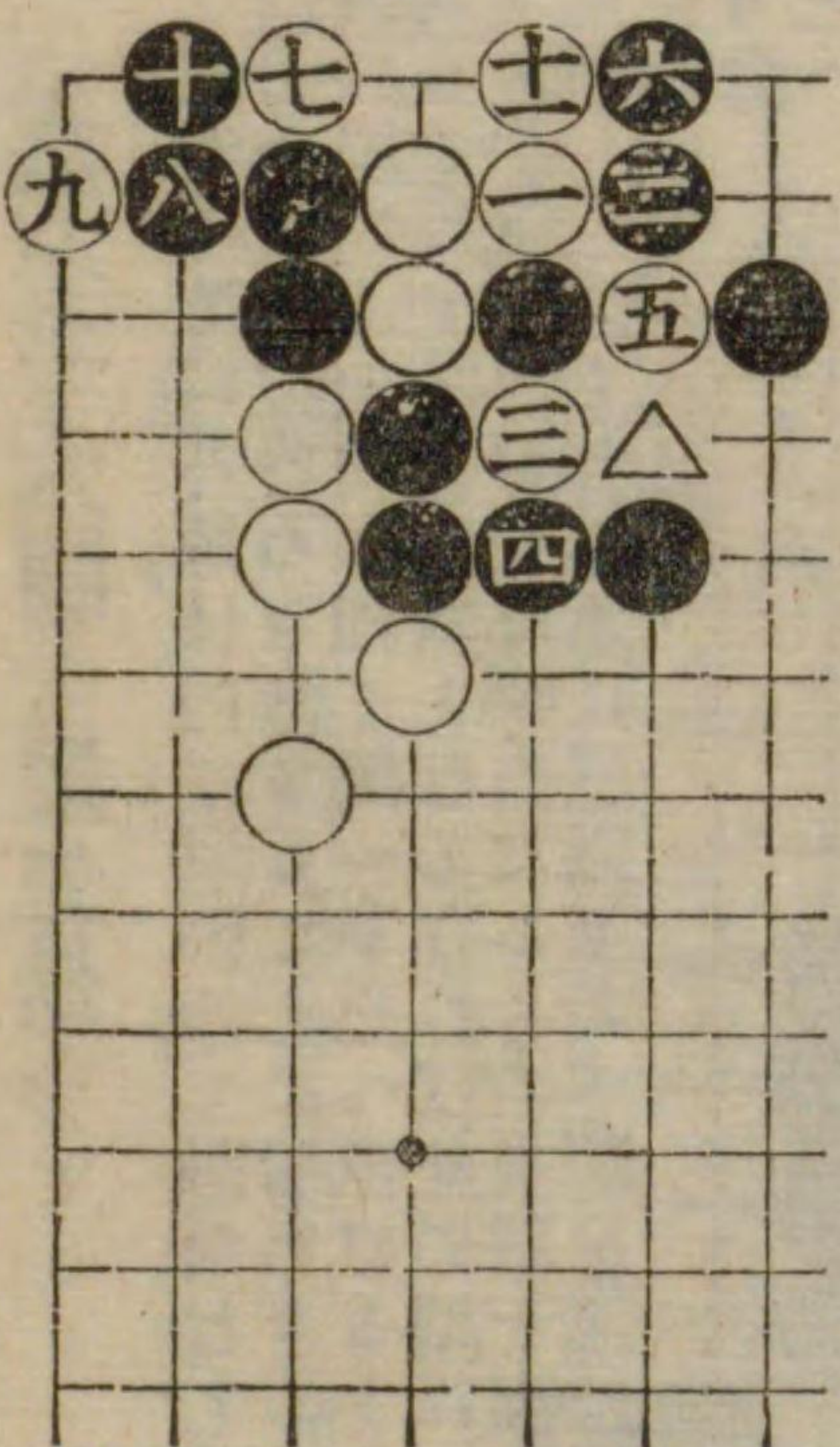
第七十三圖 黒先劫

説明。本圖は互先碁に出来る型なり白八の手にて九へ打てば黒に八へ切らるゝなり。



第七十四圖 白先劫

説明。黒六は善き手筋なり若此の六を△印へ當てると白に八へ頂けられて黒取られる事になるなり白七は善き手筋なり黒八を十に打ちても白十一へ約へれば劫となるなり又白の九の頂げも善き手筋にて往々に生ずる所の型なり尤殊に置碁に出来易き型と知るべし。





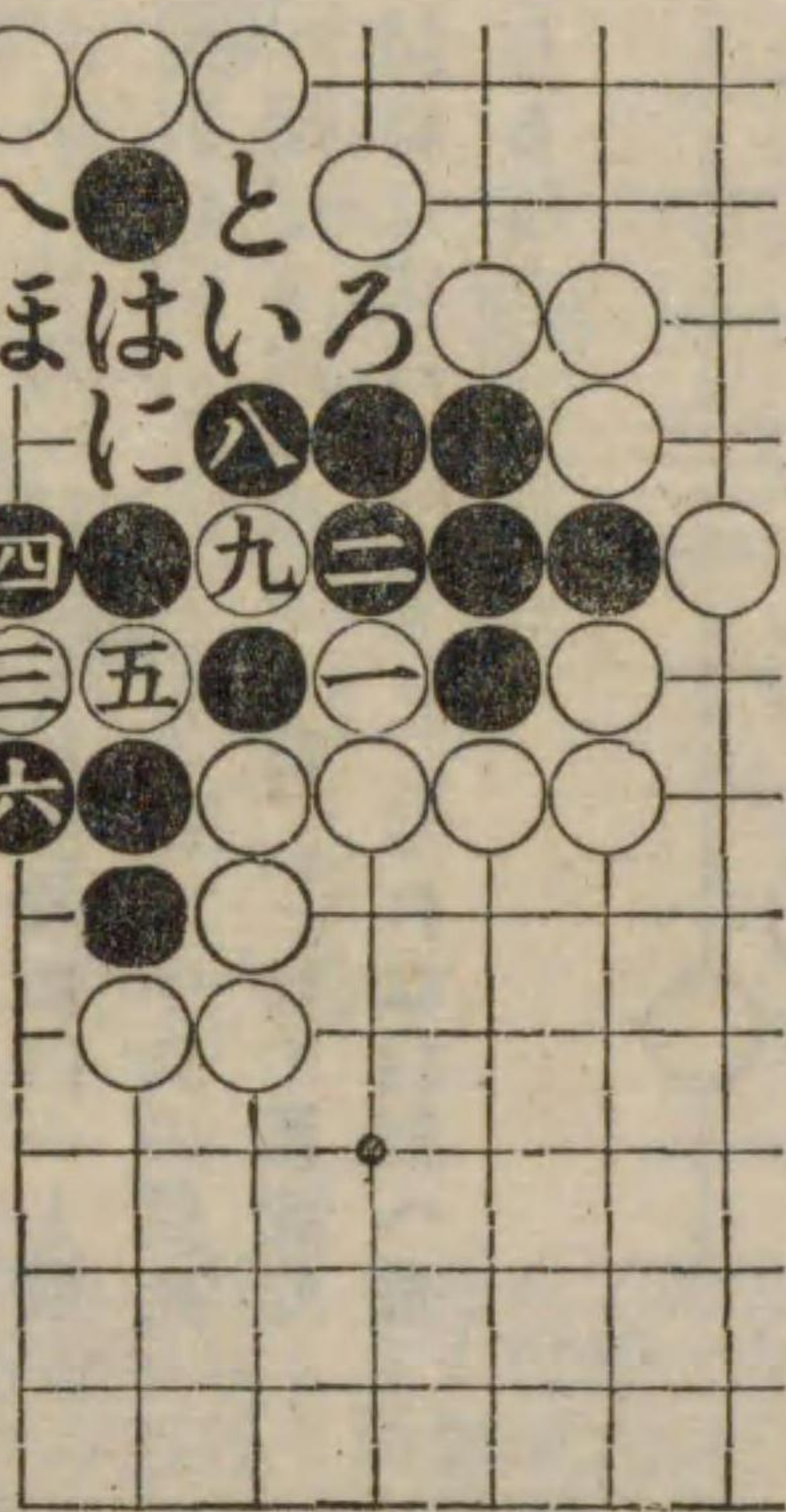




第七十九圖 白先劫

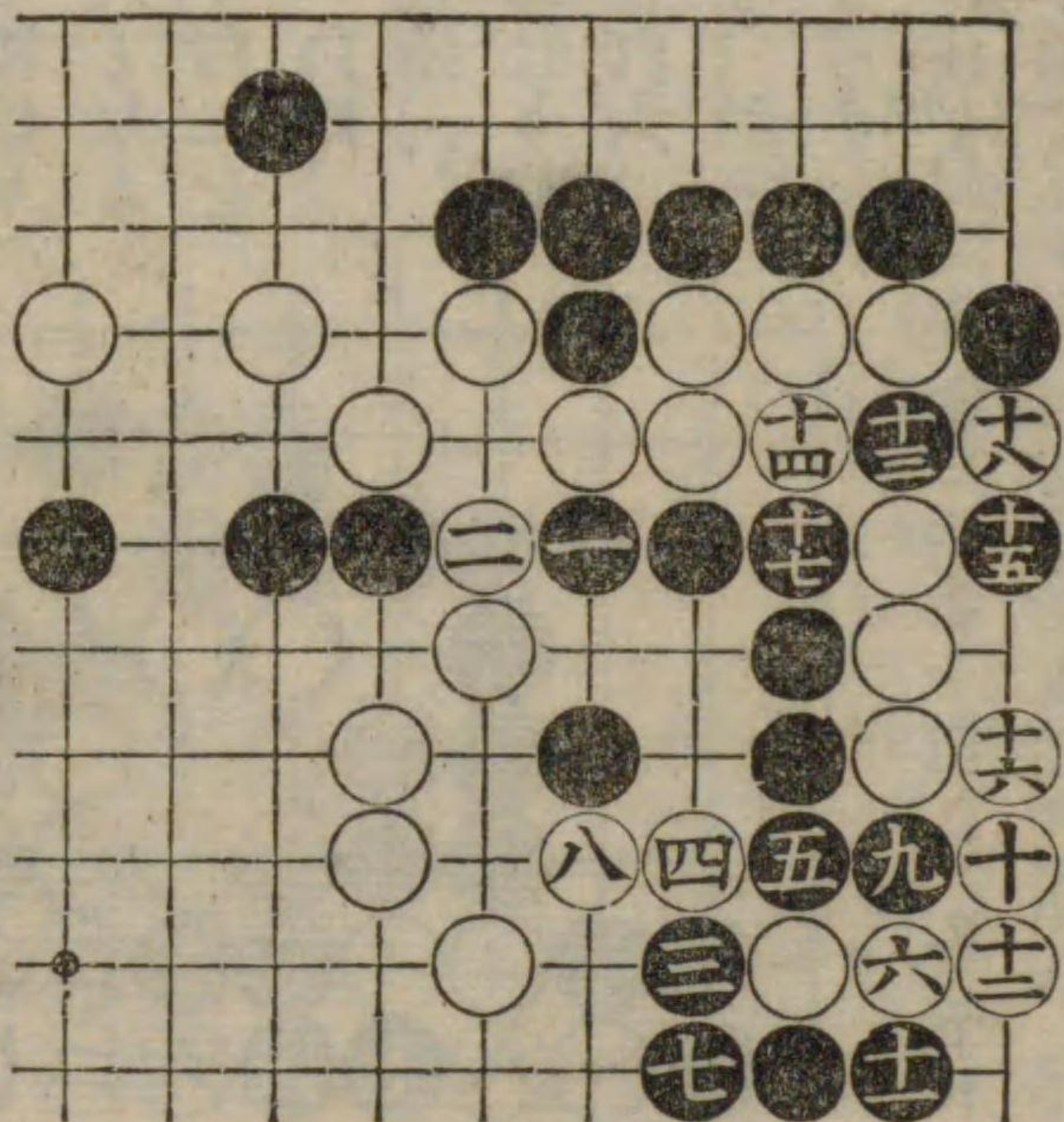
七五へ打込む

説明。本圖は置碁に實際出來たる型なり元來黒の碁形ダメ  
 ズマリゆゑ白手段あるべき筈なり然し初學者としては一  
 六ヶ敷、白三とオキ五と二目になす手は妙手又七と打込む  
 手も妙手なり白七の時黒若し八を三へ提れば白八黒「い」白  
 「ろ」黒九白「は」黒「じ」白「ほ」にて黒死となる、それなれ  
 ば白五を打たず八へツケても同型の様なれども大に相違せ  
 り何がとなれ  
 ば白が五、  
 七を打たず  
 八へツケれ  
 ば黒「じ」白  
 「い」若し  
 「くは」ろ  
 「は」は「ろ」  
 「に」も黒は  
 「は」へ粘、  
 「六」子を捨つ  
 るゆゑ黒活  
 となる最初  
 黒カケ眼と  
 へ双べば白  
 黒「い」白「ろ」  
 劫なれども  
 り四を八に  
 打ちても劫  
 なり。

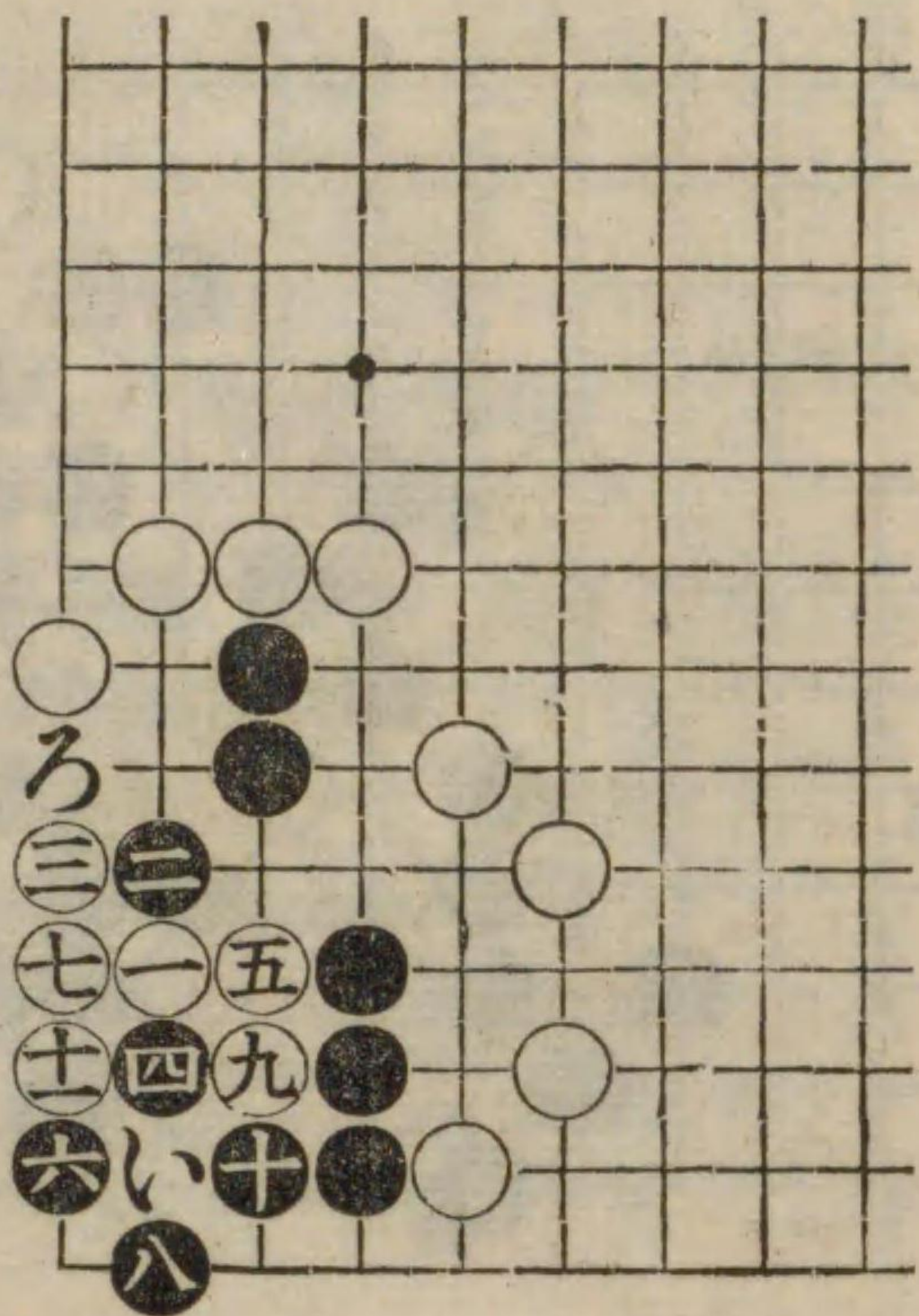


第八十圖 黒先劫

説明。黒一と出る手は打ち難き手なれ  
 ども圍中の黒石を活きるには此の手が  
 必要なり黒三の時白四と取りに行くは  
 少しく無理なり黒十三と割込み十五の  
 綽ね妙手なり白十六を十七なれば黒十  
 六にて押潰しとなるこれは問題になら  
 ぬなり。

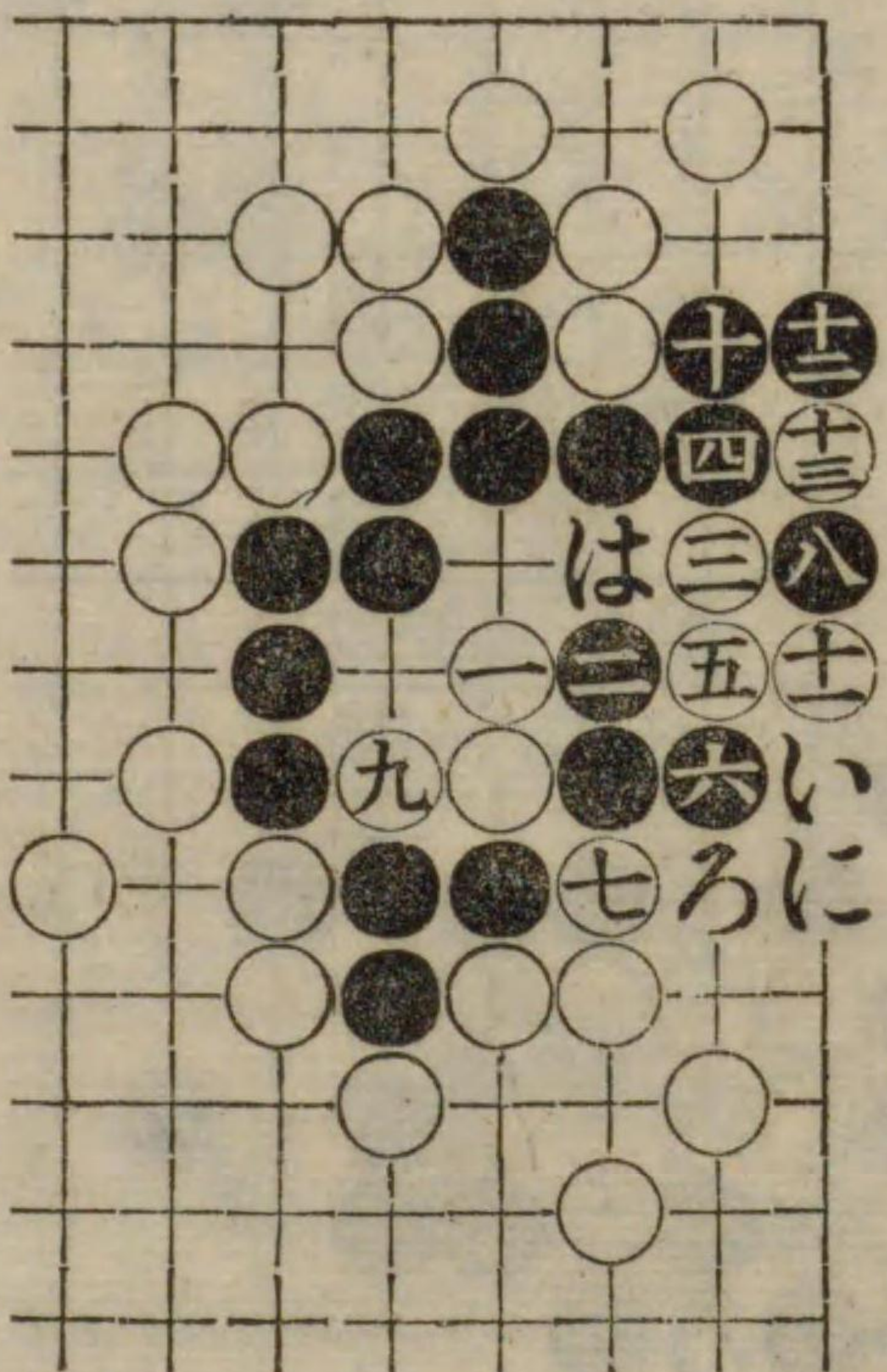


第八十一圖 白先劫



説明。本形も置碁に出來る型なり黒手抜きした  
 る型ゆゑ白に先手を打たるれば只活きといふこ  
 とは出來ざるなり黒六の尖み善き手なり、これ  
 にて劫となるなり白一を若七へ打たば黒四白十  
 一黒六にて容易に活きるなり又白一を十一へ飛  
 べば黒は六に頂ケて宜し本圖は石といふものは  
 容易に死なぬものといふことを示すなり。

第八十二圖 白先劫



説明。白一、三と打ち五と出づる手大に善し黒の  
 八の手も亦面白し若、此の八の手を只活んとして  
 九へ粘げば白に「い」へ綽ねられて黒「ろ」なれば白  
 「は」黒「ろ」を「は」なれば白「に」にて死となる最  
 初、黒二を若、七へ粘げば白二黒五白「ろ」黒六白  
 四にて死なり黒又五を三へ尖めば白五黒六白十一  
 黒九白四にて黒死になり。





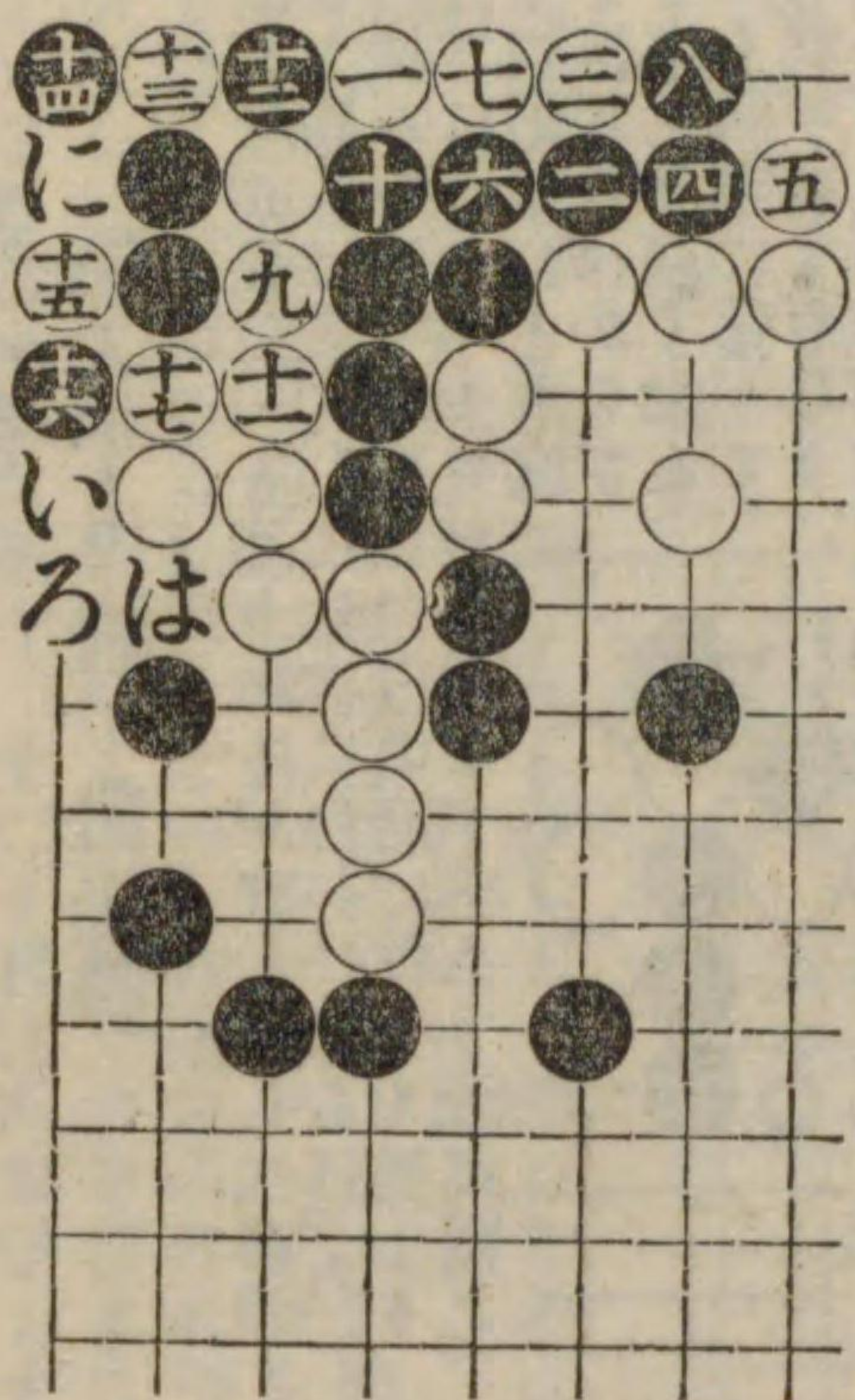






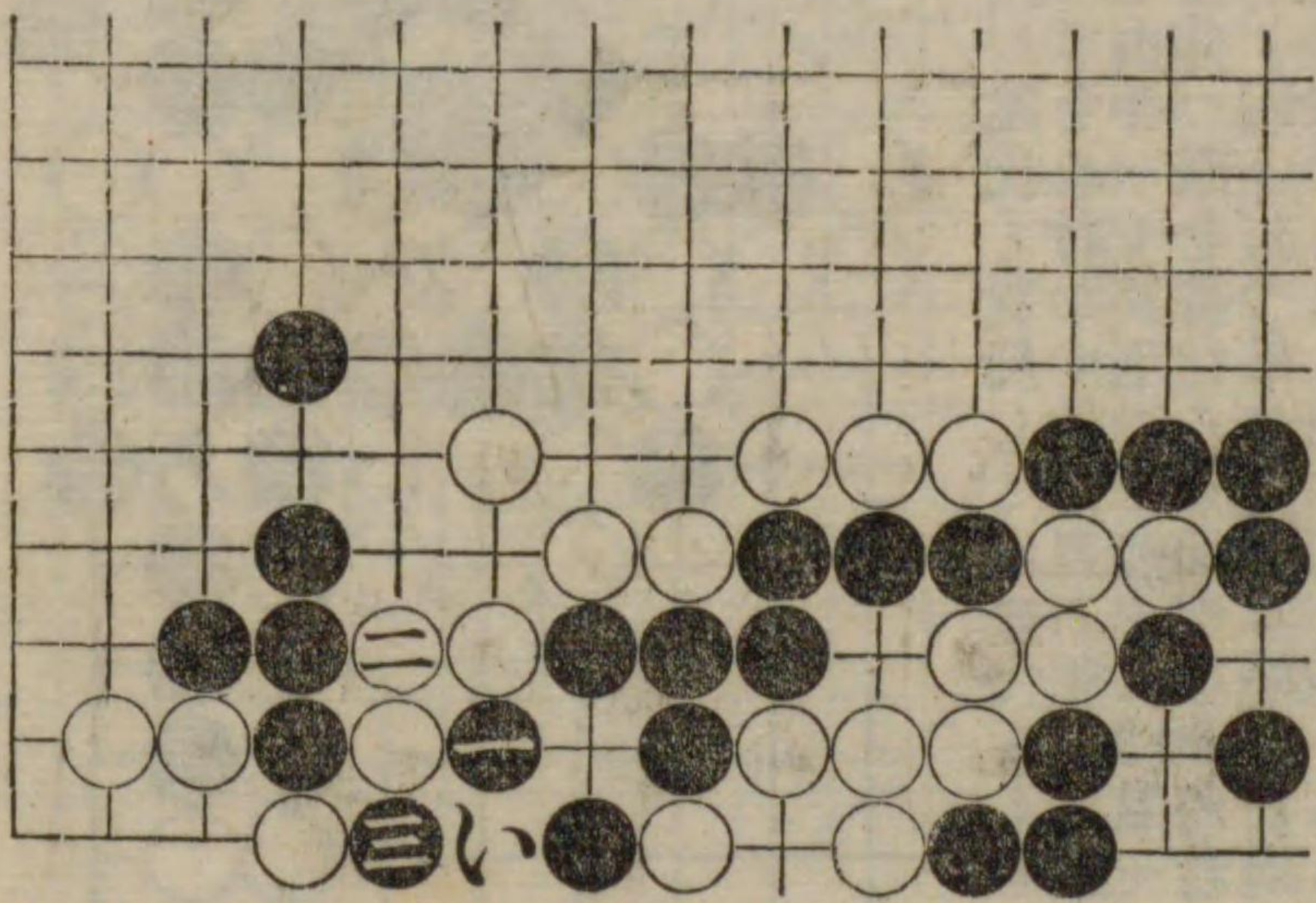
第九十一圖 白先勝

説明。白一の尖み妙手なり此の時黒若二を十七へ突當らば白三へ飛ぶべし黒「い」白「ろ」黒十六を八に約へなば白九黒十一白十七黒六白七黒四白五にて矢張白の勝なり。



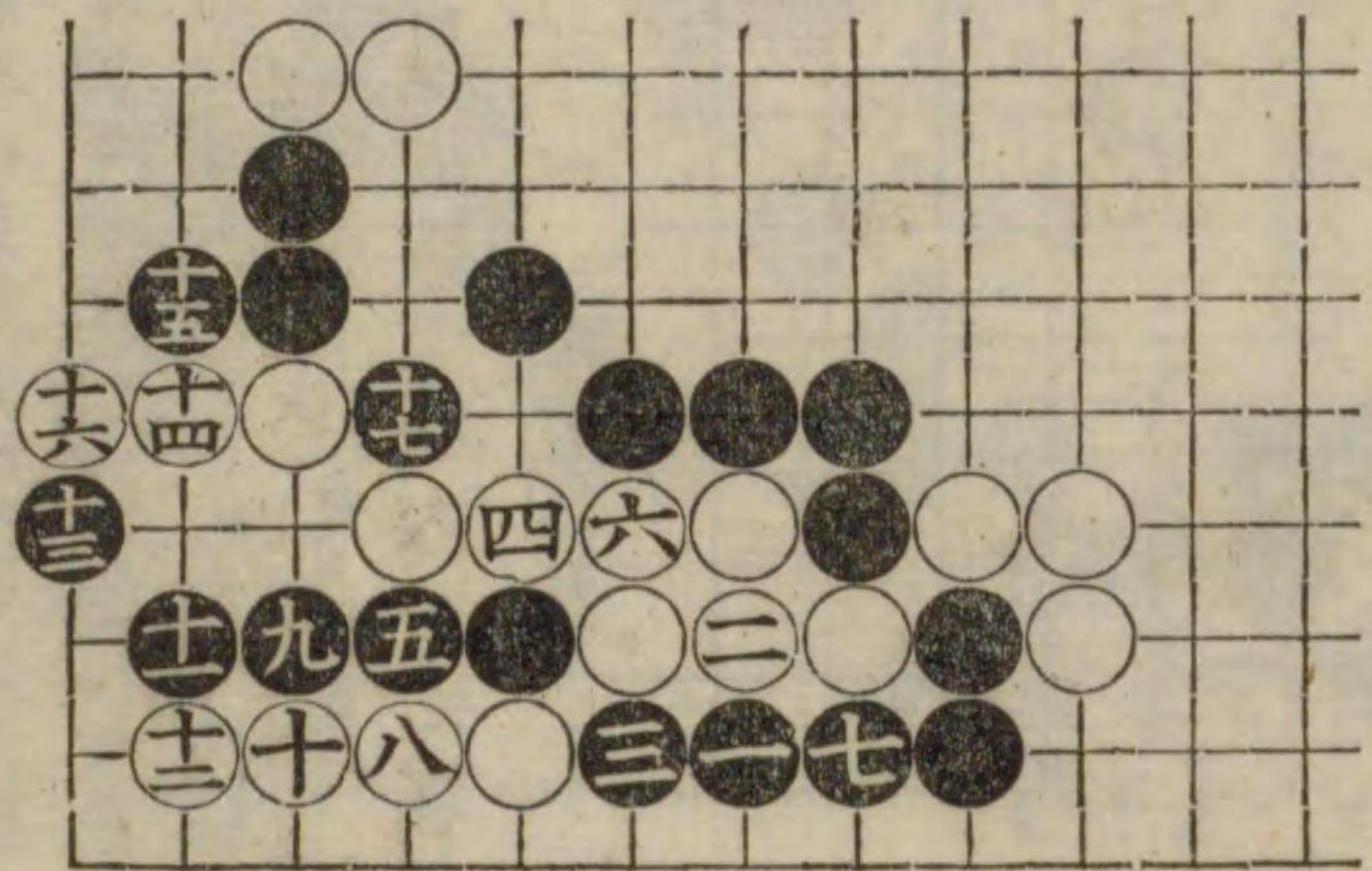
第九十二圖 黒先勝

説明。小林三段が井目を置かせたる對局に出來たるものにて下手が一とアテ三とウチコミ來り兩劫にして白の九子を屠りたる力量に感せしといふ白二にて「い」に打込むも矢張兩劫なり又三の處にツガば黒は二の處に切りて白の全敗となる。



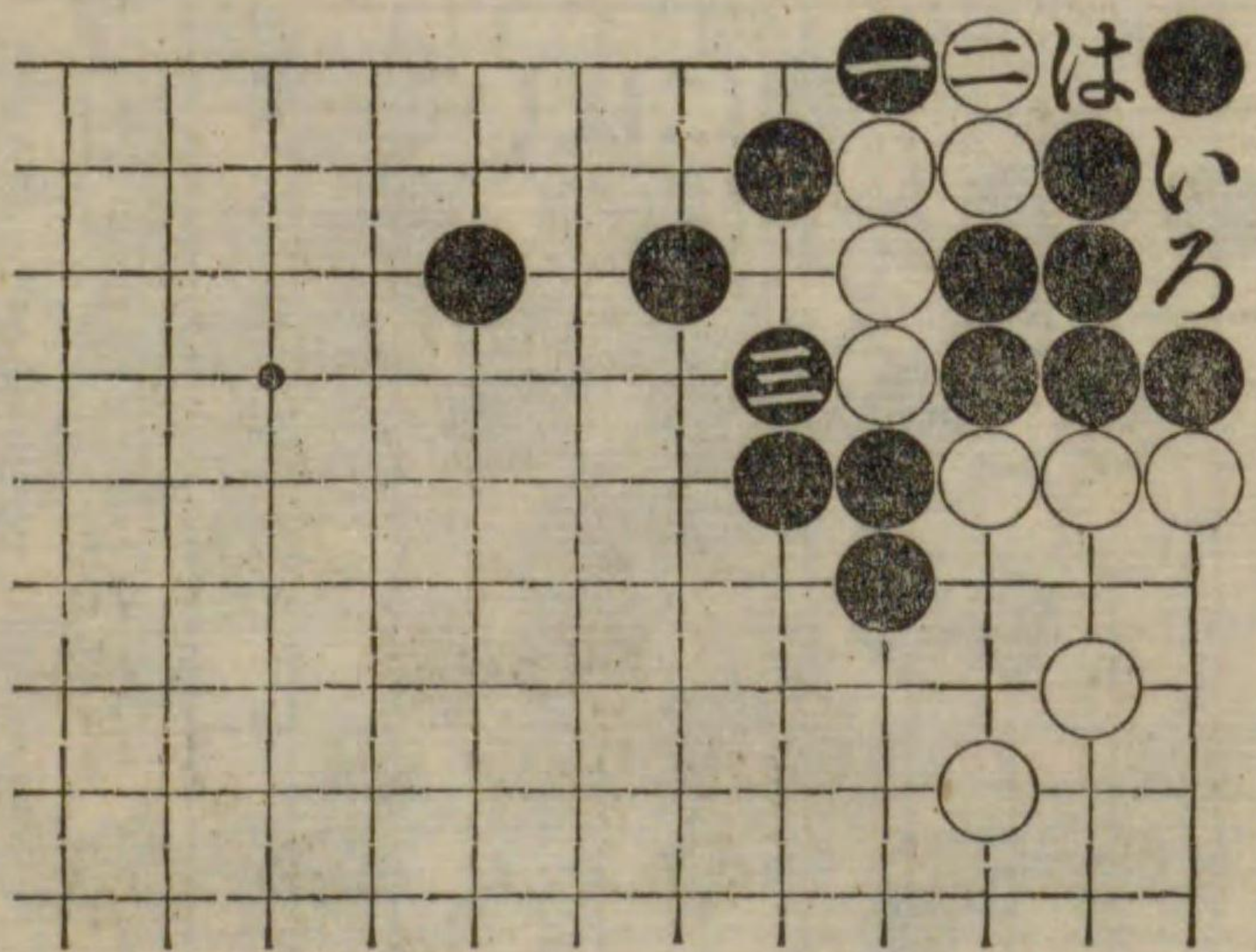
第九十三圖 黒先勝

説明。黒の二子如何すれば活きるかといふに先一と覗き白二黒三にて二子は安全の活なり白二は無理なり三へ粘ぎ黒二と差込みて双方共活と打つべきなり然るを強ひて黒石を取らんとする爲め却つて白石を取らるゝことになるなり黒十三の尖み妙手なり初學者の爲め此の尖手を示し置くなり。



第九十四圖 黒先勝

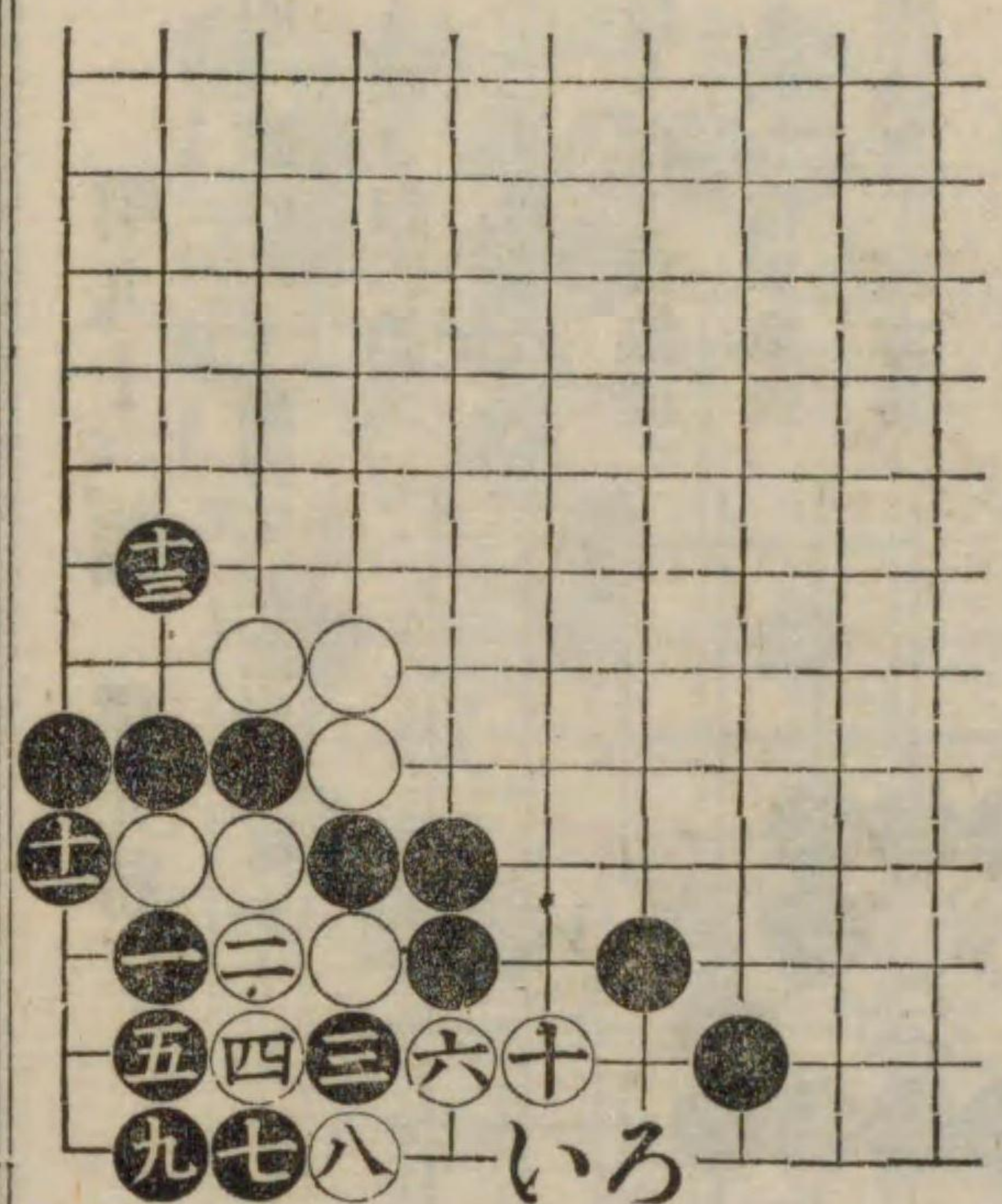
説明。黒一と縛ね三と詰めるこれは俗に云ふ目有目無にて黒の勝となるなり若此の一を打たずして三へ詰めると白に「い」へ打込まれ黒「ろ」白「は」黒二白一で劫となる只取り得べきものを劫とするは不覺なりといふべし所謂石取りは「縛ねべし」といふは是等の手を云ふなるべし。





第九十五圖 黒先勝

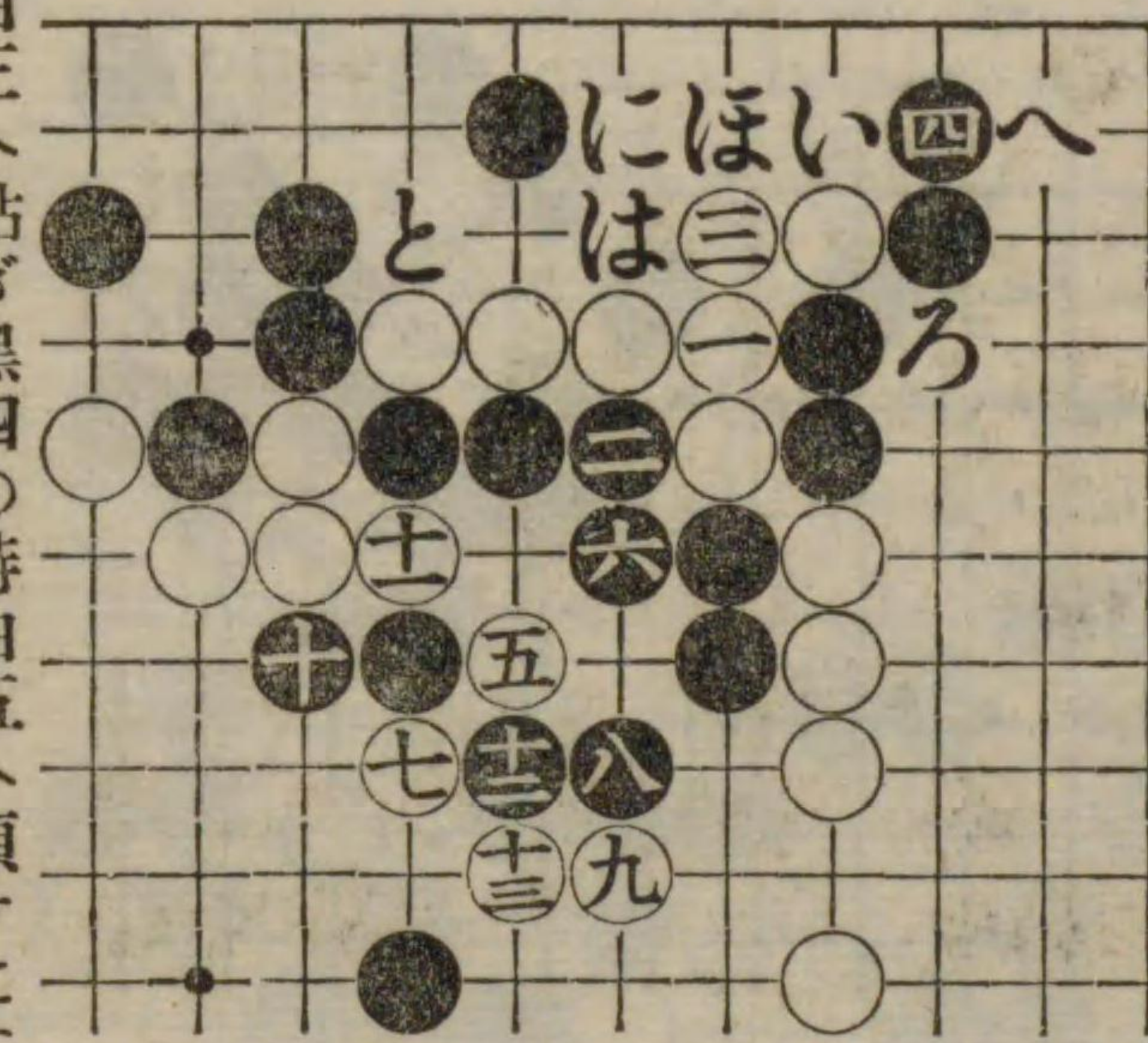
説明。本圖は碁形としては餘り面白からざれども手筋としては善き手ゆゑ此處に示すなり黒一と頂ヶ三と縛ね五と押す手順最善し總べて攻合の時は一歩も隙かさぬ様打つべきものなり即、本圖の打方の如し白若六を七に下がらば黒十一、白六、黒九、白八、黒「い」白十黒「ろ」にて宜し。



十三 五目粘

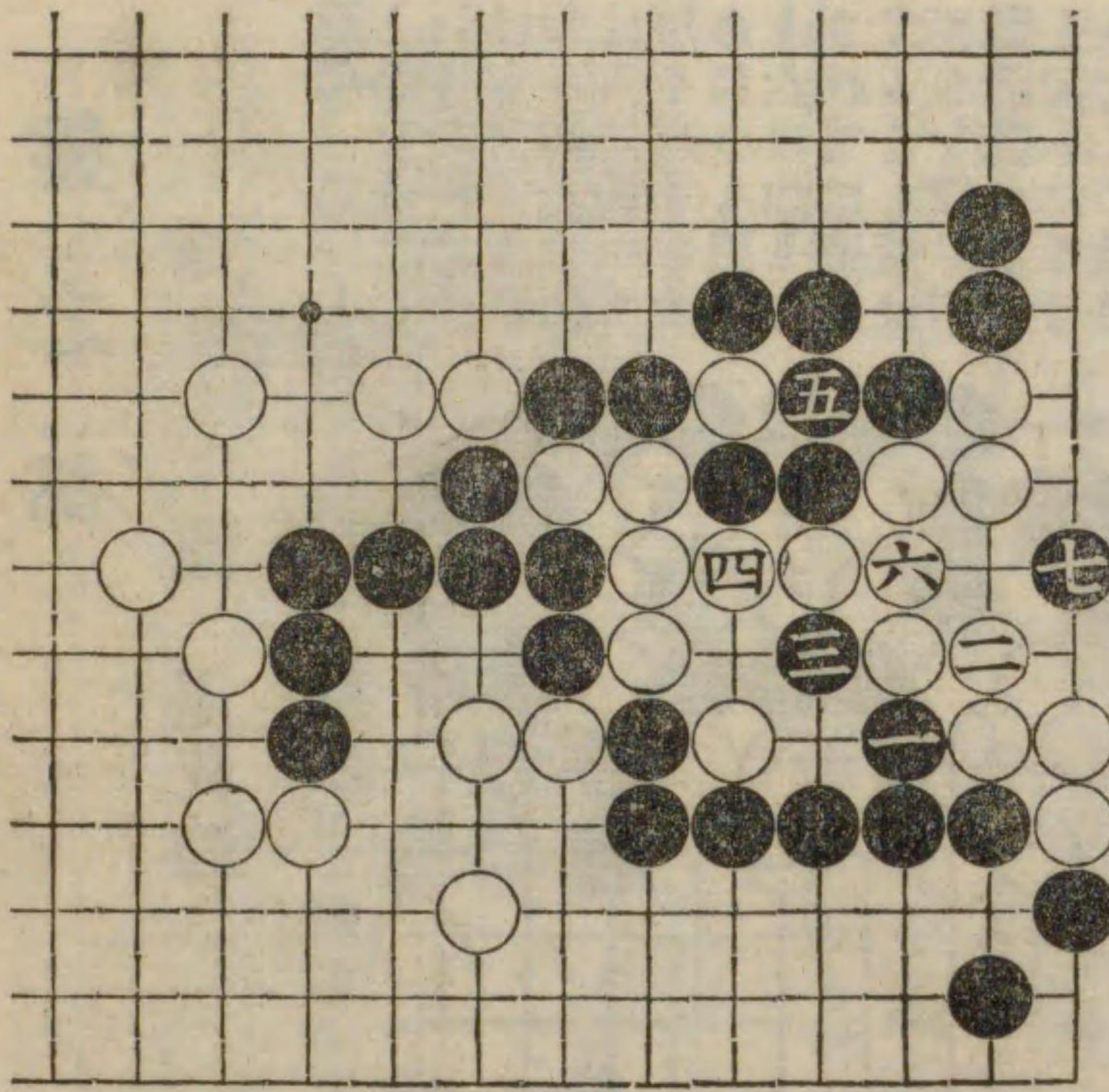
第九十六圖 白先勝

説明。本圖は置碁などに出來る型なり白一とグヅム(碁の俗言)は黒が二を五へ打てば白四へ二段縛ねし黒三なれば白「い」黒「ろ」なれば白「へ」にて白善し黒二と當るは白が其時四へ縛ぬれば黒三白「い」黒「ろ」白「は」黒「に」白「ほ」黒「へ」にて白の手數四手ゆゑ其の時白五へ頂ヶても黒の方一手勝となるなり依て白三へ粘ぎ黒四の時白五へ頂ヶにて攻合ひ白一手の勝此の五の手などを手筋とはいふなるべし。



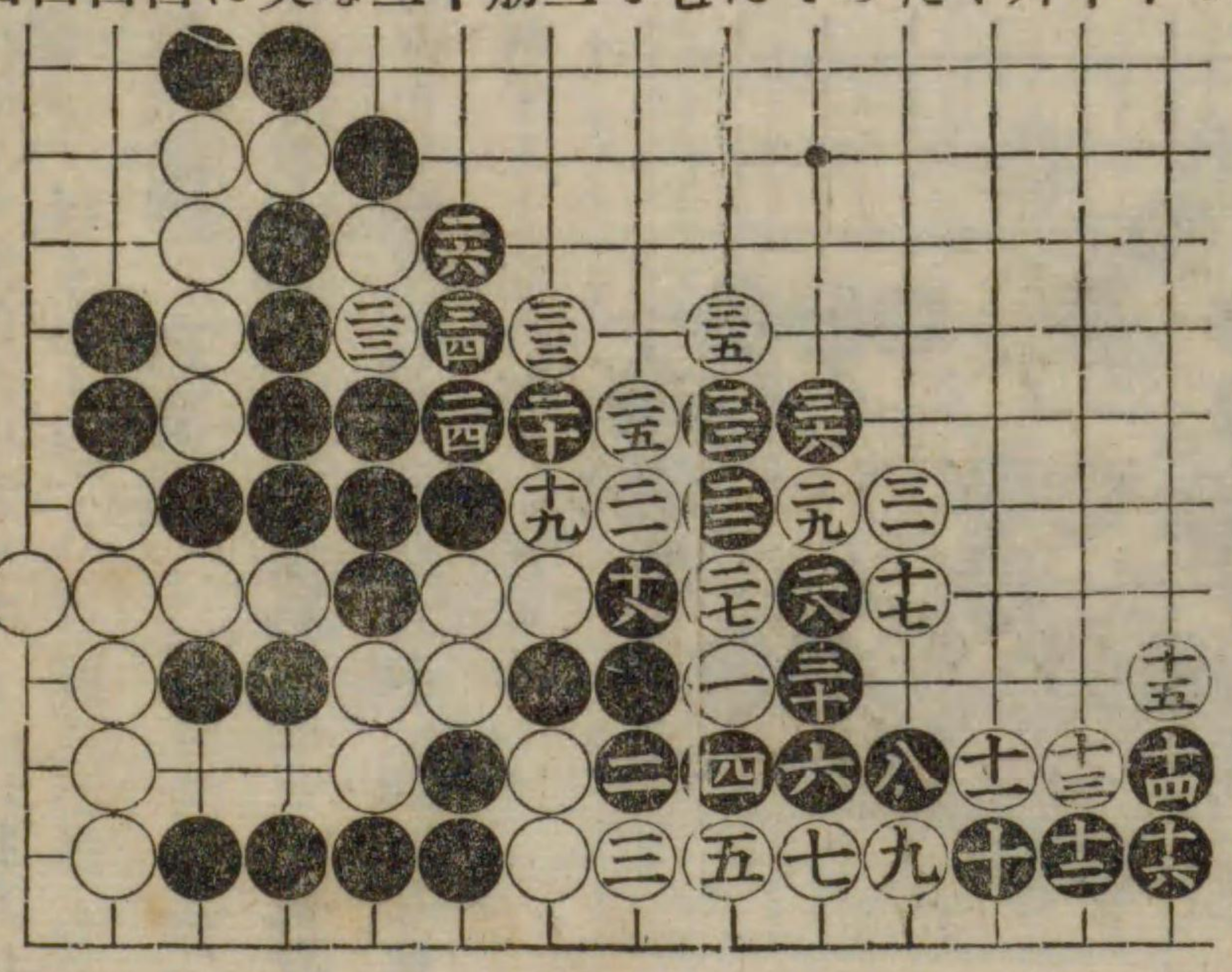
第九十七圖 黒先攻合勝

説明。數字順の如くにて七手六手にて攻合黒勝なり以下變化し打つも白敗なり試みよ。



第九十八圖 白先勝

説明。白一は妙手なり此の一を普通の如く四へ飛ぶと黒に一へ約へらるゝなり白六の時黒に二一へ掛け



二二二二頂むり一八九あ八善はるこ石め強に一は無敗らとと説明。白一は妙手なり此の一を普通の如く四へ飛ぶと黒に一へ約へらるゝなり白六の時黒に二一へ掛け

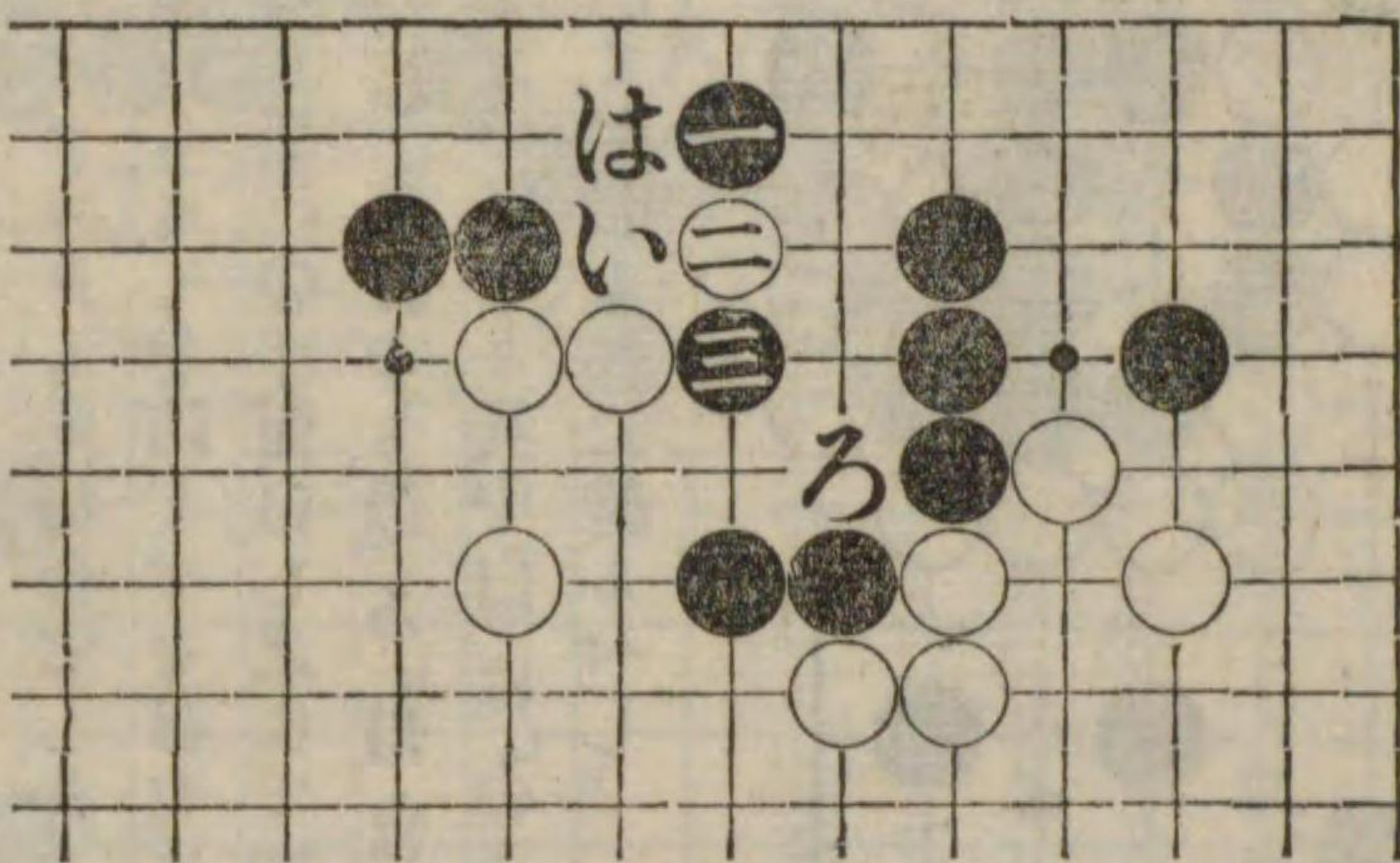






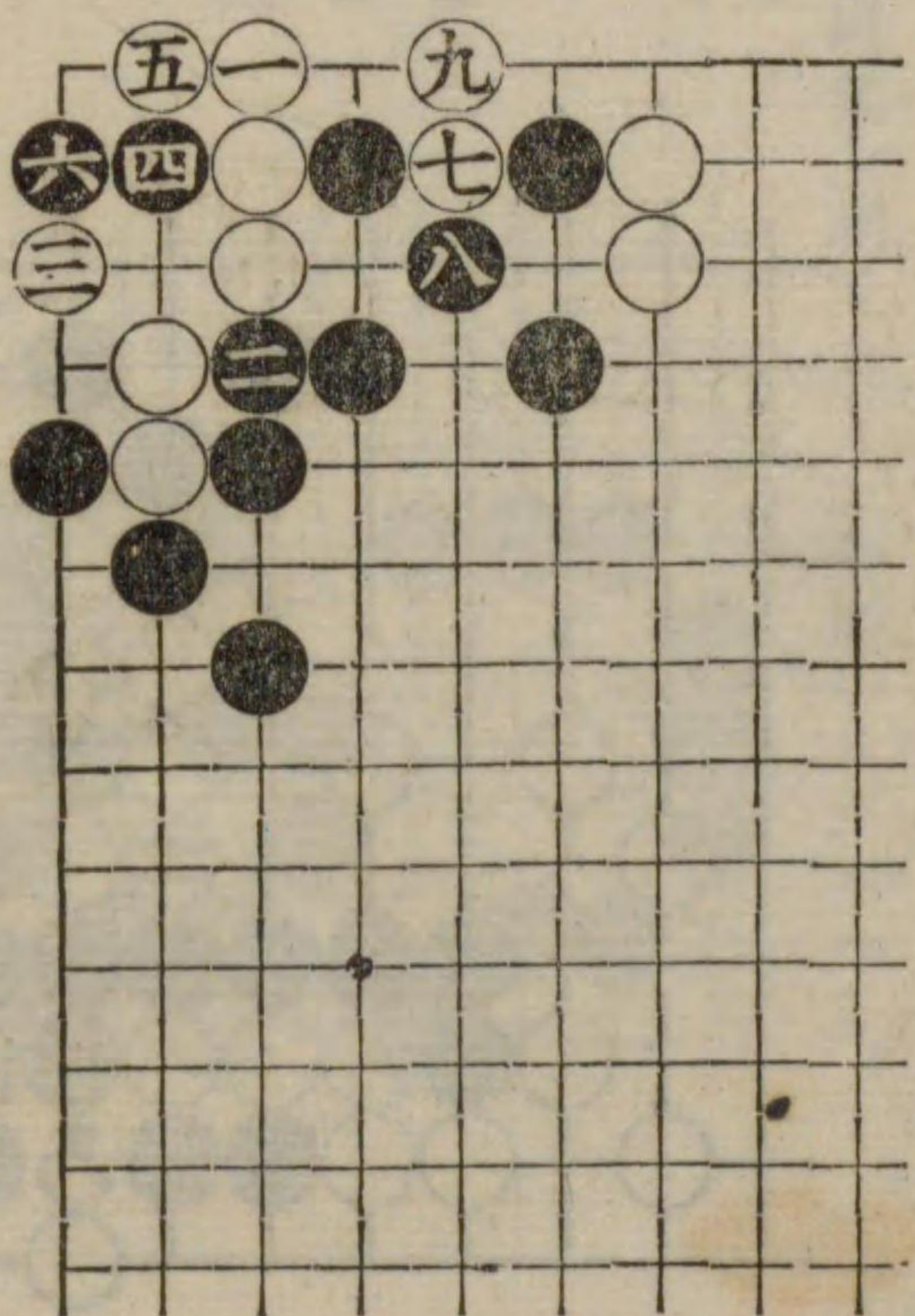
第百三圖 黒先連絡

説明。黒一と三が手筋にて斯くすれば左右上下悉く連絡を保つなり若し此一の手を「い」に打つならば白に三と伸びられて黒二と受れば「ろ」の切残り又黒二に受けずして「ろ」に續けば白は二に遮断するならん又最初黒「い」に打たず白「い」に出で黒「は」に受け白三に押し黒一の時白より「ろ」の切ありされば圖の如く打たば白は切るこゝと能はざるなり。



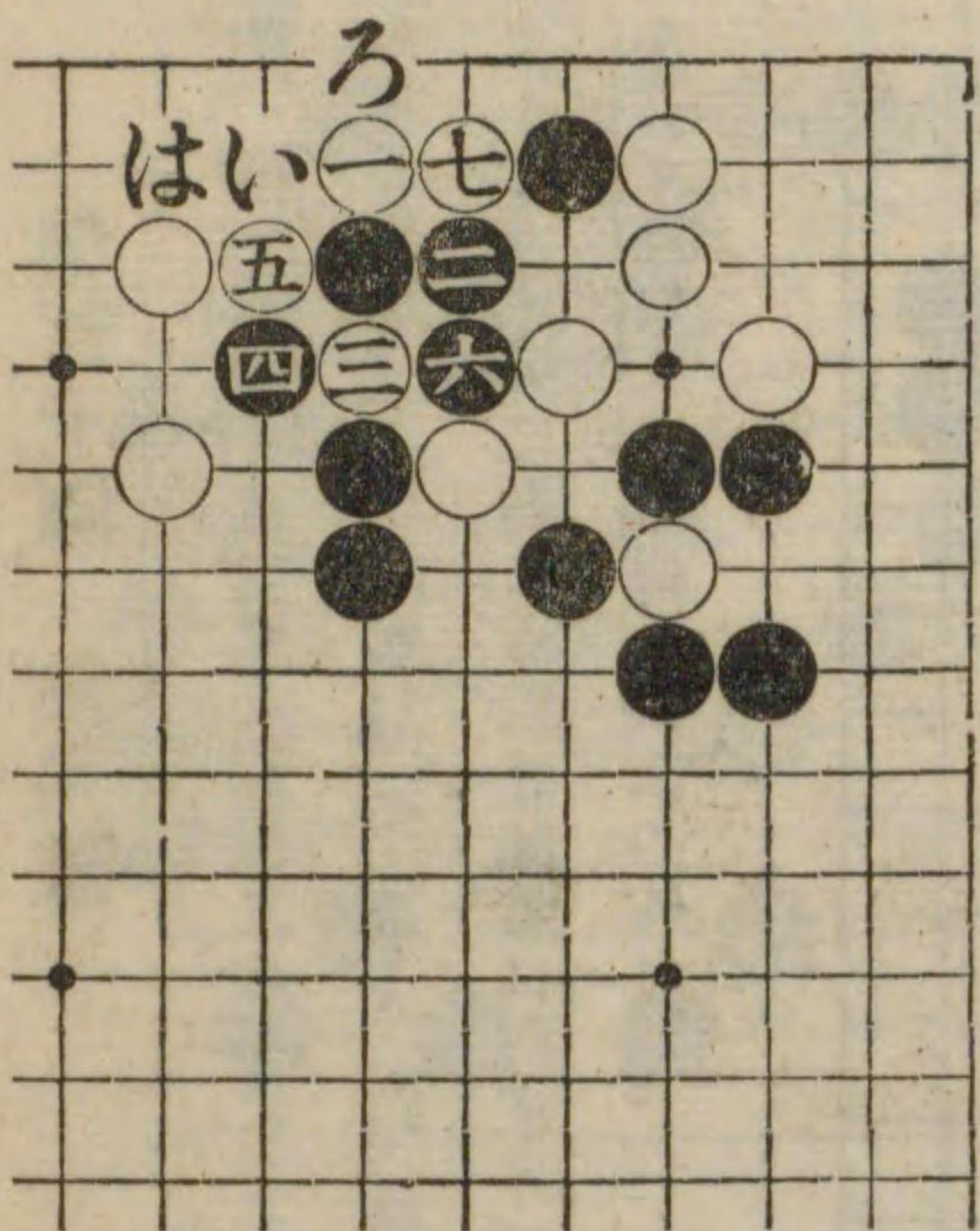
第百四圖 白先盤生

説明。此形は置碁に於て白が三ノ三に打込みて出来る勢なり白七の割込み妙手なり黒四と取りに来るは無理と知るべし。



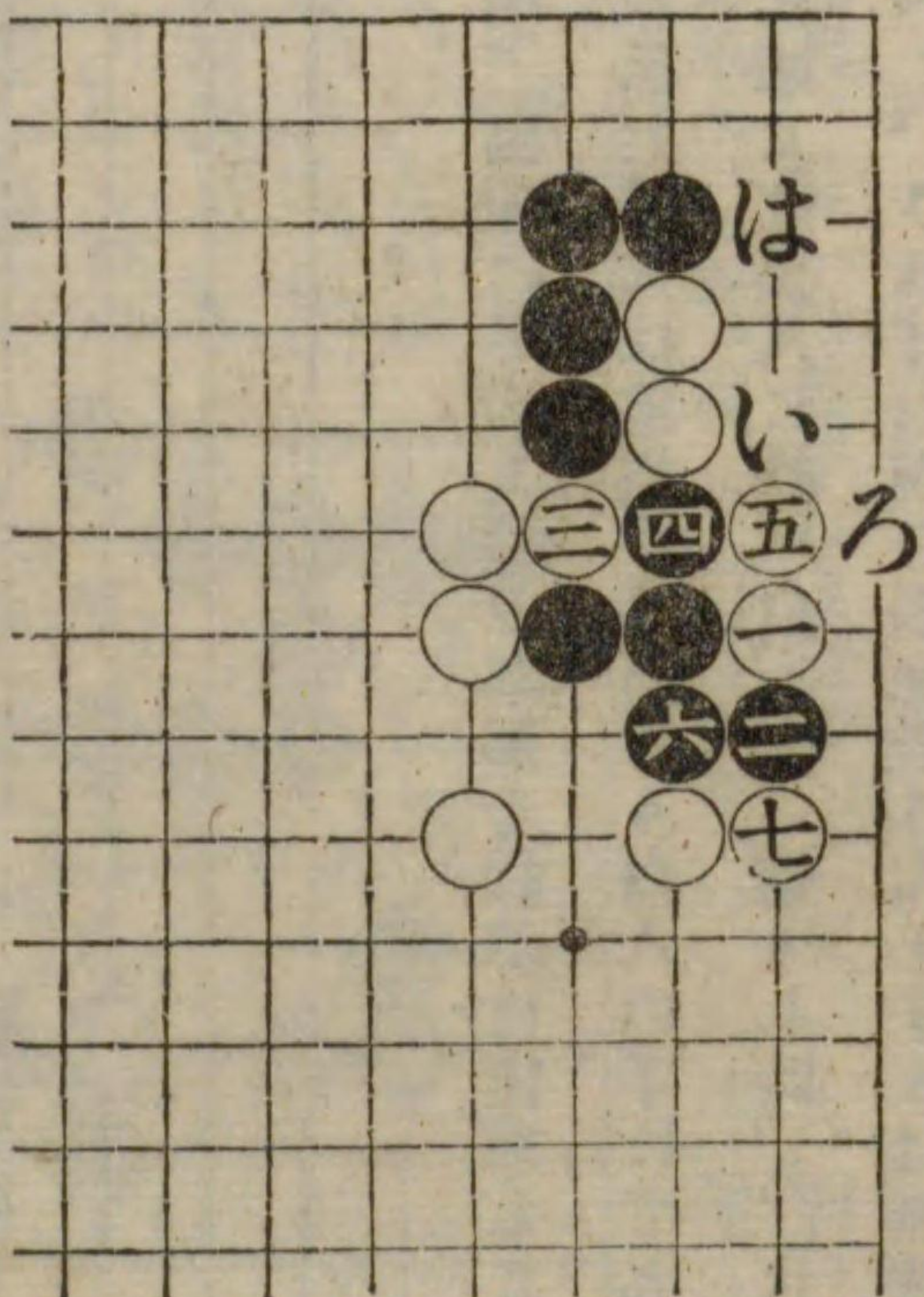
第百五圖 白先盤

説明。白一と頂ヶ三と勿込むが手筋にして七までの結果白が内外連絡する勢なり尤黒二の手にて「い」なれば白五黒七白三黒「ろ」に一子提り白「は」となりて宜し又黒「い」に勿出さず七の處に突き當らば白二に切り黒「い」白三、黒五、白四にて黒は兩斷せられて悪し。



第百六圖 白先盤

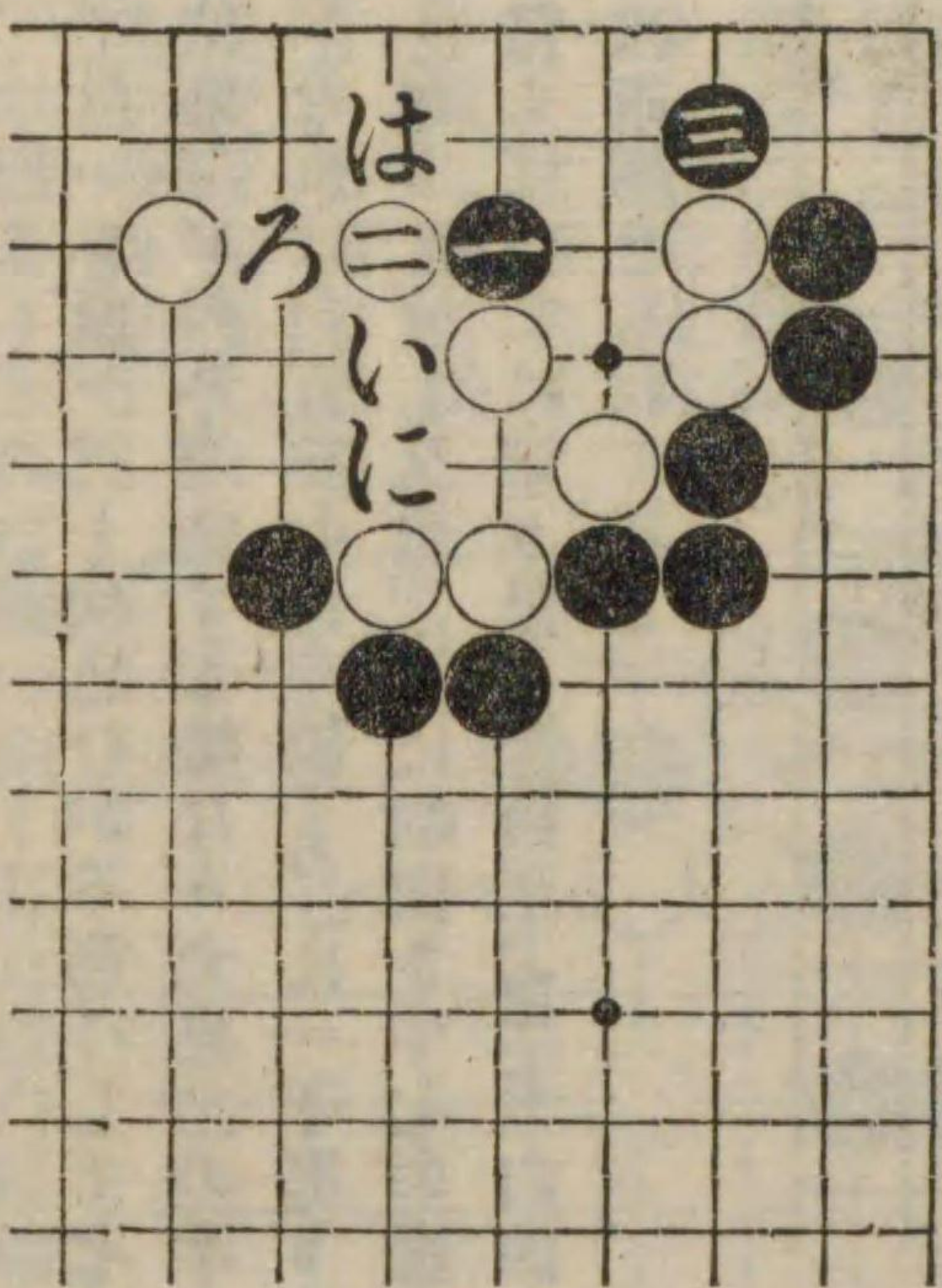
説明。白一の頂は常用の手なり黒二と強ひて白を取り込まんとせば斯くの如く却つて己れを擒にせられたりされば黒は二の手にて五に勿出し白四、黒三白「い」黒二、白「ろ」に一子提り黒六白「は」となりて白を活かし兩斷しおく方外部の白薄弱となる利益あり此形は圍中の二白子死型なれど一の良手に因り復活の意味あるを示したるなり。





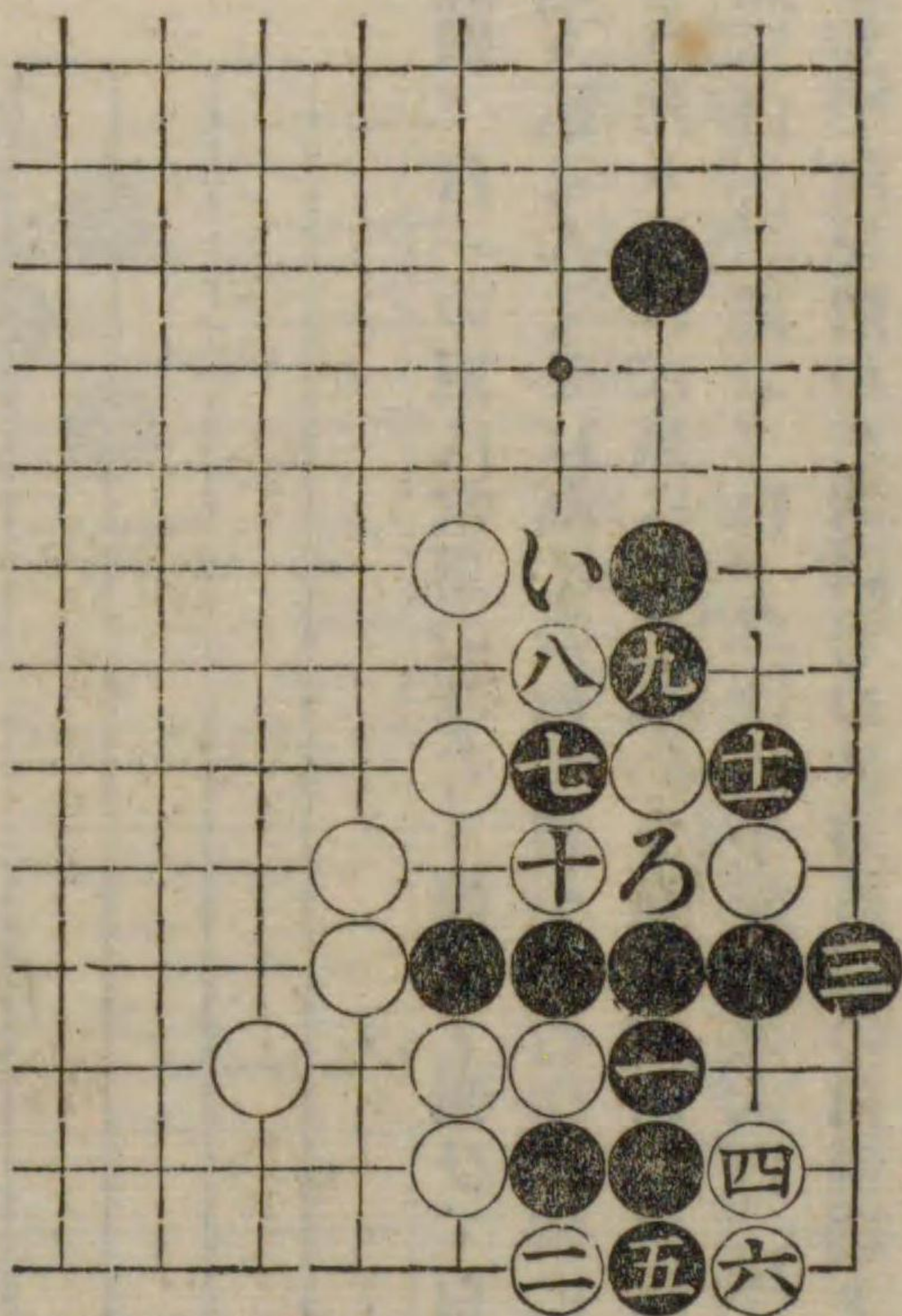
第百七圖 黒先盤

説明。黒一の頂ヶ注意すべし白二の手にて三の處に下らば黒「い」に緯ね白「に」黒「ろ」白「は」黒「に」となりて大に得なり畢竟此處は白ダメツマリを捨ておきしが不覺といふの外なし。



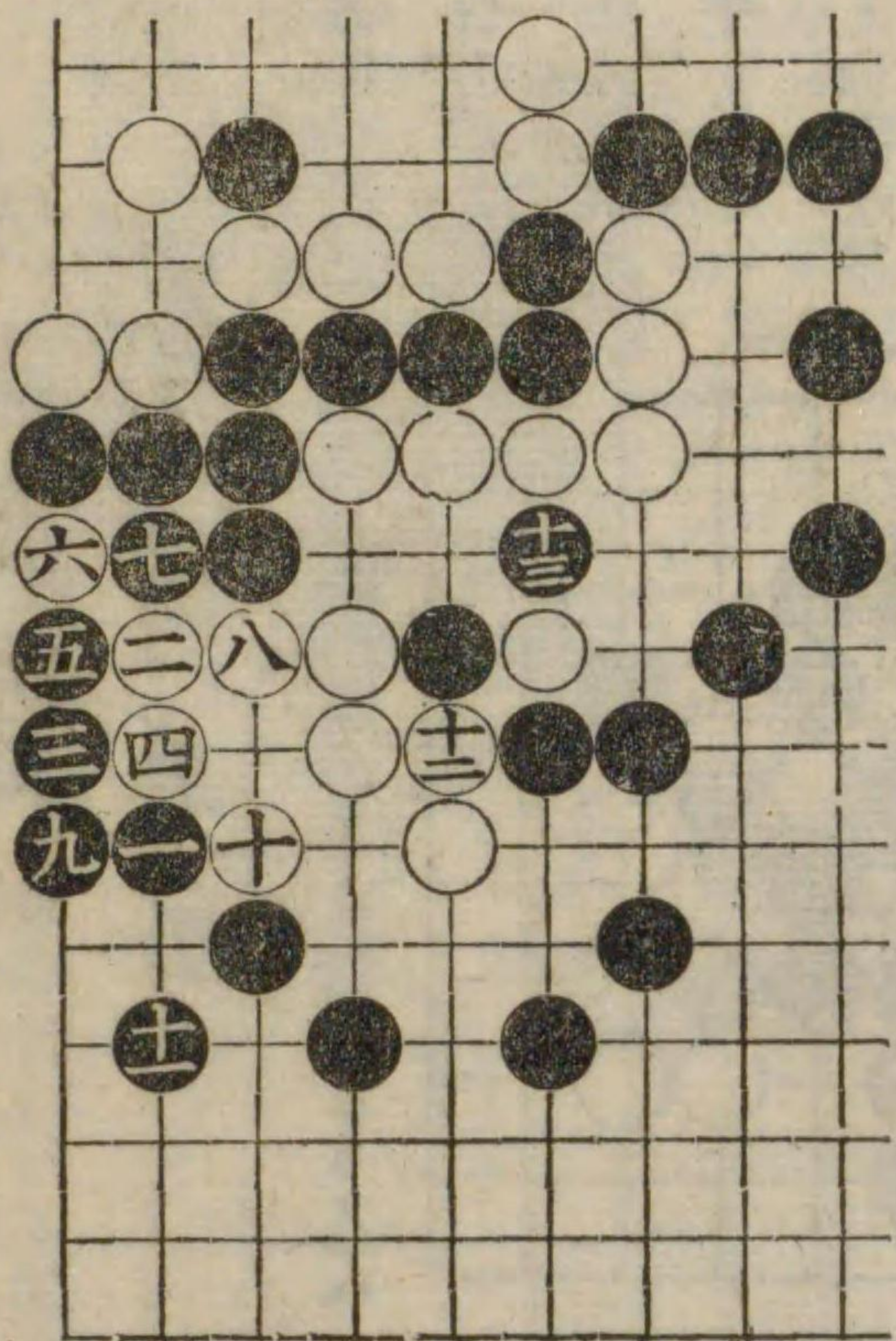
第百八圖 黒先盤

説明。黒先にて活るなり本形も置碁に出来ること多し黒七及九は常用の手筋なり白八の手にて九の處に來らば黒八に約へ白「い」に切りし時「ろ」に打つべし、されば白四と黒を殺さんとするは無理なり。



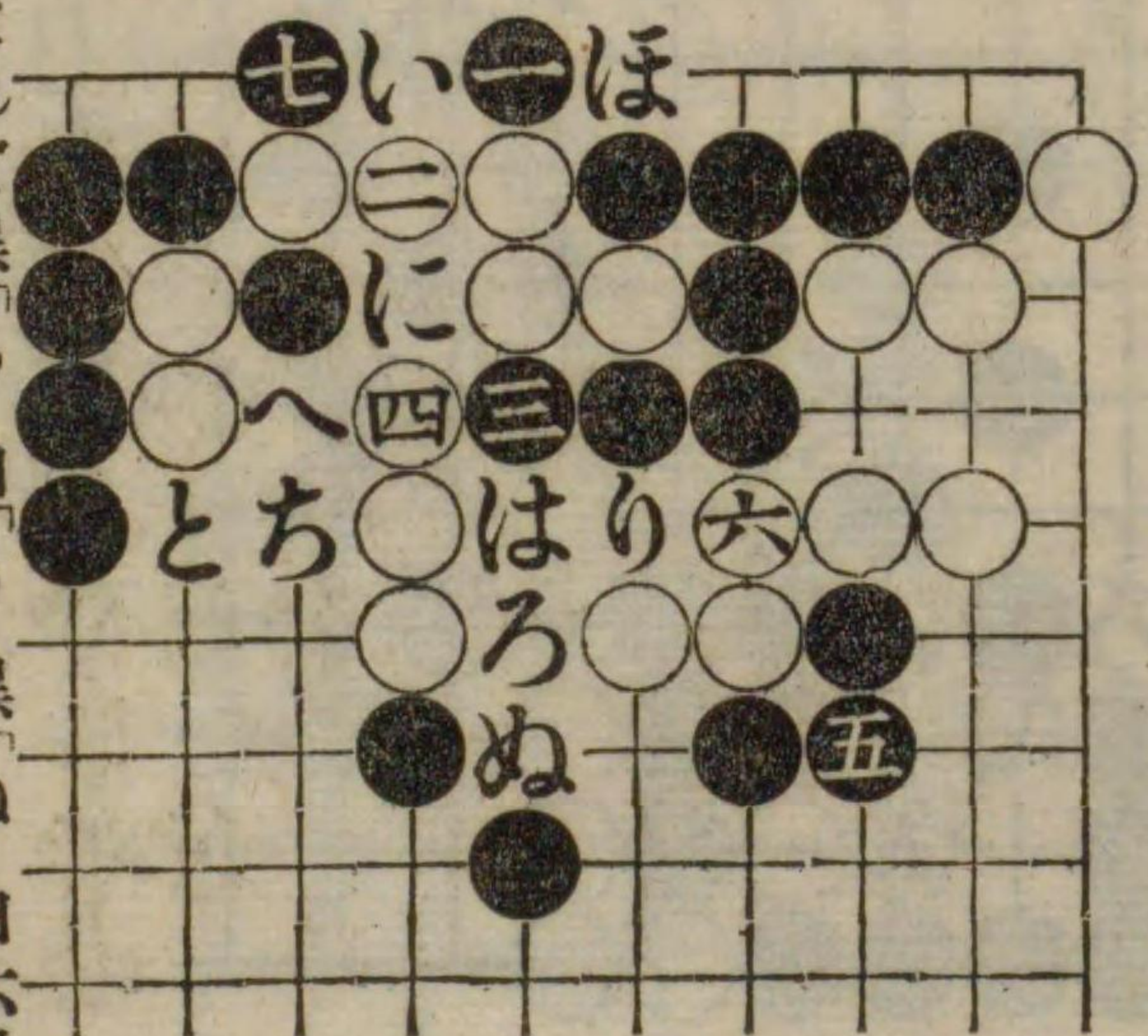
第百九圖 黒先盤

説明。黒一の尖み妙手なり白二の時三と尖むも妙手なり白二を四へ頂れば黒三と緯ぬるは觀易き手なり白四を五なれば黒八へ出切る手あり、されば之は問題にはならぬなり、斯くなりては黒は連絡せしのみならず白の大石をも獲たり。



第百十圖 黒先盤

説明。黒一は妙手なり白若、二を「い」へ約へなば黒三、白四、黒「ろ」白「は」黒「に」白「は」黒「へ」白「と」黒「ち」にて善し白四を「に」なれば黒「ろ」白「は」黒四白「へ」黒「ち」にて黒の方善し白二を七へ下がらば黒「は」白「ろ」黒四にて善し白又「ろ」を三なれば黒「ろ」白「り」黒「ぬ」白六黒「へ」にて善し。又黒五は順序として打ちしなり





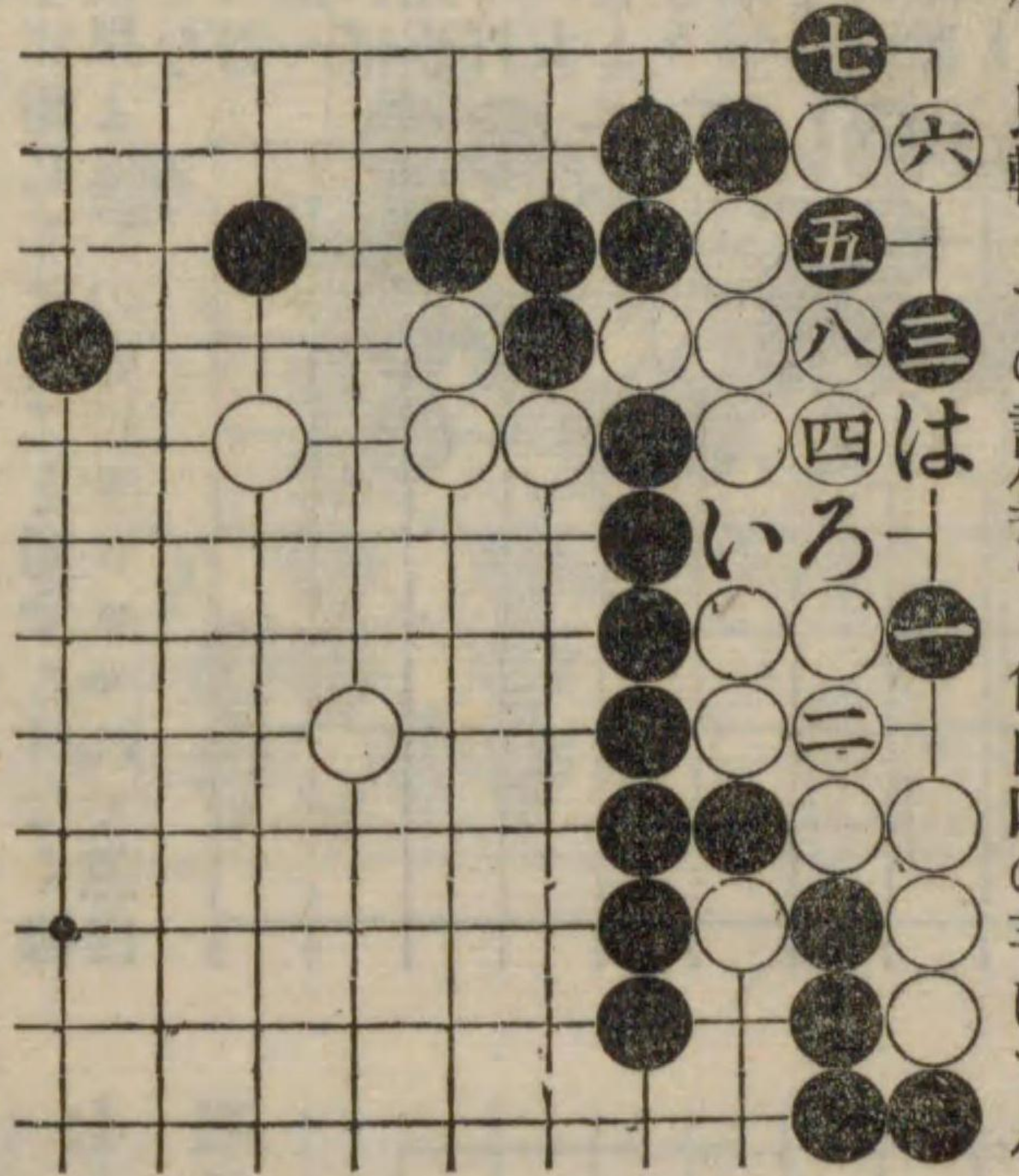




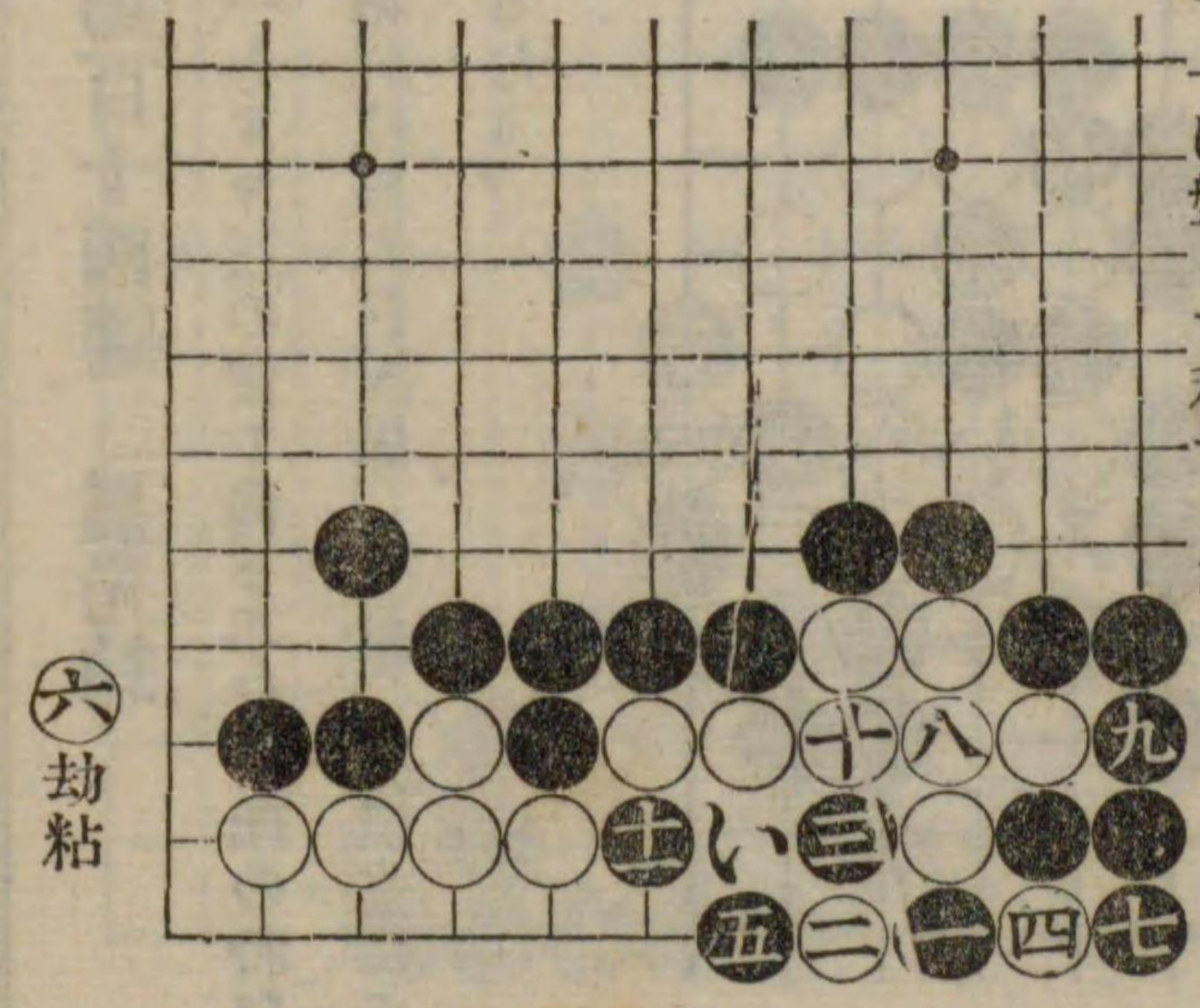
侵分之部

第一百十五圖 黒先一目得

説明。黒一と打ち三、五、七と運ぶ手は得としては一  
 目の得なれども手筋として大に面白し此一目得といふは  
 俗に黒が「い」に出で白「ろ」に受け黒七に縛ね白六に下り  
 となりたる地積と比較しての計算なり尙白四の手にて八  
 に頂け白七に黒六に下りし時黒  
 「い」に出で白  
 「ろ」に應ずれ  
 ば黒五に打込  
 る劫とならば  
 劫とならば  
 白莫大の損害  
 を蒙るがゆゑ  
 に白は七に下  
 ること能はず  
 此手にて「は」  
 に約へ黒七白  
 五となれば此  
 地は總計七目  
 の八目の地に  
 如く手順を運  
 ば斯る姿形の  
 場合には應用  
 する事を忘るべ  
 からず。

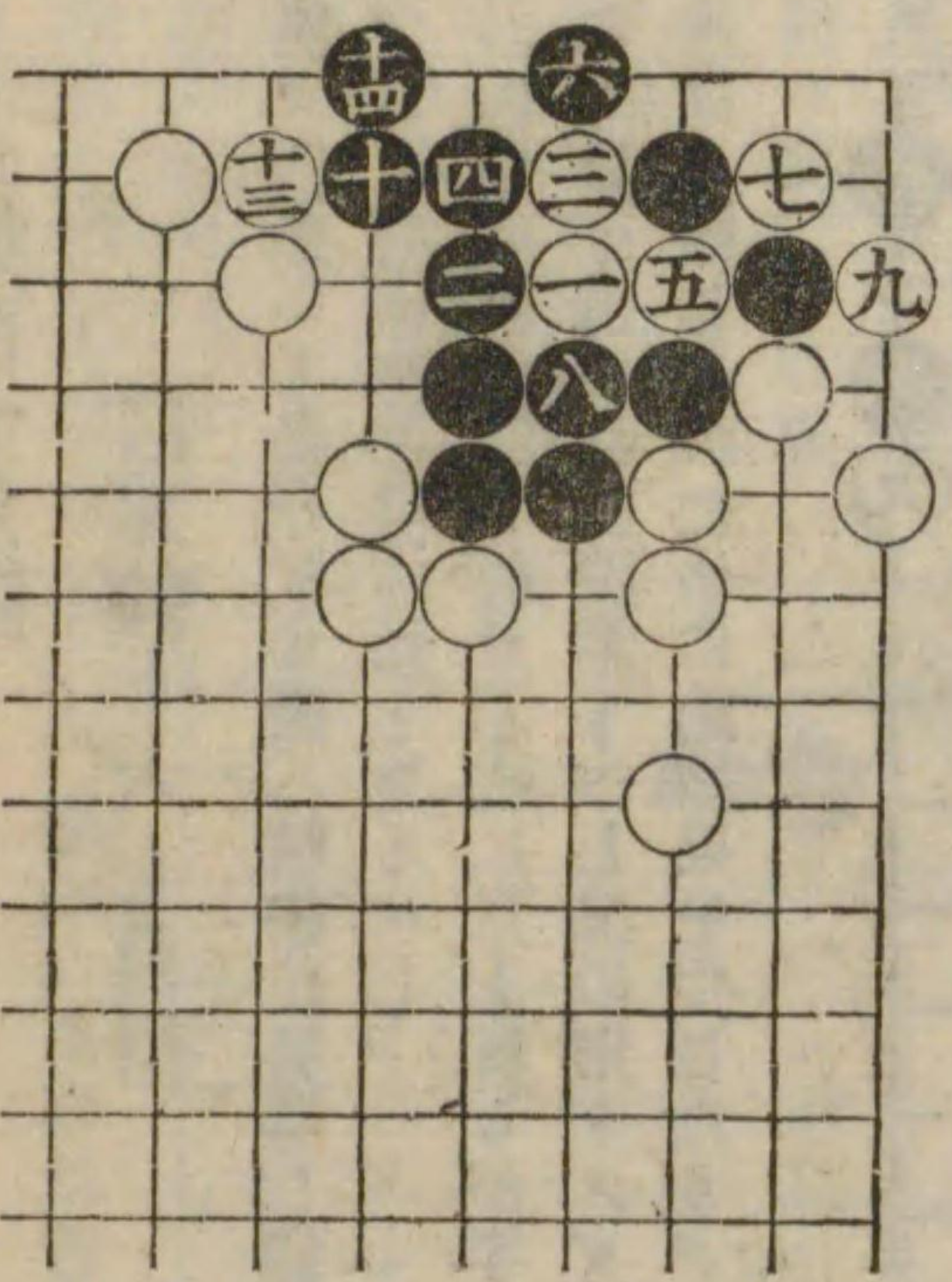


説明。黒三の切面白し白六の劫粘以下  
 無理なれども初學の爲に示せり又最初黒  
 一と縛ねては白より三の處に引かれてそ  
 れまでなれば黒一の手にて三に頂か  
 れる然る時は白一の處に下る手なく  
 「い」に約へるかられて取らるゝを以て  
 りて一に盤りて利するなり。



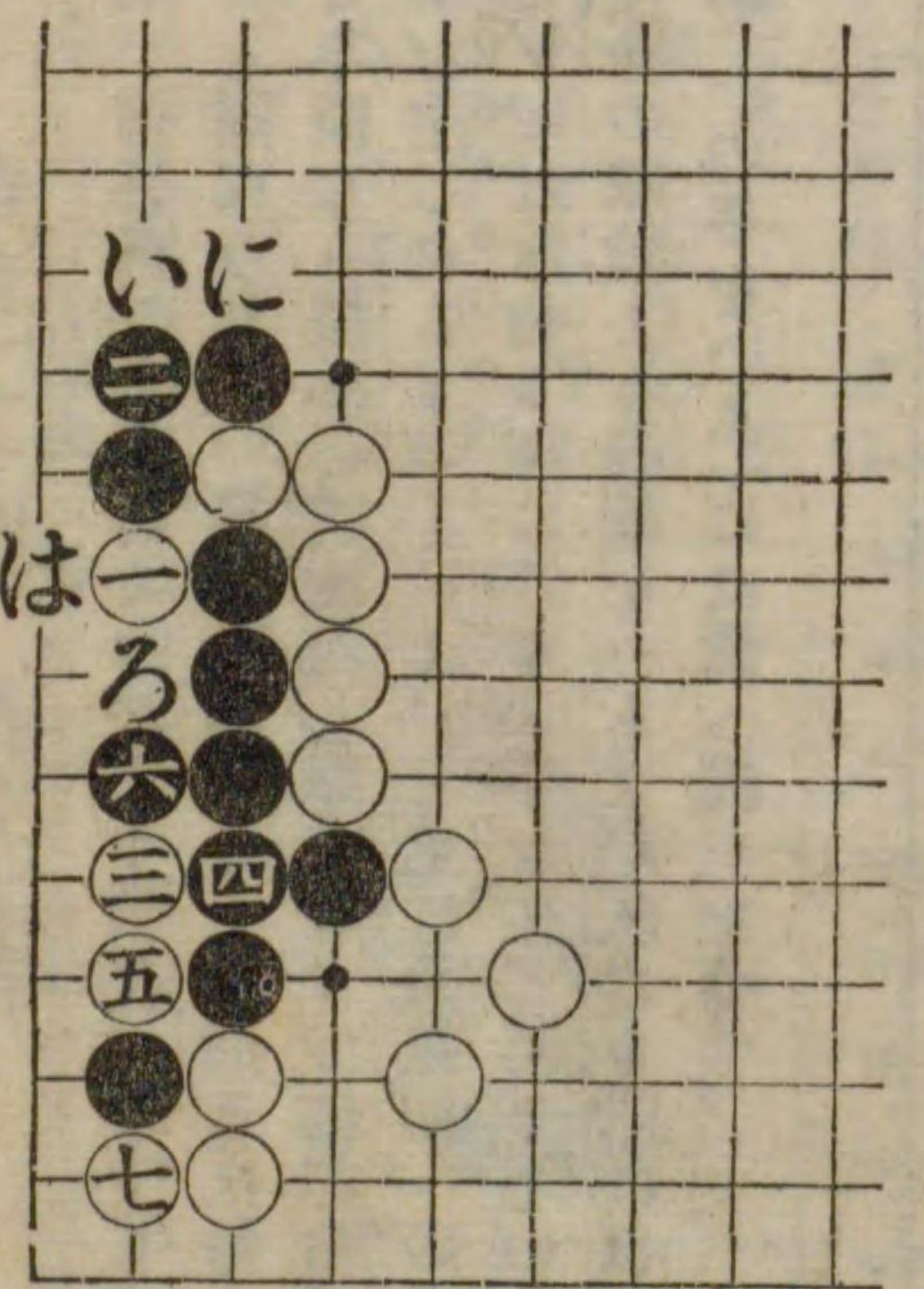
第一百十七圖 白先得

説明。白一の覗き善し此手を四の處に打たば黒  
 より二若しくは三の處に受けられて格別の事な  
 し又七と切る手筋味ふべし。



第一百十八圖 白先得

説明。白一の切り宜し二の處に切らば黒より「い」  
 に抱へられ本圖に比して損なり又黒二の手にて  
 「ろ」に應せば白は二の處に切り黒「は」に提りし時  
 「に」に黒の一子を抱へらるゝを以て黒は斯く二と  
 受くる外なし白三の覗きは常用の手筋なり注意す  
 べし。

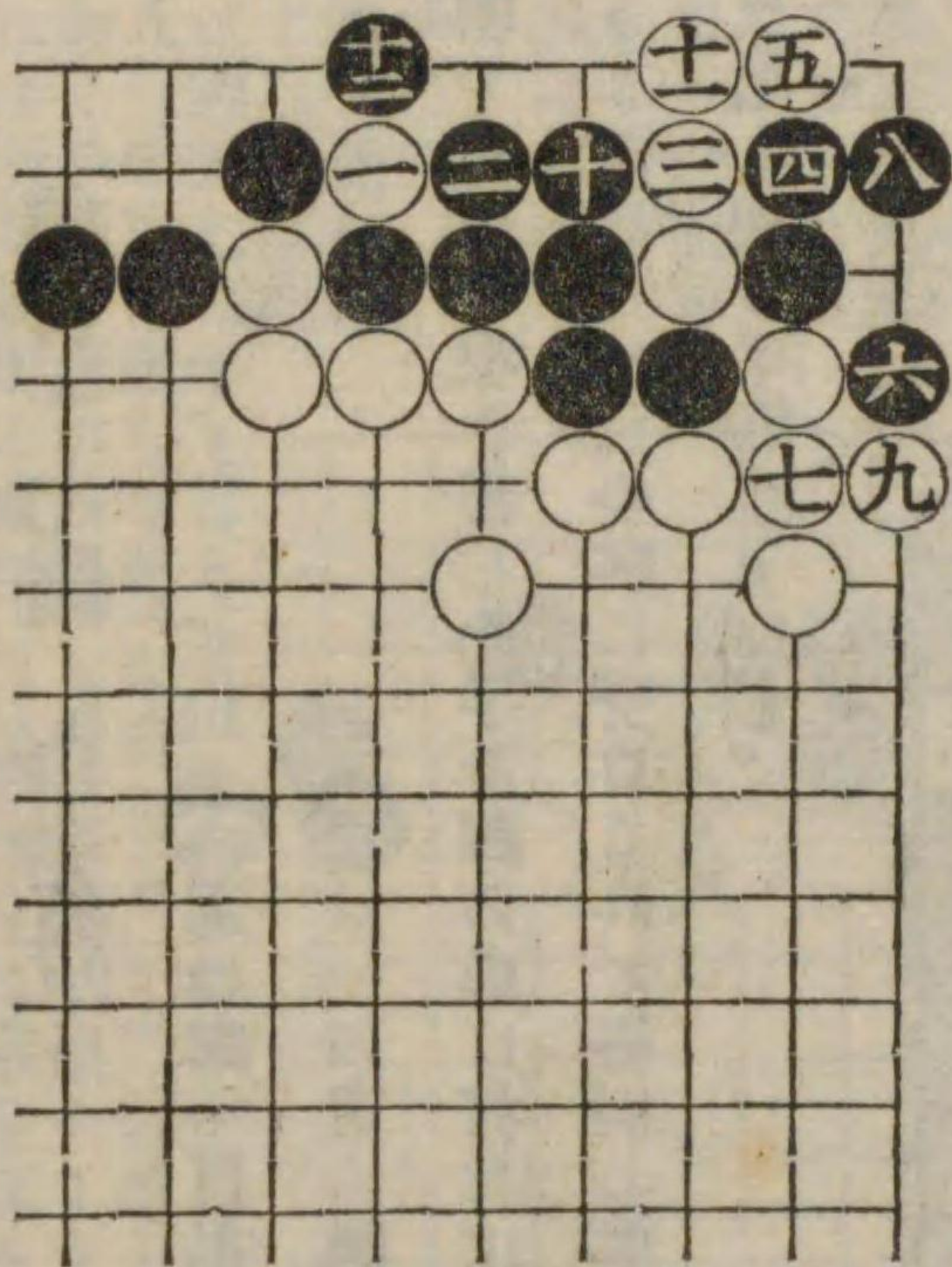




第百十九圖

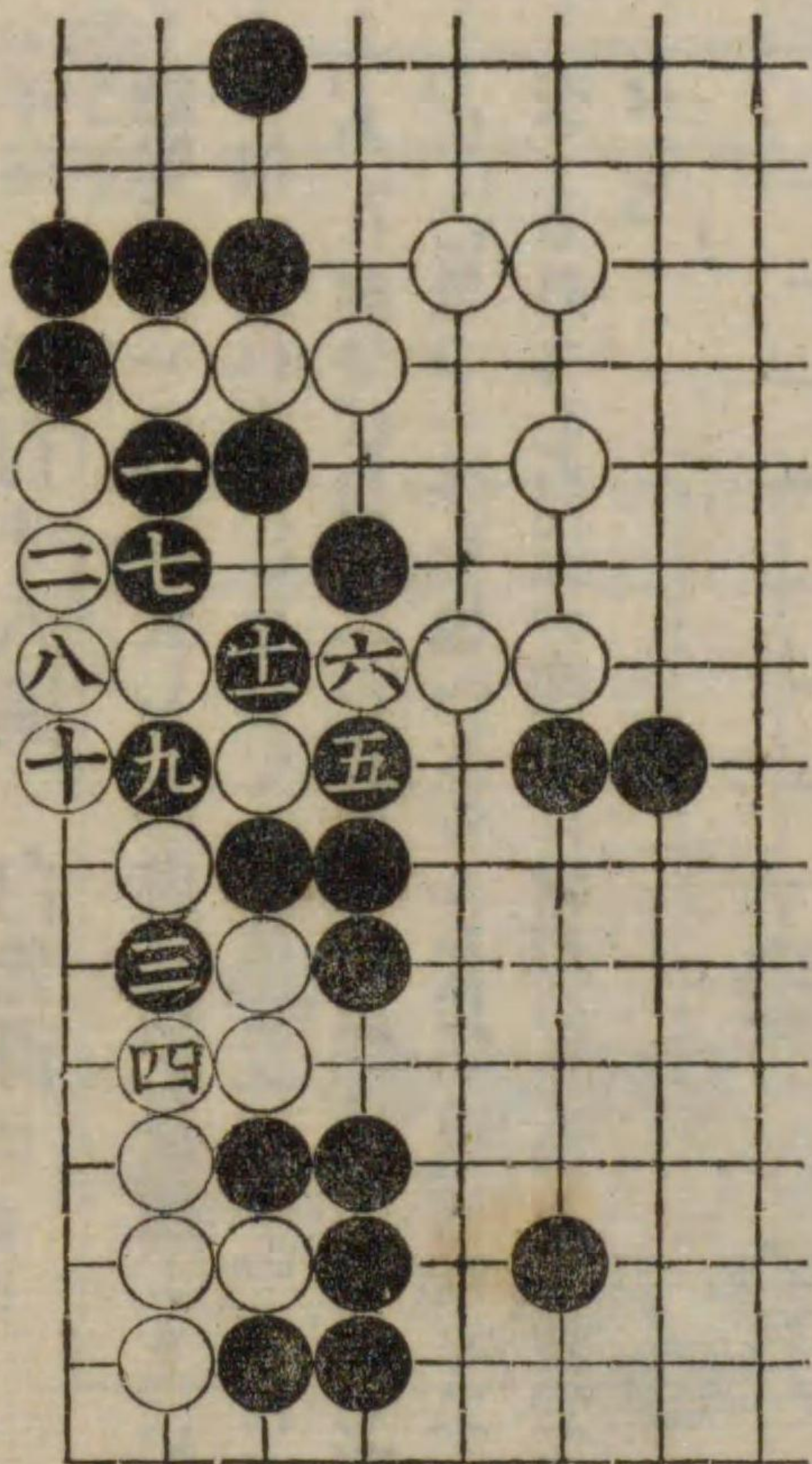
白先約十六七目得

説明。白先にて得をなす但し精密に計算し能はざるも約十六七目の得と見るべし。白一と切り黒を二と打たし次に三と行るが手順なり以下白の打方注意すべし黒の形ダメツマリにて悪しきがために此結果を生じたり。



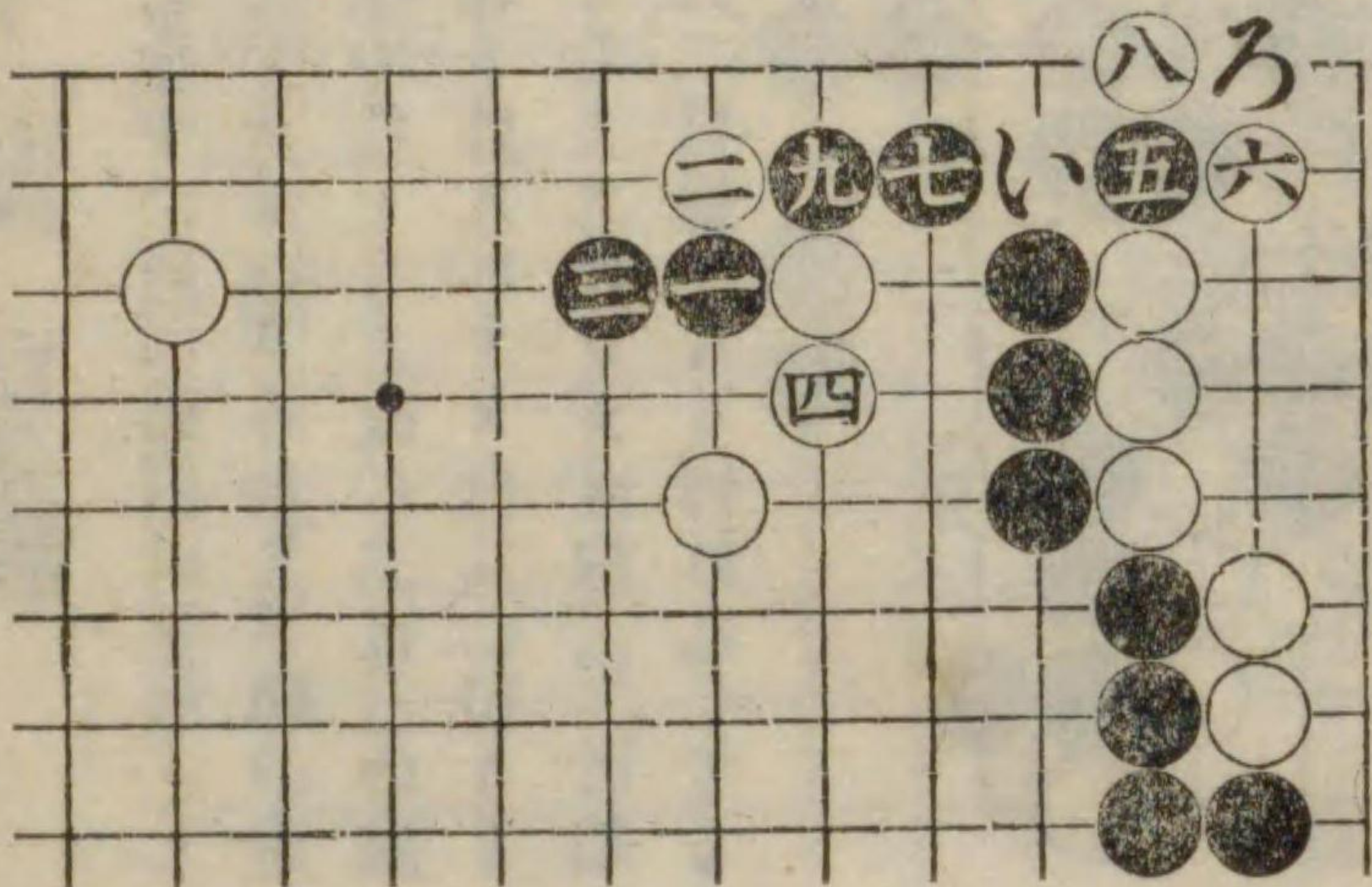
第百二十圖 黒先大得

説明。何目得たるや計るべからず場合によりては勝敗にも關はるなり、黒三と切りおくが如きは毎々用ふる手段なり黒九の撲面白し斯くなりては非常なる劫争を生じたるものといふべし兎に角最初の處に白のツギなき如き型には多く手を生じ易きものなれば侵分の際敵より邊端をハネツがれたる際には確と切斷(一の手をいふ)には備へ置くを要す。



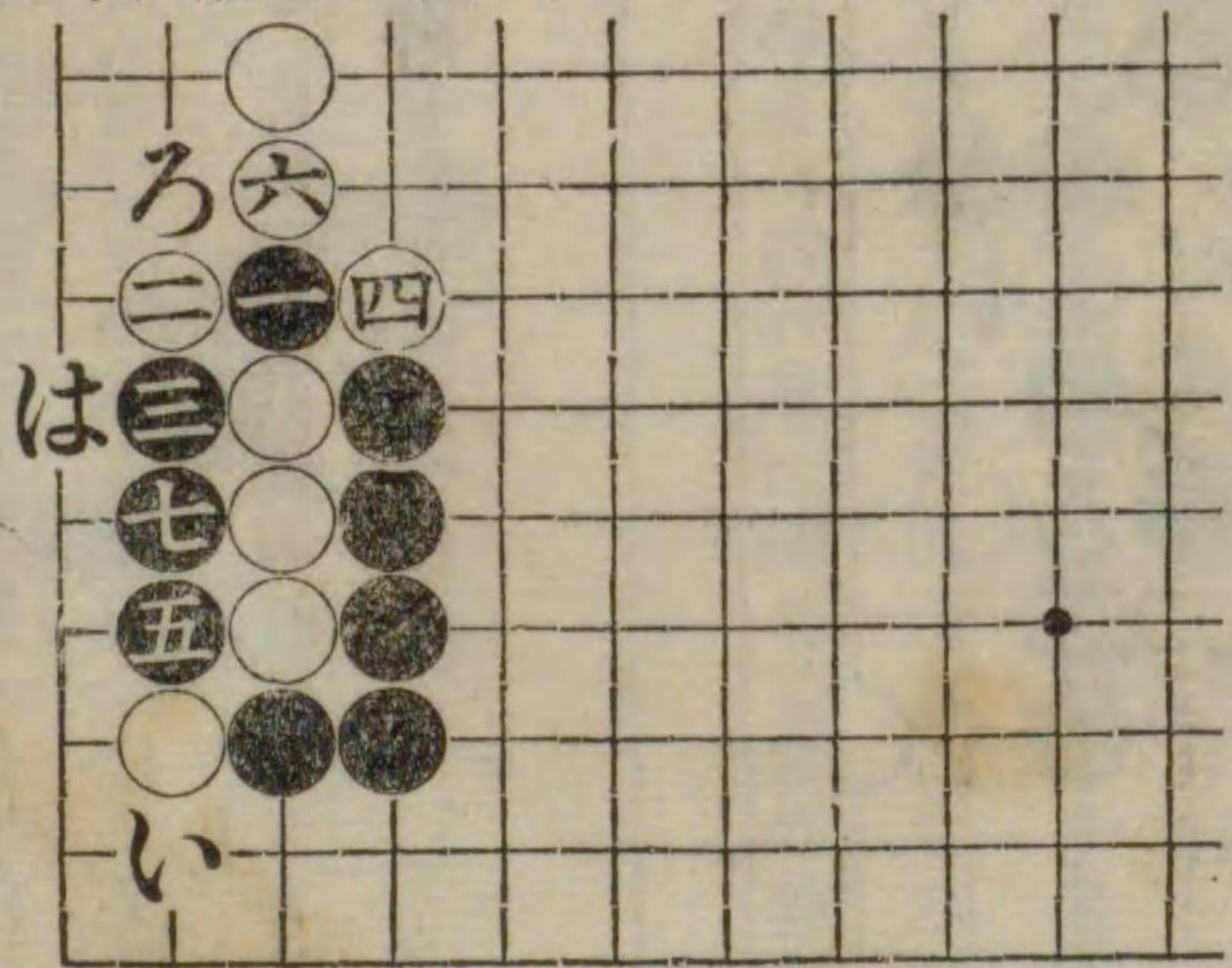
第百二十一圖 黒先得

説明。總べて手段の生ずるは左右或は上下の關係によりて起ること多し黒一の頂は手筋なり尤右方の黒の堅固なる時は三に打込む方優る場合もなきにあらず白四の手にて九の處に續かば黒五に縛ね白六に約へ黒「い」に續き隅に「ろ」の邊)白の手を引かして次に四の處に黒列出さば黒の方宜し又白八の手にて九に續かば黒は「ろ」に縛ねて隅の白を攻むべし。因みに本形は古書より撰出せるものなり。



第百二十二圖 黒先得

説明。黒一と刎ね白二に受けし時黒三と切る手面白し圖の如く七までとなりて白三子を粘がば黒「い」に白の一子を抱ゆべし今其割合を述べれば白が始め地形を成したる處を斯くの如く却つて黒の有に歸せしは此一、三の手働きにより尤白四の手を七に打たば如何といふに黒「ろ」に刎出し白「は」に一目提黒六にツギとなる、さすれば白は此處を遮斷せられ隅に生くれど外勢黒の勢力に歸する事となれば其損失計られず。

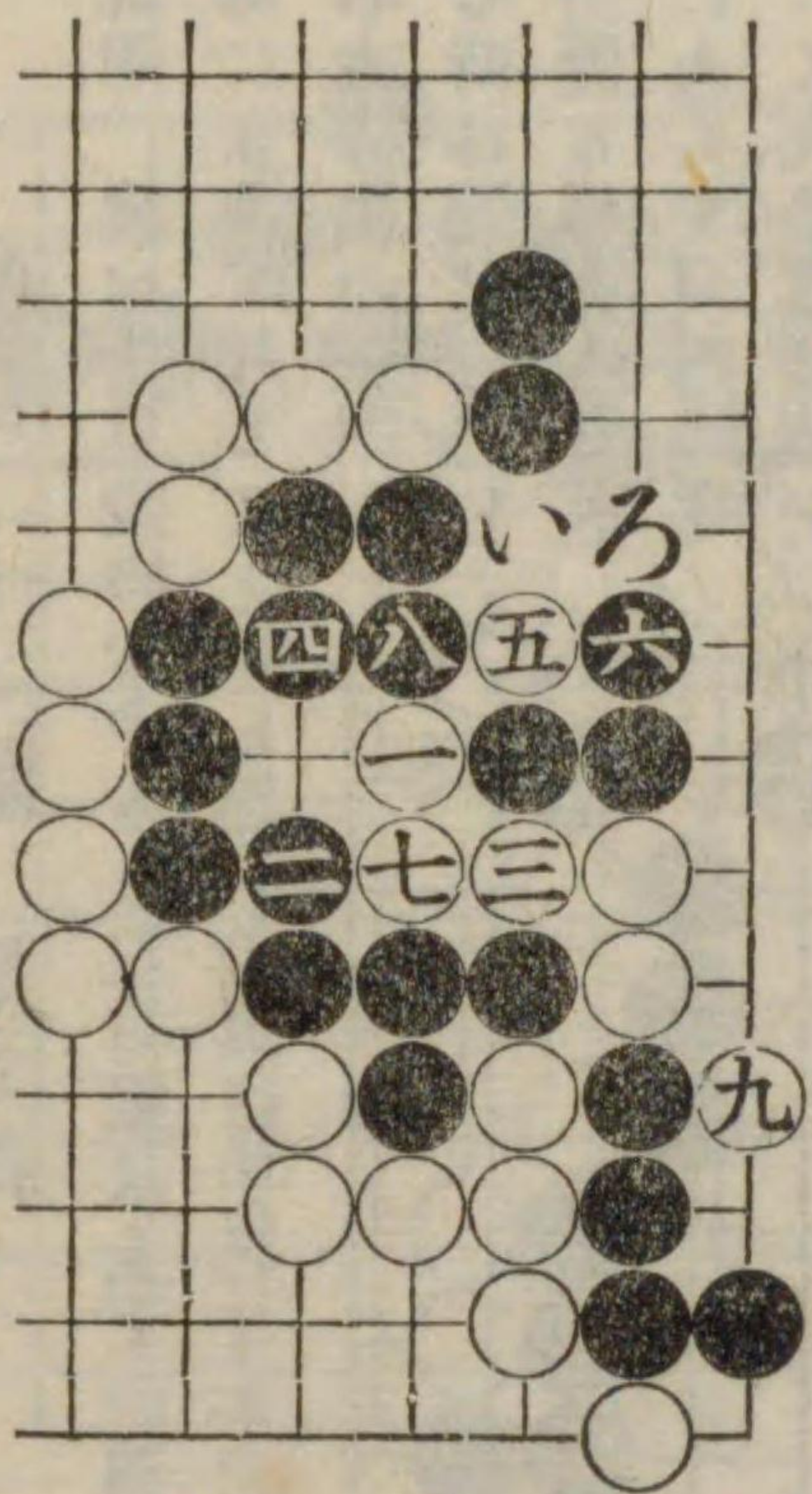




雜之部

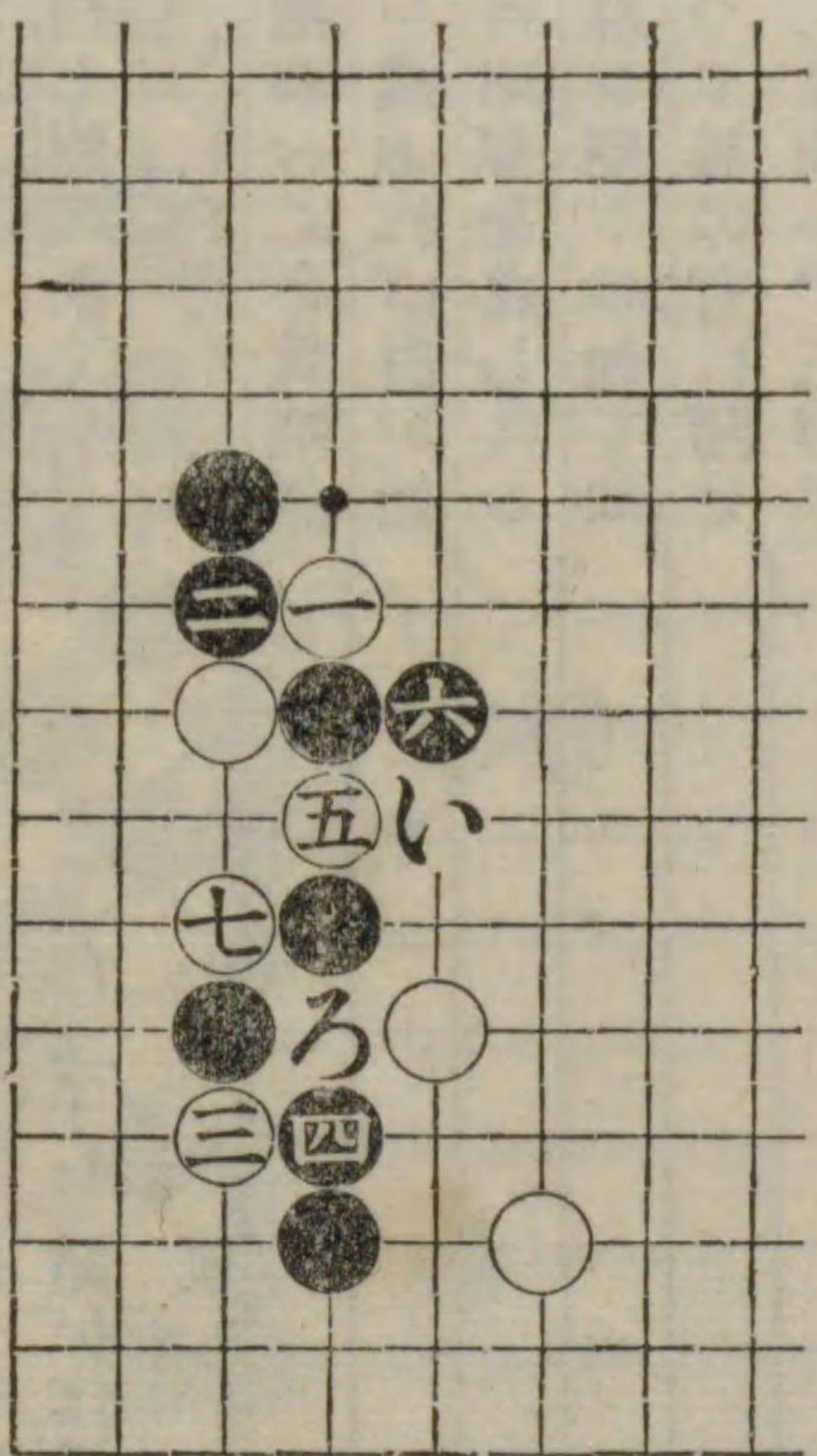
第二百二十三圖 白先勝

説明。白先にて手を生ず、白一の頂は手筋として妙手なり此時黒二とツギ以下の如き手順の運びとなりては攻合黒の負となる故に二は三の處に續き白四の處に切り黒八にアテ白二に切りとなる又黒八にアテずして二にツガば白「い」に切り黒「ろ」に列白八に二目提となる何れにしても其得失に大差なし。



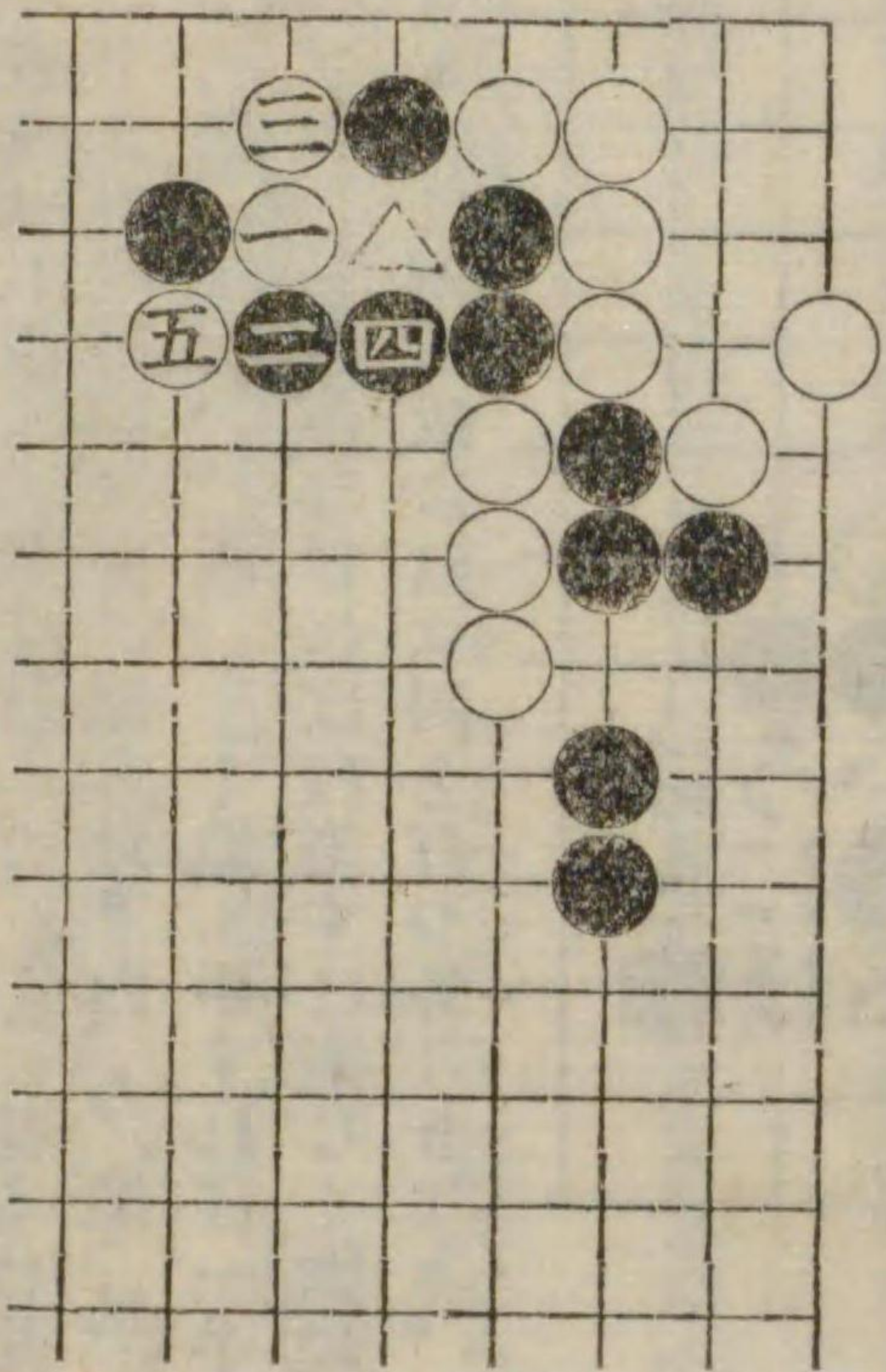
第二百二十四圖 白先得

説明。白先にて手を生ず、白三と頂越し次に五、七の運び面白し斯くの如くなりて黒八の手にて「い」に約へれば白「ろ」に切るは無論にして又黒「ろ」に續けば白「い」に突出す其他何れにしても其結果は手となる形跡をあらはずべし。



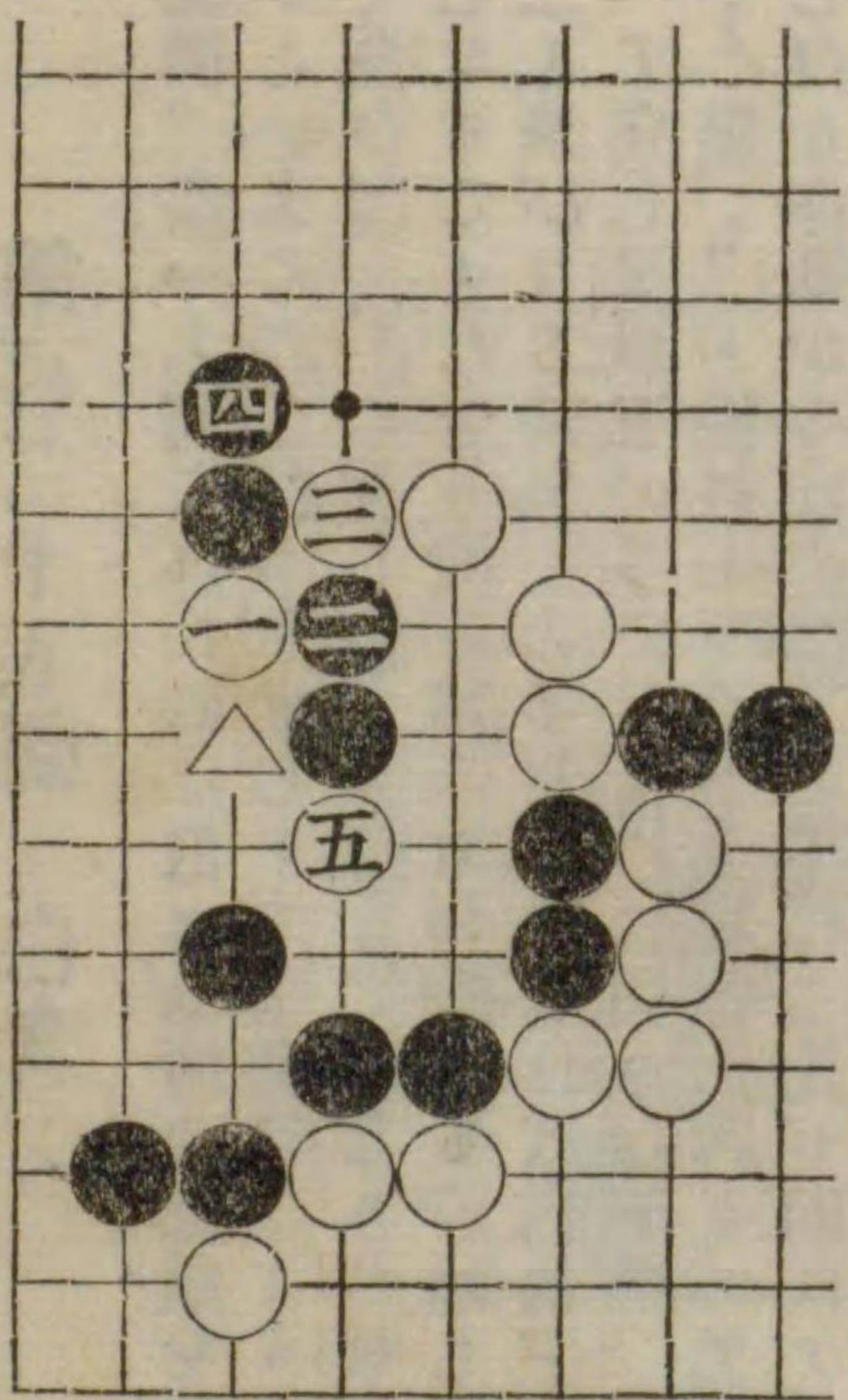
第二百五圖 白先得

説明。白一の手筋は常に用ふところなり玩味すべし△印に切りては黒四、白一黒二となりて無味なり



第二百二十六圖 白先得

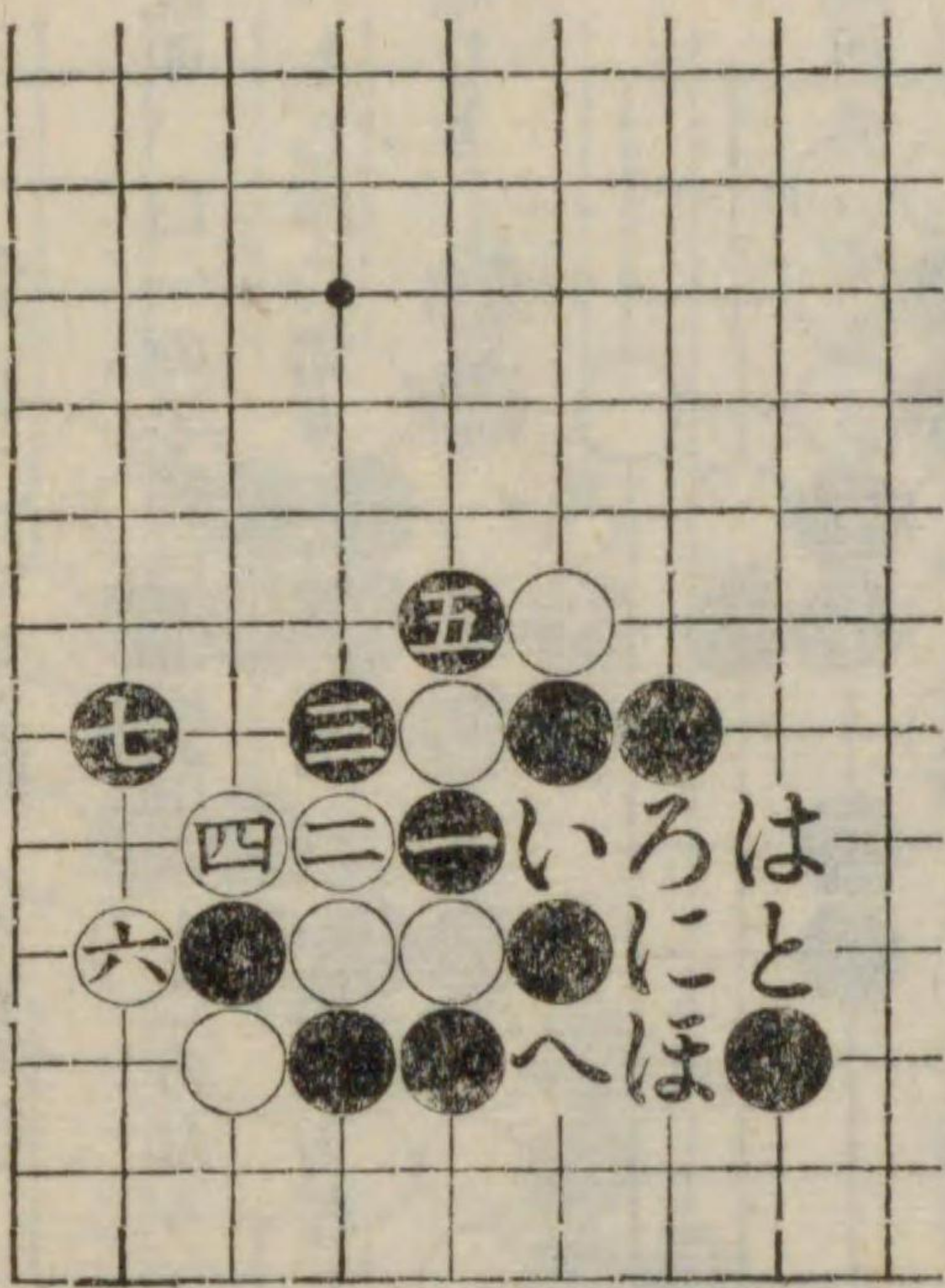
説明。白一と頂越及五の頂、手筋なり殊に五の手にて何れかの黒二子を白に與へざるべからず是等の二子を取られざる様打つには黒四の手にて△印に打つ外なし然る時は白四の處に捲りて黒の勢を沮むることゝなる。





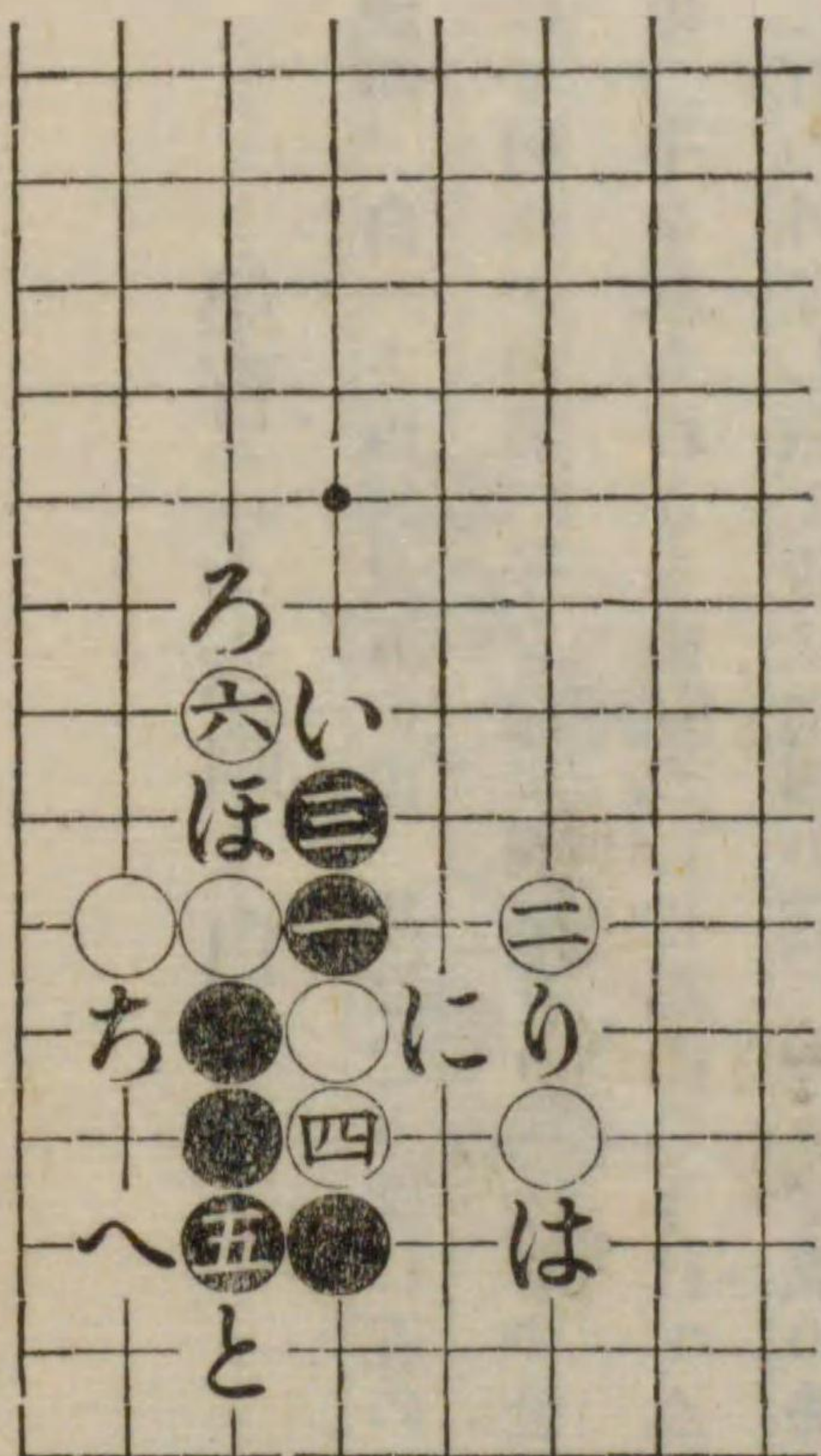
第二百二十七圖 黒先得

説明。黒一と勿込み三と切るは手筋なり斯くして切りの一子を捨て圖の如く七までとなりては黒の形勢大に善し白四の手にて「い」に提らば黒四にアテ白三目粘黒五に切り以下白「ろ」黒「は」白「に」黒「ほ」白「へ」黒「と」と追ふ手すれば一手押にて少しも緩みなければ白施すに術なく擒殺せらるゝに至る故に白は四と打つ外なきなり。



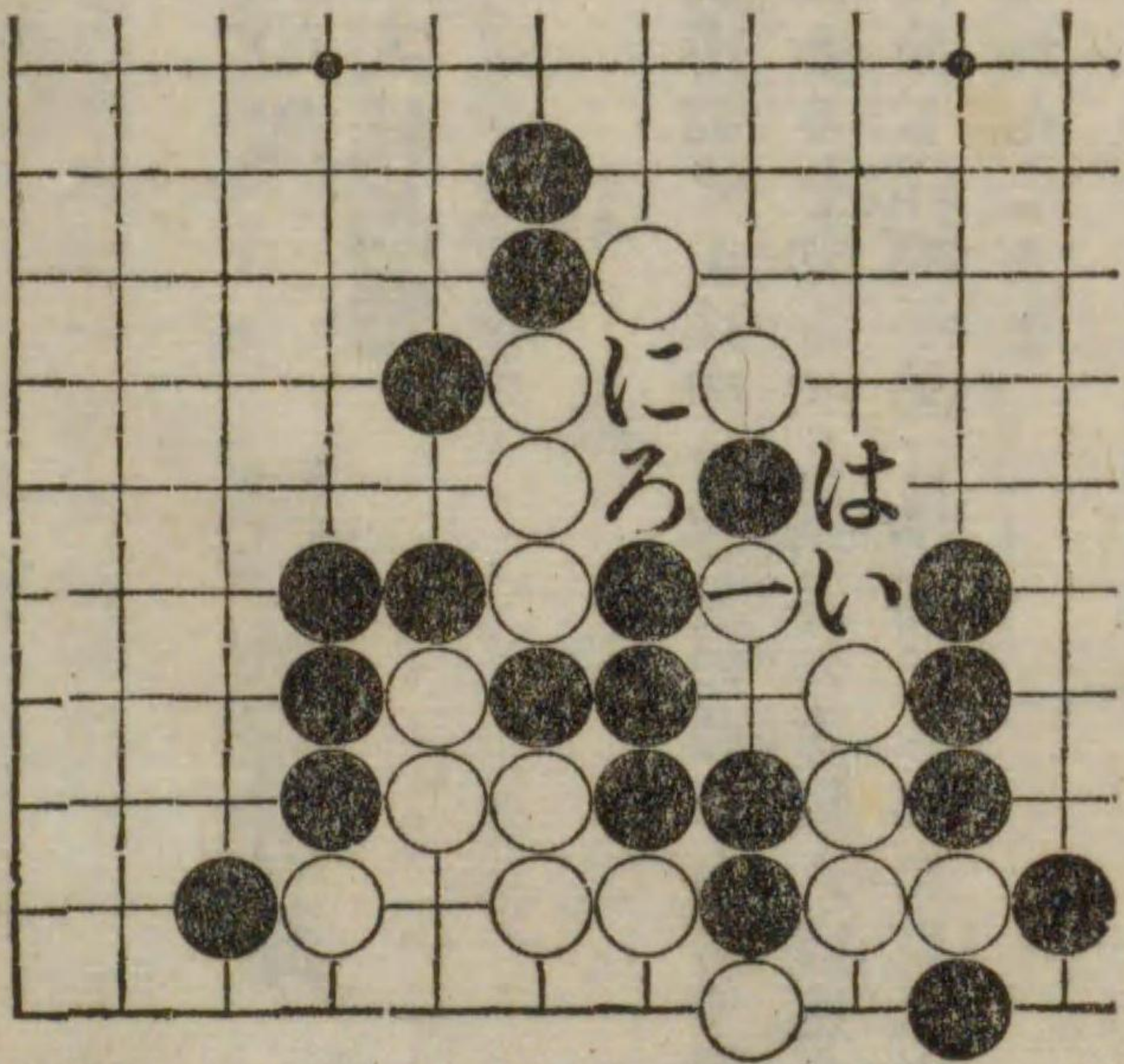
第二百二十八圖 白先

説明。黒一と切られた時に白は如何に此處を捌くかといふに二と打つを良しとす乍併黒三より六まで運び黒「い」に押し白「ろ」黒「に」となりて双方差したることなきも較々黒の方利勢なるが如し此白二と飛びたる時黒三の手を「に」なれば白は三に約へて宜し又黒五の手にて「ほ」に曲り白五黒「へ」白「と」黒「ち」と振替る手段あり場合に因りて黒面白し白も亦斯かる時には二の手にて先づ四にアテ黒を五にツガし「り」に双びて打つ趣向もあり要するに本勢は白二と飛ぶ手筋を示したるなり。



第二百二十九圖 白先勝

説明。此形は最近小林三段が實戦に出來たるものを採録せしものなり極めて卑近なれども常用の手筋なり即ち黒「い」にアテれば白「ろ」に切りてウツテガへとなる又黒「ろ」にツガば白「は」に約へ黒「い」に切りし時白「に」に打ちて勝つ。



奇策妙手終



六段 雁金準一講述

互先定石詳解

和紙七拾五錢裝  
定價金七拾五錢

發端

三點の名稱  
掛りの名稱  
夾(ハサミ)の事

掛(カ、リ)の事  
締(シマリ)の事  
夾の種類

一間夾の部  
三間夾の部  
大目の部

同 手抜の部  
同 二間夾返し  
同 補説

二間夾の部  
三間夾大桂馬懸

同 手抜の部

圍碁定石中至高至難なるは互先に於ける定石にして之を指摘講説せんは中々容易の業にあらず従つて  
高段者と雖常に難する處なり以て本定石が研究上重要な價值あるを知るべし斯界の重鎮六段雁金師が  
研鑽蘊蓄の技倆と數年の日子を以て本定石に關し最も慎重に最も詳細平易に講述せられたるは本書な  
り今般弊社に於て上梓發行せり同好の士は速に研究に資せられんことを

東京市京橋區岡崎町一丁目十三番地

發行所

圍碁雜誌社

振替口座一〇二九七番

大正五年六月五日印刷  
大正五年六月八日發行

奇策妙手奥付

定價金七拾五錢

著者

關源吉

著者兼  
發行人

小林健太郎

印刷者

今村扶

印刷所

東京市本所區番場町四番地  
出版印刷株式會社本所分工場  
東京市本所區番場町四番地

不許複製



發行所

東京市京橋區岡崎町  
一丁目十三番地

圍碁雜誌社

187  
486



187  
485

吳清源



